

青山胤通 撰
林春雄 撰
富士川游郎 編
富子四郎 編
宮本叔 編

第三册

〔三〇九頁乃
至四九二頁〕

精神療法

(第九回出版)

日本內科全書

卷 貳

大正五年十二月

吐鳳堂發行

謹告

一。日本内科全書ハ全十卷。每巻紙數約九百頁ヲ標準トシ、毎月一冊、二百五十六頁宛ヲ刊行スル豫定ナルガ故ニ、每冊ハ記事ノ途中ニテ中絶スルコトアルベシ。故ニ、每冊ノ表紙ニ、卷數・冊數・頁數ヲ明記スルヲ例トス。

二。每冊ノ内容ハ表紙ニソノ大要ヲ示スノミニテ別ニ目次ヲ附セズ。每巻ノ終末(每巻最後ノ冊子)ニ、其巻ノ目次索引・扉紙ヲ附スベキガ故ニ、製本ニ際シテハ、コノ點ニ留意アラソコトヲ望ム。又希望ニヨリテハ、製本用ノクロス(金文字入ヲ送附スベシ)但、コレハ頁數ノ多少ニヨリテ價格ニ差異アルガ故ニ、每巻ノ結了ト共ニ價格ヲ定メテ報告スベシ。

三。今回刊行シタル卷二第三冊ハ治療總論篇ノ第三冊ニシテ、コノ冊中ニハ前冊ニ續キテ吳博士述精神療法ヲ收メタリ。元來一冊ノ豫定紙數ハ二百五十六頁ナレドモ第一回刊行ノ分ニテ四十八頁ヲ超過シ、第二回刊行ノ分ニテ二十八頁不足シ、第三回刊行ノ分ニテ二十二頁不足シ、第四回刊行ノ分ニテ一百四頁不足シ、第五回刊行ノ分ニテ九十八頁超過シ、第六回刊行ノ分ニテ二十四頁超過シ、第七回ノ分ニテ二十四頁超過シ、第八回ノ分ニテ七十六頁超過シ、今回ノ分ニテ七十二頁不足シ、第一回ヨリノ差引四十四頁超過シタリ、後來モ時時此ノ如キ場合アルベク、ソノ際ハ、次回ノ刊行ニ際シテ、豫定紙數ヨリ増減スルコトアルベシ、故ニ、每冊ノ價格ニハ紙數ノ増加セルトキト、減少セルトキトニヨリテ變動ヲ生ズルコトナシ。

四。本書ニ用フルトコロノ術語及ビ用語ハ、成ルベクコレヲ一定センコトヲ企テタリ。譯語ノ選定ニツキテハ、撰者、編輯委員、及ビ在京執筆者諸氏ノ會合ノ席ニテ、從來行ハレタル譯語ニシテ專家諸氏ガ選用セラレタルモノハコレヲ其儘ニ用ヒ、不適當ト認ムルモノ及ビ新ニ譯字ヲ定ムベキモノハ編輯委員會ニテコレヲ議定スルコトニ評議一決シ、コノ目的ニテ編輯委員會ヲ開クコト、大正元年八月ヨリ毎月一回、特ニ斯學ニ造詣深キ大概如電翁ヲ煩ハシテ、毎回出席ヲ乞ヒ、委員富士川游ノ原案ニ基ツキ、譯字ノ可不可ヲ討議シテ一定セルモノ

ヲ用ヒタリ。

新定又ハ選定ノ譯字ハ、本文中ニ西洋語ヲ挿入シテ明示スルガ故ニ、讀過スレバ自カラ明瞭ナルベシト雖、試ミニ卷一第一冊卷二第一冊及ビ卷三第二冊中ニ現ハレタルモノノ内、著シキモノヲ擧グレバ左ノ如シ。

基質	Anlage	壓注	Donche (Dusche)	レントゲン放射線	Röntgenstrahlen
姿質	Habitus	透熱法	Thermopenetration	荷重試験	Belastungsprobe
稟質	Temperament	鬱積	Walling	食欲	Appetit
枯瘦	Marasmus	鬱滯	Stauung	注流雑音	Durchspritzgeräusch
物質代謝	Stoffwechsel	病前史	Anamnese	壓通雑音	Durchpressgeräusch
害物	Schädlichkeiten	辨症	Differentialdiagnose	畏食症	Stiophobie
能働性	Aktiv	潛出血	Olokulte Blutung	送出	Austreibung
受働性	Passiv	氣脹	Flatulenz	嚔入	Einziehung
機能	Funktion	鼓脹	Metorismus	横隔膜性内臟脱	Eventratio
症狀	Symptome	消化不良	Dyspepsie	diaphragmatica	
潤爛	Maceration	按撫法	Strichen	囊脹	Divertikel
包纏法	Einpackung	震搖法	Vibration		

病名ノ中ニモ、從來西洋ノ語ヲ漢字ニテ書キタルモノト、假名ニテ書キタルモノトアリ、本書ニハソノ書式ヲ一定シテ、タトヘバ、腸室扶斯實布埤里・僂麻質斯等、已ニ廣ク公私ノ間ニ行ハレタルモノハ、漢字ニテ書クコトトナシ(漢字ノ中ニテモソノ一種ヲ選ビタリ)、ソノ他ハ、スベテ假名ニテ書クコトトシタリ、タトヘバ、パラチーフス・アキギナ・ヒステリー・スコルブート・マテリア・イビウス・インフルエンザ等ノゴトシ。藥物ノ稱呼ハ、大體、日本藥局方所定ニ基キ、一ニノ點ニ修正ヲ加ヘテ、一定セルモノヲ用ヒタリ。

五.用語ニ關スル事項中、一ニノ特ニ擧ゲテ、注意ヲ乞フコトハ、本書ニテハ、蓋、又、亦、甚、屢、始、漸等ノ文字ニシテ、一字ニシテソノ意義ヲ盡クスモノハ句點ヲ附スルノミテ假字ヲ附セズ、若、ソノ文字ノハタラキニ變化アル場合、タトヘバ、及、及、及等ノ場合ニハ、常ニ假字ヲ附スルヲ例トセリ。又、新ニ假名ヲ製造シテ用ヒタルモノ數種アリ、左ノゴトシ。

テ (la) り (li) ル (lu) レ (le) ロ (lo)

スノ如ク、Lノ音ヲアラハスガタメニ普通ノ假名「ラ、リ、ル、レ、ロ」ニ○ヲ附シタルモノヲ新ニ製シ用ヒテ、Rノ音ト區別シタリ。

ㄨ cha ㄣ chi ㄣ che * ch

チロ ツロ

スノ如クchノ音ヲアラハスガタメニ「ハ、ヒ、ヘ、ホ」ニ△ヲ附シタル活字ヲ新製シタリ。

Tノ音ヲアラハスガタメニ「チ、ツ」ニ○ヲ附シタル活字ヲ新製シタリ。

又、從來發音ノ詰マル場合ニハツノ假字ヲ小サク書クヲ例トシタレドモ、拗音(タトヘバキ、モ、モ等)ヲ示スニモ同一ノ書式ヲ用ヒザルベカラザルガ故ニ、本書ニハ新ニツノ字ヲ製作シテ、用ヒタリ、タトヘバ

ペツテンコーヤル (Pettenkofer)

六.地名ニハ右側ニ複線ヲ附シ、人名ニハ右側ニ單線ヲ附スル等ハ、普通ノ例ニ依レリ。

七.本書ノ凡例等ハ、第一卷ノ終末冊ニ附スベク、本卷ノ目次及ビ索引等ハ本卷ノ終冊ニコレヲ附スベシ。

大正五年十二月下浣

編輯委員 謹言

精神療法

醫學博士 吳 秀 三 述

第一編 緒論

(一) 精神療法トハ病人ノ精神ヲ材料トシ、精神的方法ヲ用ヒテコレヲ救治スルヲ目的トス。ソノ療法ハ化學的療法、理學的療法等ト竝ベ稱ヘベキモノナルガ。化學的、理學的ノ療法ニモ亦、精神の影響ノ著シキモノアレバコレヲ嚴格ニ區別スルコト困難ナリ。コレ等ノ他ノ療法ニハ、病人ガコレヲ信用スルニヨリテ推感の效果ノアル以外、精神の效果ノアルモノ少ナカラズ。モール氏⁽¹⁾ノ言ヒタル如ク、アルコホール、テローム、モルヒネ、ソノ他ノ麻醉劑ハ精神の影響アル藥劑ナリト云フベク。ソノ他、理學的療法ニテモ按摩ハ輕按方トシテ爽安ヲ惹起シ、疼痛ヲ減殺スル方法タリ。電氣筆ハ推感の效用アルノミナラズ、ソノ強度如何ニヨリテハ直接ニ精神上ノ影響ヲナシ。水治療法ノ精神の影響モ亦、コレニ似タリ。然ルニ吾人ガコレ等ノ療法ヲ精神療法ト稱ヘザルハ、ソノ精神の效果ハ直接的ニアラズ、理學的、又、化學的ノ作用ヲ介シテ初メテ行ハルルガ故ナリ。コレニ對照シテ考フレバケルン氏⁽²⁾等ノ言ノ如ク、所謂精神療法ニモ亦、身體の影響ノ少ナカラザラ見ルベシ。然レドモ、此ノ如キ批判ハ餘リニ學說的ニシテ、又、餘リニ穿鑿的ナリ。實地上ニ於テハ、醫師ノ言談所作ガ病人ノ

(1) Suggestibilität

精神ニ影響ヲ與ヘテ治療ノ效用ヲ助クルト、化學劑ガ病人ノ腦細胞ニ化學作用ヲナスニヨリテ精神ノ影響ヲナシ、又ハ同ジ物ガ他機官ニ化學的作用ヲナシテ治療ヲ齎ラストハ、大ニ相異スルモノナリ。

精神的方法トハ、スベテ皆、精神物理的の興奮ニヨリテ招致セラルルモノニシテ、吾人人類ノ精神ニ影響ヲ與フルハ必、刺戟ニ由ラザルヲ得ズ。刺戟ガ五官神經ヲ興奮シ、五官神經ノ興奮ガ腦髓ニ傳ハリテ、ココニ新ニ精神の興奮トナリ、所謂感覺ヲ生ジ、又、觀念ヲ生ズ。精神療法ハ、即、コノ感覺、觀念ニ相當スル腦皮質ノ興奮ヲ喚起スルヲソノ大本トス。

精神療法ガ治效ヲ舉グルニ至ル第一ノ基礎ハ、吾人ノ腦髓ガ他人ノ腦髓ヨリ影響ヲ受クルノ性質アルコトナリ。コノ性質ハコレヲ推感性(暗示性)ト稱ヘ、人ノ病ニ罹レルトキニハ、或方面ニ於テ甚シク増益スルモノナリ。コレ醫師ノ最、心得ベキコトナルニ、醫師ニシテ此ノ如キ病人ノ心内ヲ動かスコトニヨリテ、ソノ身ヲ治スルノ方術ヲ心得ザルモノ少ナカラザルヨリ、世ニハ種種ノ權謀術數ニ富ミタル非醫者ノ門ニ、病客ノ屬集スルヲ免カレヌナリ。コレ所謂紅療治、氣合術、靜坐法、心理療法乃至ハ姓名、手筋、墨色ノ判斷、加持、祈禱、易斷、ソノ他ノ諸術ヲスルモノニ、治療ヲ托スルモノノ少ナカラザル所以ナリ。

(二)精神内界ノ狀況ガ、肉體ノ狀況ヲ介シテ外部ニ表白サルコトハ、吾人ノ日常經驗スルトコロニシテ、精神機轉ノ如何ガ、肉體ニ影響ヲ及ボシ、内臓ノ機能ニ著大ナル變化ヲ與フルコトモ、吾人ノ善ク、屢、目撃スルトコロナリ。サレバ、吾人ハ他人ノ狀貌、態度等ニヨリテ、ソノ人ノ考慮ニ耽ルカ、感情ニ激昂セルカ、喜悅シ、痛憂シ、又ハ苦悶ヲ感ジ居ルカラ推知スルコトヲ得ルモノナリ。苦悶狀態ニ於テハ、顔面蒼白トナリ、戰慄シ、又、發汗スルコトアリ。憤怒ノトキニモ、羞恥ノトキニモ、顔面ノ齒根潮スコトアリ。喜悅ニ興奮シタルトキニハ心機ノ亢進アリ。呼吸ノ停止スルハ驚愕シタルトキニアリ。涙ノ溢レテ傳フルハ悲痛シタルトキニアルナド。精神ノ肉體ニ及ボス影響ハ、夥ク多クシテ、一一數ヘ舉グルニ遑アラズ。モツソ一氏⁽²⁾。

(2) Mosso

(1) Feré

又、ズレー氏⁽¹⁾ ナドハ血容計ヲ用ヒテ、精神の影響ガ肉體上ニ變化ヲ與フルコト如何ナルモノナリヤニ就キテ、試験ヲ行ヒタルニ、各種ノ五官の印象及ビ感動等ハ、身體末梢ニ於ケル循環狀態ニ影響ヲ與フルコト、疑フベクモアラズト云フ。精神機轉ガ健康者ノ物質代謝ニ如何ナル影響ヲ與フルカニ就キテハ、尙、十分ナル研究成績ナシト雖、吾人日常ノ經驗ニ據レバ、精神過勞ノ際ニハ、饑餓アリ、又、磷酸及ビ尿素ノ排泄ノ増量スルアリ。不快ナル感情ヲ抱クニ際シテハ、食思不振トナリ、且、體量ノ減少スルコトアルハ確實ナリ。

肉體ト精神トノ關係ハ、狭ク取りテ考フルトキハ、神經中樞ノ機能ト精神作用トノ關係ニシテ、吾人ノ所謂、精神作用ナルモノハ、中樞神經系統ノ機能、就中、大脳皮質ノ活動ト關聯アルコト毫モ疑ヲ容レズ。

(三)精神作用ガ疾病ヲ喚起シ、又ハ、コレヲ治療スルコトアルモ、コレト同様ノコトニシテ、生理的状態ニ於テ、精神作用ガ肉體ニ影響ヲ與フルコト如何ハ、能クコレヲ解釋シ得ルモノナリ。或機會ニ於テ、精神作用ノ影響ニヨリテ、或疾病ノ成立シ、又ハ治癒スルコトアルモ、ソハ特殊ノ異現象ト認ムベキニアラズ。精神ト肉體トハ、常ニ此ノ如キ相互作用アルモノニシテ、コノ場合ニハ精神ト肉體トノ交渉ガ、普通ト相異シ、且、特ニ顯著トナリタルニ過ギズ「素問」ニモ「心亂則百病生、心靜而萬病息」ト云ヒ。ストルムンペル氏⁽²⁾ノ說ニ據レバ、諸種ノ疾病中、精神機轉ニヨツテ發生シタルモノニシテ、外觀上全ク純肉體的疾患ト同様ナルハ、ソノ數少ナカラズ、醇然タル肉體的疾病ト、殆、同數ナリト云フ。サレバ、精神のニ發生シタル肉體的疾病ヲ觀察スルニ、身體中何レノ臟器乃至臟器系統モコレヲ冒カザルコト、殆、コレナク、皮膚及ビソノ附屬器ニモ、筋肉ニモ、關節ニモ、循環系統又ハ呼吸器系統ニモ、消化器ニモ、泌尿器ニモ、生殖器、乃至ハ血液造成ノ系統ニモ、此ノ如キ異常ヲ呈セザルハナシ。全身ノ榮養及ビ物質代謝ノ方面ニシテモ、精神の影響ヲ受ケテ、ソノ病ヲ發スルコト既ニ前ニ述べタルガ如シ。

(2) Strümpell

(四)此ノ如ク精神の要素ヨリ肉體障礙ヲ誘發シタル場合ニ於テ、ソノ關係ハ、概括シテ、左ノ三種ニ區別スベシ。

(い)精神の影響ハ、外観的肉體障礙ヲナスニ止マルコトアリ。カカルトキニハ、ソノ臓器ハ病ニ侵サレナガラモ、毫モ形體上異常ヲ呈セス、ソノ病機ハ精神領ニ局限スルモノニシテ、コノ場合ニハ精神的原因ヲ除去スレバ肉體の障礙モ、亦、從ツテ治癒スベシ。今、實例ヲ以テコレヲ説明センシ、或病人ガ「自分ハ上肢ヲ動かスコト叶ハズ」云フ觀念ヲ抱キ、コレヲ尋イテ上肢ノ精神的(麻痺ヲ喚起シタリトセン。コノ際、吾人ハ上肢ノ筋肉、神經及ヒ脊髓等、上肢ノ運動ニ關係アル諸領域ニハ、些細ノ器質的變化ヲモ認ムル能ハズ。且、ソノ原因タル觀念ヲ除去スレバ上肢ノ麻痺モ亦、速ニ治癒スルコトナラシ。或病人ニ「脊髓病ニ罹レリ」云フ觀念ノ成立シテ、コレヲ尋ギテ、脊痛及ヒ四肢ノ感覺異常ヲ起スコトアランニ。ソノ際ニモ、脊柱四肢及ヒ脊髓ニハ、毫モソノ病變ヲ認メズシテ、ソノ原因タル觀念ノ消失スルト同時ニ、ソノ病的徵候(疼痛モ忽然トシテ治癒スルコトアルベシ。

(ろ)精神機轉ハ、身體臓器ノ狀況ニ影響ヲ與ヘ、コレニ客觀的ニ認知スベキ病變ヲ喚起スルコトアリ。而カモ、ソノ異常ハ精神作用ノ消失ト共ニ速ニ消退スルヲ常トス。タトヘバ、苦痛ナル感動ガ、一時ノ嘔吐・下痢・失氣發作・月經閉止等ヲ惹起シ、戰慄ノ想念ガ實際、戰慄ヲ喚起スルガ如キモノ、然カナリ。

(ハ)單純性ナル精神の影響、又ハ反復性ノ精神の影響、或ハ持久的ノ精神の影響ハ、持續性ノ病的狀態ヲ喚起スルコトアリ。激烈ナル感動(憤怒、或ハ驚愕)ハ、腦髓血管ノ破綻ヲ來タシ、卒中ヨリ以テ持續性ノ偏癱ヲ起スコトアリ。興奮・憂慮・苦悶等ノタメ慢性ノ器質的心臟病ヲ招來スルコトアリ。又、煩悶憂苦ガ突如トシテ頭髮ヲ白ラゲルハ、吾人ノ往往ニ實驗スルトコロニシテ、歴史ニ表ハレタルコトニモ源賴義ガ戰役ノタメニ(日本外史)徐寅ガ囚禁ノタメニ(齊書)李日知ガ老母看病ノタメニ(舊唐書)白髮ヲ得タルアリ。

(五)精神療法ハ、感覺觀念ヲ介シテ、ソノ治癒の影響ヲナシ、又、感情ヲ介シ、觀念ヲ介シテ、意志ニ影響ヲ與ヘ得ベキガ故ニ、コノ療法ガ精神病者ノ精神症狀ニ影響ヲ與フベキハ、勿論ノコト、コレ等ノ病症ニ於ケル精神的症狀ハ言ハズモガナ。精神病竝ニ身體的の症狀ニシテ精神療法ノ範圍ニ屬スルモノ少ナカラズ、先、第一、精神病ニハ身體的の附隨症狀アリ。鬱憂病ニ見ル脈管運動神經の症狀ノ如キモ、ソノ一ツナリ。又、感覺觀念ハ、往往、肉體ニ影響ヲ與ヘテ(脈管神經心臓運動神經)、心臓筋肉・血管筋肉ガ精神機轉ノタメニ制セラルルハ、吾人ノ日常經驗スルトコロナリ。ソノ他、腺分泌、月經、腸運動、呼吸運動ノ如キハ尋常生活ニ於テモ精神機轉ノタメニ影響ヲ受ケツアルモノナレバ、コレ等ガ精神療法ノ領域ニ屬スベキハ明白ナリ。サレバ、精神病ノ身體的の症狀ガ精神療法ヲ以テ處治スベキノミナラス、身體病ニ附隨スルノ精神症狀、竝ニソノ身體症狀ニモ亦、精神療法ヲ以テ、處治スベキモノナカラズ。

精神過勞ヲ原因トスル神經衰弱ニ對シテモ精神ノ治療の影響ハ、尠少ニアラス。一ハ神經系統ノ全體ヲ治スルニ適シ(普汎的療法)、一ハ各症狀ニ對シテ有效ナリ(對症療法)。兩者相提携シテソノ病ニ治效ヲ奏スベシ。彼ノ所謂、外傷性神經症モヒステリーの、又ハ神經衰弱のナレバソノ精神療法モ亦、コノ二症ニ類推スベシ。強迫觀念ナドニ對シテハ精神療法ノ效果、極メテ著明ナラザルモ、然レドモ、コレヲ全然、委棄スルコトヲ得ズ。特ニ注意スベキハ、精神過勞・抑鬱性ノ感動、又ハ腦髓ヲ虚耗ニシ又ハ既ニ虚耗シタル増劇スル如キモノハ、ソノ症狀ヲ増悪セシメ、精神ヲ寛解シ又ハソノ激昂ヲ避クルモノハ少ナクモ一時、ソノ症狀ヲ減退セシムルコトナリ。神經痛及ヒ疼痛性疾患ニ對シテモ、精神療法ハ、著明ナル效果ヲ顯ハスモノニシテ、就中、ヒステリー性ノモノハ自家推感⁽¹⁾ニヨリ感動ニヨリ前ニアタル悲痛性ノ追憶ニヨリ、又、憂鬱性觀念ニヨリテ誘起サルモノ故、此ノ如キ、悲哀の感動ヲ防ギ、精神作業ノ過重ヲ止ムルコトハ快癒ニ與カリテアルモ、コレニ反ストキハ、病症ニ不利ノ影響ヲナスナルベシ。此ノ如キハ、猶、他ノ神經性疾病ニモ之アルベク、呼吸・循

(1) Autosuggestion

環・消化・生殖・泌尿等ノ諸機官、竝ニ筋關節ノ疾病皆然カリ。

此ノ如キハ、理ノ當然ナレドモ、然カモ、ソノ他、器質性疾患、就中、粗大ナル解剖的變化ノアル神經中樞ノ疾病ニテモ、精神療法ニヨリテ治療セントスルヲ不合理ナリト説クハ、コレ皮相ノ見ナリ。精神の影響ニヨリテ腦髓ノ軟化、出血、電等ヲ除却シ、脊髓ニ於ケル變質病竈ヲ治シ去ラントスルノ不當ナルハ、勿論ナレドモ、コノ場合ニ於テモ、肉體の療法ハ殆全ク無効ニシテ、精神療法ガ一定ノ效果ヲ呈スルコトハ、往往コレアリ。コレ腦髓及ビ脊髓ノ器質的疾患ニ伴フ徵候ハ、悉、皆、神經細胞神經纖維ノ廢滅ニ基ツクモノニアラズシテ、此ノ如キモノノ外ニ、機能ヲ全滅スルニ至ラザル輕度ノ神經障礙(刺戟・抑制等)ニ基ツクモノモアレバナリ。タトヘバ、下肢ノ麻痺スル際ニ於テ、筋肉ノ機能ヲ検査スルモ、左シタル病變ノナキコト屢アルハ、コレ病人ガ意志力ノ不足、疼痛ニ對スル恐怖等ノタメニ、ソノ下肢ヲ動かカスコト能ハザリシナリ。又、初メニハ器質的變化アリテ、ソノタメニ運動、又ハ感覺ノ障礙アリシモ、自家推感ノタメニ、ソノ症狀ノ器質的變化ノ治療シタル後マテ繼續スルコトアリ。此ノ如キ場合ニアリテハ、精神療法ハヨク病人ノ告グルトコロヲ速カニ治シ得ベシ。

右ニ述フルガ如キ場合ニ用ユベキ精神療法ハ、解剖的變化ニ基ツク症狀ニ、何等ノ影響ヲモ與フルコトナシト雖、全身狀態竝ニ精神狀態ニ尠カラザル影響ヲ及ボスモノナリ。純精神的發生ノ疾患ハ勿論、純肉體的ノ疾患ニモ、亦、コノ實例ヲ缺クコトナシ。ココニ於テ、精神療法ノ治療方法トシテ、須要ナルコト明カナリ。

(六) ムラグート氏ハ精神療法ノ目的ヲ、左ノ六件ニ分チタリ。

(イ) 精神療法ノ開卷第一ハ、外來刺戟ノ選擇方ナリ。吾人ノ精神作用トハ、或事物ニ就テ知覺シ、觀念シ、追想シ、又、聯想スルコトニシテ、而シテソノ初ハ皆五官ニヨリテ外界ヲ感覺スルニ基ツケリ。

故ニ、吾人ノ精神内容ハ一トシテ嘗、感受シ知覺シタルコトニ基ツカザルナク、皆、コレ外界ヨリ入り來タリタル經驗實跡ナ

リ。吾人ノ外界ニハ極メテ多數ノ刺戟アリテ、吾人ヲ包圍スルモ、吾人ハ盡、コレヲ我内界ニ領取セズ、ソノウチノ或モノヲ擇ビテ、コレヲ内方ニ通過セシメ、然ラザルハ抑エテ、コレヲ阻止スルコトヲ得ルナリ。吾人ガ病氣ヲ治療スルニ當リテモ、ソノ必要アルトキニハ、或人ノ精神内容ヲ檢按シテ外來刺戟ノソノ人ノ精神内界へ通阻如何ヲ一定度マテ監督セザルベカラズ。吾人ハ精神療法ノ一方法トシ、外來印象ニシテ病人ノ精神ニ到達セントスルモノニ選擇ヲ加ヘ、コレヲ整理シ、コレヲ調節シ、病人ノ精神ニ利益ナル影響ヲ及ボスガ如キ印象ハコレヲ阻止スルコトヲナス。彼ノ麻痺性癡呆ニ罹レル病人ノ如キニハ、世事及ビ家事ニ關スル一定ノ事件ハ、已ムヲ得ズ、祕シテ知ラシメザルコトアリ。又、ヒポコンドリー性患者ナドニハ、ソノ病症ト刺戟ノ性質トヲ考量シテ、ソノ氣力ヲ助長スルガ如キ刺戟ハ、コレヲ病人ニ進メ、ソノ氣力ヲ阻喪セシムルガ如キ刺戟ハ、コレヲ抑止シテ病人ニ加ハラシメザルコトヲ要スルモノナリ。醫師ガ重篤ナル病人ニ接シテ、ソノ病狀ヲ告グルニ當リテハ、常ニ十分ニ深思熟考シテ、然ル後ニソノ態度ヲ決定シ、告グベキコトノミヲ告ゲテ、告ゲテハナラスコトヲ告ゲザラ要スルモノナリ。此ノ如キモ、精神療法ノ一手段ト看做スヲ得ベシ。

(ロ) 病人ノ精神ニ有害ナルベキ印象ヲ遮絶スルコトノ肝要ナルハ、此ノ如クナルモ、一面ニハ亦、有益有效ナル印象ヲ招致スルニカムルコト必要ナリ。然レドモ、ココニ病人ノアリタルトキハ、コレニ對シ、如何ナル時期ニ於テ、有益多效ナル印象ヲ選擇シテ、コレヲ精神内ニ送致スベキカラ決定スルハ、容易ノコトニアラズ。醫師ニシテ、ヨク一般ノ世態人情ニ通達シ、且、ヨク病人ノ特性ヲ會得スルニアラザレバ、ヨクコノ間ニ適當ナル處置ヲ取ルコト能ハザルベシ。概シテ言ヘバ、有益有效ナル印象トハ、高等ナル智慧的、若クハ道義的ノ精神作用ヲ振作スルモノ、又ハ精神ノ深奥ナル潛勢力(緊張力)ヲ興發シ喚起シテ治療上ノ效果ヲ擧ゲ得ベキモノ等ナリ。

(ハ) 吾人ノ精神ニハ意識界ト、不意識界トアリ、相互ニ差別ハアレドモ、ソノ境界ハ嚴正ニアラズ、漸次ニ推移スルモノナリ。

個人ニ就キテコレヲ見レバ、コノ兩者ハ互ニ出入上下スルモノナレドモ、又、ソガ互ニ多少恒常ナル均衡ヲ持スルハ切要ナルコトナリ。ソノ均衡ヲ保タシニハ、上意識ノ内容ヲシテ長ク(或ハ強迫のニ)、意識界ニ止マラズシテ、再、下意識界ニ退キ潛ミ入ラシムルコトヲ要シ、又、下意識ノ内容ヲシテ上意識ニ向ヒテ此ニ現出シテ、コレヲ集成セシムルコトヲ要ス。

(i)、一定ノ觀念團ハ、ソノ意識性ナルト、不意識性ナルト問ハズ、ソノ影響ハ高級ナル精神機轉ニ對シテモ、神経系器官ノ機能ニ對シテモ、頗、強大ナルモノナリ。若、ソノ影響ニシテ有害ナルモノナラバ、精神ノ健康ニモ、身體ノ健康ニモ、至大ナル不利益ヲ來タスニ至ルモノナリ。サレバ精神療法ヲ施スニ當リテハ先、ソノ療法ガ此ノ如キ觀念團ニ對スル效果ヲ明カニシ、又、ソノ觀念團ノ個性の成立、及ビ聯想的集成ヲ考ヘテ、然ル後ニ初メテ、適宜ニソノ觀念團ヲ改革スルコトニ勉ムルコトヲ要ス。下意識の觀念團ナレバ、先、コレヲ意識的ニ向上セシメテ後、コレニ精神の影響ヲ加ヘント試ミ、意識的ノ觀念團ナラバ、ソノ根柢ノ深ク意識下ニ潜在スルモノヲ穿鑿シ、コレヲ抜去ツテ全ク意識ノモノタラシメテ後、コレニ精神的影响ヲ加フベシ。

(h)、人ノ精神界ニ立入り、ソノ精神狀況ヲバ持續的ニ改善セントスルニハ、病人ノ理性、道念、志操等ノ精神能力(人ニヨリテ大ニ相異アリ)ヲ旺盛ナラシメ、ソノ活動ヲ阻止スルガ如キモノハ、力メテコレヲ避クルヲ第一トス。此ノ如クシテ、病人ヲシテソノ疾病ニ對スル勇氣ト濃厚トヲ占有シ、又、ソノ自制力ヲ増進シテヨク艱苦ト、危急トニ忍勝スルコトヲ得、又、コレニ馴ルルニ至ラシムベシ。

(e)、コレヲ要スルニ、精神療法ニ於テ重要ニシテ須臾モ忘ルベカラザルハ、病人ヲシテ自己ノ精神の缺陷ヲ自覺セシメ、醫師ノ助ケヲ藉ルコトナク、自己ノ獨力ヲ以テソノ闕典ヲ補正シ得ル様、病人ヲ訓練スルニアリ。抑、醫師ガ他人トシテ病人ノ精神ニ立入りテコレニ治療ヲ加ヘントスルハ、中中、困難ニシテ多クハ完全ニソノ目的ヲ達スル能ハザルモノナリ。病人ニ一

定ノ治療の影響ヲ與ヘントスルモ、ソノ影響ノ程度及ビ持續ヲ必要ニ應ジテ節制スルコト、甚、困難ナルモノナレバ、病人ガ十分ノ理智ヲ備フル人ナラバ、ナルベク病人ヲシテ自己ノ精神の個性ヲ知り盡シテ、自、必要ナル處置ニ出デシムベキナリ。コレ等ノ訓練ハ治療上、最、合理的ノ處置ナリト謂フベシ。

(七)精神療法ハ感覺觀念ヲ介シテ、ソノ治療の影響ヲサントスルモノナリ。一ツニハ或感覺觀念ヲ喚起シテソノ感覺觀念ノ内容ヲ以テ治效ヲ取ラントシ、又、一ツニハ或感覺觀念ヲ喚起シテソノ感覺觀念ニ附帶スル感情ヲ利シテ治效ヲ求メントシ、猶、一ツニハ感覺觀念ヲ喚起シ、コレニヨリテ次ニ病人ノ意志ニ影響ヲ與ヘテ以テ治效ヲ擧ゲントスルナリ。甲ハ睿智の療法トシ、乙ハ感動の療法トシ、丙ハコレヲ意志の療法トス。睿智の療法トシテハ、ソノ治病の觀念ヲバ、道理ト引證トニヨリテ喚起セントスルモノト道理、又ハ引證ニヨラス、單ニ推感のニ之ヲ喚起セントスルモノトアリ。教誨法、說得法ナドハ甲ニ屬シ、推感法ハ乙ニ屬ス。精神療法ヲ大別シテ、左ノ數種トス。

一、全般的療法 (1) 個人的療法 (2) 環境療法 (3) 安靜療法 (4)

二、睿智の療法 (5) 作業療法 (6) 遣散療法 (7)

理解的睿智療法 (8) 教誨法 (9) 說得法 (10)

推感の療法 (11)

三、意志の療法 (12)

四、感動の療法 (13)

精神療法ハ又、コレヲ直接ナルト間接ナルトニ、區別シ。一方ニハ病人ノ病的ナル精神症狀ヲ討滅スルコトニ勉メ、他方ニハ健全ナル觀念、感情ヲヨク發達セシメンコトニ務ム。

- | | |
|-------------------------------------|--------------------------------|
| (8) I. Th. mit logischer Begründung | (1) Allgemeine Psychotherapie |
| (9) Belehrung | (2) Persönliche Psychotherapie |
| (10) Ueberredung | (3) Milieuthérapie |
| (11) Suggestionstherapie | (4) Ruhestherapie |
| (12) Willenstherapie | (5) Intellectuelle Therapie |
| (13) Affecttherapie | (6) Beschäftigung |
| | (7) Zerstreuung |

直接精神療法ハ醫者が病人ノ異常ナル感情・觀念・意志ニ直接影響ヲ與ヘテコレヲ思フ儘ニ變化セントシ、一定ノ計畫ト目的ヲ以テ病勢ヲカヘ病機ヲ動かサントスルナリ。各個人ノ概念・性格・思考ハ感動ト緊密ナル關係ノアルモノニシテ、精神物理的ノ機轉ヨリ直ニ發展スルモノニアラス。吾人ハ他人ノ感情ニハ影響ヲ與ヘ得ルモ、ソノ思考・辨識ニハ感情ヲ階梯トシテ、纔ニコレヲ動カシ得ルニ過ギズ。サレバ、他人ノ妄想ヲ我ガ理性ヲ根據トシテ排倒セントスルガ如キハ、勞シテ效ナキコトナリ。病人ガ恢復ニ近ヅキテ自分カラソノ觀念ノ不正ヲ疑フニ至ラザル限り、コレヲ道ヒ破リ、説キ伏セ得ルモノニアラス。況、病人ノ意志ヲ直ニ説キ破ラントスルガ如キハ洵ニ無益ノコトナリ。然レドモ、精神機轉ハ盡ク皆、感動ト多少強盛ナル關係アルモノナレバ、コノ點ヲ考フレバ精神的療法ヲ試ミルベキ餘地ハ十分ニ存スベシ。コノ方法ハ即、積極的ノ療法トモ稱ヘツベク、催眠術・精神分析法、デジリン・左ボアノ説得法・感動療法・意志練習法ナドコレナリ。

間接精神療法ハ病人ニ健康ナル觀念及ビ動作ヲ提起シテ、コレニ由テ病機ノ進行ヲ阻止シ、ソノ精神ヲ病的觀念ヨリ他ニ誘ヒ轉ズルナリ。コレニ安靜療法、作業療法、遣散療法等ノ方法アリ。然レドモ、醫師ノ說話、訓諭竝ニ賞罰ノ如キハ直接病人ノ精神ヲ左右スルモノニアラス、病人ノ精神ヲ感激シ刺激スル如キモノヲ遮斷シ、外界ノ諸狀況ヲヨク調整スルコトガ却ツテ精神變調ヲ治スルノ效果多キモノナリ。コレ、即、全ク消極的ノ療法ナリ。積極的療法消極的療法、何レニスルモ、精神的療法ハ病人ノ個人性ヲ本トスルモノナレバ、深クソノ適否ヲ考ヘテ後ニ、コレヲ施スコト肝要ナリ。ソノ效果ノ如何ハ各醫師ノ人格、經驗竝ニ習練ニ俟ツコト多大ナリ。第一醫師トシテ具備スベキ精神的條件ハ慈愛深く、能ク耐忍シ、克己心強ク、深ク世事ニ通ジテ、應對ニ嫻巧ニ、職務ニ熱心ニシテ勞苦ヲ更ニ厭ハザルコト等ナリ。此様ニシテ、單ニ醫師ト云フノミナラス、病人ノタメニ師トナリ、友トナリ、ソノ原因ノ治療ニノミ注意ヲ拂ハズニ、人格ノ力ニヨリテソノ病症ノ精神の方面ト戰フコト、最、必要ナリ。醫師ノ人格ハ病人ニ對シテ藥劑ト同一ナル效果ヲ與フルモノナリ。

(八)精神療法ハ、コレヲ一面ヨリ見レバ、一種特別ノ療法ナリト雖、實地上ニ於テハ、嚴格ニ身體療法ト區別スルコト不可能ナルハ前ニモ述ベタル如シ。吾人ガアル病人ニ純粹ノ精神療法ヲ施シテ、コレヲ治癒セシメントスルニハ、全然肉體療法ヲ行ハズシテモ、ソノ目的ヲ達スルコトアルベキモ、身體療法ヲ施ス場合ニアリテハ、病人ガ批判力ヲ有スル以上ハ、ソノ療法ニ伴フ精神の影響ヲ除外スルコト能ハズ、吾人ノ用フル藥劑、ソノ他、治療的處置ハソノ如何ヲ問ハズ、病人ヲシテコレ等治療方法ニ治療ノ效能アルコトヲ信ゼシメザルコト能ハズ。病人ハ醫師ノ施シタル處置ニ對シテ相當ノ觀念ヲ喚起スベク、ソノ觀念ハ必シモ醫師ノ期待ニ副フ程ノモノニアラス、ソノ觀念ノ種類如何ニヨリテハ病人ノ症狀全般、又ハソノ各個ニ良好ノ影響ヲ與フルモノモアレバ、又、不良ナル影響ヲ與フルモノモアリ。病人ニシテ醫師ノ處置ニ信賴スル場合ニハ、病人ハコレニヨリテ治癒シ輕快スベシトノ確信ヲ抱キツツ醫師ノ命令ヲ遵奉シ、コレニ由リテソノ病狀ニ幾分カノ輕快ヲ覺ユベシ。此ノ如キハ、一時ノ自覺的効果ニ過ギザルガ如クナルモ、病人ニ取リテハ重大ナル意義アルモノニシテ、ソノ瀕死ノ場合ニ於テサヘ、幾分ノ輕快ヲ來タスコトヲ得ルモノナリ。若、病人ガ醫師ヨリ處方ヲ受ケナガラ、ソノ藥劑ヲ疑ヒ危ムニヨリテ治癒ノ希望ヲ薄ラケルガ如キ場合ニハ、他覺的ニハ、或ハ症狀ノ輕快ヲ認ムルコトモアラシガ、自覺的ニハ輕快ヲ致スコトナキハ勿論、却ツテ症狀ノ増悪ヲ告フルコトアルベシ。且、又、醫師ガ病人ノ精神ニ對スル影響ノ良不如何ハ、ソノ治療ノ方法如何ニノミヨルニアラスシテ、醫師ガ初メテ病人ニ接シタル以來、病人ノコレヨリ受クル印象全體ノ如何ニヨルモノトス。故ニ精神療法ト云ヘバ、醫師ガ改メテ病人ニ加ヘントスル特別ナル治療方法ノミニアラズシテ、醫師ノ行爲・態度等、スベテ病人ニ影響スル所ノモノハ、悉、ソノ範圍ニ入ルモノナリ。

(九)精神療法ノ歴史 精神療法ハ近年ニ至リテ漸、治療法ノ一ト云ハルニ至リタルモノニシテ、催眠術療法ノ如キハ、誤ツテ心理學者方面ヨリ應用セラレントスル形勢ヲ示セルモ、精神療法ハ決シテ新規ノ治療法ニアラス。催眠術療法ノ

如キモ非醫者ノ濫リニ行フベキモノニアラズ。精神の治療法ノ發達ノ跡ヲ尋ヌルニ、ソハ西洋ニ於テモ、亦、東洋ニ於テモ各時代ニ於ケル治療法ノ中、最早ク發達シタルモノナリ。太古草昧ノ時代ニアリテハ、疾病觀ト宗教の信仰トハ近ク相附合シテ、疾病ヲ以テ超自然的ノ一勢力ニ因リテ喚起セラルルモノト解釋シタルガ故ニ、コレニ對スル救治ノ方法ハ自、宗教的色彩ヲ帶ビ、物質の基礎ヨリモ寧、心靈の基礎ノ上ニ發育シタルナリ。我邦ニ於テハ、大已貴命、少彥名命、力ヲ合セ心ヲ一ニシテ養生及ビ畜産ノタメニソノ病氣ヲ治療スル方法ヲ定メ、又、鳥獸昆蟲ノ災異ヲ攘ハンガタメニ禁厭ノ方法ヲ定メ玉ヘリ。支那ニ於テハ古クヨリ毒藥・鍼石ト共ニ符咒・禁禳ノ方法アリテ、「周禮」ニハ大祝ノ宮ヲ置キ、鬼神ニ仕ヘ、祥福ヲ祈リ、永貞ヲ求メ、男巫ヲモアリ、又、女祝ヲモアリタリ。「素問」ニ「往古人在禽獸之間。動作以避寒。陰居以避暑。內無奢慕之累。外無仲官之形。此恬憺之世。邪不能深入也。故毒藥不能治其內。鍼石不能治其外。故可移精祝由而已。」トアル如ク、コノ頃ニハ一方ニ心神ヲ移動スル精神療法ト、祝由シテ神ニ頼ラントスル祈禳ノ處置トハ、醫療トシテ用ヒラレタルモノノ如シ。

コノ當時ニ於テ、治療ノ任ニ當リタルモノハ我邦ニ於テハ主トシテ神官僧侶ニシテ、神殿・祭壇ニ臨ミテ崇高ナル心靈ニ接シ、ソノ託宣ヲ承ハリ、コレヲ推奉シテ只、コレニ戻ラザランコトヲ勉メタルモノナリ。彼ハ神佛ト交會スル點ニ於テ、一種ノ超人的能力アリト認メラレ、一般人衆ノ尊敬ト信賴トヲソノ身ニ集メタリ。此ノ如キ儀式ノコト「日本書記」崇神天皇ノ七年ノ卷ニ大物主神、倭亦日百襲姬命ニ神明憑リテ種種告ケ玉ヒシ條ニ見エタリ。ソノ後ニモ、此ノ如キコト多ク「源氏物語」今昔物語「古事談」ソノ他ニ見エタリ。イツレモ、宗教の儀式、又ハコレニ類スル方法ニシテ、ソノ方法ハ祭祀・祈禱・巫祝・禁厭ノ方法ナリ。勿論、コノ時代ニ於テモ同人中ニ病ニ罹ルモノアリタルトキハ、種種、心ヲ盡シテコレヲ治愈ニ赴カシメントセルハ明カニシテ、醫藥ノ萌芽ハ既ニコノトキニ胚胎シテ、又、種種ノ藥劑ノ醫療ノタメニ用ヒラレタルコトハコレアリシモ

ノノ如シ。然カモ、ソノ當時ニ於テ、藥材ノ效能ト云ハレタルトコロハ、吾人現代ノ智識ヲ以テシテハ、理解シ能ハザル底ノモノナリシガ如ク、コノ時代ハ即、精神療法ノ第一期ニシテ純宗教的精神療法時代ト云フベシ。

第二期ニ於テハ醫學モ漸次ニ起リタレドモ、而カモ僧侶の醫師ハ猶、特殊ノ醫師階級ノ外ニアリテ醫療ノコトヲ司ドリ。宗教的ノ精神療法(推感療法)ハ多少ソノ區域ヲ限狭セラレタルモ、而カモ猶、盛ニ世ニ行ハレタリ。何レノ民族ニ就キテ調査スルモ、宗教的精神療法ハ醫術的精神療法ト竝立スルコトヲ知ルベク。支那ニ於テハ醫學十三科ノ一トシテ祝由ヲ擧ゲタルナドソノ例ナルガ。我朝ニ於テコレヲ考フルニ、「大寶令」三「咒禁生アリ咒禁シ解忤持禁スル法ヲ學ビ二年ヲ限リテ其業ヲ成サシム。業成ルノ日太政官ニ申送ル」コトヲ載セタリ。解忤トハ咒禁ノ方法ニテ、衆邪ヲ除クコト、持禁トハ杖刀ヲ持チテ咒文ヲ唱ヘテ猛獸・毒蟲・精魅・賊盜ノ害ヲ禁ズルコトヲ云フニテ(義解集解)ソノ方法ノ如何ナルモノナリシヤハ、今世ニ傳ハラスシテ不明ナリ。然ルニ、ソノ後、佛法入國シテ大ニ流行セシト共ニ、コノ方法ハ僧侶ノ手ニヨリテ益、盛ニナリ。タメニ醫藥ノ方法殆、全ク棄テテ顧ミラレズ、疾病治療ノコトハ世間一般ニコレヲ僧侶ニ依頼シタリ。サレバ、中古ノ史乘ハ帝室公卿ヲ始メ、何レモ皆、疾病アルトキ誦經念佛ヲ以テコレヲ治愈センコトヲ謀リ、又、ソノ應驗ノ顯著ナルコトヲ記シタリ。「増鏡」ニハ「中宮平産アリケレバ御修法共、願テ結願スベシトテ法師原迄シタリ顔ニ汗押拭ヒツツイソガシアリク」ト序シ、「源氏物語」ヲ見レバ夕顔ノ君、卒去ノ折ニハ「法師ナドヲソスル方ノ頼モシキ者ニト思スベケレ」ト云ヒ、紫ノ上薨去ノ節ニハ「僧共修法ノ檀毀チハラハト罷出ル」ト記セリ。サレバ、コノ頃、僧侶・神官ニテ位階ヲ賜ハリシモ多ク、田宅ノ寺社ニ喜拾セラレタルモ少ナカラズ。足利氏ノ末葉ニ至ルマデ、醫藥ノ權能ハ全ク僧侶ノ手ニアリキ。

第三期ニ入りテハ、精神療法ハ漸漸醫師ノ手ニ移リ、ソノ治效ノ如何ニヨリテ人ノ精神状態ハ一定度マテ疾病ノ成立及ビ治愈ニ影響スルモノナルコトヲ知り、精神の全身療法ハ一定ノ方針ヲ以テ組織セラルルニ至リ。ソノ療法ハ精神狀

- (1) Hippokrates
- (2) Aretaeus
- (3) Galenus
- (4) Erasistratus
- (5) Asklepiades

況ニ影響ヲ與ヘ、間接ニ肉體ノ障礙ヲ除キ、疾病ノ治癒ヲ促シ、抑鬱的要素ヲ去ルヲ旨トセリ。此ノ如キ精神療法ハ太古(希臘・羅馬)ノ有名ナル醫師ノ應用シタルモノニシテ、ヒツポクラテス・アレタエウス・ガレーヌス⁽¹⁾ノ諸氏ハ喜悅ヲ以テ諸ノ疾病ヲ治スベシト認メ、エラジストラトウス氏⁽²⁾ハ脈搏ノ状態ニヨリテ疾病ノ原因ガ精神的ナルモノヲ診断セリト云ヒ。アスクレピアードス氏⁽³⁾ハ愉快ナル音曲ヲ以テ鬱憂症ヲ治療セントシタリト云フ。支那ニ於テモ、素問ニ既ニ精神療法ノ必要ヲ説キテ、移精變氣ノ語ヲ用ヒ、扁鵲・文摯・華佗等モ怒ヲ以テ當時ニ有名ナル治療ヲ行ヒシガ如ク、扁鵲ハ又、醫ヲ信セザルハ第一ノ不治ナリト云ヒテ、醫師ニ對スル信用ハ治療上ノ第一條件ナルコトヲ稱ヘ、ソノ他、金元ノ際ノ大家(韓世良・張戴人・朱震亨)諸氏モ七情ヲ激起シテ疾病ヲ治療スベキコトヲ主張シ。又、コレヲ實施シテ功ヲ收メタリ。

日本ニ於テハ、徳川氏時代コレニ相當シ、コノ療法ハ漸次發達完成シタルガ。ソノ經過ハ極メテ緩慢ナリキ。西洋ニ於テハ、アレキサンデル、フォン、トラルレル氏⁽⁶⁾ハ鬱憂症ニ對シ、旅行及ビソノ他ノ鬱散、適度ノ職務ヲ推奨シ、努メテ病人ノ慾望ヲ満足スベキコトニ注意シ、又(希臘・亞拉比亞學派ノ醫師タル)イサーク、ユーデウス氏⁽⁷⁾ハ精神療法ガ疾病ノ豫後ヲ左右スルコトノ著シキヲ指摘シテ病人ヲ慰安シ安堵セシメ、治癒ノ見込アルコトヲ病人ニ知ラスルハ、醫師ノ全癒ヲ危アム病症ニ於テサヘモ、遂ニコレヲ治癒ニ致スコトアリト云ヒ。ウルヘルム、フォン、サグケトー氏⁽⁸⁾ハ病人ノ醫師ヲ信賴スルコトハ、治療ノ效果ニ著大ノ影響アルコトヲ揚言シ、醫師ガ病人ヲ治療スルニ方リテハ、脈搏ヲ觸ルルニ慎ミテ時ノカカルヲ厭ハズ、既往症ヲ尋スルニ詳ラカニシテ遺漏ヲ恐ルル許ナルナド、種種方法ヲ講ジテ、病人ハ勿論、ソノ近親ノ信用ヲ博スルハ、病人ノ觀念ヲ有利ニ利用シ、疾病ノ治癒ヲ促スベキ道ナリト云ヒシガ。此ノ如キ學術的色彩ヲ帶ベル精神療法ハ、タダ醫師ノ行フトコロニシテ、宗教的精神療法ハ依然トシテ別境ヲ占有シ、コレヨリ何等ノ影響ヲモ蒙ルコトナ

- (6) A. v. Traller (525-605)
- (7) Isaak Yudaeus
- (8) W. v. Saliceto

- (1) Lepois
- (2) Ambrois Paré
- (3) Plater
- (4) Willis

カリシハ、我朝、足利時代ニ於テ、醫治ノ多クハ僧徒ノ手ニ占領セラレテ、醫師ハ殆、コレト交渉ナカリシト同様ナリキ。西洋ニ於テハ、基督教ノ勢力、漸、増盛スルニ從ヒ、宗教的精神療法、一旦衰ヘテ後、再、盛大トナリ、大ニ世俗ノ信用ヲ博スルニ至リ。誓盟・祈禱・十字架・聖藥・神水等ハ擅ニ治療上ニ應用セラレ。ソノ頃ノ病人ハ醫師ノ診療ヲ乞ハズシテ、皆、寺院ニ參籠シ、只、僧侶ノ術策ニ播弄セラレテ、ソノ治療ヲ全フスルモノト信ジ。コノ風潮ハ廣ク世ニ蔓延シ、前世記ノ初ニ佛蘭西ノ某寺院ノ如キハ、奇怪ナル術式ヲ行フノ故ヲ以テ、政府ヨリ閉鎖ヲ命ゼラレタルコトアリキ。第十五世紀ヨリ第十七世紀ニ互リテハ、妖魔妄想・憑依妄想等著シク流行シタルタメニ宗教的精神療法ノ隆盛ヲ致シ。ルポア・アムブローア・バレー⁽¹⁾・プラーテ⁽²⁾・ウグー⁽³⁾等ノ諸大家ヲ初メ、第十八世紀ノ中葉ニ至ルマデ、一般ニ醫師ガ、コレヲ信ジ、疾病ハ魅力ニヨリテ起ルコトアルベシト認メタルハ、支那ノ巢・王・李・朱・劉張諸家及ビ我朝ノ醫家ガ多ク、鬼魅・飛魔・魍魎・邪祟ヲアリト信ジタルト、選フトナシ。

第十八世紀ニ於テ獨逸ノ醫師ハ皆、哲學・心理學ニ通曉シタリシカバ、病人ノ精神状態ハ治療上ニ少ナカラザル價値アルヲ知り、バース氏⁽⁴⁾ノ如キハ精神的影响ノ重要ナルコトヲ説キテ「醫師ガ治療法ヲ選用スルニハ、病人ノ肉體ナル病理的解剖的變化ノミ著眼セズシテ、廣ク全身ニ汎リテ適當ナル方法ヲ講ズベク、醫師ハ治療ノ技師タルノミナラス、同時ニ心理學者哲學者タルコト、ヒツボクラーテス氏⁽⁵⁾ノ云ヘルガ如クナラザルベカラズト云ヘリ。サレバ、當時ノ醫學ノ趨勢トシテ、醫師ハ精神療法ノ重ズベキヲ十分ニ了知シタリシガ。就中、コノ療法ノ價値ヲ認メテ、ソノ實地醫學上ノ意義ヲ明ラカニシタルハ、ライル氏⁽⁶⁾ノ功績ナリ。彼ハ治療法ヲ大別シテ外科的治療法・内科的治療法ノ二ツトナシ、精神療法ヲ以テコレ等ト竝ビテ、實地醫師ニ必要ナルモノトナシ、殊ニ、精神病者ヲ治療スルニ缺クベカラザル手段トナセシガ。コノ主張ハ惜ムラクハ爾後、治療界ノ大勢ヲ左右スルニ至ラズシテ熄ミタリ。第十九世紀ノ初葉ニ於テハ、所謂、動物磁氣

- (5) Baas
- (6) Reil

説出テテ精神療法ハ廣ク行ハレタリト雖。治療法ノ中堅タリシハ依然トシテ瀉血・皮膚誘導法・下劑應用等ノ如キ峻烈ナル方法ナリキ。當時、科學ノ進歩漸ク著シク、治療法ハ漸次純科學的基礎ノ上ニ發達スルニ至リシヲ以テ、精神療法ハ益益疎外セラルルニ至リ。加之、診斷學ハ短日月ノ間ニ長足ノ進歩ヲナシ。醫界ノ趨勢ハ診斷學ヲ偏重シテ治療ヲ閑却スルニ至リ。ウー・ン學派ハ治療的虛無主義ヲ唱ヘテ、治療ヲ醫療ノ範圍ヨリ驅逐セントシ。服藥ノ如キハ全然、世ノ信用ヲ失フニ至レリ。爾後、ソノ反動トシテ世ハ幾分カ精神療法ノ效果ヲ云スルノ機運ニ向フガ如クナリシガ。一時ノ潮流ハ、又モコレヲ葬リ去リ、治療的虛無主義ハ更ニ歩ヲ進メテ精神療法ハ殆、全クソノ跡ヲ斂ムルニ至レリ。十九世紀ノ中過ヨリ、治療界ハココニ又、一變化シテ藥物學ノ研究、頓ニ隆盛ヲ致スト共ニ、理學的治療法ハ大ニ醫界ノ注目ヲ惹キ幾何ナラズシテ、コノ傾向ハソノ頂上ニ達シ、藥物治療ノ效果ハ極端ニ世上ニ信賴セラレ新藥ノ世ニ出ヅルモノ數百ヲ以テ算フルニ至レリ。

第四期。我朝ニ於テモ前ノ期ニハ所謂、古方家ガ汗吐下・水治ヲ專用シ、洋方ヲ折衷シテ刺絡ヲコレニ加ヘタルガ。ソノ後ニ至リテ、萬延・安政ノ頃、今泉高祐・田宮尙施等諸家ハ精神療法ヲ盛ニ唱ヘ出シタリ。西洋ニ於テ精神療法ガ再度ノ發達ヲ初メタルハ一千八百八十年代ナリ。動物磁氣ノコトメスメル氏⁽¹⁾ニヨリテ唱道セラレテヨリ、ブレード氏⁽²⁾ヲ經テ、リエポール⁽³⁾・シルコー⁽⁴⁾ノ兩大家ニ至リ、催眠術ノ治療的應用ハ次第二大成セラレタリ。シルコー氏ハ即ハチ觀念ノ病症ヲ提起スルコトヲ證明シ、觀念ノ喚起ニヨリテ疾病ヲ治療スルノ方法ヲ説キテ、推感療法ノ建設者トナレリ。而シテ、推感法ノ廣ク世ニ行ハルルニ至リシハ、一千八百八十二年、ベルンハイム氏⁽⁵⁾ガ催眠術ト、リエポール氏方術トヲ考究セシヨリ以來ナリ。コレヨリ以來、歐洲諸國ハ靡然トシテ、ナンシー學派ニ傾キ、催眠術ハコレニヨリテ治療的方面及ヒ心理學的方面ニ於テ著シク開拓セラレタリ。推感の影響ノ治療上ニ偉大ナル價値アルコト分明

- (1) Mesmer
- (2) Braid
- (3) Liébault
- (4) Charcot
- (5) Bernheim

トナリシヨリ、内服藥・電氣療法・按摩・水治療法・浴療法等ノ如キ治療方劑マデモ、皆、多少ノ精神的影响アルモノト承認セラルルニ至リ、加之、一方ニ於テシルコー氏ガ諸般疾病中ニハ、或觀念ニヨリテ誘起セラルルモノアルヲ發見シテヨリ、此ノ如キ種類ノ疾病甚、數多クナリ、種種ノ方法モ亦、ソノ療治ニ應用セラルルコトトナリシハコノ書ノ内容ヨリモ察知スベク、精神療法ノ應用範圍ノ擴張サレシコト從來醫家ノ夢想セザル程ナリ。

學界今日ノ趨勢ヨリ考フレバ、催眠的療法ノ效果ニツキテハ、學者ノ説、猶、區區タリト雖、各國ヲ通ジテ知名ノ醫師ニシテ、病的狀態ニ於ケル精神的影响ノ宏大ナルニ見到シ、精神の療法ヲ行フベキ領域ノ極メテ廣濶ナルヲ承認セザルモノハ一人モコレナカルベシ。然ルニ、コノ思想ハ廣ク實地醫家間ニハ普及セズ、彼等ハ未、人心裡ニ伏在スル治療的能力ヲ利用スベキ方法ヲ十分ニ了知セザルガ如シ。コレ偏ニ今日ノ醫師教育ノ方法ガソノ宜ヲ得ザルニ因ルナリ。今日ノ醫師教育ニ於テハ、心理學ヲ等閑ニ附シ、精神療法ニ關スル基礎的知識ヲ與フルノ機會ナク、又、特ニ精神療法ヲ講ジ、又、コレヲ實地ニ練習セシムルノ機關ヲ缺クヲ以テ、現今ノ醫師ハ生理的・病理的ニ器質的ニ身體元基ニ作用スル藥物ヲ以テ、唯一ノ治療的材料ト信ジ、病人ノ精神ガ病發ノ動機トシテ如何ナル意義ヲ有スルカ、病的精神ガソノ疾病ニ如何ナル影響ヲ與フルカラ知ラズ。ソノ結果醫師ハ精神療法ニ偉大ナル治療効果アルヲ領會セザルノミナラズ、精神療法ヲ斥ケテ不必要トナシ、甚シキニ至リテハコレヲ妖魔ノ術、害惡ノ方トシテ、排擠セントスルモノアリ。然レドモ、精神療法ノ真相ハ此ノ如キ不徹底ノモノニアラズ、醫師ニシテ若、藥物學上ノ知識ト、精神療法ノ知識トヲ兼有スルナラバ、實地治療ニ際シテ獲ルトコロノ利益ハ必ヤ多大ナルベシ。病人ノ精神狀態ヲ洞察シ得テ、病人ノ信賴ヲ獲ルノ道ニ通ジ、病人ノ心裡ナル治療的潛勢力ヲ利用スルノ方法ヲ知ルニヨリテ、藥物ノ治效ヲ増益スルコトヲ得バ、ソノ治療上ニ裨益スルトコロ、蓋、些少ニアラザルベシ。

第二編 個人的精神療法⁽¹⁾

治療ハ病人ノ醫師ニ服従スルヨリ初マリ、病人ノ醫師ニ服従スルニ成功ス。病人ノ醫師ニ赴キテ治療ヲ求ムルハ、コレヲ信用スルガ故ニシテ、從ツテ醫師ニ服従スルノ傾向アルモノナリ、サレバ、醫師及ビソノ附屬ノ人物ガ、診療上ニ影響ヲ與フルハ世人ガ漫ニ想像スルトコロヨリモ遙ニ重、且、大ナルモノニシテ、醫師ニシテ、コノ影響ノ價值ヲ知り、適宜ニコレヲ應用スル場合ニ於テハ、ソノ奏效、甚、大ナルモノナリ。精神療法ハ醫師ガ病人ニ接スルトキヨリ初マル。

(一)診察室。ハ醫師ガ診治ヲ求ムルモノアルニ際シテ、最初ニコレヲ迎接スルトコロニシテ、室内ノ配置、裝飾ノ整ヒ美クシテ雅趣ニ富ムハ、醫師ノ舉止、言談ノ溫和、高潔ニシテ同情ニ富ミ、妄リニ病人ヲ凝視スル等ノ如キ野卑ノ態度ナキト、相俟ツテ病人ニ一種言フベカラザル爽安ノ念ヲ起スモノトス。此ノ如キハ、一面ヨリ言ヘバ、極メテ些細ニシテ、言フニモ足ラスコトノ如ク、他面ヨリ言ヘバ、世俗ニアル卑ムベキコトノ如クニ思ハル節ナキニアラザルモ、病人ノ中ニハ種種ノ素因(殊ニ神經的)アル人モ少ナカラザレバ、コレ等ノ人人ニ向ツテハ多大ノ影響ヲ及ボスモノナリ。

(二)醫師ノ業務ガ直接ニ精神療法ノ效果ニ影響ヲ及ボスコト多大ナルハ勿論ナレドモ、醫師自己ハ屢、コレヲ等閑ニ附スルノ傾向アリ。醫師ノ應接ノ狀況ガ、治療ノ效果ニ影響ナキハ、タダ乳兒・癡呆者・麻醉狀態ニアルモノ等ニ過ギズシテ、ソノ他ニ對シテハ、醫師ノ態度如何ニヨリテ同一ノ治療法ヲ用フルニシテモ、ソノ效果ニハ著シキ差等ヲ生ズルコトアリ。先、例ヲ擧ゲテ見レバ、處方箋ヲ記スニシテモ、筆ヲ執リテ暫ラク遲疑スル場合ト、確信アル態度ヲ以テスラスト記シ畢ル場合トニテ、治療ノ效果ニ相違アルハ爭ハザルコトナリ。醫師ノ中ニハ、往往他人ヲ推服セシムルニ足ル一種ノ權威ヲ具フルモノナリ。吉益東洞曰ク「欲爲良醫者。必先求爲君子。非君子不能爲良醫。君子知命故不處毀

譽之際。見義而勇。臨危而安。萬死見一生。唯疾病是治。小人否。是小人之所以不能爲良醫也。」
 丘曰ク「醫行己正則病者信之。病者信之則藥能成功」ト醫師ニ人格ノ尊ブベキハ勿論ナリ。サレド此ノ如キ權勢ハ人格ソノモノヨリモ寧、醫師トシテノ名聲ニ由來スルコトナリ。堂堂タル態度、赫赫タル名聲、コレ等ハ病人ニ偉大ナル印象ヲ與フルモノナレバ、カカル條件ノ備レル醫師ノ治療ガ然ラザルモノノ治療ヨリモ遙ニ有效ナルハ言ヲ俟タズシテ明白ナリ。凡、崇高ナル態度ハ、自然ニソノ人ニ具ハルモノニシテ勉メテモ招キ得ルコトニアラズ、擬ヘテモ作リ得ベキコトニモアラズ。醫師ガ實地上ニ於テ得タル名聲ハ、必シモ醫師ノ實際ノ技術ニ相當スルモノニアラズ。故ニ此ノ如キ個人的ノ權勢威望ハ何レノ醫師ニモ悉、コレヲ備フルコトヲ望ムベカラザルモ、醫師ニシテ間斷ナク、自己ヲ批評シ、自己ニ反省シ、心ヲ盡シ、力ヲ極メテ、ソノ態度ヲ慎ミ、病人ノ傾意ヲ喚起スルニ勉ムルトキハ、少ナクトモ一程度ノ信賴ヲ得ルコトハ左程困難ナラズ。醫師ガ病人ヲ診察スルニ當リ、容儀整ハズ、言語粗クシテ、酒臭ク又ハ口ニ煙草ヲ含ムガ如キコトニテハ病人ノ信賴ヲ得ルコト甚、困難ナリ。然レドモ、又、徒ラニ衣服ヲ飾リ、邊幅ヲ修ムルガ如キモ、病人ノ信賴ヲ得ル途ニアラズ。ソノ實ヲ求メズシテ外見ノミヲ裝フハ反テ自己ノ價值ヲ失墜スルモノナリ。緒方維勝曰ク「庸醫ハ外ニ思事有テ唾壺ヲ嚴ク叩キ扇ヲ鳴ラシ病

症ノ應對モ高聲ニスルナリ、如此癖アル醫ニ一人トシテ是ノ廻ル人ナシ」。
 (三)病人ニ對スル醫師ノ應對ハ、病人ノ地位ニ相當シタル禮儀ト、親切ノ意トヲ以テスルヲ要シ、ソノ程度ヲ越エテ鄭重謙讓ニスルモ不可ナリ。醫師ハ病人ノ保護ノ位置ニアルモノナレバ、過度ニ謙遜シテ虛禮ニ走ルナラバ、病人ニ對シ、命令ヲ執行スルトキニ差支ヲ生ズベク。醫師ノ權能ガ、病人ヲ支配シ得ザルハ、治療ノ失敗ヲ招ク基トナルコト屢、コレアリ。醫師ノ權能ヲ病人ニ對シテ十分ニ發揮スルコトハソノ病ニ效益アル治療法ニ由ルノ他ナシ。病人ヲシテ、醫師ハ最良ノ方法ヲ盡シテ、最速ニ我が病ヲ愈シ、我が悩患ヲ一日モ早ク除カントスルモノナリ。「コノ療法ニヨラザレバソノ疾病ヲ治癒スルニ途ナ

シト云フ程度マテ、自己ノ治方ニ信頼セシムルニアリ。殊ニ應接ヲ慎ムベキハ、兒童及ビ青春ノ女子ニ對シテナリ。初メテ、彼等ニ對スルトキ、彼等ノ心服ヲ得ルコトニ勉メ、ソノ信頼・悦服スルヲ確ニ認メテ後、茲ニ初メテ溫和親愛ノ態度ヲ以テコレニ臨ムベシ。陸賈ノ「新語」ニ曰ク「扁鵲天下之良醫。而不能與靈巫爭用者。知與不知也。」病人ガ醫治ヲ受ケテソノ效ヲ見ントスルニハ、醫師ニ信頼シ、ソノ處置ニ服從セザルベカラズ。ソレニハ、難易久暫、色色アリ。訓誨ナラバコレニ耳ヲ傾クレバ足リ、手術ナラバ麻醉ヲ承諾シテコレヲ受クレバ足ルトイヘドモ。又、數週數月ニ互リ嚴正ナル命令ヲ受ケ、時時刻刻、コレヲ遵奉セザルベカラザルコトアリ。痛キコトモ忍ビ、面倒ナル處置モ堪エ、飲マントシ、食ハントシ、嗜マントスル事モコレヲ抑制シテ醫ノ言ニ從ハザルベカラズ。サレバ、醫師ハ又、ソノ治療ヲ適當ニ實施セントスルタメニ、病人ヲ歸服セシメ、病人ヲ駕御スルノ道ニ通ゼザルヲ得ズ。コレ亦、精神療法ノ一端ナリ。

(四)精神療法上、重大ノ意義アルハ、醫師ト病人トノ對話ニ若クモノナシ。コノ對話ノ際、醫師ノ顔貌・態度ニシテ、内ニ向ツテハ自信ノ篤キヲ見、外ニ向ツテハ同情ノ深キヲ示スナラバ、病人ハコレニヨツテ多大ノ好影響ヲ受クルモノナリ。但、言語ハ勿論、爾他ノ表情ガ故サラニ誇張ノニ行ハルルガ如キコトアリテハ、更ニソノ效ナキノミナラズ、反テ病人ニ不安ト、恐怖ノ念トヲ起サシムルコトアリ。重病者ニシテ、高度ノ不安ヲ抱キ、常ニ醫師ノ顔貌ヲ窺フテ我ガ病狀ヲ心得ントスルガ如キモノニアリテハ、醫師ハソノ態度及ビ言行ヲ慎ミ、病人ヲシテ自分ノ疾病ガ重篤ナルコトヲ悟リ得サスル様ノコトアルベカラズ。此ノ如キ場合ニハ、冗長ナル慰撫ノ言辭ヲ以テコレニ應ズルヨリモ、ソノ容貌ヲ恬淡ニシ、ソノ舉動ヲ沈著ニシ、時トシテ無害ナル諧謔ヲ交ユルスラ、却ツテ病人ニ利益スルコトアルモノナリ。若、醫師ニシテ病人ヲ診察スルニ當リ、恐惧ノ態度ヲ以テシ、急ニ應ゼントシテ狼狽スルガ如キコトアリテハ、到底病人ヲ慰安スルコトナキモノナリ。醫師ハ病人ニ接見スルトキ、ソノ情緒ヲ容姿ニ表ハスコトアルベカラズ。ソノ如何ニヨツテハ、病人ニ有害ナル影響ヲ致スベシ。猶、醫師ノ忍耐及ビ注意ハ精神療法

ヲ施ス上ニ於テ、病人ニ對シテ重大ナル關係ノアルモノナリ。或種ノ病人ハ、醫師ノ診察室ニアルヤ、徒ラニ煩瑣ナル告白ヲナシ、時間ヲ徒費シテ醫師ヲ累ハスコトアリ。ヒポコンドリー性神經衰弱病者ニ於テ殊ニ然リトス。此ノ如キ病人ハ、大抵醫師ヲシテ、自己ノ疾病ヲ辨ヘ知ラシムルタメニハ、自己ノ生涯ニ就テ有^{アリ}ト有^{アラ}ユル經驗ヲ縷述スルコト必要ナリト思惟スルモノナリ。コノ場合ニ於テハ、病人ヲシテ欲スルガママ、細カニコレヲ語ラシメ、ソノ敘述スルコトヲ注意シテ聽取スルトキハ、病人ノ告グル疾病ガ實際ニ根據ヲ有スルヤ否ヤヲ知り、又、治療上必要ナル事柄ヲ發見スルコトアリ。

(五)診察ハ醫師ヨリ云ヘバ診斷及ビ治療ノ基礎ヲ得ルノ方法ニ他ナラザレドモ、精神療法ニ於テハ、コレニヨリテ更ニ重要ナル根據ヲ得ルモノナリ。今泉玄祐曰ク「療治ニ臨ムトキハ、醫ノ心中正ニ病ヲ治スルノ意純一ニシテ毫^ス他意^ハヲ挾^サマズ嚴密ニ四診(望聞問切)ヲ以テ診察シ醫按ヲ定メテ療治スベシ。然ルトキハ病人醫者ヲ信心スルノ意自ラ生^スルモノナリ。信心ノ意生ズルトキハ服藥セザル前既ニ病勢十中ノ一ヲ減ズベシ、然シテ藥ヲ投ズルトキハソノ效實ニ速カナリ」。重病者或ハ自、重病ニ罹ルト信スルモノハ、身體各部ノ狀態ヲ精密ニ検査セラルルニヨリテ著シク醫師ヲ信頼シ、同時ニ心ノ不安ヲ除キ得ルモノナリ。但、不安ニシテ感動シ易キ病人ニ於テハ、ソノ關係少シク異ナリ。或場合ニハ、精密ニ診察シタル後、疾病ノ何等恐怖スベキモノニアラザルヲ告グレバ、ソレニ安心シテ、恐虞ノ理由ナキヲ確信シ、コレニヨツテ治療上ニ幸良ノ影響ヲ與フルコトモアレド、又、他ノ場合ニアリテハ、精密ニ診察スルコトハ反テ病人ヲ不安ニシ、胸廓ノ診察ハ肺病・心臟病ニ罹ルト想像セシメ、尿ノ検査ハ糖尿病、或ハ腎臟炎ニ對スル危惧ヲ抱カシムルコトアリ。被推感性ニ富ム病人ニハ、醫師ガ何か、少シノコトヲ質問シテモ、^{マツ}贅^ツ縁^ツツテ新ナル病徵ヲ告ヘ出スコトアリ。サレバ、病人ガ自、健全ト思惟シ居ル臟器、又ハ身體局所ヲ検査スルトキニハ、コレ等ヲ検査スルハ、只、診察ヲ手落^ナキ様ニスルタメニシテ、コレ等ノトコロニ病的變化ノ存スルヤ否ヤヲ知ラントスルタメニアラザルコトヲ病人ニ了知セシメ置クノ必要アリ。此ノ如クシテ、診察ノ結果、ソノトコロガ健全ナ

ルコトヲ確認シタルトキハ、爾後ハ病人ノ希望ニヨルカ、或ハ醫師ガ必要アリト信ズルカニアラザレバ、再、其所ノ詳細ナル検査ヲ行フベカラズ。不安ナル病人ニ於テ、一定ノ臟器ヲ反復診察スルハ、病人ヲシテ疑心ヲ抱キ、注意ヲ常ニ當該臟器ニ引付ケシメ、ヨツテ以テ治效ヲ奏スル能ハザルニ至ルコトアレドモ、長キ時日ノ間歇ヲ置イテ、ソノ診察ヲ反復スルハ、病狀ニ利益スルノ尠少ナラザルコトモ明白ナリ。ヒポコンドリー性心臟神經衰弱ノ如キニハ、間歇的ニ診察ヲ反復シ、ソノ間歇中ニ症狀ノ増悪セザリシコトヲ告グルナラバ、病人ノコレニヨリテ幸良ナル影響ヲ受クルコトハ多大ナリ。治療上必要ナル事柄ニ就テ、ヨクヨク診察シタル上ニテ、治療ノ方針ヲ定メントスル場合ニ於テモ、病人ノ注意ヲ、ソノ診察スル部位ニ集中スルコトノナキ様ニ心掛クベシ。タトヘバ、腫瘍患者ニシテ不安状態ヲ呈スルモノニ、腫瘍ノ動搖性ナルヤ如何ヲ知ランガタメニ、一定ノ運動ヲ命ズルトキナドニモ、病人ノ注意ヲ他ニ誘ヒ移シ、病人ガソノ腫瘍ヲ動カシ見ラルルヲ全ク感知セザル様、又、ソレヲ感知スルトシテモ、ソレヲナルタケ少クスル様ニ心掛ケザレバ、感覺過敏ノ部位ヲ診察スルニ當リ、ソノ本病ガ精神的發生ノモノナルコトヲ知リタルトキハ、病人ノ注意ヲ他ニ移致スルコト殊ニ必要ナリ。病人ノ身體ニ甚シク感覺過敏ニシテコレニ觸ルルノミテモ激痛ヲ發スル部位アリトセンニ、醫師ガ此所ニ強壓ヲ加ヘテモ何等ノ不快ノ感覺ヲモ起サザリシナラバ(ソノ疼痛ハ精神的發生ノモノナラズトモ)病人ハコレニヨリテソノ部分ノ病竈ニアラザルコトヲ觀念スルニ至ルベシ。

(二)患者ニ病狀ヲ説明スルニ當リテモ、亦、右ニ述べタルガ如キ注意ヲ必要トス。説明ノ形式ハ精神療法ヲ行フニツキテ、最重要ナル要素ニシテ、ソノ形式ヲ選擇スルニツキテハ、病人ノ個人性、竝ニ各方面ノ事情ヲ顧慮スベキハ、經驗アリ、思慮アル實地家ノ常ニスルトコロナリ。若、コノ注意ヲ缺クトキハ、ソハ雷ニ、病人ニ不利ノ影響ヲ與フルノミナラズ、亦、醫師ノ權威ヲ傷クルコトアリトス。醫師ガ診斷及ビ豫後ヲ誤リテ、病人及ビソノ家族ニ無根ノ杞憂ヲ抱カシムルハ、吾人ノ往往ニ見聞スルトコロニシテ、經驗アル醫師トイヘドモ、屢、此ノ如キ失敗ヲ重スルコトアリ。コレ今日ノ醫學ガ未、十分ノ進歩ヲナサ

ズ、種種ノ疾病ニ關スル智識ノ猶、不完全ナルガタメニシテ、必シモ醫師ガ個人トシテソノ責任ヲ負フベキコトニアラザレドモ、若、特別ノ必要モナキニ病名ヲ病人或ハソノ家族ニ告ゲテ、ソノ結果、病狀ヲ増悪セシメタルトキハ、醫師ハ當然、ソノ責ヲ免ルベカラズ。コノ場合ニ於テモ、醫師ハ疾病ノ真相ヲ披瀝スルニヨリテ、病狀ニ如何ナル惡結果ヲ來スベキカラ洞察セザルニハアラザルベキモ、多クハ自己ノ察病上ノ智識ヲ街フニ急ニシテ、ヨツテ來ル結果ヲ顧ミルノ遑ナキタメニ、コノ失策ニ陥ルニ至ルモノナルベシ。勿論、病人ハ屢、自己ノ疾病ニ就テ詳細ナル説明ヲ聞カンコトヲ醫師ニ迫マルコトアルモノナリ。サレド、ソノ多數ハ誠心ヨリ疾病ノ真相ヲ求メ聞カンコトスルニアラズシテ、何等カノ慰安ノ言辭ヲ醫師ヨリ期待シ、或ハ醫師ノ前言ガ自分ヲ慰安セントスル一時ノ遁辭ニアラザリシカラ確メントスルニ他ナラズ。病狀ノ説明ハ、疾病ノ種類、病人ノ精神狀態等ニ鑑ミテコレヲナスベシ。卒中患者ニハ、普通病狀ヲ秘スルコト能ハズ、然レドモ、コノ際、卒中ノ原因、腦出血、腦軟化、動脈硬化(粥腫)、栓塞等ニツキテ語ルベカラズ。病人ガ卒中ニ罹リテ、コレヲ單純ナル腦充血ト考ヘ居ル場合ニハ、コノ見解ヲ否定セズ、却ツテコレヲ確信セシメ、不安ノ念ヲ起サシメザルヤウニ勉ムベシ。脊髓癱患者ニ在リテ、病狀ヲ明言シタルトキハ、病人ヲシテ治癒ノ希望ヲ抱カシムルコト能ハズ。故ニ、コノ場合ニハ疾病ノ性質ヲ告グズシテ、單ニ神經病ナリト云フニ止ムルヲ可トス。腦腫瘍、ソノ他、腦疾患ニ於テモ亦、然リ。

醫師ガ病人ニ對シ、病狀ヲ説明スルコトハ、各、見ルトコロアリ、又、據ルトコロヲ異ニスト雖、ココニ先、注意スベキハ、病人ガ如何ニ切望スル場合ニ於テモ法律上ヨリモ、倫理上ヨリモ、醫師ハコレニ診斷ト豫後トニ關スル意見ヲ告グルノ義務ヲナキコト、コレナリ。抑、病狀ノ説明ハ、精神療法ノ一手段トナルモノ故、治療ヲ見地ヨリスレバ、コレヲ説明シタルタメニ病人ニ不良ノ影響ヲ及ボスガ如キコトアルナラバ、眞ニ許スベカラザル失態ナリ。重症者ガソノ苦痛ヲ免レンガタメ、モルヒネ注射ヲ請フ場合ニ安リニコレヲ諾スベカラザルト同ジク、病狀ノ真相ハ病人、竝ニ家族ニ惡影響ヲ及ボサザル限リコレヲ説明スルニ止

ムベシ。樂天的ノ平靜ナル心情及ビ思想ハ高度ノ肺結核及ビ癌腫ノ病勢ヲ左右シ、又ハソノ經過ヲ控ユルコト能ハザルモ、病人ノ病感、竝ニ苦痛ヲ輕減シソノ容態ヲ著シク佳良ニスルノ利益アルモノナリ。悲觀的ノ性格ノ人ガ、輕微ナル苦痛ニ對シテモ過度ノ恐怖ヲ抱キ、種種ノ症狀ヲ告ヘテ已マヌモ、前記ノ理由ニヨルナリ。病狀ノ説明ヲ請ハザル病人ト雖、必シモ自己ノ病狀ニ對シテ虛心平氣ナルニアラザルモ、疾病ノ真相ニツキ醫師ヨリ恐ルベキ事實ヲ聞キテ、根據ナキ恐怖ヲ増サシムコトヲ恐レテソノ説明ヲ求メザルモノアリ。強迫觀念ノ治療ニ於テハ、病狀ノ説明ヲ以テ第一義トス、強迫觀念ヲ有スル病人ハ、コレヲ精神病ノ前兆トシテ、甚シク恐怖ヲ抱クモノナレバ、此ノ如キ恐怖觀念ハ、精神全ク健全ナルモ神經質或ハ神經病アルトキニ、屢、起ルモノニテ、決シテ精神病ノ前驅症ニアラザルコトヲ告グレバ、病人ハ著シクソノタメニ慰安サルモノナリ。強迫觀念ノ内容ガ自己ノ精神狀態或ハ健康狀態ニ關シ、殺人及ビ自殺ノ傾向ヲ帶アルモノナルトキハ、ソノ内容ニ就テ明確ナル説明ヲ與ヘ、且、病人ヲ慰安スルコト必要ナリ。又、精神錯亂、舌癌、心臟病或ハ肺病、微毒等ニ罹レリト云フ強迫觀念ヲ有スルモノニアリテハ、此ノ如キ疾病ノ起ルベキ根據全然コレナキニモ拘ハラズ、恐怖心ヲ抱クモノナレバ、此ノ如キ場合ニハ、恐怖ガ眞ノ強迫觀念ナルカ、或ハ偶然ノモノナルカヲ確メ、然ル後、強迫觀念ノ程度及ビソノ病人ニ對スル價值等ニ鑑ミテ、精神療法ノ方針ヲ定ムベシ。心臟ニ關スル強迫觀念ナドアルトキニハ、心臟ノ精密ナル検査ハ甚必要ニシテ、若シ心臟ニ器質的變化ヲ認メザルトキニハ、コレヲ病人ニ告グテ、心臟ハ全ク健康ナリ、故ニ異常ヲ感ズルハ全ク神經的ナリト説得スベク。若シ器質的變化ノ存否ヲ確ムルコト能ハザルトキハ、精密ナル検査ニヨリテ、眞相ヲ知ルニアラザレバ、妄ニ病狀ヲ告グベカラズ。病人ガ醫師ノ言ヲ疑ヒ心臟ニ器質的變化アリト信ズルトキハ、病人ニ運動ヲ命ジタル後、ソノ脈搏ト呼吸トニ何等ノ異常ナキコトヲ示スニヨリテ、病人ヲシテ著シク安心セシムルコトヲ得ベシ。病狀ノ説明ハ既ニ述ベタル如ク必要ナリト認ムル程度ニ於テ、可成詳細ナルヲ要シ、且、病人ヲシテ猥ニ心臟ノ作用ニ注意シ、自カラ屢、脈

搏ニ觸レ試ルガ如キハ、反テ病狀ヲ増悪セシムルモノナルコトヲ知ラシムベシ。

神經衰弱症ノ病人ニ對シテハ、病狀ノ説明ヲ餘程、慎重ニセザルベカラズ。彼ハ著シキ思索家、論理家ニシテ醫師ノ言明ノ矛盾ニ著目スルモノ故、多ク話サズ、早ク話サズ、要領ニ止メ、且、診察ノ結果ヲ根據トスベシ。病人ノ告グルトコロハコレヲ否認スルニ及バズ、コレヲ誇張ナリ、又、虛偽ナリトセズ、唯、病人ノ現狀ニヨル推斷豫測ノ誣妄ナルヲ諱スベシ。

然レドモ、醫師ガ沈黙ヲ守ルガタメニ、反テ病狀ヲ増悪セシムルコトモ、往往、コレアリ。此ノ如キ場合ニハ、病狀ヲ説明スルコト最、肝要ナリ。重篤ナル病人ニ病狀ヲ告グルニハ常ニ十分ニ深思熟考シテ、然ル後ニソノ態度ヲ決定シ、告グベキコトノミ告ゲ、告グベカラザルコトハコレヲ告ゲザルヲ要スルモノナリ。此ノ如キ病症ニモ、然カナルガ、ソノ他ノ病ニテモ經過久シキ弛張性ノ疾病ニ於テハ、病狀ヲ説明スルニヨリテ病人ヲシテ爾後ノ經過ヲ豫知セシメテ、コレニ對スル恐怖ノ念ヲ除去スルノ利益アリ。病狀ノ説明ニヨリテ、病人ニ裨益ヲ與ヘンガタメニハ、病人ガコノ説明ヲ十分ニ會得スルヲ要ス。故ニ、病人ニソノ疾病ガ重篤ナラザルコトヲ告グルトモ、ヨクソノ理由ヲ説明セザレバ大抵ノ場合病人ヲ慰安スルコト能ハズ。又、病狀ヲ説明スルニハ、病人ノ知識程度如何ヲ顧慮セザルベカラズ。折角ノ説明モ、病人ノコレヲ理解シ得ザルトキハ、反テ不良ノ結果ヲ來タスモノナリ。故ニ、醫師ノ説明ニハ、妄ニ術語ヲ使用スルハ宜シカラズ。教育ナキ病人ニ對シテハ、病竈ノ位置、性質、或ハソノ輕重ヲ示スニテ足ル。相當ノ教育アルモノモ屢、醫師ノ用語(術語)ヲ解セザルタメニ、醫師ノ説明ヲ誤解シ、病機ニ不良ノ影響ヲ及ボスコトアルヲ以テ、醫師ハヨク此邊ニ注意シ、適當ノ説明ヲ與フルコトニ力メザルベカラズ。

(七)病狀ヲ告グル場合ニハ、單ニ疾病ノ種類ノミナラズ、ソノ經過、持續及ビ轉歸ニ付テモ説明ヲ與フベシ。疾病ノ持續ヲ豫告スルトキニハ、慎重ニスベシ。猥ニ「短シ」ト言フハ後ノ失敗ヲ招キ易シ。而モ、ナルベク事實ニ遠ザカラザルヲ可トス。病人ガ短日月ニ恢復センコトヲ希望スルトキ、數週、數月ヲ費サザレバ治癒ニ至ラザルベシト告ゲラルレバ、病人ハ甚シク失望スルコ

ト當然ナレドモ、ソノ他、病人ハ豫、疾病ノ持續ヲ告ゲラレタルトキハ假令永キ日月ニ互ルト雖、ソノ經過中ニ偶發症ノ起ラザル限ハ、希望ヲ以テ治愈ノ日ヲ俟ツモノナリ。疾病ノ性質トシテ、經過ニ一進一退アルベキ場合ニハ、豫、コノ事ヲ病人ニ告ケ置クヲ可トス。コレヲ要スルニ、病人ハ輕度ノ快癒ヲ覺ユルモ、著シク歡喜スルト等シク、輕微ノ増悪ニヨリテ、甚シク意氣阻喪スルモノナリ。醫師ハ善ク病情ヲ説明シテ、病人ノ意氣ト希望トヲ傷クルコトナキヲ要ス。神經衰弱及ビヒステリーナドノ病人ニハ病狀ヲ説明シテ、ソノ精神ニ幸良ノ影響ヲ與フルコトアリ。

轉歸ヲ告グルニ當リテハ、疾病ノ治愈スルコト、生命ニ別條ナキコトヲ區別セザルベカラズ。重病ニ罹レルモノハ、ソノ病ノタメニ死亡スルコトナキヤ否ヤヲ憂フルコト最、甚ダシ。極メテ貧困ニシテ生存ニ多大ノ苦痛ヲ期待スルガ如キモノト雖、死ヲ庶幾フモノハ一人モコレアルモノニアラズ。故ニ、變死ヲ危アムモノヲシテ生存ノ希望ヲ抱カシメ、又ハソノ希望ヲ強カラシムルハ、醫師ノ責務トシテ最、緊要ナルモノナリ。急性病ニ於テハ、疾病ガ治愈スルコト生命ニハ勿論、危險ナキコトヲ告グルヲ普通トス。慢性病ニアリテハ、病人ガ若年ナル場合ニ於テ殊ニ然リトス。若、ソノ病症ニシテ致命的ノモノニアラズトモ不治ノ慢性病ニシテ病人ノ生存期間ヲ推定スルコトモ困難ナル如キ場合ニ於テハ、先、病人ヲシテ生命ノ保存ガ確實ナルコトヲ知ラシムベキモ、ソノ疾病ノ必、治愈スベキモノナルコトハ明言スベカラズ。不治ノ偏癱ヲ有スル卒中患者、歩行不能ノ脊髄癱患者或ハ浮腫性腎臟炎患者等ニ疾病ノ全治スルコトヲ明言スルトキハ後ニ至リ病人ノ困惑ニ陥ケルノミナラズ、醫師ニ對スル信頼ノ念ヲ殺グニ至ルコトアリ。故ニ此ノ如キ病人ニハ、病狀ノ輕快著シクシテ健康狀態ガ健康者ト殆、異ナルコトナキニ至ルコトアルヲ告ゲ、コレヲ以テ病人ヲ慰安スルノ方便トスルニ止ムベシ。

(八) 診斷及ビ豫後ヲ告グルニ當リテハ、疾病ノ狀態ノミナラズ、病人ノ體質及ビ精神的賦質ヲ顧慮セザルベカラズ。疾病ニ關スル智識アルコトハ病人ニ取リテ不利ナルコトアリ、又、有利ナルコトアリ。疾病ガ肺炎ナルコトハ、強大ナル若年者ニハコレ

ヲ祕スルノ必要ナキモ、老人ニコレヲ告グルトキハ、コレガタメニ甚シキ憂鬱ニ陥リ、疾病ノ經過ニ惡影響ヲ及ボスモノナリ。故ニ、老人ニ對シテハソノ病症ノ如何ヲ知ラセズ、病人ガ肺炎ナラズヤト疑ヒタルトキニハ、ソノ疑念ヲ去ルコトニ力ムベシ。感情平靜ナル心臟病者ニハ、ソノ疾病ニ就テ十分ナル智識ヲ與フルヲ利益トス。病人ハコレガタメニ憂慮ヲ抱クコトナク、且、ソノ生活方ニツキテ、醫師ノ指定スルコトヲ遵守スルニ至ルベシ。心情不安ナル心臟患者ハコレニ相異シ、心臟ニ器質的變化ノ存スルコトヲ知ルニヨリテ、生命ノ安固ヲ心配スルニ至リ、病症ハコレガタメニ不良ノ影響ヲ受クルモノナレバ、此ノ如キ病人ニハ、器質的の心臟病ニ罹リ居ルコトヲ知ラシムベカラズ。卒中患者ニシテ發作、後幾日ヲモ經ズ後來ノ經過モ豫、知ルコト能ハズ、病人ヲ慰安シ體力ヲ維持スレバヨキトキニハ、豫後ノ幸良ナルコトヲ告グレバ毫ノ害ナクシテ尠カラザル利益ヲ收ムルコトヲ得。コレニ反シテ發作後數週或ハ數月ヲ經過シ、間接ノ電症狀消失シ、直接ノ電症狀ノミ殘リタル場合、又ハ偏癱ニ攣縮ヲ併發シタル場合ニハ、假令ソノ全治ハ望ムベカラズトスルモ、病人ヲシテ治愈ヲ希望ヲ抱カシムルヤウ言ヒ聽カスヲ可トス。不治ノ腦病及ビ脊髄病ニアリテモ亦、同様ノ注意ヲ要ス。病人、若、健康ノ恢復スル望ナシト確信スルトキニハ、漸次ニコノ覺悟ニ慣レ、病狀ノ少許ナル快癒ニヨリテモ著シク慰安セラルルモノナリ。病人ニ診斷ヲ明言シテ病氣ノ將來ニ對スル希望ヲ絶ツガ如キコトアルベカラズ。コレハ器質的の脊髄病ソノ他ノ癱篤疾アル病人ニ關シテモ注意スベキコトナリ。神經衰弱症ノ病人ハ容易ニ醫師ノ言葉ヲ信用セズ、種種自己ノ疾病ノ重キヲ言張ルモノナリ。此ノ如クシテ、醫師ノ言明ヲ唯慰安ノタメノ方便トシ認ムル場合ニハ醫師ハ靜ニ懇ニ今日ノ良醫ハ決シテ豫後ノ惡キヲ良シナドト詐リ言フモノニアラズ、唯、汝ノ病ハ實ニ治愈スベキ機能的の疾患ナリト言ヒ諭スベク、若、又、症狀ノ更ニ重キモノニハソノ病狀中中重ク豫後ハ何トモ言ヘザルモ、器質的の疾患ニハ決シテコレナシト言ヒ聽カスベシ。外傷性神經症ノ存在ニ就テハ、諸家ノ說、區區タリ。災害ノ結果トシテ起ル神經病ハ、多クハ神經衰弱、ヒステリー又ハ兩者ノ混合シタル狀態ナリ。精神療

- (1) Strümpell
(2) Bernstein
(3) Wigmann

法ハ容易ク成功スルコトヲ得ベシ。労働者ノ經濟狀態ハソノ精神療法ニ重大ナル關係アリ。彼等ハ、日日ノ労働ニヨリテ自己及ビソノ家族ノ生計ヲ立ツルモノナルガ故ニ、一旦外傷ヲ蒙ルトキハ、將來ノ生活、労働能力(若クハ保險ニ加入セルモノハ)相當ノ賠償金ヲ受クベキヤ否ヤニ就テ、心配スルハ當然ナリ。ソノ病症ノ如何ニヨリテハ、今日以後労働以上ノ收入ヲ得ル動機生ジタリト云フ觀念ヲ抱キ、災害ノタメニ反テ利益ヲ收メシムコトヲ希フモノナリ。外傷ノ治療後ニ殘レル障礙ト從業能力トノ關係ヲ判斷スルハ、容易ノコトニアラス。ストルンペル⁽¹⁾・ベルンスタイン⁽²⁾・ウヰジヒマン⁽³⁾等ノ說ニヨレバ、負傷部ノ疼痛ハ、多クハ自家推感ニヨリ(頭傷後ノ頭痛ヲ除ク)病人ガ間斷ナク負傷部ニ注意ヲ集中スルガタメニ起ルモノナリト云フモ、ソノ疼痛ハ多クハ、労働ニ際シ負傷部ヲ動かサタメニ起リ漸次、程度ヲ増シテ労働能力ヲ多少トモ殺滅スルニ至ルモノニシテ、労働セザルトキノ疼痛ハ、目下ノ窮狀、將來ニ對スル杞憂、災害ニ關スル審判ノ遅延等ノタメニ感情ノ抑鬱性ニ興奮スルニ基クモノトス。内臓ノ病變ニ就キテハ、殊ニ、此ノ如キコト多シ。コレ等ノ場合ニハヨク現在ノ苦痛ガ那邊ニ存スルカラ願慮シ、自家推感又ハ感情興奮ガソノ根源タルコトヲ洞察シタルトキハ、醫師ハソノ外傷ガ永續ノ傷害ヲ殘サザルコト、少ナクモ労働力ヲ久シク殺滅スルモノニアラズト認メタルトキニハ、ソノ事ヲナルベク、早ク病人ニ告ゲテ將來ノ經濟上ノ憂慮ヲ避ケシムベシ。又、此ノ如クスルナラバ、ソノ病人ガ災害ヲ利用シテ不當ノ利益ヲ收メメントスルガ如キ詭計ヲ未發ニ防グコトヲ得ベシ。外傷既ニ治療スルモ後ニ機能障就ヲ殘ストキハ、客觀的ノ證明ナクモ、一定ノ時日ヲ期シテ賠償金ヲ支給シ、且、コノ支給金ハ一時的ナリ、機能障礙ハ速ニ治療スベキヲ以テ、ソノ際ニハ賠償金ノ支出ヲ停止スベシト明言シ置クベシ。外傷性神經症ニ就キテハ災害賠償金ニ關スル宣告ハ、可成速ナルヲ要ス、當然賠償金ヲ受クル資格ノアルモノハ、右宣告ノ遅延ニヨリテ、將來ノ生活ニ憂慮ヲ抱キテ病狀ノ憎惡ヲ來タスモノナリ。病人ノ要償ガ誇大ナルカ又ハ理由ナクシテ要償ノ資格未、決定セザル間、病人ハ常ニ我容體ヲ念頭ニ置キ、自己ノ病氣ト業

務不能トヲ確信シテ已マズ、且、又、新ニ職業ヲ求ムルコトヲ避クルニヨリ、ソノ生活費ニ不足ヲ來タシ、從テ全身狀態ヲ惡シクスルモノナリ。

(九)病人ニ疾病ノ原因ヲ説明スルノ必要ナル場合モ多シ。何トナレバ、コレニヨリテ病人ノ智識慾ヲ満足セシメ、又、コレヲシテ醫師ノ鑑識、竝ニ療法ニ信頼セシムルノ利益アルノミナラズ、病人ノ無益ニ憂慮スルコトヲ除クレバナリ。青年時代ニ醜行アリシモノハ、晩年ニ至リテコレヲ本トシテ何カ重病ノ發スルコトヲ豫想シ、以テ根據ナキ恐怖心ヲ抱クコトアリ。此ノ如キニ對シテハ、ソノ考察ノ誤レルコトヲ説クニヨリテ著シクコレヲ慰安スルコトヲ得。疾病ノ屢、再發スルトキニハ、病人ハ往往ニシテ、ソノ動機タル禍害ヲ輕視シ、看過シテ、一圖ニ不治ノ疾病ニ罹レリト誤信スルコトアリ。此ノ如キ場合ニハ、ソノ動機タリシモノヲヨク説明スルニヨリテ、病人ヲシテ譯ナク憂患スルコトナカラシムルヲ得ベシ。

(一〇)病人ニ説明ヲ與フル際ニハ、明確ヲ旨トスベシ。曖昧ナル説明ハ醫師ノ威信ヲ墜シ、疾病ニ對スル病人ノ杞憂ヲ大ニスルモノナリ。實際診斷ノ確定セザルカ、或ハ爾後ノ經過ヲ確實ニ判斷シ能ハザル場合ニハ、病人ノ無益ナル恐怖ヲ去リ、必要ナル治療ヲ怠ラザル様、警告ヲナスベシ。毫モ診斷ノ根據ヲ得ルコト能ハザルトキニハ、事情ノ許ス限り適當ノ専門家ニ對診ヲ求ムルカ、又ハコレニ病人ヲ依托スベシ。他醫ヲ推獎シテ治ラコレニ求ムルハ、診斷ニ疑悞シ治療ニ迷フヨリモ遙ニ有利ナルモノナリ。診斷ノ確定セル場合ニアリテモ病人ガ醫師ノ言葉ヲ信ゼザル場合ニハ、對診醫ヲ招クノ必要アリ。コノ場合、對診醫ノ言葉ト主治醫ノ言葉トガ一致スルトキハ、病人ハ著シク慰安セラレ、且、主治醫ニ對スル信頼ヲ加フルモノニシテ、コレニヨリテ以後ノ治療ニ於テ利ストコロ、甚、大ナリ。

(一一)病人ハ説明ヲ聽キタルノミニ満足セズ、必、何等カノ處置ヲ受ケンコトヲ欲スルモノニシテ、重病者ハ生命上ノ危險ヲ除カンコトヲ希望シ、輕症者ハ疾病ノ經過ノ短縮セラレンコトヲ希望ス。疾病ニ對シテ特別ノ治療ヲ要セザル場合ト雖、

病人ノ多クハコレニ満足セス、必、何等カノ治療ヲ加ヘラレシコトヲ欲スルモノナリ。但、コレハ病人ノ教育ノ有無ニ關スルコトニシテ、教育アル人ハ、此ノ如キ場合ニ於テ現在ノ状態ヲ説明サレシノミニテヨク安意スルモノナレドモ、教育程度ノ低キ人ハソレノミニテハ同様ノ安意ヲ得ル能ハザルモノナルガ故ニ、醫師ハコレニ對シ何等カノ藥劑ヲ處方セザルベカラズ。又、教育アルモノハ、醫師ガ無益ノ藥劑、或ハ治療法ヲ省カントスルニ對シテ感謝ノ念ヲ抱クモノナレドモ、無教育ノ者ハ却テコレヲ惡意ニ解シ、ナルベク視ルベク、又、觸ルベキ物質的ノ治療方法ヲ要求シ、コレヲサザルトキハ、醫師ニ十分ナル醫術的能力ナキモノト思惟スルモノナリ。尙、病人ノ教育程度ヲ考量スルニ方リテ注意スベキコトハ、教育ノ程度ガ必シモ分別力ト駢行スルモノニアラザルコトナリ。教育アリト云ハルル人ガ、誣妄極マル迷信ニ陥リ、全然批判力ヲ缺如シテ、野人ニモ劣ルガ如キコト屢、コレアリ。勞働者トイヘドモ、苟、理性ヲ備ヘタルモノハ、禁厭的治療法ヲ信用セザルニ、相當地位アリ身分アリ教育アルモノ(殊ニ女子)ニシテ、屢、コレヲ信賴スルモノアルハ吾人ノ熟知スルコトナリ。

(二) 患者ノ貧富關係ハ、精神療法上ニモ顧慮ヲ要スルモノナリ。現今病人ノ中ニハ藥劑ノ價格ニヨリテ、ソノ治療的効果ヲ批評スルモノ少ナカラズ。高價ナル藥劑ハ廉價ナルモノヨリモ多大ノ信賴ヲ以テ迎ヘラル。コレ一種ノ推感的作用ニシテ、高價藥ヲ用フレバ往往思フヨリモヨク奏效スルコトアルニヨリテナリ。サレバ、單ニ精神の效用ヲ收メントスル場合ニハ藥劑ノ效力如何ハコレヲ第二ノ問題トシテ、ナルベク價格ノ不廉ナル藥劑ヲ用ユルヲ可トス。然レドモ、吾人醫師トシテハ精神の療法ヲ充用スルニモ、錢資ニ不足ナキ病人ノミニ高價ナル藥劑及ビ療法ヲ施シ、然ラザルモノニハ、初メナルベク廉價ナル治療ヲ行ヒ、ソノ費用ニ相當スル治療的効果ヲ收ムルコト能ハザルヲ確メタル後ニ、初メテ高價ナル藥劑ヲ與ヘ、高價ナル治療ヲ行フヲ通則トスベシ。

(三) 醫師ガ對診ノタメニ招カレテ某某治療方法ヲ提議スルトキ、ソノ療法ノ信威ハ、彼ノ要求スル報酬ノ大小ト直接

關係ノアルモノニアラザレドモ、病人ハ兎角ニ、ソノ治療法ノ價值ヲバソノ際請求セラレタル報酬額ニヨリテ評價スルモノナリ。サレバ、富裕ナル病人ハ對診醫師ヨリ少額ナル報酬ヲ請求セラレタルトキニハ、ソノ治療法ハソノ醫師自、此ノ如ク廉價ニ評價シタルモノナレバ、ソノ價值ハ些少ナルベシト思惟スルヲ以テ、ソノ治療上ノ效果ハ自然ニ輕微トナルモノナリ。貧困ナル病人ニ治療ヲ行フコトハ精神療法ノ目的ニ反スルニアラザレドモ、病人ニ於テハ自己ノ健康ヲ恢復センタメニハ、最後ノ貯蓄ヲモ犠牲ニセント覺悟スルモノナリ。故ニ、僅少タリトモ物質上ノ餘裕アル病人ハ、治療ニヨリテ好良ノ效果ヲ得ルコトヲ危ブムモノナリ。此ノ如キ病人ハ、何事ニマレ、金錢支出ノナルベク少額ナルヲ希望スベキ筈ナルモ、健康ノ恢復ヲ謀ラントスル場合ニ於テハ必シモ金錢ノ支出ニ吝嗇ナルモノニアラズ。收入ノ餘リナキ病人ガ、ソノ病ノ治療ヲ托セントスルニ方リテ、某醫師又ハ醫院ニテ輕便ニ治療ヲ受ケ得ル場合ニモソノ方ニ行クコトハナクシテ、比較的高價ノ支出ヲ要スル他ノ醫師醫院ニ赴キテ、ソノ診療ヲ乞フコト稀ナラスハ吾人ノ日常經驗スルコトナリ。此ノ如キ病人ニ對シテハ、無料ニテ診察スルヨリモ、幾分ニテモ少額ノ報酬ヲ要請スル方、治療ノ效果ヲ舉グルコト多キモノナリ。病人ガ醫師ノ職掌ヲ無報酬ニ煩ハサザルコト、醫師ヨリ救恤施與ヲ受ケザルコトヲ意識スルハ、醫師ノ職務ト處置トニ對スル信賴心ヲ強カラシムル所以トナルナリ。

(四) 醫師ガ治療ヲ行フニハ、實際ソノ必要アル場合ト、病人ノ精神状態ヲ顧慮スルニヨリテ試ミ行フ場合トヲ問ハズ、病人ノ精神ニ治療ノ觀念ヲ起サシムルニカムベシ。サレバ、治療法ノ選擇ハ特ニ注意ヲ要スルモノナリ。醫師ガ輕快或ハ治愈スベシト認メタル病人ニ於テ、速カニソノ如クナリタルトキハ、病人ノ快癒ニ對スル希望ハコレガタメニ強大トナルモ、最初ノ治療ガ失敗ニ終ルトキハ、ソノ病狀ニ惡影響ヲ及ボシテソノタメニ増悪スルモノナリ。

治療ヲ行フニ於テ注意スベキハ、藥劑ノ副作用ヲ發スルカ否ヤト云フコトナリ。輕症者ニ惡心、嘔吐ヲ起スガ如キ藥劑ヲ處方スルハ誤レリ。若、已ラ得ズシテ、疼痛又ハ苦痛アル治療法ヲ行フニ當リテハ、豫、コレヲ病人ニ告ゲテソノ心備ヲナサシ

ムベク、此ノ如キ治療法ヲ施スニハ徐徐ニコレニ就クヲ得策トス。一時ノ效果ヲ得ンガタメニ不良ノ後作用ヲナスモノ、又ハ是非ニ必要ナラザルモノヲ使用スルハ不可ナリ。不眠患者ニクロラル或ハズルフェナル等ヲ與フルハ、策ノ得タルモノニアラス、病人ノ多數ハコレ等ノ藥劑ハ奏效一時のニシテ、不良ノ後殘作用アルコトヲ知ルモノナリ。此ノ如キモノヲ與フルヨリハ、他ノ治療法(タトヘバ食養法等)ニヨリテ安眠ヲ計ルニ若カズ、此ノ如クシテ、安眠ヲ得タルトキハ、病人ハコノ治療法ガ不良ノ影響ヲナスモノニアラザラ信ズルノミナラズ、疾病ノ輕快シタルガタメニ睡眠ヲ恢復セリト思惟スルノ利益アリ。效果ノ疑ハシキ藥劑ヲ使用スル場合ニハ、コノコトヲ病人ニ知ラシムベカラズ。コレ藥劑ニ對スル病人ノ信頼心ヲ殺グノ虞アルニヨリ、又、一方ニ於テハ效果ノ疑ハシキ藥劑ヲ用キテ意外ニ良果ヲ收ムルコトアレバナリ。ソノ症ニ對シ適當ト思ハル藥劑數種コレアル場合ニハ、ソノ選擇ハコレヲ病人ニ一任スベカラズ。コレ有害ナル精神的影響ヲ避ケンガタメナリ。吾人ハ常ニ病人ヲシテ醫師ノ與ヘタル藥劑ガ最良、最上タルコトヲ確信セシメザルベカラズ。

(二五) 病症ノ輕快セルコトヲ告グル場合ニハ、醫師ハ往診ノ回數ヲ減ジ、又ハ病人ニ警戒シ注意スルコトヲ緩ニスル等、何等カノ方法ヲ以テ、病狀ノ輕快シタルヲ具體的ニ示スヲ必要トス。久シク病牀ニアリシ病人ニハ、事情ノ許ス限リ、病牀ヲ離レテ外出スルコトヲ許スベシ。然ルトキハ、病人ヲシテ治療ノ掛取ルヲ自覺シ、遠カラズ全治スルコトヲ確信セシムルノ利アリ。多クノ場合ニハ、單ニ症狀ノ著シク輕快シタルノミナルヲバ既ニ治療セリト告グルノ必要ナルコトアリ。然ルトキハ、病人ヲシテ益、自己ノ健康ニ信頼セシムルコトヲ得ベシ。神經衰弱、又ハヒステリーノ病人ナドハ、實際ハ未、治療セザルモ、醫師ヨリ既ニ治療シタリト告ケラルトキハ、精神的ニ二三ノ殘餘症狀ノ消退スルヲ覺エ、遂ニ眞實ニ治療スルニ至ルコトアリ。

(二六) 身體病ヲ治療スルニ藥劑ヲ用ヒテ、十分ナル效果ヲ收メントスルニハ、ソノ疾病ニ關スル諸般ノ智識ヲ要スルハ勿論ナルモ、亦、コレト同ジク十分ニ病人ノ體質ヲ顧慮スベキハ、何人モ首肯スルココロナレシ。アル疾病ニツキ、有力ナル精神療

法ヲ行ハントスルニ、病人ノ精神の資質ヲ仔細ニ觀察シテ、ソノ各人ノ各症ニ適切ナル方法ヲ採ラザルベカラザルコト、又、全クコレト同様ナリ。藥劑療法ヲ施ストキニ、病人ノ體質ヲ度外視スレバ、ソノ藥方ニヨリテ所期ノ效果ヲ得ズシテ、却ツテ不慮ノ失敗ヲ招クコトアリ。精神療法ニ於テモ亦、コレト均シク、治療ヲ促ガサントシテ、病人ニ説明シタルコトガ、反テソノ病ヲ深ミニ導キ去ルガ如キコト往往ニシテコレアリ。病人ノ精神狀態ハ、肉體トソノ趣ヲ異ニシ、コレヲ検査スルニ當リテソノ真相ヲ窺ヒ知リ、ソノ特性ヲ明ラカニスルコトハ困難ナルモノナリ。醫師ガソノ病人ノ精神の個性ヲ判知セントスルニハ自己ノ經驗ヨリ得タル智識ト想像トニヨルノ外ナシ。多數度失敗ヲ重テ經驗ニ經驗ヲ積ミタル醫師ガ、經驗ニ乏シキモノニ比較シテ精神療法ヲ操縦スルコトノ遙ニ巧ナルハ當然ナリ。

(二七) 次ニ注目スベキハ病人ノ年齢、男女別等ナリ。年齢ニ就イテハ兒童ト老人トノコトヲ述ベシ。

兒童ハ生活上、未、經驗ヲ積マズ、判斷ノ能力ニ缺クルトコロアリテ、遙ニ成人ニ劣ルト雖、ソノ想像力ノ旺盛ナル點ニ於テハ幾多成人ニ勝レリ。兒童ハ成人ニ比シテ、被推感性ニ富ミ、且、醫師ノ能力ヲ盲信スルヲ以テ、醫師ノ權勢ニ支配サルルコト顯著ナルモノナリ。サレバ、兒童ニ推感の影響ヲ與フルニハ、成人ニ於ケルヨリモ比較的簡單ナル方法ニテ十分ニシテ、醒覺時推感ヲ用フルモ成人ニ於ケル催眠術の推感ト同一ノ效果ヲ收ムルヲ得ベシ。一方ヨリ見レバ、兒童ノ被推感性ハ此ノ如ク大ナレバ周圍ヨリノ印象ヲモ受ケ易ク、ソノ精神狀況ハ盡クソノ周圍ノ影響ヲ受ケテ、コレニ支配サルルコト成人ヨリモ遙ニ容易ニ、且、永續的ナリ。兒童ハ、感情のニ興奮シヤスク、又、萎靡シヤスク、成人ニ比スレバ自制力ニ乏シキガ故ニ、何等カノ事情ニヨリテ一度不安ノ狀態ニ陥キルトキニハ、コレニ事理ヲ説キテ、ソノ不安ヲ除カント試ミルモ、著シキ效果ヲ見ズ。ソノ代リ、又、醫師ガ親切ニ取入リテソノ歡心ヲ獲ルトキニハ、コレニ精神の影響ヲ與フルコト容易ニシテ、且、確實ナリ。兒童ノ感情ハ成人ノヨリモ甚シク變動シヤスク、啼泣ト喜笑トハ一瞬間ニ移リ易ハルモノナリ。兒童ハ持續シテ

專心ニ一事物ニ從フコト能ハズ。ソノ注意力ハ速ニ疲勞シ、時時刻刻新規ノ印象ニ引カサレテ移リ去ルガ故ニ、諸謔又ハ遊戲等ヲ以テソノ注意ヲ誘移スルトキハコレヨリテ、疼痛、ソノ他ノ苦痛ニ堪ヘ易カラシムルヲ得ベク、コノ處置ハ成人ニ於ケルヨリモ容易ニ成功ス。兒童ガ病ヲ獲ルニ當リテハ、自身ハ餘リコレニ就キテ憂慮スルコトナキモ、周圍ノモノノ杞憂ヲ抱クニ誘ハレテ、不安状態ニ陥リ又ハヒポコンドリー性トナリ、コレガタメ旺盛ナル想像力ノ活動ヲ促シ、著シク有害ナル自家推感ヲ形成スルニ至ルモノトス。故ニ、兒童ノ病ニ罹リタルトキニハ、成人ノ場合ニ於ケルガ如キ過度ノ看護同情ハ却ツテ不良ノ結果ヲ來タスコトアルヲ忘ルベカラズ。

(二八)老人ノ精神状態ハ屢、小兒ノ精神状態ト比較サルモ、ソハ兒童ノ精神状態トハ全然、ソノ性質ヲ異ニスルモノナリ。老人ニ於テハ、想像力及ビ感情ハ不活潑トナリ、新事業ニ關スル記憶ハ、漸次減退スルニ反シテ、過去ノ記憶ハ頑固ニ執著スルモノナリ。思考力ハ鈍麻シ、ソノ經過緩徐ニシテ、新規ノ思想ニヨリテ啓發セラルルコト極メテ困難ナリ。故ニ、老人ハ成人及ビ兒童ヨリモ被推感性薄弱ニシテ、現在ノ印象ニヨリテ影響セラルルコト少ナク、コレマデノ習慣及ビ一度定メタル決斷ニ執著スルコト甚シクシテ、萬事ニ於テ保守的ナリ。ソノ肉體ト精神トハ多大ノ安靜ヲ要求シ、ソノ思考ノ單調ナルタメ、又、外界ノ機轉ニ心ヲ寄スルコト少ナキタメニ、肉體的感情ニ重キヲ置クノ傾向ヲ生ズ。サレバ老人ガヒポコンドリー症及ビ感情轉變ノ状態ニ陥リ易キハ、毫シモ怪ムベキコトニアラズ。故ニ、老人ニ於ケル精神療法ハ或點ニ於テハ容易ナレドモ、又、或點ニ於テハ甚、困難ナリ。老人ハソノ生活及ビ自我ニ關シテ多大ノ要求ヲ感シ、生命ノ保存ヲ唯一ノ目的トナシ、若キモノノ重要視スル業務力ノ維持ニ就キテハ左程ニ意ヲ用ヒズ、自分ノ生命ハ往々、コレヲ重荷トシ、煩累トシテ厭ヒナガラモ、只管コレヲ棄却スルコトヲ畏レルモノナリ。慰安的言語ハ老人ノ好ンテ受クルコトナレドモ、コレニヨリテソノ生活上ノ習慣ヲ變更セシムルコトハ極メテ困難ナリ。種種ノ作業及ビ遣散(體操・遊戲・旅行等)ニヨリテ精神状態ニ影響

ヲ與フルハ、若年者ニ於テハ必要ニシテ且、有效ナレドモ、老人ニ於テハコレヲ用フルヲ斷念セザルベカラザルコト屢、コレアリ。醫師ノ常ニ忘ルベカラザルコトハ、老人ハ治療ヲ受クルニ當リ、醫師ガ自己ノ高年タルヲ顧慮センコトヲ期待スルニモ拘ハラズ、醫師ガ自分ヲ老人視セズ、ソノ老廢ヲ念頭ニ掛ケザルヲ喜ブコトナリ。サレバ、老年者ハ誰ニ向ヒテモ自分自身ノ老年ノタメニ衰弱シ心身の缺陷ノアルコトヲ言ハズシテ、自己ノ心身状態ノ優越ナルコトヲノミ自慢スルモノニシテ、老人ハ身自カラ老朽セザルヲ推感シテ、老境ヨリ常ニ遠ザカラシコトニ力メツツアルナリ。

(二九)男女性ノ差異モ亦、精神療法上大ニ注意スベキコトナリ。女子ハ感情興奮性ノ著甚ニシテ、一定ノ生活期間、タトヘバ破瓜期・月經時・妊娠中及ビ更年期ノ初等ニ於テハ、殊ニ然カナリ。智的方面ニ於テソノ作業力ハ性質上分量上トモニ男子ヨリモ著シク劣等ニシテ、意志モ亦、男子ヨリモ甚シク薄弱ナリ。女子ガ男性ヨリモ比較的強キ被推感性ヲ有シ、又、ヒステリー性ノ素質ヲ有スルハソノ思考・感情及ビ意志等ニ於テ男性ト異ナレルニ基因ス。概シテ云ヘバ、女子ハ精神生活ノ状態ニ於テ兒童ト相距ルコト甚、近シ。

女子ハ著シキ被推感性ヲ有スルヲ以テ、醫師ノ外觀・態度等ハ著シク女子ノ心情ヲ支配シ、殊ニソノ最初ノ印象ハ女子ニ對シテ絶大ナル威力アリ。女子ハソノ感情興奮シ易キタメニ、ソノ心情轉變シ易ク、希望ト歡喜トニ輝キ易ク、又、憂慮ト困却トニ惱マサレ易シ。サレバ、所謂、奇跡的療法・信仰的療法ハ女性ニ於テハ男性ニ於ケルヨリモ著シク奏效シ易キナリ。猶、又、女性ニ於テハ色慾的生活ノ精神上ニ影響スルコト男性ニ於ケルヨリモ遙ニ重大ニシテ、ソレヲ本トシテ有害ナル病原的感動ノ起ルコト多キモノナリ。女子ノ大部分ハ、妻トナリ、母トナルコトヲ以テ生活ノ理想トナスモノニシテ、コノ目的ヲ達スルコト不可能ナルカ、或ハ不十分ナルトキハ、ソノ精神上ニ及ボス影響ハ決シテ尠少なラズ。而シテ、色慾ノ已ムラ得ズ抑制サルルコトハ、コノ理想、コノ希望ヲ達セラザルニ比スレバ、ソノ害毒、遙ニ輕微ナルモノナリ。色慾ノ肉的需要ハ、

女子ニ於テハ、概シテ男子ニ於ケルヨリモ微弱ナルモ、戀愛ノ要求ハ女子ニ於テ男子ヨリモ強ク、若、コレニ満足ヲ得ザルトキハソノ影響ノ不良ナルコト、色慾ノ禁斷ヨリモ遙ニ大ナリ。女子ハ男子ノ愛ヲ要求シ、少ナクトモ男子ニ柔待サルヲ要求スルモノナルコトハ、常ニ醫師ノ忘ルベカラザル要項ニシテ。女子ガ病ニ罹ルトキハ、肉體ノ苦痛ニ懊惱スルヨリモ配偶者及ビ關係者ノ冷淡ナル態度ニヨリテ、懊惱スルコト甚シキモノナレバ、醫師ハ常ニコノ事ヲ念頭ニ置キテ、コレニ處スル道ヲ計ラザルベカラズ。又、女子ガ病ニ罹ルトキハ、同情ト盡心トヲ欲スルコト、男子ノ病ニ罹ルトキヨリモ夥シク、從ツテ又、コレニヨツテ慰樂ヲ得ルコト男子ヨリモ多キモノナリ。

(二)病者ノ社會上ノ地位ハ、精神療法上ニ重大ナル意義ヲ有スルモノナリ。同一ノ疾病ト雖、コレニ罹ル病人ノ經濟狀態及ビ社會的關係ノ如何ニヨリテハ、病人ニ對スル意義ヲ異ニスルモノナリ。タトヘバ、下級官吏ニ在リテハ、物質的損失ヲ來タシ、職工ニ在リテハ生活上ノ困却ヲ感ゼシムルガ如キ疾病モ、上流社會ノ人人ニ取リテハ必シモ、コレト同一程度ニ損失ヲ來タシ、困却ヲ覺ユルモノニアラズ。前者ニ於テハコレガタメニ生活ノ將來ニツキテ重大ナル憂慮ヲ生ジ、ソハ現在ノ疾病ニモ不良ノ影響ヲ與ヘ、又、新シキ徵候ヲ喚起スルコトアレドモ、此ノ如キコトハ、上流社會ノ人人ニ取リテハアルベキコトニアラズ。此ノ如キ關係ハ、精神療法上、等閑ニ附スベカラザルモノニシテ、病人ノ憂慮ガ合理的ナルト否トヲ問ハズ、先コレヲ慰安シテ、ナルベクソノ憂慮ヲ輕減シ、ソノ勇氣ト希望トヲ失ハザル様、醫師ニ於テコレヲ謀ラザルベカラズ。此ノ如キハ、中骨ノ折ルルコトナレドモ、病人ニ健康恢復ノ希望ナク、又ハソノ希望輕少ナルナラバ、吾人ノ困難ハ尙、更ニ甚シキヲ加フベシ。病人ガ自己ノ健康恢復ヲ希望セザルハ、一見、甚、不合理ナルガ如キモ、實際ニ於テハ病人ノ狀態ニヨリテ屢、コレアルコトナリ。タトヘバ、戰傷者ナドハ、治療ヲ受ケテソノ創痕ヲ治スルトキニハ、ソレガタメニ却ツテ生活ノ困難ヲ來タスコトアリ、全治シテ困窮ナランヨリモ、廢疾者トシテ多額ノ年金ヲ拜領シテ安逸ナル生活ヲ送ランコトヲ冀フモノナキニアラズ。

此ノ如キ^{オモワク}思惑ヨリシテ、治療スベキ疾病ガ毫モ輕快スルコトナク永ク持續スル場合アリ。然シコレバ直ニ詐病ナリト解釋スルハ不當ナリ。這般ノ觀念ハ、病人ノ故意ニ出デズシテ、而モ現在ノ神經的殊ニ精神的障礙ヲ長ク繼續セシムルコトアルモノナリ。サレバ、醫師トシテ病人ガ我病ノ治療セズシテ物質的利益ヲ收メ得ンコトヲ欲スルコトヲ確カメタル場合ニハ、ソノ治療ヲ中止シ、少シハ辛辣ナル方法ニヨリテモ、病人ヲシテ自己ノ健康ヲ恢復スルノ必要ヲ感ゼシムルコトヲ謀ラザルベカラズ。病人ニヨリテハ疾病ガ永續スルトモ、物質的利益ヲ收ムルコトハナキニ、尙、健康ノ恢復ヲ冀ハザルモノアリ。病人ガソノ病狀ヲ思ヒ切り、自己ヲ廢疾者ト認^{アキ}諦メ、ソノ外圍ノ關係モ毫モ健康恢復ヲ希フニ足ラザルトキニ於テ然カナリ。此ノ如ク、天命ト思ヒ斷^キメ自、棄ツルガ如キ心狀ノアルハ不治ノ疾病若シクハ、醫療ニヨリテ輕癒セザル様ノ疾病ニ於テハ顯著ナル影響ヲナスコトモナケレドモ、治療スベキ疾病ニ於テコレアルハ却ツテ面白カラズ。現在ノ疾病ハ、コレガタメニ治療遲延シ、又ハコレガタメニ増悪スルコト多ク、醫師ノ治療ノ處置ヲシテ勞多ク效少ナカラシムルモノトス。

(二)精神治療法ヲ行フニ方リテハ、尙、病人ノ性情ヲ顧慮スルコト肝要ナリ。人ノ性情ハ多種多端ナレバ、コレヲ詳細ニ説敍スルコトハ不可能ナルヲ以テ、左ニソノ中ノ重要ナルモノニ就テ述ベン。素問ニモ勇怯二種ノ人アルコトヲ述ベタルガ、病人ノ意志強固ニシテ氣力ニ富ム場合ニハ、種種ノ點ニ於テ、精神療法ヲ施スコト容易ナルモノナリ。此ノ如キ人ハ、他人ヨリ促サルヲ待タズ、肉體的疾病ニ反抗シテソノ病ノ思考、感情及ビ舉作ニ對スル影響ヲ控制スルヲ得、又、苦痛ソノ他ノ苦^クノタメニ家業・職業等ヲ妨^サゲラルルコトナキヲ得ベシ。此ノ如キ病人ハ、自、一種ノ治療手段ヲ具有スルモノト云フベク、コレニヨリソノ患惱ヲ少ナクシ、又、ソノ患惱ガ生命ニ危害ヲ及ボスコトヲ輕クスルモノナリ。此ノ如キ病人ニ對シテハ醫師ハ餘リニソノ精神ヲ挑發スルコトナク、ソノ動作力ヲ調整シ、心意ヲ治療上有益ナル方ニ向ハシメ、コレヲ不利ナル方面ニ向クルコトヲ制限スルニ勉ムベシ。家事、或ハ職業ニ對シテ責任ヲ有スルモノニハ、コレヲシテ自己ニ生存ノ義務アルコ

トヲ覺ラシムベシ。輕度ナル疾病ニ於テハ慰安ヲ與フルニモ及バズ。疾病ノ真相ヲ告ゲラルトキハ、意志ノ薄弱ナルモノハ直ニ意氣阻喪スルモ意志強固ナルモノハ、克クコレニ堪エ、毫モ精神狀態ノ平均ヲ失フコトナシ。但、意志強固ナリト云フモ過度ニコレニ信賴シ、ソノ意志力ヲ維持スルタメニ何等ノ方法ヲ講ズルノ必要モナシト思惟スベカラズ。強固ナル意志モ往々ニシテ麻痺シ了ルコトアリ。不治ノ疾病ニ罹リ、常ニ生命ニ危險ヲ覺ユルガ如キトキニ於テ然リトス。サレバ、意志ノ強固ナル病人ナリトテ、漫ニ疾病ノ真相ヲ告グルハ大ニ戒ムベキコトナリ。

意志ノ薄弱ナルモノニアリテハ、コレニ精神療法ヲ行フコト甚、困難ナリ。此ノ如キ病人ノ性格ハ甚、多様ニシテ一定ナラズ。精神遲鈍ニシテソノ活動ノ緩徐ナルモノアリ。短氣ニシテ粗暴ナルモノアリ。心情ノ動搖甚クシテ爽快ニシテ希望ニ滿ツルトキト怯懦ニシテ氣力ナキトキト打ツテ變ハルモノアリ。イツレニシテモ、意志薄弱ナルモノニ治療ヲ施スニ方リテハ醫師ハ平靜ニシテ堅志ナラザルベカラズ、遲鈍ナルモノニハ活潑ナランコトヲ求メ、躁急ナルモノニハ忍耐ナランコトヲ諭シ、心情變り易キモノニ耐久のニシテ眞摯ナランコトヲ勸メ、コレヲ永ク反復シテ厭キ倦ムコトアルベカラズ。又、病人ニヨリテハ醫師ガ治療ノ方法ニツキテ心ヲ苦メ力ヲ盡スモ、コレヲ認メズシテ、病氣ノ自然ニ治療セシガ如クニ思フモノアルベシ。醫師ハコレニ落膽スベカラズ。猶、又、治療ニ苦心シテ漸、輕快ニ赴キタルトキ、突如トシテ病狀ノ増悪シテ復、初ヨリ治療ヲ繰返サザルベカラザルガ如キ場合ニアリテモ、醫師ハ決シテ平靜ナル態度ヲ失フベカラズ。

不安煩惱ノ甚シキ病人、自己ノ身體狀態ヲ杞憂スルヒホコソドリー性ノ病人、疾病ノ經過中、甚シク恐怖スル病人、或ル徵候ニ對シテ甚シク恐怖スル病人等ニ對シテハ、醫師ハ更ニ多大ノ忍耐ヲ要スルモノトス。猶、又、此ノ如キ病人ノ煩悶、恐怖ハ、大抵、論理的推考ニ基ツカズ、所謂強迫的ノ症狀ナレバ病人ニ安心ヲ與ヘントシテ懇ニ數度説明スルモ更ニソノ效ナク、一寸ノ處置ヲナシタルタメニ思ハザル不結果ヲ招キ、病人ノ苦悶ト自家推感トノタメニ他ニ見ザル程ノコトヲ惹

キ起スコトモアリ。サレド、コレガタメニ驚キ又ハ激スルコトアルベカラズ。偶然ノ事柄ニ友人、又ハ親族ノ病死ヲ聞キテ自己モ亦、同一ノ運命ニ陥ルベシト信ジ、我が病ノ一徵候ニ對シテ特ニ不安ヲ抱クニ至ル病人アリ、神經性消化不良ヲバ胃癌ノ初期トシ、心機ノ亢進ヲバ重キ心臟病ノ徵候トシ、記憶ノ減退ヲ覺エテコレヲ麻痺性癡呆ノ結果トスルガ如キモ稀ナラズ。而カモ、病人ハ此ノ如キ恐怖ヲ容易ニ醫師ニ告白セザルコト、屢ナリ。此ノ如キ場合、病人ノ態度等ヨリ外見上、ソノ心裡ニ不安憂慮ノ潜在スルヲ洞察シ得ルコトモアレド、病人ノ外見平靜ナルヲ信用シテ、コレニ騙カサルコトモ屢、コレアリ。ヨク注意シテ、コレヲ觀察スレバ、勉メテ平靜ヲ街ヒナガラ、ソノ内心ニハ間斷ナク自己ノ疾病ヲ杞憂シテ已マヌヲ發見スルコトナリ。若、醫師ニシテ、此ノ如キ潜伏性ノ杞憂ヲ除クコト能ハザル以上ハ、如何ナル治療法ヲ施ストモ、ソハ悉、無効ニ終ルベキナリ。サレバ、醫師タルモノハ病人ガ自己ノ病狀ニツキテ根據ナキ不安ヲ抱クコトヲ窺ヒ知リタルトキハ、不安ノヨツテ來ルコトヲ察シ、不安ノ根本タル病狀ヲ明ニシ、更ニ此ノ如ク誤認スルニ至リタル動機ヲ察スルコトヲ肝要トス。此ノ如キ場合ニ於テ、病人ヲシテソノ憂慮スル事項(タトヘバ、同疾病ノタメニ知人親族ノ死亡シタルコト)ハ、自己ノ場合トハ全く別殊ニシテ關係ナキコトヲ悟ラシムルナラバ、ソノ不安ヲ除去スルハ甚、容易ナリトス。不安甚シキ病人又ハヒホコソドリー性ノ病人ニ接スル際ニハ、醫師ハ最、ヨク言談ヲ慎マザルベカラズ。病人ヲシテ醫師ノ言談ニツキテ不當ナル誤解ヲナサシメザランガタメニハ、ナルベク、不必要ナル說話ヲ避クルヲ可トス。此ノ如キ病人ハ、醫師ガ何氣ナク云ヒタル言葉ニ對シテモ、特別ノ注意ヲ拂ヒ、コレニ關シテ種種ノ間違ヒタル解釋ヲ下シテ、自、非常ナル不安苦悶ニ陥ルコトナリ。此ノ如クナリタル後ニ於テ、病人ニソノ解釋ノ誤レルコトヲ言ヒ聽カスモ時既ニ晚ク、病人ハ又、コレヲ曲解シテ、眞事ヲ隱蔽スルノ手段、氣休メノタメニ言ヒ譯スルニ他ナラズトナスモノナリ。

コレ等ノ病的杞憂ヲ抱キ又ハ何事ヲモ悲觀スルモノト、全然、反對ノ關係ニアルモノハ樂天家及ビ輕卒家ナリ。著シク樂

天的ニシテ、何事ニモ平氣ナル程ニアラストモ、自己ノ身體狀態ヲバ全ク壯健ト認メテ固ク信ジテ變ハラザル人アリ。自己ノ家族中ニ悲惨ナル事ノ生ジタル場合ニモ、同様ナ見方ヲナス人アリ。ヒポコンドリー病患者ハ輕キ何デモナキ症狀ヲ重病ニ羅レル證左ト思惟シテ、著シキ不安ヲ感ズルモノナルガ、樂天的ノ人ハソレト正反對ニシテ、甚、重クシテ警戒ヲ要スル疾病ニ羅レルトキニダモ、コレヲ輕視シテ毫モ顧慮スルコトナシ。此ノ如キ病人ニハ、ソノ疾病ガ決シテ等閑ニ附スベキモノニアラザルヲ覺ラシムルコト困難ニシテ、治療上必要ナル處置ヲ行ハンコトモ時トシテ甚、困難ナリ。輕躁者モ亦、コレニ類シ、自己ノ疾病ニハ毫モ注意スルコトナク、從來、慣襲セル生活の嗜好(タバコ、酒)ヲ廢スルコトヲ欲セス、醫師ガ正當ノ訓諭ヲ與ヘテモ、コレヲ誇張シタル言辭トナスガ故ニ、コレニ精神療法ヲ實施スルハ甚、困難ナリ。此ノ如キ輕躁者ノ性格ハ、コレヲ改善スルコト、望ムベクシテ行ハレザルニモセヨ、醫師トシテハンソノ樂天的の見解ヲ助長スルガ如キコトアルベカラズ。他ノ方法ヲ以テハ、ソノ病ヲ救フノ途ナキニ於テハ、全然、コノ性格ヲ破壊スルノ必要アリ。慈愛ノ念ノ極度ナル人モ、ソノ闕點ハ輕躁者ト相類似スルモノナリ。殊ニ婦人ニシテ、別ニ家族中ニ病人ヲ生ジタルトキ、己ヲ捨テテ他ヲ看護スルヲ自己ノ義務ト誤認シテ、力ヲコレニ盡シ却ツテ自己ノ病狀ヲ全然、等閑ニスルコトアリ。此ノ如キ人ニハ、此ノ如キ處置ハ自己ノ疾病ニ害アルノミナラス、看護ヲ受クル方ノモノニモ、不良ノ影響ヲ與フルモノナルコトヲ自覺セシメ、コレニヨリテソノ道ヲ得ザル行爲ヲ止ムルヲ要ス。又、此ノ如キ人ノ反對ニ、自恣我慾ノ甚シキ者ハ、輕度ノ疾病ニ罹リテモ、自己本位ノ性格ヲ發揮シテ、自分ノ病狀ヲ誇張シ、周圍ノモノヲシテ専ラ自己ノ病狀ニ執掌セシムルモノナレバ、コレニ對シテハ世間幾多ノ、ヨリ重キ病症ニ罹レルモノモ、尙、從容トシテソノ運命ニ就クコトヲ説キ示スノ必要アリ。又、徒ラニ病症ニ心ヲ奪ハレ、一時ノ惱患ニ^{キオクレ}臆心スルハ、反ツテ病勢ヲ増悪スルノ危懼アルコトヲ論スノ必要アリ。

(二) 病人ノ感情狀態竝ニソノ五官的、叡智的、倫理的、審美的ノ傾好憎惡ナドヲ考量スルハ、精神療法上ニ肝要ナ

ルコトナリ。種種ノ疾病ノ原因及ビ症狀ノ要素ハ、屢、感情ノ中ニ潜在ス。病人ハ概シテソノ精神の苦痛ヲバ無難作ニ醫師ニ洩スモノナリ。重病ニ對スル憂苦、大切ナル家族ノ死喪、家業職務ニ於ケル煩悶ナド皆、然カナリ。故ニ、醫師ハ病人又ハソノ家族ニ適切ナル質問ヲナシ、病人ト家庭トノ相互關係竝ニ家庭ノ事情ヲ仔細ニ觀察シテ、種種ノ事項ヲ發見スルニ力ムベシ。殊ニ、病人ニ於テ生計ニ困難ヲ覺エ、産業上ノ損失ヲ招キ、種種ノ汚辱失敗ヲ重キ、或ハ失戀ニ陥イリ、又ハ家庭ニ不和ヲ生ジ、子女ノ思ハシカラス行跡ヲ心配スル等ノコトアルトキニハ、醫師ハ必、コレヲ顧慮スルヲ要スルナリ。此ノ如キ感情興奮ノ原因トナルモノハ、普通醫師ノ力ヲ以テ除却スベキニアラザレドモ、醫師ノ同情アリ思慮アル言辭ニ依リテ、ソノ著シク減殺スルハ有リ勝ノコトナリ。病人ニ於テ、若、醫師ガ同情ニ富ミ、祕密ヲ守ルコトヲ知ルナラバ、病人ハ快クコレニ對ツテ自己ノ憂苦、懊惱ヲ披瀝スベク、コレヲ他人ニ告白スルノミテモ、既ニ疾病ノ輕快ヲ覺エルコトアルベク、醫師トナシテハ、又、コレニヨツテ不可解ナリシ病症ヲ合點シ得ルコトアルモノナリ。

病人ノ趣味ハ如何。情爽快活ナル會合ヲ好ムカ、讀書、音樂、演劇ヲ嗜ムカ、自然ヲ好ミ、遊戲ヲ賞シ、運動ヲ好ムカ、逸樂ヲ喜ビ酒盃ニ耽ルヲ專トスルカ、コレ等ヲ考量スルコトモ、精神療法ヲ施スニツキテハ、忽諸ニ附スベカラザルコトナリ。青年及ビ中年ニ於テハ、色慾ニ關シテソノ精神の及ビ肉體の方面ニ注意スベシ。殊ニ、女子ニ於テハ感動、希望、理想等ガ深ク色情ニ根ザスコトアリ。醫師ハ十分ナル用意ト術數トヲ以テソノ深キ中心ニ立チ入リテコレヲ明ラメルヲ要ス。

(三) 精神療法ヲ行フ方リテハ、病人ノ健康時ノ精神狀態、竝ニコレガ疾病ノ影響ヲ受ケテ如何ニ變化シタルカヲ願慮セザルベカラズ。戰場往來ノ勇士、嘗テハ幾多ノ武功ヲ顯ハシ、種種ノ困厄危險ニモ堪ヘ忍ビタル程ノモノガ、生來虛懦柔弱ナル女子ヨリモ、壯大ナル事業ヲ完成シ得ベキハ、何人モ皆、疑ハザルコトナルベシ。然レドモ、此ノ如キ武勇ノ士ハ、肉體の苦痛ニ對シテモ亦、勇敢ナルベシ、病的ノ不安狀態ナドニハ決シテ罹ルコトナク、若、コレニ罹リタリトスルモ、容易ニコ

レニ剋勝スベシト思惟スルトキハ、ソハ大ナル思違ナリ。心身共ニ堅實ニシテ毫モ危險ヲ惧ルルコトナキモノモ、疾病ノタメニハ卑怯トナリ、勇猛果敢ニシテ冒險心ニ富ムモノモ、不幸ノタメニハ優柔不斷トナルコトアリ。健康時ニハ克ク理性ト批判力トヲ有シ、病的状態ニアリテモ、他ノ事物ニ就キテハ、十分ソノ能性ヲ有スルモノモ、自己ノ病狀ヲ理會シ、治療ノ方法ヲ選擇スルニ方リテ、亦、同様ニ理智ニ叶ヒタル處置ヲ取ルベシトハ信シ難キモノナリ。此ノ如キ人ハ、健康時ニ於テハ、世ニ回生起死ノ靈藥ナキヲ知り、疾病ノ内ニハ到底不治ノモノアルコトヲ十分ニ知レルニモ拘ハラズ、自己ガ疾病ニ罹ルトキハ、ソガ如何ナル種類ノ疾病ナルカラ問ハズ、コレヲ治スル藥劑ハ必、コレアリトシテ、唯、醫師ノコレニ氣付キテ選用スルヲ希フテ止マザルコトアリ。コレ即、非醫者、或ハ素人療治家ガ、回生起廢ノ靈藥ナリト名ツケテ提供スルモノヲ無批判ニ採用シ、コレニ多大ノ信賴ヲ拂フコト、醫師ノ處方シタル藥劑ヨリモ更ニ大ナルモノアル所以ナリ。

醫師ハ、大抵病人ノ健康時ノ精神状態ヲ觀察スル機會ヲ有セズ、單ニ病人及ビ家族ノ言葉ニヨリテ、病人ノ社會的關係・家族の關係・職業上・ソノ他ノ技能等ヲ窺ヒ知ルニ過ギズ。此ノ如キハ、病人ノ精神的人格ヲ盡スモノニアラス。コレヲ以テ刻下ノ状態ニ照合シテ治療上ノ參考トスルトモ必、十分ナリ、妥當ナリトハ云フベカラズ。ソノ病ガ精神障礙ナルトキハ勿論、ソノ他ノ病氣ナルトキモ、ソノ人ノ精神状態ハソノタメニ屢、著シキ變化ヲ發呈スルモノナレバ、病人ノ現下ノ精神状態ヨリ、ソノ健康時ニ於ケル精神状態ヲ推論スルハ不可能ナリ。吾人ノ精神状態ハ病氣ニヨリテ、多クハ不幸良ナル影響ヲ受クルモノニシテ、ソノ影響ハ精神ノ各方面ニ現ハレ、智力ノ運用モ、記憶モ、意志の氣力モ、皆、共ニ薄弱トナリ、性格モ感情モ、共ニ不利ナル損減ヲ蒙ルモノナリ。時トシテハ病ノタメニ精神状態ノ増益シ高尚ニナルコトナキニアラザルモソハソノ數、甚、少ナク、感情性格ニハ、又、有利ノ影響ヲナスコトアルモ、智慧作能ニ就テハ此ノ如キコト、殆、コレナシ。ザレバ、鈍愚ナル人ガ病後ニ巧慧トナリタル證例ナキモ、自恣ナ頑迷ナモノガ順良トナリ、粗放ナ激スルモノガ溫和トナリ、柔カナ情

(1) Psychopathische Minderwertigkeit

ニ動かサル様ニナリ、高慢ナルモノガ謙讓トナリ、冷淡硬情ノ人ガ同情深クナリ、嗜慾ニ耽ル人ガ謹慎トナルコトハ屢、コレアリ。然シ此ノ如キ善良ナル影響ハ必シモ長ク持續セズシテ、病氣ノ恢復スルトキ、又、舊状態ニ戻ルコト稀ナラズ。

疾病ガ精神ニ影響ヲナスハ、慢性病ニ於テ殊ニ顯著ナルモノニシテ、不治ノ肺結核患者ガ何事ニモ放心的ニシテ未來ヲ樂ミ、意氣常ニ爽快ナルハ人ノ普ク知ルコトナリ。心臟病者ハ從來ニナク刺戟性トナリ、機嫌變リ易ク、時ニ恐怖性トナルコトアリ。腸胃病・肝臟病アルトキ抑鬱性トナリ、ヒポコンドリー性トナリテソノ注意ハ偏ニ身體状態ニ傾倒セラルルニ至リ。生殖機官ノ疾病・生殖機能ノ異常モ感情抑壓ノ原因ヲナスコトアリ或ハ又、感情ノ異常ナル興奮殊ニ苦悶状態ノ本トナルコトアリ。卒中患者ニハ感情ノ脆弱トナリ感激シ易クナルヲ見。癲癇患者ハ暴怒性ニシテ無分別トナリ、自恣ニシテ憤悶性トナルヲ見。舞蹈病者ハ感情興奮性ノ増進・注意ノ散亂・記憶ノ薄弱ヲ呈シ。ヒステリー病者ハ被推感性ノ増高・感情ノ輕動性及ビ意志薄弱ヲ精神の缺陷トシテ、ソノ程度ハ甚シク多様ナリ。神經衰弱ニアリテハ叡智能力及ビ意志力ノ減弱ヲ來タシ、感情ハソノ興奮性ヲ増進シ、且、ヒポコンドリー性トナリ、ヒポコンドリーの抑鬱性トナリ、苦悶及ビ強迫觀念等ノ症狀ヲ呈ス。肥胖病者ハソノ思考緩慢トナリ心身弛靡シ、且、安逸ヲ好ムノ性ヲ帶ビ來リ。貧血病者ハ異常ニ刺戟性ニシテ物ニオチ、臆病ニシテ驚キ易ク、優柔ニシテ決斷ニ乏シキモノトナル。慢性中毒ノ内ニテ、アルコール中毒及ビモルヒ子中毒ハ著シク精神状態ヲ侵シ損ズルモノニシテ、ソノ變化ハ智性ヨリモ寧、性格ニ於テ著シク、意志力及ビ高等感情(タトヘバ、倫理的の感情及ビ審美的の感情)ハ次第ニ減退シ、一時ノ心情・性慾・感動ハ病人ノ動作ヲシテ甚シク無作法ナラシムルモノナリ。モルヒ子中毒者ノ怯懦・驚慌・アルコール中毒者ノ自恣・殘虐・狂暴ハ普ク人ノ知ルトコロニシテ、コレニヨリテソノ人ノ精神ノ盡ク變質シ智力記憶辨識ノ次第ニ減損スルヲ窺ヒ見ルベシ。此ノ如キ異常ハコツホ氏ガ精神病的低格⁽¹⁾ト名ツケタル精神の破格状態ニシテ、先天的ニ起ルモノト、後天的ニ起ルモノトアリテ、ソノ著シキモノト

- (1) Psychopathische Disposition
 (2) Psychopathische Belastung
 (3) Psychopathische Degeneration

雖、直ニコレヲ精神病ニ算入スベカラズ、輕度ノモノト雖、コレヲ精神ノ尋常ニシテ、能力ノ完全ナルモノトナスベカラズ、先天的低格ハ、各種ノ疾病トシテ顯ハルルモ神經病ニ於テ最、著明ニ甚、重要ニシテ、コレニ治療ヲ加ヘントスルニハ、特ニ仔細ナル觀念ヲ要スルモノナリ。コヅホ氏ハソノ三種ヲ區別セリ、(一)遺傳的精神病性傾向、(二)遺傳的精神病性素質、(三)遺傳的精神病性變質、即、ソレニシテ、精神病の傾向⁽¹⁾、刺戟感受性ノ亢進シ、甚シキハ感覺過敏トナリ、又ハ感激性トナリ、事業力ノ缺如スル等ノ症狀アリ。精神病性素質⁽²⁾ニハ、精神的興奮性ノ異常アリ、甚シキハ危懼苦悶驚愕ヲ呈シ、苦痛ニ堪エ難ク、感情動キ易ク、感覺過敏トナリ、又、憤怒性トナリ、物事ニ濫溺スル傾向等アリ、精神領ニ於ケル均衡ノ缺如スルコト、自我觀念ガ極端ニ專横ニシテ常規ヲ逸シ、且、矛盾多キコト(貧慾ニシテ浪費ヲ厭ハズ甚、驕慢ナルニイヤミナル謙讓ヲ兼テ、同一人ヲ好ミナガラ又、惡ムコトアリ)奇習異癖ノアルコト(日常生活ノ奇僻アリ、オカシナ習慣アリ感情ノ倒錯アリ)強迫的ノ思想、強迫的ノ性欲アリ、感情及ビ至精神狀態ニ定期ノ變化アルコト、甚シク動搖ナルコト等ノ症狀アリ。精神病性變質⁽³⁾トハ、精神異常ニ加フルニ、精神薄弱ヲ以テスルモノニシテ、コノ薄弱ハ主トシテ智的方面ヲ侵スコトアリ、或ハ主トシテ倫理的方面ニ顯ハルルコトアリ、或ハ又、同一程度ヲ以テ兩方面ニ發現スルコトアリ。

第三編 環境療法

(4) Milieutherapie

(一)環境トハ、醫師ノ如キアル個人的ノ影響、個人的精神療法ヲナスモノハ、コレヲ除キ、ソノ他、都テ病人ヲ圍繞シテ、ソノ精神ニ影響ヲ及ボスコロノモノ(外界ヲ指スナリ。此ノ如キ外界ノ影響ヲ利用シテ治療ノ一方法トスルヲ環境療法ト云ヒ、コレヲ個人的精神療法ト對稱ス。環境ハコレヲ左ノ如ク細別スベシ。

環境ハ廣義ニ解釋スレバ、病人ヲ圍繞スル外界ニシテ、病人ノ滞在スル地方ヲ指稱シ、私宅、病院、療養所等、皆、コレニ

屬ス。コレヲ狹義ニ解釋スレバ、家族、看護者、病人ノ職業等ヲ云ヒ、コレ等ハすべて健康人タルト、病人タルト問ハズ、個人ノ精神ニ多大ナル影響ヲ及ボスモノナレバ、精神療法ヲ行フニ當リテハ、一一病人ノ環境ヲ調査シ、必要ニ應ジテハコレヲ適當ニ變更スルコト肝要ナリ。

(二)先、廣義ノ環境ニツキテ述ベンニ。第一ニ注意スベキハ、病人ノ生活方法ニシテ、コレヲ規則的ニスルコト最、肝要ナリ。神經衰弱症及ビステリーノ病人ニハ生活法ヲ制定シ、病人ノ精神の傾向ヲ監督スルコトモ必要ナリ、コノ場合、醫師ノ處方スベキコトハ、食養法、精神及ビ肉體ノ使役、並ニ娛樂ノ種類、時間、交際スベキ人物、晝夜ニ於ケル休養並ニ睡眠等ニ關スル細目ナリ。特ニ又、注意ヲ要スルハ、病的又ハ有害ナル觀念、情緒ヲ除キ、意志力ヲ亢進セシムルコトナリ。病人ニ指定スル事柄ハ、ソノ精神の個性ト、外界ノ狀況トニ適合スルヲ要シ。能フベクンバ、醫師、自、常ニ病人ノ舉措ヲ監視スベシ。遺傳性神經衰弱ニ罹リ、意志ノ薄弱ナルモノニ在リテハ、コノ必要殊ニ大ナリ。著シク不安ニシテ、醫師ノ命ズルトコロニ就テ疑惑ヲ生ジ、何デモナキ事ニ心配スル病人ニハ、日常生活ニ關シテ事細カニ要項ヲ揚ゲテ、食養法、業務ノ種類及ビ時間、適當ナル娛樂等ヲ示スニヨリテ、ソノ不安ヲ去ルコトヲ得ベシ。生活方ノ節制ハ猶、從來ノ習慣ニヨル害惡ヲ除キ、心身ニ有利ナル勤行ヲ勸メ、外界ノ如何ニ應ジテ適好ナル狀況ニ立至ラシムルモノナリ。ソノ節制ハ或ハ精神上ニ關シ、又ハ身體上ニ關ス。精神上ノコトヨリ云ヘバ、精神ノ過勞、感情ノ不快ナド有害ナル精神的原因ヲ除クコトガ、有力ナル治療ノ一法タルコトハ、吾人ノ日常實驗スルコトニシテ、溫泉、治療所等ニ於テ治療ノ奏效スルハ、多クハコレニ基ヅクモノナリ。然レドモ、肉體的障礙ヲ除クコトモ亦、精神療法上必要ノコトニシテ、神經性心機亢進ノ病人ニ、煙草及ビ咖啡ヲ禁ジテ神經障礙ヲ除キ、コレニヨリテ不安状態、並ニヒポコンドリー性意想ヲ治スルコトヲ得ルハ吾人ノ知ルコトナリ。ソノ他、病人ヲシテ職業ヲソノ儘執ラシムベキヤ否ヤト云フコトモ、精神療法上重大ナル問題ナリ。コレニ就キテハ項ヲ改

メテ詳述セン。(作業療法二七三頁ヲ参照セヨ)

(三)病人ノ住宅ニ關シテハ、病人病症毎ニ差異アルベキハ勿論ナレドモ、大別スレバ、コレヲ消極的精神療法ト、積極的精神療法トノ二ツトスルヲ得ベシ。ダトヘバ、聽覺ノ安靜ヲ計ルガタメニ喧騒ナル場所ヲ避ケル如キハ前者ニ屬シ、良好ナル環境ヲ選ビテ病人ヲシテコレニ居ラシムル如キハ後者ニ屬ス。就中、精神療法上、最、大切ナルハ、病人ノ居室ニシテ。採光、換氣ノ關係等ガ衛生上ノ原則ニ適シ、瀟洒清潔ニシテ居心地ヨキ室ヲ擇ビ用フベキハ、多言ヲ要セズシテ明カナルガ。居室ニ備フル家具・裝飾品等ニ至リテモ、亦、療法上ニ影響スルコト尠カラザレバ、コレニ適當ナルモノヲ備フルハ尤、宜シキコトナリ。近時、繪畫ソノ他美術ノ勃興竝ニ彫刻・印刷・寫眞ノ進歩シタルハ大ニコノ點ニツイテ裨益スルコトアルベシ。概シテ言ヘバ、病室ハ快潤ニシテ光線ト空氣トニ富ミ、好キ眺望ヲ有スルトキ、病人ニ快感ヲ與ヘ、又、ソノ感情ヲ爽安ナラシムルナリ。病室ノ喧噪ナルハ概シテ推獎スベカラザレドモ、久シク病牀ニアル病人ハ、安逸ナル病室生活ニ厭キテ繁華ナル市街ノ眺臨ヲスラ渴望スルコトアリ。此ノ如キ場合ニハ、病室ノ設備ト裝飾トヲ賑カニシ、以テ幾分ソノ希望ヲ満足スルニ勉ムベシ。

(四)轉地。先ノ選擇ハ重大ナル問題ニシテ、山地ヨリ平地ニ移ルベキ場合アリ。平地ヨリ山地ニ移ルベキ場合アリ。又、海濱ニ轉地スベキ場合モアリ。スベテ、病人ノ知ラス土地ニ轉養セシメントスル場合ハ、頗、慎重ニ詮考セザルベカラズ。ソノ病人ガ健康時ノ愉快ナル送生ヲ聯想スルガ如キ地方ハ、概シテ治療上有效ナレドモ、居常平地ニ住フ者ガ病氣トナリテ又、山地ニ轉ジ、厭キニ厭キタル山嶽ノ展望ノミニ日ヲ送り、平素山地ニ住フ者ガ、遽ニ廣濶ナル平野ニ轉ジテ單調無趣ノ地ニ彷徨スルノ他ナキガ如キハ、多クハ治療上有害ナルモノトス。轉地ヲ試ムルニ方リテハ、ソノ地勢以外ニ氣候ヲ按ジ病人ノ榮養狀況ニ附隨シ起ル心情ノ興奮ヲ察シテ、ソノ影響ノ大小輕重ヲ考ヘテ取捨參酌スルトコロナカルベカラザルハ勿論

ナリ。場所ニヨリテハ病人ニ有利ナル推感ヲ與フルトコロアリ。ダトヘバ、治療所又ハ溫泉等ニ於テソノ交際スル人人ガ一齊ニソノ地ノ治療上價值ヲ認メ居リテ、病人ニソノ地ノ溫泉或ハ氣候ガ有效ナル治療的作用アルヲ説キ聞カスハ病人ノ容態ニ好良ナル影響ヲ與フルモノナリ。然ルニ、湯治場・クリニク・病院等ニ於ケル同病患者相互ノ交際ハ、當ニ無益ナルノミナラス、精神療法上、屢、不利ノ結果ヲ醸スコトアリ。コレ等ノ場合、話題ノ多クハ疾病ニ關スル煩悶ニ涉ルガタメニ病症ニ惡影響ヲ與フルモノナリ。ザレバ、病院ナドニ於テ此ノ如キ性質ノ病人アルトキハ、衝立ノ如キモノニテ相隔離セシムルカ、若クハ別室ニ獨居セシムルヲ適當トス。但、精神病院ニ於テハ、病人ハ極端ニ自我中心主義ニシテ、周圍ノ影響等ヲ感受スルコト更ニコレナキヲ以テ、コレヲ雜居セシムルモ、上記ノ如キ害ハ殆、コレナシ。湯治場ノ旅館ナドニ於テハ、普通健康者ト病人ト區別ナク雜居スルモノナルガ。多數ノ慢性疾患殊ニ慢性神經性疾患ノ恢復期ニアルモノ等ハ、醫師ノ監督ノ下ニ徐徐ニ健康者ト接觸スルニヨリテ、不知不識ノ間ニ健康生活ニ推移スルコトナレバ、此ノ如キハ寧、有利ナル仕方ト見テ可ナレドモ。疾病ノ性質上健康者ニ危險ナル場合、若クハ病人ノ精神ノ安靜ト、嗜慾ノ節制トガ、健康者ノ生活ノ自由ナルニ接スルニヨリテ攪亂セラルル虞アル場合等ニハ、此ノ如キ混同生活ノ不可ナルコト固ヨリ言フ俟タズ。長時間ニ互リテ、病人ガ相互ニ自己ノ病狀ニ就キ談話ヲ交ユルハ、ソノ病狀ニ不良ノ影響ヲ及ボスモノナルガ。神經病者殊ニ甚シク不安ナルヒポコンドリー病者ニ於テ然リトシ。就中、神經質ノモノハ著シキ惡影響ヲ受クルモノトス。治療所又ハ溫泉地等ニ於テハ殊ニ此ノ如キ習弊アリテ(病人ガ相互ニソノ病狀ニツキテ談話ヲ交ハスコト)治療上ニ極メテ有害ナルヲ以テ、醫師及ビ看護者ハ常ニコノ點ニ注意シテコノ惡影響ヲ除クコトニ努メザルベカラズ。甚、不安ナル病人ニシテ被推感性强キモノナドハ、全然此ノ如キ治療所ニ送ラザルヲ可トス。

(五)病人ガ、ソノ周圍ヨリ不良ノ影響ヲ受ケテ、ソノ病狀ノ増悪シ、病人及ビ周圍ニソノ害ヲ警告スルモコレヲ十分ニ改メ

ズ、治療ニ不利益ナルコト猶、ソノ儘ナラバ、斷乎トシテ周圍ノ人人ヲ排斥シ、ソノ病室ニ出入スルヲ嚴禁シ、從來病人ト
 交際ナキ人ヲ擇ミテ看護ノ任ニ當ラシムベシ。然レドモ、此ノ如キ隔離法ハ重病者ニ於テノミ、コレヲ實施スベキコトニシテ、ソ
 レスラ尙、理想的ニ行フコト叶ハヌコト多シ。サレバ、病人ヲ家族ヨリ隔離セントスル場合ナドニハ、普通他ノ方法ヲ執ルベク、
 病人ノ住所ヲ變更スルニヨリテ病人ト周圍トヲ遠ザルル如キハ甚、適當ナル隔離法ナリ。最、病人ノ隔離ハ、大抵、皆場
 所ニ關シテ行ハルルニ過ギズシテ、病人ヲ精神的ニ家族ヨリ隔離シ、又ハソノ病ノ精神的原因ヲ一舉ニシテ除去スルコトハ
 到底不可能ナリ。病人ニヨリテハ隔離セラレタルガタメニ、却ツテ經濟上ノ心配、家庭ニ對スル憂慮ヲ生ジ、家族ニ離レタル
 タメニ寂寥ノ感ヲ抱クコトアリ。コレ等ハ明ニ治療ノ妨ゲトナルモノナレバ、病人ノ隔離ニヨリテ良結果ヲ收メントスルニハ、必
 萬般ノ事情ヲ顧慮セザルベカラス。ヒステリー患者ノ多クハ、過度ノ同情或ハ愛護ニ慣レ、制限ナキ自己ノ慾望ガ悉、滿タ
 サレザルニヨリテ有害ナル興奮状態ニ陥ルモノナレドモ、亦、全然コレニ反對セル性格ヲ備フルモノナキニアラス。此ノ如キ病人
 ハ、極端ナル無我主義ノタメニ、自己ヲ等閑ニ附シ、自分ノ疾病ノ容態ヲ顧ミルコトナク、家族ノ健康並ニ便宜ヲノミ顧
 慮スルモノナレバ、自己本位ノ病人ハ可成コレヲ隔離シ、一定程度ノ自制ヲ強ユルガ如キ環境ニ移スヲ可トスレドモ、過度ニ
 無我主義ノ病人ハ、隔離ノタメ、却ツテソノ精神ニ不良ノ影響ヲ受クルコトアルモノナリ。ダトヘバ、母タル病人ガ隔離セラレ
 愛護ヲ要スル病兒ト離レ、ソノ容態ヲ心配シ、ソノ音容ニ近接シ得ヌニヨリ、高度ノ興奮ヲ發スルガ如シ。概シテ云ヘバ、病
 人ノ隔離ハ徐徐ニ執行スルヲ可トス。家事又ハ職業ガ病人ニ有害ナルトキナドニハ、病人ニ旅行ヲ勸メ、田舎ニ滞在セシ
 メ、又ハ遠地ノ友人ヲ訪問スルコトヲ命ジナドシ、必シモコレヲ家族ヨリ分離スルノ必要ナク、時トシテハ家族ト分離スルコト
 却ツテ不利ナルコトアリ。旅行・外出ヲナサシムルトキニハ、他ノ病人ナラバ、兎ニ角、ヒポコンドリー性患者ニハ必、伴侶ヲ要シ、
 ソノ家族中ヨリ最適ナルモノヲ選ミテコレニ當ツルヲ可トス。訪問及ビ書信ハ病人ノ興趣ヲ家族朋友ヘ引キ付ケルタメニ、

病狀ニヨツテハ必要ナリ。他人トノ交際ハ時トシテ毫モコレヲ制限スルノ必要ナシ。家事及ビ家庭ト全然交渉ヲ斷タシムル
 ヲ必要トスルガ如キ場合ニモ、他人トノ交際ハコレヲ禁ズルノ要ナキコトアリ。又、家族トノ交渉モ他人トノ交際モ全然、コレ
 ヲ遮斷スルヲ必要トスル場合モアリ。此ノ如キ病人ハ、コレヲ一室ニ入レテ醫師及ビ看護人ノ外ハ、何人タリトモコトコロ
 ニ入ルコトヲ許サザルベシ。此ノ如キ嚴重ナル隔離法ハ、普通ミツモル・ブレーヌーヤ氏肥饒療法ナドヲ行フ場合ニ、
 コレヲ施シ、臥褥療法、按摩、電氣療法等ヲ併用ス。此ノ如キ隔離法ヲ施スナラバ、病人ハ周圍ヨリ關涉サルコトナク、
 又、無分別ニ取扱ハレザルガ、故ニソノ感情ノ害ハルルコト更ニナク、自分ノ家族ニ心配ヤ骨折ヲカクルヲ思ヒテ苦愛懊惱
 スルコトモナク、醫師ノ處置ニ對スル苦情ヤ疑惑ニモ誰トテ合樋ヲ打ツ人ナク、ソノタメニ病人ハ却ツテ苦痛少ナク、又、醫
 師ノ處置ニ從順トナリ、此ノ如キガ病人ノ精神ニ偉大ナル治療的作用ヲ及ボシ、著シクソノ治療ヲ催進スルコト毫モ疑
 ヲ容レズ、嚴重ナル隔離法ハ、今日、尙、稀ニソノ必要ヲ見ルコトアリ。

隔離ノ治療法トシテ用ヒラルルハ、病人ノ精神ヲ安靜ナラシムルニアレドモ、コレニハ一定ノ斟酌ナカルベカラス、多數ノ病人
 ハ家事ニ離レ職業ニ遠ザカルニヨリテ、既ニ十分ニ精神ノ安靜ヲ贏得スルモ、又、コレト異ナリテ職業ト家事トヲ廢スルノミ
 ニテハ足ラズ、更ニソレ以上ノ精神ノ安靜ヲ要シ、マヅメナ精神業ヲ繼續スル如キハ全然、コレヲ禁ズベキモノモアリ。疾病
 ノタメニ精神能力ノ甚シク減退シタル病人ニアリテハ、普通ハ娛樂又ハ鬱散ノ一方法タルベシト思ハルル作業サヘモ、精神
 過勞ノ原因トナルコトアレバ、此ノ如キモノマデ、スベテ、コレヲ廢メ、又ハ五官ニ刺戟トナルモノヲ殘ラズ遠ザケザルベカラザルコト
 モアリ。

- (1) Ricklin
 (2) Versetzungsbehandlung

リツクリン氏⁽¹⁾ノ所謂、轉置療法⁽²⁾ト云フハ重キ症狀ノ去リ來タリタル病人ヲ全然相異シタル周圍ニ換置スルモノニ
 シテ、慢性ノ精神病者ナドニ於テ大ニ效果ヲ收ムコトアリ。早發性癡呆ノ病人ナド、コレヲ他ノ病室ニ移シ、庭園ニ出シ、

新ナル作業ニ就カシムレバ、コレニヨリテソノ舉動ノ一變スルコトアリ。コレヲ一病院ヨリ他ノ病院ニ移スニヨリテ病態一變シテ治癒ニ向フコトアリ。或ハ又、病院ニアリテハ緘黙、拒食、不潔等ノ重キ症狀アリテ、ソノ所置ニ困却スルモノ、コレヲ自宅ニ歸ラシムルトキ、急ニソノ症狀輕微トナリ、殆、コレヲ見ザルマデニ至ルコトアリ。

(六) 次ニ狹義ノ環境療法ニツキテ述ベン。第一ニ、病人ト最、密接ノ關係ヲ有スルモノハ、看護者ナレバ、ソノ選擇ハ甚、緊要ナリ。抑、病人ニ接近スルモノ、殊ニ看護人ハ、精神療法上ニ重要ナルモノナリ。彼等ハ決シテ病人ノ感情ヲ興奮セシムルガ如キ舉作アルベカラズ。過度ニ同情ヲ寄セ、餘計ナ斡旋ヲナシ、不適當ナル病狀ノ説明ヲ試ミ、或ハ又、萬事ヲ放任ニシ、粗暴ナル取扱ヲナシ、愛情ナキ態度ヲ表ハスガ如キハ皆、甚、不可ナリ。看護人ハ、萬事醫師ノ命令ニ從ヒテ舉作シ、病人ヲシテ醫師及ビ治療法ニ對シテ厚ク信賴セシメ、治癒及ビ輕快ニ對シテ十分ナル希望ヲ抱カシメ、治效ニ對シテ不利益ナルガ如キ觀念ヲ抱クコトヲ止メシメ、有ユル機會ヲ利用シテ病人ヲ歡バセ、ソノ憂鬱ヲ去リ、ソノ意氣ヲ鼓舞スルコトニ力メザルベカラズ。醫師ハ又、看護者ノ性質實直ニシテ動作敏捷ニ、職務ニ當ルニ忠實ニシテ、清潔ヲ好ムモノヲ選アラ要ス。コノ選擇ヲ誤ルトキニハ、看護人ガ病人ニ關スル秘密ヲ口外シ、或ハ從前自己ガ同病若クハ類似ノ病人ニ侍シテ經驗シタルコトアルヨリ、醫師ニアラザレバ行ヒ難キ重要ナル治療上ノ處措ヲ斷行シ、或ハ自己ノ盡力ヲ誇大ニ吹聴スルガ如キコトニ立至ルハ、吾人ノ往見聞スルトコロニシテ、又、最、忌マハシキコトトモナリ。反之、看護者ノ選擇、ソノ宜シキヲ得ルトキハ、ソノ鋭敏ナル感情ト熱心ナル努力トニヨリテ、醫師ノ受クル便利ト病人ノ感ズル満足トハ、極メテ大ナルモノナリ。該ニ「一二介抱、二三藥」ヲフコトアリ。ヨクコノ間ノ消息ヲ穿テ得タル言ナリ。

第四編 安靜療法⁽¹⁾

(一) 「醫經」ニ「勞者溫之」ト云フハ、溫存シテ養フコトナリト云ヒ、岐伯ガ「以救俛仰」ト云ヘルモ休息ノ必要ヲ説ケルニテ、「儒門事親」ニ「惟逸可以治勞」ト云フモ、皆、安靜ノ治病ニ須要ナルヲ稱ヘルナリ。コレヲ安靜療法ト云ヒ、コノ療法ニアリテハ、肉體の業作並ニ精神的業作ヲナルタケ節約シテ、感動ノタメニ心ヲ煩ハスコトナク、意志ノタメニ思ヲ亂ルコトナキニ勉ムベシ。「靈樞」ニ「智者之養、生也。必順四時而適寒暑、和喜怒、而安居處、節陰陽、而調剛柔。如斯則僻邪不至、長生久視」ト云ヒ「類經」ニ「心爲一身之主宰。總統魂魄、兼該志意、心一恐憂喜怒、五志隨動疾自是生、設能養此心、居處安靜、無爲懼懼、無爲欣欣、婉然從物、或與不爭、與時變化而無我、則志意和、精神定、悔怒不起、魂魄不散、五臟俱全、邪亦何奈何我哉」ト云フモ、コノ意ナリ。「天台止觀」ニ「安心在下。四大自然調適。衆病除矣」トアリ。「醒世良方」ニ「加減補中湯ヲ舉ゲテ、莫欺心。守本分。去嫉妬。務誠實。順天命。行好事。習謙和。寡色慾。崇節儉。戒暴怒。除狡詐。此十二味。時常佩服。諸邪不侵。萬病不生。元氣保固。終身安樂」ト云ヒ、又、銘心快活方ヲ舉ゲテ、「足時刻存想此字。能除一切忘念」樂時刻存想此字。能除一切煩惱。此二味用清淨湯調服。ト云ヘルナドモコノ意ナリ。而シテ、コノ療法ノ手段トシテハ、病原タル精神の害毒ヲ除却スルコトト、並ニソノ病症ヲ興發シ保持スル精神の害毒ヲ除却スルコトトアリ。

(い) 精神の害毒ニシテ諸病ノ原因トナルコト多キハ、精神過勞ナリ。之ヲ原因トスル疾病ハ、甚、多數ナレドモ、過度ナル精神の作業ヲナスニ方リテハ、同時ニ他ノ精神の障礙(感情興奮ノ持續或ハ反復)、身體的障礙(運動ノ不足、興奮劑ノ濫用等)ヲ伴フガ故ニ吾人ハ十分ニ過度ノ精神の作業ト病發トノ關係ヲ明ニスルコト能ハザルモ、ソガ神經衰弱ノ症

(1) Hack Tuke

狀ヲ發スルコト多キハ明ナリ。尤、ソノ徵候ハ一種ナラズ。腦性神經衰弱ヲ發スルアレバ、神經性消化不良ヲ發スルモノモアリ。ハツク、モーク氏⁽¹⁾等ハ、糖尿病ノ發作ヲモ過度ノ勉學ニ歸セリ。既ニ疾病アルモノ、殊ニ神經系統ノ疾病アルモノニシテ、精神ヲ過勞スルトキハソノ原病ニ不良ノ影響ヲ與フルコトハ、毫モ疑ヲ容レズ。神經衰弱・ヒステリーノ如キニハ精神ノ過勞・精神ノ勞使ヲ禁シ、感情ヲ激勵スルモノヲ遮グルニヨリテコレヲ治セシムルニ足リ、必要ノ場合ニハ之ヲ實行スルタメニ隔離・轉地・輕キ旅行ヲ勸ムベシ。コハ殊ニヒステリーニ須要ナリ。

(2) 精神の害毒ニシテ或病症ヲ喚發シ又之ヲ保持スルモノ夥多アリ。不。必。要。ナル。外。來。刺。戟。ノ。如。キ。ソ。レ。ヲ。避。ケ。得。ベ。キ。モノ一ナリ。病人ノ症狀如何ニヨリテハ喧噪ナル雜音、強烈ナル光線ノ如キハ勿論、輕微ナル音響、朦朧タル物像ノ如キモノサヘ、苟、感覺器官ニ刺戟ヲ與フルモノハ力メテコレヲ防止スベキナリ。抑、外圍ヨリノ刺戟ハソノ種類甚、多ク、病人ハコレヲ受ケテモノノ意識ニヨリテコレヲ調節スルコト能ハズ、ソノ多數ハ絶エズソノ精神内界ニ入りテ、病原的觀念團ト聯想的ニ結附スルモノナリ。サレバ、無遠慮ナル隣人ノ喧噪モ宜シカラズ。無邪氣ナル小兒ノ喧噪モ宜シカラズ。過重ノ雜務ヲ強イラルルコトモ宜シカラズ。病人ニ過度ノ同情ヲ寄セテ却ツテ病人ノ自制力ヲ損スルコトモ亦、宜シカラズ。此ノ如キハ皆、病人ノ取扱方トシテ宜ヲ得ザルモノナリ。故ニ、安靜療法ヲ行フノ第一義トシテハ、病人ヲ此ノ如キ環境ヨリ脱セシメテコレヲ適當ナル新環境ニ移サザルベカラズ。然レドモ此ノ如キ故障ナキ限ハ、寧、自宅ニアリテ安靜療法ヲ行フ方、種種ノ點ニ於テ有利ナルコト多シ(環境療法三五六頁ヲ參照セヨ)。

安靜療法ヲ行フニ方リ、聽覺ヨリスル不利ナル影響ヲ除カンガタメニハ、第一、家屋ノ音響ヲ通サザル様ノ構造ナルヲ要シ、視覺ヨリスル不快ナル刺戟ヲ避クルニハ、日中ナレバ窓掛ニヨリテ室内ヲ薄明クナシ、夜中ナレバ適當ナル燈被ヲ用キテ燈火ノ光輝ヲ遮ルベシ。疾病ノ時期、又ハ種類ニヨリテハ極メテ微弱ナル五官刺戟モ、病人ニ取リテハ強烈ニ感セラルルコト

(1) Hirschlaff
(2) Ruheübungen

アレバ、コノ場合ニハ絶對的安靜療法トシテ萬般ノ刺戟ヲ避ケ、毫モ病人ノ神經及ヒ精神ヲ勞役セザラシムルヲ要シ、ソレニハ前ニモ記セシ如ク作業ハ勿論娛樂ノ如キモ、コレヲ遠ザケテ病人ノ精神ヲ極度ニ安靜ナラシメンコトヲ計ルベシ。ヒル⁽¹⁾ ヌ⁽²⁾ ツ⁽³⁾ フ⁽⁴⁾ 氏ハ安靜練習法ト稱ヘ、ナルベク五官刺戟ヲ避ケ、又、筋肉動作ヲ抑エルコトヲ練習スル方法ヲ稱道セリ。

(一) 安靜療法ヲ施スノ際、吾人ノ注意スベキハ、病人ノ精神狀況ハ時時刻刻ニ變化スルモノナレバ、安靜法ノ效果モ、常ニ同一ナル能ハザルガ故ニ、精神狀況ノ如何ニヨリテ、安靜療法ノ程度種類ヲ變更セザルベカラザルコトナリ。安靜療法ガ病人ノ精神ニ、安靜ヲ與フルノ程度ハ常ニ相對的ノモノニシテ、外界刺戟ヲバク防遏シタリトスルモ、ソハ單ニ外見の安靜ヲ謀リ得タルニ過ギズシテ、病人ノ中心ニハ諸諸ノ觀念往來シテ、憂慮ト煩悶トヲ産ミ、ソノ内容ハ却テ以前ヨリモ多事トナルガ如キ場合、コレナキヲ保セズ、此ノ如キトキニハ、ソノ觀念ノ内容ハ病狀ニ好良ノ影響ヲ與フベキモノナリヤ、不良ノ影響ヲ與フルベキモノナリヤヲ考量シ、ソノ影響ノ不良ナルベキヲ發見シタルトキニハ、精神の移導ノ手段トシテ一定ノ娛樂・讀書・短時ノ訪問遊戯等ヲ許可スベク、病人ノ神經能力ガ衰憊シテコレニ堪エザルコト明白ナル場合ニ於テモ亦、然カスベシ。但、病人自、コレヲ欲セザル場合ニハ決シテコレヲ強ユベカラズ。ヒポコンドリー性患者ハ、絶對的ノ安靜ヲ命ズルモ、自己ノ疾病ニ對シテ諸諸ノ想像ヲ逞クスルニヨリ、ソノ病狀ニ惡影響ヲ及ボスモノナリ。女性ノ病人ニ就テハ、ヨクソノ病症ト刺戟ノ性質トヲ考量シテ、ソノ氣力ヲ助長スルガ如キ刺戟ハコレヲ病人ニ薦メ、ソノ氣力ヲ阻喪セシムルガ如キ刺戟ハコレヲ抑止シテ病人ニ加ハラシメザルヲ要スルモノナリ。心ヲ我愛兒ニ奪ハレ、ソノタメニ心配シ、コレヲ見ント切望スルノ餘リ身ヲ傷フモノアリ。或ハ、又、一家ノ非運ニ襲ハレ家計ノコトニツキ頭ヲ惱シテ已マヌモノアリ。此ノ如キ病人ニハ、色色ノ精神移導法ヲ用キルトモ、コレニヨリテソノ憂慮ヲ止ムルコトハ容易ニアラズ。此ノ如キ場合ニハ、安靜ハ單ニ外表面ニ行ハルルノミニシテ、病人ノ精神内容ニマデ到達スルコトナキモノナレバ、無定見ニ精神の安靜法ヲ行フトキハ、一利ナクシテ却テ百

害ヲ生ズルモノナリ。故ニ精神的安靜ノ方法及、ビソノ程度ハ、必、各病人ノ状態ニ鑑ミテコレヲ定ムベク、決シテ千篇一律ニコレヲ行フベカラズ。

不治ノ麻痺ニ罹レル病人ナドニ就テハ、醫師ハ病人ノ生活方ヲ整ヘソノ看護方ニ特ニ心ヲ用フル以上ニ、病人ヲ利スルコト能ハズ。即、病人ノ精神状態ニ悪影響ヲ及ボスコトハ、環境ノ不安・煩累・喧騒・不快ナル感情的興奮、何クレトナク悉、コレヲ避クベク、注意ト愛敬トヲ以テ病人ノ精神的個性ヲ擁護シ、ソノ希望・傾好ハ故障ナキ限リコレヲ尊重シ、他人ノ一知半解ナル同情、又ハ思慮ニ乏シキ發言ニ冒觸サレザル様庇保シ、適當ナル遣散方・作業方ヲ課スベシ。

急發性精神病ニハ興奮症狀アリ、感情不穩ナルモノアリ。ソレニハ、第一ニ安靜ヲ要シ、内界外界ノ刺戟ヲ避ケルヲ肝要トシ、近親トノ交通ヲ止メ、感動ノ激ク發動スルヲ防ギ、職業・訪問・長時間ノ談話(慰諭スラヲ嚴重ニ制限シ、ソノ腦髓ヲ十分保護スルタメニハ、病人ヲシテ何事(作業)ヲモナサシメザルヲ可トス。職業上ノ紛争ヤ困難ハ勿論、コレヲ排除スルコトニ注意シ、病人ヲ感激サスル如キ説諭ヤ説話ハコレヲ避クベシ。何事ヲモ病人ニ知ラセザルタメニハ、コレヲ欺キ誑ルニ及バズ。ソノ鎮靜スルヲマテ要慎シテ庇ヒツツ明カスベシ。是非トモ知ラシメザルベカラザルコトハ、適當ナ時期ヲ選ンテ正直ニ報告スルヲ可トス。麻痺性癡呆ニ罹レル病人ナドニハ世事及ビ家事ニ關スル一定ノ事件ハ、全クコレヲ秘シテ知ラシメザルコトアリ。

(三)安靜療法ノ方法ニハ種種アレドモ、ココニ擧グルハ褥臥療法・隔離療法・持續浴等ナリ。

褥臥療法ハナイセル氏⁽¹⁾カ精神病院ニテ初テ用ヒタルモノナルガ。就褥ハ、腦髓ノ血行ヲ増進シテコレヲ鎮靜サセ、又、筋肉業作ト失温トヲ減スルガ故ニ、腦貧血・瘦削・貧血・衰弱・眩暈失氣ノ傾向・食不食等ノタメ虚脱ノ虞アルモノ・不安ナルモノ・苦悶スルモノ等ニ效果アリ。譫妄患者・苦悶患者・興奮患者ニ對シテハ殊ニ有效ナリ。病人ハソノタメニ刺戟ヲ受ケルコト少ナクナリ、周圍ト悶著ヲ起サナクナリ、大ニ鎮靜ノ效用アリ。又、治療ヲ施スニ就テ十分ノ補助ト機會トヲ與

(1) Bettbehandlung
(2) Neisser

(1) Isolierung

フルコトナルナリ。褥臥療法ヲスルニモ症狀ノヨクナルニツレテ褥臥ノ時間ヲ遞減スベク、初ニハ午後二時カラ晩食マデ一二三時間起シ置キ、次ニ朝九時起シ、正午カラ二時マデ臥カシ又、起ス。又、ソレカラハ就寢時ヲ遅クシ、遂ニ朝モ早ク起スニ至ルベシ。午後ノ睡眠ハ病人ノ十分ニ恢復シ體重ノ大ニ増加スルマデコレヲ續クベシ。又、褥臥ノ遞減ニ從ヒ、ソレダケ作業ヲ遞増シテ、褥臥ト作業ト互ニ反比例ニナス様ニスベシ。

(四)隔離⁽¹⁾ニ就テハ環境療法ノ篇ニテモ述ベタリ。病人ハ大抵自己ノ家庭ニアル間ハ、ソレソレノ責務アルガ故ニ、十分ナル安靜ヲ獲ルコト能ハズ。又、病人ニヨリテハ家庭ニアリテハ、興奮シ易ク、又、家庭ノ煩累ニ堪ユル能ハズ、男子ハソノ職業ニヨル過勞ト興奮トヲ全ク去ル能ハズ、女子ハ家事ト育兒トヲ全ク廢スル能ハズ、家庭ヲ去リテ他人ニ接スルトキニハ、克ク自制シ、又、他ニ親切ナルモ家族ニ對シテハ怒リ易ク、耐エ難ク、絶エ間ナク紛争シ、又、興奮スルモノアリ。ヒポコンドリー性ノヒステリー患者ナドハ、家庭ニアツテハ極メテ氣ハク敷ク止メ度ナク要求ヲナシ、ソレヲ叶ヘザルトキニハ、甚シク激シテ、自、辨ヘザルマデニ至ルコトアリ。此ノ如キ場合ニ、病人ヲ隔離スルハ、病人ニ取リテハ勿論ソノ家庭ニ取リテモ幸良ナル結果ヲ齎ラスベク、一舉兩得ノ所置ト云フベキナリ。

隔離ハ多數ノ神經病者ニハ著シク有效ニシテ。神經衰弱・ヒステリー病ノ療法ハ、當病因タル精神的障礙ヲ驅除ヘルヲ主眼トシ、精神ノ過勞ヲ避ケ、不利益ナル興奮ヲ抑制スルコトニ力ムベク、ソレニハ從來ノ環境ヨリ隔離スルヲ最良ノ方法トス。遺傳的素質ナクシテ、經過ノ短キモノハ一定ノ感覺觀念ヲ蔽遮スルニヨリ、又ハ他人トノ交際ヲ禁ズルニヨリ、又ハ轉地ノミニヨリテ、既ニ治癒スルコトアルベシ。家庭的關係ハ、多クハ病人ノ精神ニ惡影響ヲ及ボシ、疾病ヲ稽留セシメ或ハ増悪セシメ、又、必要ナル治療ヲ不可能ナラシムルモノナリ。尤、隔離ヲ行フニ當リテハ、必、各個ノ場合ヲ顧慮シ、隔離法ガ必要ナリ有效ナルヲ確メタル後ニアラザレバ、コレヲ行フベカラズ。ヒステリー患者ハ、ソノ周圍ノモノヨリ影響セラレ易キガ故ニ、コレ

ヲ過度ニ愛護シ又ハ過度ニ放任スルハ面白カラズ。ソノ愛護過度ナルトキハ、病人ヲシテ重病ニ罹レリトノ觀念ヲ起サシメ、旁人ガ自分ニ對シテ巨細ナル注意ヲナスヲ見テ、注意ヲ我疾病ニ固定シ以テソノ病狀ヲ増悪スルコトアリ。過度ノ放任ハ病人ニ不利ナル感情興奮ヲ喚起シ、病人ヲシテ醫師ノ處置ヲ無用視セシムルニ至ルベク。何レニシテモ隔離ハ神經衰弱及ヒヒステリーニハ殊ニ驚クベキ效果ヲ顯ハスコト、今日多數ノ學者ノ等シク承認スルトコロナレドモ、何レノ場合ニ於テモ必、良效ヲ收メ得ルトハ斷言スベカラズ。

隔離ハ安靜療法トシテ家庭ニ於テハコレヲ十分ニ履行スル能ハザルコト多シ。ココニ於テ、病人ヲバ家庭ヨリ拔キテコレヲ他所ニ移スコト最、適當ノ所置ナリ。コレヲ廣ク言ヘバ入院モノノ隔離ナリ(平生ノ環境ヨリ隔離ス)。入院後ニ於テモ同室患者ノ談話・舉動ニモ刺戟サレ易キ病人ハソノ寢臺(又ハ居所)ヲ他ノ病人ノト離スコトモアリ。コレ又、一ノ隔離ナリ。症狀輕キトキニハ、コレニテ奏效スルコトモ少ナカラズ。家人ノ訪問、書信ノ往復モ亦、病人ニ不良ナル刺戟トナルコトアリ。コレヲ禁ズルモノノ隔離ナリ。狭クコレヲ言フトキニハ、隔離トハ主トシテ別室ニ獨居セシムルコトヲ云フ。

コレノ隔離ニハ開放セル別室ニ獨居セシムルモノト、閉鎖セル別室ニ獨居セシムルモノトアリ。ソノ用ハ、外界ノ刺戟ヲ避ケルヲ目的トシ、新ナル感覺ニヨツテ疲勞シ、聯想ノ促進シ、妄想妄覺ノ増激スルヲ防止セントスルニアリ。開放室内隔離ハ、テヰリン氏⁽¹⁾ガ初テコレヲヒステリーニ用ヒタリ。病人ヲ一室ニ入レ、ソノ入口ヲ閉サズ幕ヲ引キ置キ、室内ニ寢臺ヲ入レ、又、牀ヲ敷テ病人ヲココニ四圍ノ刺戟ヲ避ケテ靜カニ居ラセ、漸次ニ、ソノ症狀ノ收マルヲ待ツテ合室ニ復歸セシム。若、隔離シタルタメニ症狀ノ重クナルコトアラバコレヲ中止ス。閉戸隔離ハ、興奮症ノアルモノヒステリー性ノモノ癲癇性ノモノニ用フ。興奮ノ病症ニシテソノ興奮ノ内原因ニヨラズ、外來刺戟ニヨルモノハ旁ノ言語・運動・事件ニ一一反應シ、關涉シ、運動ヲ初テ、益、不安ト激越トヲ増スモノナレバ、ソレヲ隔離シテ他ノ病人ト別テバ次第ニ安靜トナル。此ノ如キ場合ニハ、入口ヲ

(1) Dejerinne

開ケテ隔離スルモ又、ソノ入口ヲ閉鎖シ隔離スルモイヅレモ適當ナリ。ヒステリー性精神病ニシテ、演劇的舉作ノ傾向アリ、他ノ病人ノ症狀ヲ真似シ、又ハ他ノ病人ニ見セ付ケルモノニモ、コレヲ施スラ可トス。癲癇性精神病、癲癇様ノ精神病質者、竝ニ精神病性體質者ニシテ感情違和ノアルモノハ、コレヲ合室ニ置ケバ他ノ病人ト喧嘩ヲナシ、又ハ暴行ヲナスモ、隔離サレテハ極安靜ナルモノナリ。

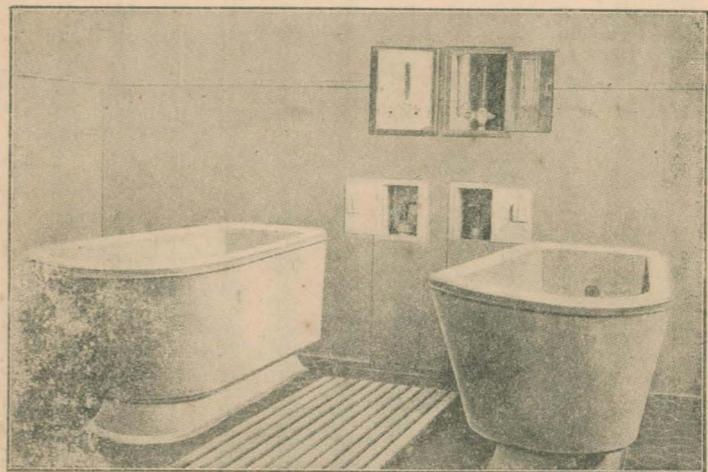
スベテ興奮セル病人・妄想ヲ抱懷スル病人ハ、外界ノ刺戟ヲ避ケルタメニ訪問・書信・談話殊ニ興奮的話題ヲ避ケ、説諭・訓戒ナドモコレニ試ミルベカラズ。他ノ興奮患者ト同居セシメズ、興奮甚シクレバコレヲ獨居セシムルコト必要ナリ。コレヲ十分ニ刺戟多キ外圍ヨリ遮斷シ、自殺企圖・自傷・暴行・破棄・不潔等ノ行爲ヲ防止シテ、ヨクコレヲ看視スルニハ一定ノ設備アル隔離室ヲ要ス。病人ノ待遇ハナルベク自由ニスルヲ本意トス。自宅ニ在リテ家人ノタメニ一舉一動ヲ抑制サレ、些細ナコトニモ訓戒サレ、嚴諭セラレテ、ソノ都度、氣ヲ腐ラシ情ヲ激スルニ比スレバ、隔離療法ハ病人ニ廣大ナル精神的自由ヲ與フルモノナリ。要スルニ、必須ナル醫療上ノ處置ヲ決行スル他ハ、ナルベク病人ニ自由ヲ與ヘ、些細ノコトマデ監督シ警戒シテ、病人ノ煩惱ヲマサヌヲ可トス。唯、危険ナルコト、著シク不都合ナルコトハ、心和ラカニ確カニ防止スベク、場合ニヨツテハ腕力ヲ用フルコトモ辭セザルベシ。

(五) 持續浴。ハ古クハビチル氏⁽¹⁾コレヲ急性ノ諸病ニ用ヒ、バイアルジエー氏⁽²⁾コレヲ躁暴者ニ用ヒ、ソノ後佛蘭西ニテハブリール・ドウ・ポアースモン氏⁽³⁾早クヨリコレヲ用ヒ、獨逸ニテハシルツ氏⁽⁴⁾等ニヨリテ唱道サレ、近頃ニ至リクレペザン⁽⁵⁾氏盛ニコレヲ稱揚セリ。現時ニ於テハ、精神病院ハ持續浴設備ノ多少ヲ以テソノ良否ヲ判ズル程ナリ。持續浴ハ微溫浴ノ生理的作用殊ニ血壓増進作用ヲ避ケ、長クカカツテソノ精神上ノ作用ノミヲ利用セントスルナリ。持續浴ハ藥物ノ如ク、領取作用意志作用ヲ麻痺スルコトナク、精神作能ヲ減損セズシテ、靜安ナル睡眠ヲ催スモノナリ。溫浴ノ

- (1) Dauerbad
- (2) Pinel
- (3) Baillarger
- (4) Briere de Boismont
- (5) Scholz
- (6) Kraepelin

アタタ
 暖マリハ至ツテ心地ヨク、浴中ノ滞在ハ身ノ廻リ自由ニシテ、膚ヲ纏フ衣服ノ煩サヘナク、外圍ノ刺戟ハ十分ニコレヲ遮斷
 セラレ、浴室ノ設備如何ニヨリテハ病人ノ感情ヲ激スルガ如キ相手ナクシテ且、看護人ノ特別ナル守視アリ。コレモ亦、持
 續浴ニ優秀ナル鎮定作用アル理由ナリ。

持續浴ハソノ溫度ヲ二十四度乃至三十七度(攝氏)トス。取浴中、何時モ同溫度ナラザルベカラズ。持續時間ハ病狀ニ



第一圖
 持續浴室(ルギツ病院)

ヨリテ異ナリ。二時間乃至ハ四時間ノコトアリ、十二時間
 十八時間ノコトアリ。一日ニ一度ノコトアリ、數回繰返へ
 スコトアリ。一日數時間以上ニ互レバ、食事モ浴中ニ置テ
 コレヲ取ラセ、作業モ亦、浴中ニ於テコレヲナサシム。日數ニ
 ハ際限ナク、興奮狀態ナラバ、ソノ鎮靜スルマデコレヲ繼續
 ス。數週間ヨリ數月ニ互ルコトアリ。同一病人ニハ毎日ノ
 時間ト湯ノ溫度トハ始終一定スルヲ可トス。興奮患者ハ
 初ハ褥臥療法ヲ試ミ、隔離ヲ試ミ、次ニ、持續浴ヲ試ム。
 病人ニヨツテハ、初、一時ハコレヲ拒ムモ、一度入浴シタル
 後ハ心地ヨキタメ、又、出レバ直ニ寒クラ覺ユルタメ、自、入
 浴ヲ求メテ、最早、拒絕スルコトナキモノナリ。興奮狀態ニテ
 ハ感情爽快、動作頻繁、注意傾動ノ症狀アルニ最、效ア
 リ。躁鬱病ノ躁揚狀態、早發性癡呆殊ニ緊張病ノ興

第二圖
 同上(巢鴨病院)



奮・麻痺性癡呆老人性癡呆急性錯亂
 症・酒客譫妄等ノ興奮狀態ニ應用シテ鎮
 定ノ奇效著シク、癲癇及ヒ憂鬱症ノ苦悶
 性興奮狀態ニモ、往往、奏效ス。虛脫性精
 神病又ハアメンデア屬精神病ニテ錯亂シ居
 ル病人ハ持續浴ニテ早晚安靜トナリ、睡眠
 ノ傾向ヲモ生ズ。ソノトキ、コレヲ中止シテ褥
 臥療法ニ移スベシ。コレ等ノ興奮患者ハコレ
 ヲ持續浴ニ入ルレバ漸漸鎮靜スルニ從テ刺
 戟性減ジ、睡眠ヨクナリ、食思振起シ、他人
 ト喧嘩シ、コレニ危害ヲ加ヘ、又ハ自、傷クル
 ガ如キ危険ノ症狀大ニ減シ、物ヲ扯裂シ破
 壞スルガ如キコトモ、ソノ跡ヲ絶ツニ至ル。

(六)精神的隔離ノタメニハ屢、面白カラザル結果ヲ來タスコトアリ。コレヲ救ハンガタメニハ、時トシテ病人ノ結婚ヲ勸誘スルコ
 トアリ。殊ニ往昔ノ人人ハヒステリー病ハ性慾上ノ不滿ニヨリテ起ルモノト信ジタリシヲ以テ、結婚ヲバヒステリーニ對スル治
 療法ト心得、近來ニ於テモ一部ノ人人ハ猶、コレヲ信ズルコトアリ。或ハ神經衰弱ヲモ同一ノ方法ニテ慰治セントスルモノ
 アリ。ヒステリー及ビ神經衰弱ノ症ガ實際結婚ノタメニ著シク輕快スルコトハナキニアラザルモ、ソノ輕快ハ性慾ノ充足セラレ

タルニヨルニアラズシテ、大抵ハ結婚ニ基ツク精神的影響ニヨルナリ。新家庭ニ對スル希望、家事ノ整頓、配偶者ノ知人ト
 ノ新交際、殊ニ女子ニ於テハ生活上ノ保護者ヲ得タルノ歡喜、愛兒ノ出生ニ對スル期待等ノ如キハ、少ナカラザル關係
 ヲ有スルモノトス。ヒステリーノ素質アルモノニ於テ、結婚ガヒステリー發作ヲ治癒セシムルガ如キコトハ、決シテコレナキコトナリ。故
 ニ此ノ如キ病人ノ家族ヨリ治療ノ一方法トシテ、病人ノ結婚問題ヲ提出サレタルトキハ、結婚ガ有利ナルコトモアルベシト
 答フルハヨシ、決シテ結婚ヲ可トシテコレヲ獎勵スベカラズ。若、又、ヒポコンドリー性神經衰弱者ニシテ、精神的隔離ヲ受ケ、
 或ハ職業ノ廢止ヲ命ゼラレタルガタメニ、抑鬱的感動ヲ起シ病症ノ面白カラザル様ノコトアルトキニハ、結婚ヲ推獎スルハ妥
 當ノコトナリトス。但、コノ際、ソノ配偶者トシテハ感情的ニ傾カズシテ、理性ニ富ミタル人ヲ選バザルベカラザルハ勿論ナリ。
 (七) 安靜療法ヲ適當ニ行ヒタル後、病人ヲ尋常生活ニ返ヘスニハ、ソノ緩急ノ度ヲハカリ適度ニソノ復舊ヲ調節スルコト
 最、必要ナルガ、コレハ治療法中ノ最、困難ナルモノニ屬シ、コノ際、吾人ハ病人ノ能力ヲ推知センガタメニ、病人ニ系統的
 ノ心理的検査法ヲ行ヒテ、豫、ソノ堪能ヲ明ラカニスルヲ要ス。

第五編 移導療法⁽¹⁾

移導療法ハ睿智的療法ノ一ニシテ、病人ノ觀念思想ガ病ノタメニ常規ヲ逸セルヲバ他ニ移導スルニヨリテ正道ニ復セシ
 ムルヲ目的トス。

カント氏⁽²⁾ハ有名ナルソノ著述「感情ノ威力」" Von der Macht des Gemütes durch den blossen Vorsatz
 seiner krankhaften Gefühle Meister zu sein " 中ニ於テ「吾人、若、思考ヲ任意ノ方向ニ誘致シ、以テ一定ノ身
 體感覺ニ對スル注意ヲ移導スルトキハ、コノ身體感覺ヲ著シク減弱シ、遂ニソノ苦痛ヲ覺ヘザルニ至ルヲ得ベシト」ト説キ、コレ

(1) Lucae-Ziehen
 (2) Oppenheim

ヲ以テ不快ナル感情ヲ醫スルノ方法トシ、コレヲ利用スベキヲ世上ニ推獎シタリ。緒方維勝ガ「主君、肝氣有テ藥效ナキト
 キハ、竊ニ國老長臣ニ謀テ遊獵・文學・武術・詩歌ソノ他ノ技藝ニテモ國民ニ害ナキ嗜好ノ事ヲ勸テ、晝夜ソノ事ニ心ヲ
 寄せラルル様ニ導カバ、必、治セルルコトアラム」ト云ヘルハ、同様ノ意義ナラン。抑、吾人ハ事ニヨリテ或思想ヲ脱却セントスル
 モ、コレヲ遂グルコト、容易ニ叶ハヌコトアリ。吾人ガ屢、記憶ヨリ排斥セントシテ勉ムルハ苦痛ノ觀念・不快・憂悲ノ經驗ニ
 シテ、憂慮・不安・恐懼ノ本ニナルモノナルガ、コレ等ノ觀念ヲ驅逐スルニハ、直接ノ方法ニヨレバ不成功ニ終ルコト常ナルヲ
 以テ、大抵ハ皆、間接ノ方法ニヨラザルベカラズ。間接ノ方法トハ一ツハ、此ノ如キ觀念ノ再現ヲ誘致スル如キ機會ヲ避ケ
 ルコト、又一ツハ吾人ノ思考ヲ一定ノ方向ニ移致スルコトナリ。今此ニ述ベタル如キヲ目的トスル療法ハ、コレヲ總稱シテ移
 導療法ト云フベシ。

ソノ方法ハ幾通モアリ。或ハ單ニ五官感覺ヲ以テ病的現象ヲ誘ヒ去ラントスルモノアリ(ルーツェー氏・チー・ヘン氏)⁽²⁾又
 幻聽アルモノニ對シテ音又療法ヲ施シ、又、視覺的刺戟ヲ試用スルコトアリ。

ヲツペンハイム氏⁽¹⁾ハ身體ノ或處ニ痛所アル病人ニ就テ懷中時計ヲ耳邊ニツケ、注意ヲ盡クコノ響ニ傾ケシメ、ソノ
 痛所ニ觸レテモ感ゼヌ程ナルヲ求メ、或ハソノ痛所(甲)ト其處ヨリ遠ク離レタル場所(乙)ト二個所ニ觸レ、ソノ觸方ヲ乙ノ
 トコロニハ強クシ甲ノ所ニハ特ニ注意セズバ感ゼヌ程微カニシテ、ソレヲ程ヨクスルナラバ甲ノ所ニ觸レルノハコレヲ感ゼザルニ至
 ルベシ。コレヲ反復シテ習練スレバ甲乙兩所ニ同ク強サノ刺戟ヲ與ヘテモ乙ノトコロノミニコレヲ感ズルコトナリ、遂ニハ乙ノ
 所ノ刺戟(移導刺戟ト云フ)ヲ増劇スルニヨリテ、痛所ニ針刺搔爬ヲ加フルモ毫モコレヲ感ゼザルニ至リ、其後ニハ病人ガ
 自分ノ思惑ニヨリテハ病所ニ痛キコトヲナスモコレヲ意識セザルニ至ルベシト云ヒ。猶ホ同氏ハ近頃移導刺戟トシテ感傳電
 氣等ヲ用フルコトセルガソノ他熱氣烈シキ摩擦寒冷等物理的療材モコレニ用フベシ。オツペンハイム氏ハ又、コノ

療法ヲ特ニ心痛アル病人ニ應用スルコトヲ稱揚セリト云フ。

子供又ハ精神薄弱ナルモノニモ同様ニソノ痛戚ヲバ慰撫^{ナデルアマキ}甘味ノ如キ單一ナル五官感覺ヲ以テ除キ去ルコトヲ得ベシ。大人ニ於テハ此ノ如キモノニテハ足ラズ、視聽高等五官ノ繁雜ナル感覺、又、復雜ナル觀念ヲ用ヒザルベカラズ。移導療法ニシテ專ラ睿智の感興ヲ惹起スルニヨリテ、其效用ヲナスモノト、コレニ多少積極的感情(爽快)ヲ兼テ其效用ヲナスモノトヲ區別スベシ。作業療法ハ甲ニ屬スル首要ナルモノニシテ、乙ヲバ遣散療法ト云フ。

甲 作業療法⁽¹⁾

(一) 作業療法ハ、グリーディング⁽²⁾氏ガ、コレヲ精神病ノ治療ニ應用シタルヲ始トシ、一千八百八十年ノ末ニ至リテイレ⁽³⁾氏及ビメービウス⁽⁴⁾氏ハ、コレヲ病人ノ精神ニ影響ヲ及ボス最、便利ナル處置トシテ、精神病ノ療法ニ採用シ、現代ニ於テハ主トシテ機能性神經病ニ應用セラレツアルモ、ソノ適用ノ範圍ハ將來猶、一層擴張セラルベキモノナリ。精神的作業ハ諸種疾病ノ原由トナルノミアラス、又、コレニヨリテ疾病ヲ治癒ニ向ハシムルコトアルハ、吾人ノ古來經驗スルコトナリ。作業ハ直接身體ニ作用シテ、ソノ不快ナル感覺ヲ抑壓スルモノニアラザレドモ、ソガ精神的苦痛ヲ緩解シ、苦痛ナル觀念ヲ漸次ニ記憶外ニ驅逐シ、ソノ反映トシテ肉體上ニ有利ノ影響ヲ與フルコトヲ得ルモノナルハ確實ナリ。亦、極端ナル閑散ハ、極端ナル繁忙ト同一匹類ナリト看做サルルコト多キモ、ソノ實閑散ノ害毒ハ、繁忙ノ害毒ヨリモ著シク大ナルベシ。吾人ノ精神ハ必、一定ノ作業ヲ要求スルモノナリ。職業モナク又、娛樂モナキトキニハ、ソノ人ノ注意ハ自己ノ肉體ノ狀況ニノミ傾瀉セラレテ、コノ心狀ハ常ニソノ人ノ思考ヲ左右スベシ。フリーゼ⁽⁵⁾氏ノ言ニ曰ク「貧苦ノタメニ勞働スルモノガ、上流社會ノモノヨリモ疾ニ罹ルコト少ナキハ、抑、何ニ由來スルカ。コレ勞働者ハ疾病ニ罹ル餘暇ヲ有セズ。疾病中

- (1) Beschäftigungstherapie
- (2) Griesinger
- (3) Forel
- (4) Moebius

(5) Hufeland

ニハ彼等ノ身體ヲ通過シ去ルモノ少ナカラズ。彼等ハソノ勞働中ニハ疾病ヲ忘失スルガ故ニ遂ニコレニ打ち勝ツナリ。閑散ナルモノハコレト相異シ、感情ニ征セラレテ感情ヲ助長シコレニヨツテ却テ益、疾病ノ芽萌ニ培フガ故ニナリト。

(二) 此處ニ作業ト稱スルハ唯、身體諸器官ノ生理的活動ヲ云フニハ非ズシテ、明瞭ナル目的ヲ以テ意識ノ命ズルコロニヨリテ精神的ニ活動スルコトヲ云フナリ。規則的ノ作業ハ病人ニ種種ノ利益ヲ與フルモノナリ。大抵ノ病人ニ於テハ、罹病ノタメニ自我主義ノ印象ヲ受容スルコト著シク亢進シ居ルモノナレドモ、コレニ作業療法ヲ施ストキハ、自我主義以外ノ印象ヲモ亦、精神内ニ受容スルコトナリ、從來ハ一定ノ觀念團アリテソノ病ヲ誘發シ、又、絶エズ病人ノ意識ヲ動搖セシメタルモ、作業ニ興味ヲ生ズルヤ、漸漸彼ノ觀念團ハ意識外ニ驅逐セラレ、コレマテ深ク隠レ居タル精神の潛勢力ハ頓ニ活動ヲ開始シ、病人ヲシテ從來ノ受働的生活ヲ脱シテ能働的生活ニ入ラシメ、タメニ病人ノ自信力ト意志力トヲ強メコレニヨリテ病症ノ輕快ヲ促スコトアリ、慢性ノ病人ニ於テモ尋常ノ感情ヤ觀念ノ漸漸ニ興發スルニヨリテ、意志ノ沈滞シタルハ尋常ニ復ヘリ、物事ニ對スル興味次第起リテ、自、思ヒ付キテ何事カ試作セントスルニ至ルモノナリ。作業ハ此ノ如クシテ心身ヲ修養シテコレヲ鎮定シ馴致スルニヨリテ病人ノ態度ハ安靜トナリ、ソノ舉止ハ整齊トナリ、催眠劑ノ需要モ少ナクナリ、動作ノ促進止ミ、病的ノ驅動鎮マリ、種種ノ病的動機、病的傾向ソノ跡ヲ絶ツ他、作業ハ又、心身ノ練習トナリ、コレヲ強健ニスルノミナラズ、精神ノ煩擾不安ヲ將來スル觀念ヤ衝動ヲ他方ヘ誘轉スルガタメニ關係腦部ヲ休養セシムルノ方便トナル(病人ガ何事モナスナクレバソノ觀念欲向ハ強迫的又、自動的ニ經過シテ休養ヲナスコトナシ)。恢復期ノ病人ニアリテハ、ソノ尋常生活ニ復歸スルコトヲ速カニスベク、作業力ノ恢復ノ困難ナル場合ニアリテハ、コレニヨリテ適當ナル準備練習ヲナスコトヲ得ベキナリ。猶、又、病人ガ作業ニ關シ又、ソノ成績ニ對シテ満足スルコトハ、決シテ尠淺ナラザル治效ノアルモノニシテ、コレニヨツテ、病人ヲシテソノ運命ニ満足セシメ、疾病ノ徒ニ恐ルベキニアラザルコトヲ自覺セシメ、遂ニハコレニ

連レテ身體上ニモ有利ナルベキ心情ヲ生ズルモノナリ。加之、病人ニヨリテハ作業ニヨリテ我家ノ經濟狀態ヲ改善スルノ利益モアリトス。且、又、作業療法ニ於テハ、醫師ノ人格ハ病人ニ對シテ掩蔽サルモノニシテ、病人ニ作業療法ヲ課スルトキハ、コレヲシテソノ病患ヲ離脱スルト同時ニ醫師ノ監視ヨリ離脱スルノ思アラシムルモノニシテ、コレハ病氣ニヨリテハ少ナカラザル效益ヲナスモノナリ。神經系病ナドニ於テ殊ニ然リトス。コノ療法ヲ施スニハ他ノ精神療法ヲ施スト異ナリテ、醫師ノ絶エズ病人ニ臨接スルヲ要セザルコトハ、又、ソノ效能ノ長續キスル所以ナリ。然レドモ醫師ハ病人ニ作業療法ヲ課シタル以上病人ノ勞作スルニ心ヲ傾ケカク盡クサザルベカラズ。ヨク作業ノ種性、分量、時間上ノ配分ヲ監督シ、又、ソノ組織者トナリ、批評家トナリ、傍觀者トナリ、同作者トナリ、何ニシテモコレニ興味ヲ置キテ心ヲ盡スコトハ、治效上最、有利ナリトス。作業療法ハ諸種ノ神經病者、精神病者ニ應用シテ治療上ノ效果ヲ齎ラスコト少ナカラズ。コノ種ノ諸病院ニハ近時盛ニ流行シツアリ。皆、各、種種ノ作業場ヲ設ケテ適宜病人ヲシテ就業セシメ居ルナリ。幻覺ナドニ對シテモ作業ハ有效ニシテ無教育ノ人人ナドニハ、身體的業作ニ附屬スル視覺、觸覺、運動ノ感覺ヲ以テ幻覺ヲ限制スルニ足リ、妄想性ノ病症ニ於テモ作業ハ妄想ノ發長ヲ遮ギリソノ系統的編成ヲ控ヘ、或ハ寬解狀態ヲ將來スルコトアリ、不眠ニ對シテハ作業療法ハ甚、效益アリ醫師多數ハ不眠トサヘ云ヘバ、直ニ催眠劑ヲ與フルモ、催眠劑ハ皆、無毒ニアラズ、長ク連用スベカラザルモノ故、ナルベクハ、不眠ノ原因ヲ尋テコレヲ除クコトヲ謀ルベシ、チーヘン氏ハ作業ヲ臨臥前四時間十分ニ課スルヲ稱揚シ、晩食後十五分間徐ニ精神業作、五分間休息(横臥)、十五分間徐ニ精神業作、五分間體操(意ヲ開キ)、五分間休息、十五分間徐ニ精神業作、五分間休息等時間割ヲ示セルガ、ソノ課業ハ感シ強キモノ、感動的ノモノヲ避クベシ、又、新シキモノ交換性ノモノヲ避クベシ、教育アル人ニハ適度ノ翻譯抄録、描畫等ヲ可トス、重症ニハ作業時間ヲ日間ニ延長スベシト云ヘリ。病人ニヨリテ完全ノ安靜ヲ要シ又、十分ノ運動ヲ要スルハ勿論ナリ。

(三)病人ノ中ニハ、平素ノ職業ヲ廢スルヲ甚ダシキ不幸ト感ジ、職業ナシニ生涯ヲ送ルヲ痛マシク覺ユルモノ多ク、又、職業ノ全廢ヲ豫期シ、コレニヨリテ安逸トナルヲ喜ブガ如キモノナキニアラズ。生計ノ資源タル職業ヲ全廢セシムルコトハ、當然止ムラ得ザル理由ノ存スルニアラザレバコレヲ強フベキニアラズ。何トナレバコレガタメニ病人ハ、多大ノ打撃ヲ被リ、或程度マデ職業ヲ執ラシムルヨリモ遙ニ有害ナル結果ヲ來スコトアレバナリ。上流社會ノモノニシテ虛榮ニ富ムカ、義務上ノ觀念強キカ、或ハ職業ニ對スル興味ノ多キカノタメニ職業ヲ廢スルノ意志ナキモノアリ。婦人ニシテ愛兒ノ安危ニ對スル心配ノタメニ、疾病ニ罹リテモ職業ヲ廢スルノ意志ナキモノアリ。此ノ如キ病人ニ於テハ、治療ノ目的ノタメニ業ヲ廢セシムルハ反テ不可ナリトス。心氣性素質ヲ有スル病人ニ於テハ、又、稼業ヲ廢スルトキニハソレガタメニソノ注意ヲ專ラ自己ノ健康狀態ニ向ケ、ワケモナキ病狀ニ氣ヲ腐ラシ不安ニナリ、煩惱スル故、廢業ニヨリテ安靜ヲ求メントシテ、却テソノ害ヲ受クルモノナリ。吾人ハ病人個個ニヨリテ業務ヲ廢止スルノ利益トコレニ伴フ損害トヲ考量シテ治療ノ方針ヲ定メザルベカラズ。外傷性神經症ニ於テ外傷ノ治癒後ニ機能障礙ヲ殘スナラバ大抵ハ(外傷ノ治癒後)速ニ職業ヲ求メシムベシ。然ルトキハソノ災害ハ職務能力ヲ減殺スルコトナシトノ觀念ヲ抱カシムルノ利アリ。同ジ神經症ニテ外傷治癒後ノ苦痛惱患ハ精神的發生ノモノニアラズ、又ハコレヲ主トセズト知リタルトキハ、先、適當ナル精神療法、肉體療法ヲ試ミル他、病人ヲシテ、相當ナル輕易ノ職務ヲ求メテコレニ就カシムベク、斯クスレバソノ病症ノ輕快セザルマデモ病人ハ猥ニ常ニ自己ノ容態ニミ腐心シテ高度ノヒポコンドリーニ陥ルガ如キコトナカルベシ。

職業中ニアル強迫觀念ヲ起スコトアリ。此ノ如キ場合ニハソノ職務ヲ一時中絶スルニヨリテソノ症ヲ治スルコトヲ得ベシ。

(四)作業療法ヲ行フニ方リテ吾人ノ最、困難ヲ感ズルコトハ、作業能力ハ病人個個ニツキ、時時刻刻ニ變化スルモノナレバコレヲ顧慮シテ常ニ適當ナル程度ノ作業ヲ課スルコトナリ。病人ニヨリテハ過激ノ肉體的勞働ニハ適セザルモ、輕度ノ作

業ニハ克ク堪ユルモノアリ。此ノ如キ病人ニ適當ナル作業ヲ選擇スルハ甚、困難ナリ。加之、業ヲ選ブノ困難ナルハ、若、コレヲ誤レバ病人ヲシテ物質的貧困ニ陥ラシムルノミナラス、コレヲ心氣性抑鬱ニモ陥イレ、ソノ病狀ヲ増悪シ、作業能力ヲ著シク減弱スルガ故ナリ。

ソノ業務ハ病人ニ適セザルベカラズ、ソノ病人ハ業務ニ適セザルベカラズ。業務ノ選擇ハ治療病院ニ於テハ病院ノ庶務及ビ經濟上ノ需要ヨリ出テ、コレニ病人ヲ配當スルハソノ業作能力(智力、體力)、健康状態、治療上ノ目的ヨリスルナリ。病人ノ就業ハ醫師ト看護人トニテヨクコレヲ指導シ、コレヲ守視シ、然カモ病人ヲシテ守視監督ヲ受クルニ氣付カシメザル様スルコト肝要ナリ。看護人ハ病人トモニ業作ニ就ク。作業療法ハコレヲ施スニ時間ヲ調整スルノ必要アリ。躁鬱病ナドニテ躁状態ニテモ鬱状態ニテモ激越ノ高度ナルモノニハ、時間表ヲ作ツテ作業ヲ課スベク、ソノ時間表ハ各個人ニヨリテコレヲ定ムベシ。神經衰弱症ニモ疲勞性モタルコトナレバ然カスベシ、ヒステリー病者モ同様ナリ。

(五)作業ノ種類。 作業ハ餘リ骨折ルルヲ避ケ、衛生上害毒ノ少ナキヲ選ブベシ。身體健剛ニシテ餘リ鋭敏ナラザル病人ハ力業、汚レル業ニ從事シテ背ニ汗スルモヨシ。慢性ノ病人(神經衰弱)ナドニハ業作ヲ時時取替ヘルモヨシ。ヒステリー病者ハソノ感情状態ヨリ常ニハセザル業作ニ最、興味ヲ生ツテ心氣移導ノ效多キナリ。一般ニ成績ノ見易キ業作病病人ニ興味ヲ誘キ出スモノ故適好ナリ。概シテ言ヘバ、屋内作業ヨリモ戶外作業ヲ有效ナリトス。食欲、心機、呼吸ヲ整ヘテ睡眠ヲヨクシ代謝ヲ盛ニス。室内ノ終始無變化ナル生活ヨリモ野ニ出テ園ニ出テ境場ノ一新スルヨリ心ヲ樂マシ氣ヲ興スコト多キモノナリ。

作業ノ種類ハ病人ノ個性ニ鑑ミテ選ブベシ。ヨク心身ヲ興發シテ、而モ疲勞セシメザル程度ノモノヲ可トス。愉快ナル讀本、簡淨ナル教科書籍、遊戯、音樂、手工及ビ勞作等コレニ適ス。耕作モヨシ、園藝モヨシ、豚ヲ畜ヒ鶏ヲ飼フモヨシ、通路ヲ

(1) Grohmann.

第三圖
耕作(集鴨病院)

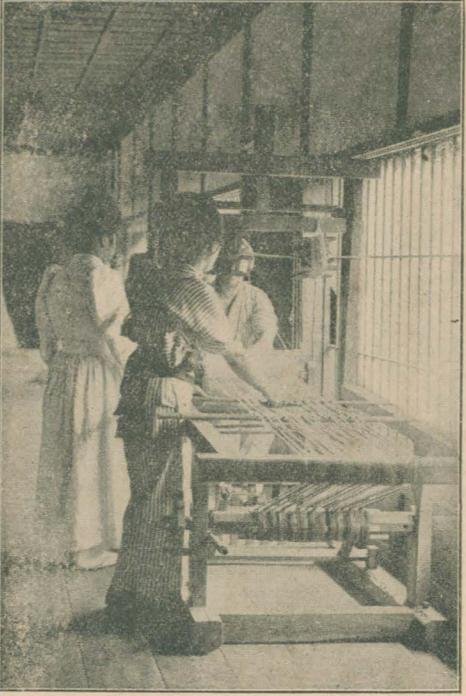


掃除シ、諸物ヲ運搬スルモヨク、裁縫・製本・製靴・錠前・大工・左官・指物ナドノ工場ヲ作り各コレニ入ツテ仕事ヲナサシ

メ、婦人ハ又、専、家事ヲ扱ハシム。炊爨・洗濯・野菜ノ洗滌・皮ムキ・足袋縫・編物・皴ノシツギアテ・裁縫、色色ノコトヲナサシムベシ。作業ニ從事スルモノハソノ待遇ヲヨクシ、多ク娛樂ニ就カセ、外出遊歩ヲ許シ、食物・衣服・小道具ヲ授ケ、賃錢ヲ給與スベシ。鬱憂状態ニハ、ソノ思考制止ノ狀況ヲ察シテナルベク、輕易ナル作業ヲ課シ、作業量ヲ低ク見積ルベク、病人ノ智力モ參考スベシ。躁状態ニハ病人ノ注意ヲ吸收スル様ノ作業ヲ擇フベシ。グローマン氏曰ク『作業ヲナスニハ都會ノ誘惑ヨリ遠ザカルベシ。精神能力ニ適應シ易キ様ノモノヲ以テ最、良キモノトス』。コレ等ノ作業ハ、コレヲ大別シテ、(一)筋肉ノ勤勞ヲ要スル生産的作業、(二)生産的ナラザル

筋肉作業、(三)精神的作業ノ三種トナスラ得ベシ。

(い)筋肉ノ勤勞ヲ要スル生産的作業トハ園藝・手工藝・勞役ノ或種類等ヲ云ヒ。コレヲ行フニハ工場・園圃及ビソレゾレノ授業師等ヲ要スルガ故ニ、病院等ノ如ク設備ノ完全セルトコロニアラザレバ、コレヲ行フコト能ハズ。病人ニヨリテ平生ノ職業ヲ制限スルカ、若クハコレヲ全廢スベキモ、絶對ニ安靜ナルヲ要セザルモノニハ、何等カ他ノ作業ヲ課スルヲ必要トス。コノ場合作業ヲ選擇スルニハ病氣ノ種類・病人ノ體力・職務・地位・傾好・習慣等ニヨリテコレヲ斟酌スベク。コレニヨツテ病人ニ適當ナル作業ヲ選ブコトハ左



第 四 圖
機 織 (院 病 鴨 巢)

程困難ナラザルモ、亦、甚、困難ナルコトモアリ。コノ作業療法ハ神經的虛脫症ノ實際アル病人ノ他、何人ニモコレヲ用フベシ。癲癇患者・神經衰弱者・ヒステリー患者・躁鬱病ノ間歇状態ノモノナドニハ、特ニ有效ナリ。園藝ハ年若キ神經病者、精神病者ニシテ缺陷少ナキモノ、酒客

ナドニ適シ、ヒステリー・ヒポコンドリーノ人ニモヨシ。強迫觀念又、煩悶性神經症ノ病人ニモ可ナリ。強迫觀念等ノ病人ニハナルベクソノ意志ヲ擧ゲテ他ノ方面ニ傾注シ、病的觀念ニハ注意ヲ向ケ得ザルガ如キ作業ヲ執ラシムベシ。スベテコレ等ノ病人ニコノ方法ヲ取ラシムルコトハ、ソノ初ハ甚、困難ナレドモ、徐徐ニ反復シテ習ヲ積ムトキハ、漸次容易トナルナリ。神經病者ニハ作業ノ技術乏シキモノアレドモ時間表ヲ作り、時ヲ切リテ練習サスレバ、ソノ技能ニ達スルモノナリ。色情的刺戟症ニ

(t) Schürbier's Zimmergymnastik

テ色情亢盛シ、遺精アリ、早漏アルモノノ如キハ、ソノ思考ヲ色慾ニ向ケズ、他性ナル親族ト親クセス、讀書見物モ制限シテ兼テ作業ヲナスコト須要ナリ。ソノ作業ハ精神的ノモノハ宜カラズ。

(ろ)不生産的の身體作業トハ遊戯ナドヲ稱スルナリ。遊戯ノ價值ハ現今ニ於テ著シク誇張セラルレドモ、コレヲ行ハシムルニ當リテハ、病人ノ精神能力ノ質及ビ量ヲ顧慮セザルベカラズ。事情ノ許ス限リハ野外ニ出動シ、自然ヲ樂シミ親ムガ如キモノヲ選擇スベク、庭球・クリケット・狩獵・礦物採取・漕艇・乘馬・遠足・自轉車等ヲ可トス。自動車乗廻モ優柔不斷ナル神經衰弱者ナドニヨシト云フ。散歩ハ體力ノ十分ナラザルモノニ課スベキモノナレドモ、コレニヨル精神ノ移導ハ左シタルモノニアラズ。ヒポコンドリー病者ナドハ足ヲ運ビナガラモ自、憂悶シ己マスモノナリ。(慰藉療法三二八〇頁ヲ參照セヨ)コレニ比フレバ室内體操ニハ著シキ效果アリ(シュライベル氏ノ室内體操 鐵亞鉛練習體操等)。

以上身體作業ハ何レモ腦皮質ノ機能的充血ヲ去リ、又、神經系統内ノ資力ヲ消費シテ、精神中樞ノ過度ニ興奮スルコトヲ制肘スルモノナルガ故ニ、病人ノ體力ニ適應シテ、コレヲ施セバ精神中樞ノ刺戟性興奮ヲ鎮定スルノ效アルモノナリ。系統的ノ肉體的作業ハ、意志ヲ強固ニシテ、自信力ヲ強メ、病人ヲシテ、自己ノ身體的能力ヲ悉知セシメ以テ自分ノ身體状態ノ優良ヲ認ムルノ根據ヲ作ルモノナリ(精神練習法四五六頁ヲ參照セヨ)。

(ハ)精神作業。コレヲ教育ナキ勞働者ニ課スルコト勿論不可ナリ。相當ノ教育アルモノニシテ勞役ニ堪ユルトキハ、肉體竝ニ精神ヲ使役スルコト竝ニ兩者ヲ交互ニ勞役スルコトヲ要ス。精神的作業ハ、病人ノ注意ヲ移導スル點ニ於テハ、遙ニ肉體的作業ニ優ルモノナレドモ、ソノ作業ニ對スル満足ガ、神經系統ニ好影響ヲ與フルコトハ、肉體作業(殊ニ適當ナル體操ナド)ガ直接ニ快感ヲ起スガ如キコト能ハズ。精神作業ハ、精神中樞ノ興奮性ヲ上進セシメ、一定時間ノ興奮期ヲ招キ、遂ニ精神ノ疲勞ヲ來タスモノニシテ、精神作業過度ナルトキハ精神中樞ノ興奮性ヲ増進シ、ソノ興奮状態ヲ喚起

- (1) Grimand de la Caux
- (2) Martin St. Auge
- (3) Mosso

シテ、睡眠ノ不足、精神ノ不安、高度ノ感動、強迫觀念等ヲ招致スルモノナルガコレヲ救治スルニハ、肉體的作業ヲ適當ニ應用スベシ。過度ノ性慾的興奮ノ如キハ、強劇ナル筋肉作用ニヨリモ寧、強烈ナル精神の緊張ニヨリテ、確實ニ鎮定セラルルモノニシテ、佛蘭西ノ學者殊ニグリマン、ド、ラ、コー氏⁽¹⁾及ビマルタン、セインタンジウ氏⁽²⁾等ハコノ症ヲ救治センガタメニ數學ノ練習ヲ推奨セルガ、モ、ツソー氏⁽³⁾等ハコレヲ非トシテ、精神ノ過勞ハ、性慾ヲ鎮壓セズシテ反テ、コレヲ興奮セシムルモノナリト説ケリ。神經衰弱症ニシテ手淫スルモノニハ、ソノ神經衰弱ヲ増劇シ遺精漏精ヲ甚クスルコトアリ。麻痺ヲ有スル脊髓病者ハ、文書ノ業ヲ執ルニ差支ナキヲ以テ、可成コノ種ノ作業ヲ採ラシムベシ、然ルトキハ病人ヲ慰安スルコト甚、著明ナリ。腦病者ニハ作業ヲ勸ムベキモ精神の作業ニハ堪ヘザルヲ以テ、コノ種ノ作業或ハ腦力ヲ要スル娛樂等ヲ禁ジ、コレヲ野外ニ住居セシメテ、自然ノ愉快ナル印象ヲ與フルヲ可トス。

精神の作業ニツイテ注意スベキコトハ、ソノ病狀ノタメニ職業ヲ廢セザルベカラザルモノニハ著シキ精神勞役ハ餘リ好マシカラザルコト、精神作業トシテハ變化ノアリ且、平素ノ職業トハ遠ザカリタルモノヲ良トスルコトコレナリ。サレバ此ノ如キ精神作業トシテハ病人ガ平生嘗テ興味ヲ以テ經驗シタル副業、ダトヘバ、園藝、寫真蒐集、語學研究等ヲ有利ナリトス。

(六)精神の作業ハ又、コレヲ成産的作業⁽⁴⁾、不成産的作業⁽⁵⁾、受容的作業⁽⁶⁾ノ三種ニ區別ス成産的作業トシテ第一ハ風景ノ撮影(寫真)ナリ。コハ視覺的印象ノ能力ヲ整ヘ、又、注意傾瀉力ヲ長ズルモノナリ。ソノ他製圖、繪畫、粘土ノ造型又ハ木彫等アリ。文筆ノ方ニテハ文書ノ謄寫、自傳ノ著作ナド最、善シ。筆ヲ執リテ意中ヲ紙上ニ吐出スルトキニハ、從來錯亂シタル思路モ大ニ開駁スルモノナリ。不成産的作業トシテ舉グベキハ、讀書、作文、習字、計算、植物學の檢索、顯微鏡的檢査、音樂彈奏等ナリ。病人自、注意ノ傾瀉ヲ不能ト感ジ、又ハ獨立シテ精神業務ヲ成スコト叶ハズト信ズル場合ニハ、何カ或事柄或品物ヲ精細ニ記述セシメ、又ハ或理論の問題ヲ提出シテ、コレヲ解説セシムル如キハ甚、

- (4) Produktive Arbeit
- (5) Unproduktve Arbeit
- (6) Receptive Arbeit

- (1) Mohr
- (2) Oppenheim
- (3) Rosenbach

宜シ。モール氏⁽¹⁾ハ何カ矛盾ノアル事柄ヲ提説シテ病人ニコレニ關スル意見ヲ記シテ出サシメ、治療的交話ニ引續キテ病人ニソノ世界觀、人世觀ヲ尋テ又ハ或書物ノコトヲ話シテ意見ヲ筆紙ニ呈露セシムルヲ常トセリ。病人ノ意見ヲ呈出シタルトキハ稱揚スベキハ十分ニ稱揚スベク、誤謬ノ指摘等モ餘リニ遠慮スルニ及バズ。ヲ、ツペンハイム氏⁽²⁾ハ病人トノ交通ニ口上ニテハ及バザル治效アルヲ認メローゼンバ、ツハ氏⁽³⁾ハ意志ノ薄弱ナル人ニハ計算的業作ノ有效ナルヲ認メタリ。讀書ニ就キテ注意スベキコト音樂ノコトハ次ニ述フルコト(二八二頁)ヲ參照セヨ。

乙 遣散療法(鬱散療法)⁽⁴⁾

(一)精神の作業療法ノ一方トシテ受容性作業ト名ヅクベキモノアリ。即、講話ヲ聽キ、影像圖畫ヲ鑑賞スルガ如キハ、自作業スルニアラズシテ、他人ノ作業ヲ引受クテコレニ就キテ、精神ヲ働カスモノナリ。講話ノ題目、讀物ノ種類、美術品ノ品種等固ヨリ相當ノ選擇ヲ加ヘザルベカラズ。概シテ感情的・空想的ノモノヨリモ現實的・理性的ノモノヲ可トシ、殊ニ輕キ諷刺的・滑稽的ナル材料ヲ交フルヲ善シトス。道學的ノ講話、歴史的ノ説述ニシテ輕快ナルモノナラバコレニ適シ、通俗講談ナドノ中ニモコレニ適當ナルモノ多シ。病人ニ音樂ノ素養アル場合ハ、名作家ノ莊重清諄ナル曲目ヲ擇ミテ治療上ニ應用スルヲ要ス。コレ等ノ處置ハ所謂遣散療法(鬱散療法)ニ算入スベキモノナリ。

遣散ハコレヲ作業ト明ニ區別スルコト能ハザルモ、綜概シテ言ヘバ作業ハ精神ヲ誘導スルト同時ニ稽古習練ヲ求メルモノニシテ、遣散ハ純粹ナル精神誘導法ナリ(娛樂ノ中ニテモ戶外遊戯ナドハ練習鍛磨ヲ要ス)。而シテ遣散ニハ又、病人ノ病症ニ關スル觀念ヲ他ニ移誘スルノ他ニソノ方法ニ對スル精神の嗜好ニヨリテ病人ノ情緒ヲ幸良ニシ、腦髓ノ過勞疲

體ヲ恢復セシムルノ作用アリ(一部分ハ感動療法トナル)。此ノ如キ有利ナル影響ヲ得ルニハ二個ノ條件ヲ必要トス。ソノ一ニハ鬱散ノ方法ガ甚ク病人ノ注意ヲ惹キ、興味ヲ喚起スルコトニシテ、又、一ハソノ種類、持續ガ病人ノ神經能力ニ適合スルコトナリ。此ノ如キハコレヲ慰藉療法ト稱フ。

鬱散ノ方法トシテハ、首トシテ讀書ヲ擧ゲザルベカラズ。

(二)讀書ノ精神療法的價值ハ、嘗テ醫界ノ承認セザルトコロナリ。シデンハム氏⁽¹⁾ハ「良好ナル書物ハ十百ノ醫藥ニ勝ル」コトヲ主張セシガ、コレハ又、極端ナル讀書萬能ノ說ナルモ、實際ニ然ル場合モアリ。醫師ニシテヨク書物ノコトニ明ルキ以上、良書ヲ擇ンテコレヲ病人ニ授クルハ最、然ルベキコトナリ。教育アルモノニハ、醫書ニアラザル限り、ソノ嗜好ト理解力トノ如何ニヨリテ自由ニ讀書スルコトヲ許スベキモ、病人ガ病症ニ不良ノ影響アル書籍(タトヘバ興奮性ノ内容ナル小説又ハ脚本)ヲ好ムガ如キ場合ニハ、コレヲ讀ムコトヲ禁セザルベカラズ。興奮性ノ病人ハ、コノ種ノ讀書殊ニ夜間ノ耽讀ニヨリテ、頭腦ヲ刺戟セラレ、書籍ノ内容ヲ忘レズ、夜半ニ至ルモコレヲ夢ニマデ見テ睡眠ヲ妨ゲラルルモノナリ。繪入雜誌ヲ與ヘテ病人ヲシテ繪丈ヲ見、又、ソノ内ノ一部分ヲ讀マシムルモヨシ。又、醫師ハ讀物ヲ監督シテ、病人ノ疲勞セザル様ニ、讀物ノ難易ト讀ム時間ノ長短トヲ節制スベシ。近來ハ通俗醫書ガ著シク世間ニ歡迎セラルルモコレハ吾人ノ一考ヲ要スルコトナリ。コレ等ノ書籍ハ大抵毫モ病人ニ利スルトコロナクシテ却テ大害ヲナスモノナリ。此ノ如キハ自然療法・家庭療法ナドヲ書キ充ツルモノ多數ナルガ故ナリ。猶、又、ソノ弊害ハ通俗醫書ノミニ限ラズ、新聞・雜誌・公開演說等モ此ノ如キ弊害ヲ傳フルコト多キモノナリ。専門ノ醫學書モ世人ノコレヲ誦讀スルハ宜シカラズ。吾人ハソノ害ヲ說キテヨクコレヲ警戒セザルベカラズ。心氣性患者ハ、殊ニ醫學的知識ヲ得ント欲望スルモノナレドモ、コノ種ノ病人ニハ總テ醫學ニ關スル智識ヲ供給スルガ如キ書物ヲ嚴禁セザルベカラズ。近來ノ著作中ニハ遺傳ノ恐ルベキコト、又ハ變質ノ忌ムベキコト等ニツキテ、半可通ノ說ヲ述

(1) Sydenham

ベ立テ吾人ヲシテ首肯シ難カラシムルガ如キモノアリ。コレ等ハ素因アル病人ニハ色色ノ害ヲ醸スモノナリ。幾分カ心情不安ナル病人ニハ、疾病ノ徵候・經過及ビ轉歸ニツキテ說キタルガ如キ書籍ノ購讀ヲ許可スベカラズ。性慾ニ興奮シ易キ病人殊ニ青年ニハ西鶴・春水等ノ如キ色情ヲ直接刺戟スルガ如キ内容豊殷ナル書籍ヲ與フベカラズ。殊ニ近來ノ自然トカ何トカ云フ淫靡ナル情史ヲ直露スル著作ノ中ニハ異常性慾ヲ挑發セントスル如キモノ少ナカラズ。コレ等ハコレヲ讀ムコトヲ許スベカラズ。感情ノ尋常ナル病人ニハ詩・歌・文章・歴史・地理・政治又ハ萬有學ニ關スル書物・新聞又ハ雜誌ノ中ニテモ眞面目ナルモノヲ授クルヲ可トス。唐宋ノ古文詩、我邦ノ古文學、徳川時代和漢學者ノ家集ノ如キハ智識ノ開發ト共ニ感情ヲ高尚ニスルノ效アルベキナリ。婦人ニハ和文ノモノハ讀ミ易クシテ又、清ク平ナル故適當ナルベシ。田宮尙施氏ハ「詩歌ハ鄙俗無學ニシテ讀書ニ懶キ徒ニ益アリ」駿臺雜誌ニヨキ詩歌ヲ朗吟シテ熱懷ヲ舒暢スベク、鬱情ヲ宣通スベキコト見エタリ、コレ亦、醫治ノ一端也ト云ヒテコレニ適シタル詩歌ノ數首ヲ擧ゲタリ施治肇要。但、抑鬱性又ハヒポコンドリー性ノ病人ニハ眞面目ノ讀物ノミナラズ内容ノ滑稽ナルモノヲ授ケテコレヲ利用スルヲ可トス。此ノ如キ書籍ハ、著大ナル鬱散力ヲ有スルノミナラズ、コレヲ嗜ミ味フニヨリテ、讀ミ終リタル後マデモ病人ノ情緒ニ善良ナル影響ヲ與フルノ利益アリ。此ノ如キ滑稽味ヲ帶フル書籍ハ、治療上有益ナレドモ、三馬一九以下劣情又ハ賤行ト交渉ナキモノノ少ナキハ遺憾ナリ。折角ノ滑稽モ此ノ如クニテハ婦人及ビ色情ニ興奮シ安キ青年ニハ不適當ナリ。精神異常ノ人殊ニ興奮性ノモノニハ素直ナヤサシキ面白キ讀物ヲ與フベシ。妄想ナドノアル病人ニハ地理紀行ノ如キモノヲ可トス。餘リ興ヲ引ク小説、殊ニ探偵物、戀愛物ハ何病ニモ惡シシ。刑事小説ハ年少者・癡愚者・變質者ナドニハヨロシカラズ、ソノタメニ反社會的所行ヲ敢テスルニ至ル。漸次恢復シテ長キ續キ物ヲ讀ムモ疲勞セズ、スラスラト意味ヲ酌ミ得ル様ニナレバ、文學上、道德上ニ批難ナキ稗史・傳記ナドヲ讀マスモ可ナリ。

(三) 觀劇聽樂。同様に好箇ノ鬱散手段ナリ、音樂ハ感情ニ好影響ヲ與へ、病人ヲ慰安シ爽快ニシ、何か嗜ミアル人ニハ最、適當ナリ。演劇ニテハ悲慘ニシテ面ヲ向ケ得ヌ程ノモノ、又ハ神經病者精神病者ヲ主人公トスル如キモノハ其種ノ病人ニハ適當セズ。感情抑鬱ナルモノニハ移氣ノ方法トナリ爽快ヲ覺エシムルハ却テ喜劇ノ方ナリ。諸謔ヲ帶アルモノハ眞面目ノ劇ニ優リ、悲劇ハ又却テ抑鬱ヲ増スモノナリ。音樂ノ嗜ミアル人ニハ劇ノ内容ヨリモノノ曲自身ガ興味ヲ引クナリ。病人ノ多數ハ臺詞ヲ聽取スルコトサへ精神ヲ過勞セシムルナリ。スベテ音曲ニ關スルモノニ就キテハ聽覺ニヨル神經過敏ヲ招クコトナキヤ如何ヲ考ヘザルベカラズ。數段ノ演戲、繁般ナル樂劇ハ神經衰弱者ニハヨロシカラズ。ソノ種類ト時間的持續トニ注意ヲ怠ルベカラズ。要之、演劇、音樂會ナドハソノ内容ヲ顧慮シ、コレヲ安リニ推奨スベカラズ。世ニハ往往音樂ニ没頭スル所謂音樂的強迫觀念ノ病人アリ、此ノ如キモノニハ勿論音樂ニヨル鬱散法ハコレヲ禁ズベシ。蓄音器ナドモヨシ。記念祝祭ナドモ永ク病院ニアツテ常同生活ヲナスモノニハ大ニ遣散ノ效アリ。劇場寄席ナドノ類モ、屢、慰安遣散ノタメニ用ヒラルルモノノ結果多クハ却テ有害ナリ。盛大ナル宴會ノ如キ喧躁ナルモノモコレニ同ジ。

(四) 談話。音樂ト均シク鬱散ノ效アリ。他人ト交話ヲ試ミ、又、交話ヲ求ムルモノアルトキハ、緊急ノ理由ナケレバ、禁止スベカラズ。病人ニヨリテ他人ト交話スルニヨリテ氣ヲ移シ、心ヲ爽ニスルコト宜カラント思ハルルニモ拘ハラズ、他人ト接觸スルコトヲ好マヌモノアリ。コノ場合ニハコレニ氣力ヲツケテ抑鬱ヲ脱シ、凄寂ヲ破リ、適當ノ對話者ヲ求メテ、コレニ交ハラシムル様ニスベシ。大抵ノ病人ニハ、話題ト對話者トヲ制限スルノ必要ナシト雖、重病者及ビソノ恢復期ニアルモノ、器質的腦病及ビ神經病(殊ニ惡性ノ腦衰弱)ノモノ等ニアリテハ、コレニ談話ヲ許ストシテモソノ話題及ビ時間ヲ指定スルヲ要ス。ソノ對手ニシテ二三ノ知己又ハ理性ニ富ミ病人ニ同情アリ、且、病人ノ情緒ヲ御スル道ヲ解スルガ如キ人ナラバ、ソノ短時間ノ訪問ハ、甚、佳良ノ影響ヲ與フベキモ、ソノ談話喧噪ナルカ、若クハ永キニ失スルナラバ不慮ノ害毒ヲ齎スコトアリ。人ニヨリテ

ハコレニ接スルタメ病人ガ安靜ト爽安トヲ得ズシテ、ソノ容ヲ見、聲ヲキキシノミニテモ興奮スルコトアリ。又、病人ニヨリテハ、知己親戚ノ訪問ヲ受ケ、コレニ病狀ヲ語ルニヨリテ安意スルモノアレバ、此ノ如キコトハ想ヒ出ツルサへ快トセザルモノアリ。醫師ハ、コレ等ノコトニハ、ソレゾレ適當ノ注意ヲ拂ハザルベカラズ。長時間社交的談話ニ耽ルガ如キハ、或病人ニハ利益ナル影響ヲ與フルコトナキアラザルモ、他ノ場合(タトヘバ、高度ノ腦性衰弱等)ニアリテハ、甚、面白カラザル結果ヲ招クコトアリ。自己ノ趣味トハ沒交渉ナル長キ講談ヲ聽クガ如キハ、病人ノ注意ヲ他ニ移導スルノ效甚、尠キモノナリ。從來繁華雜鬧ナル都會ニ住ミ慣レタル人ニハ喧騒ナル談話、交際、音樂會、演劇觀覽ノ如キモ、精神安靜ノ妨ゲラナサズ、却テ鬱散ノ方法トナルベキモ、從來閑靜ナル土地ニ住居シ平和ナル天地ニ慣レタル人ニハ、右ノ如キ娛樂ハ却テ有害ナル結果ヲ來タスモノナリ。遣散ニヨリテ強迫觀念ヲ去シメントスルニハ、強迫觀念ノ性質趨向ヲ嚴密ニ調査シ、適當ナル娛樂ノ方法ヲ選擇セザルベカラズ。讀書或ハ觀劇等ハ、新強迫觀念ヲ成立セシムルカ、或ハ既存ノモノヲ増惡セシムルノ害アリ。ヒステリー性神經痛及ビ疼痛症ニシテ感動(恐怖・憂慮・艱苦)苦痛ナル追想(今マデ下意識ニアリシ事件)又ハ精神ノ激勞ニ由來スルモノニハ、遣散法又ハ作業法ヲ以テ注意ヲ疼痛ヨリ他ニ移導スルヲ可トシ、相當ノ方法ヲ以テ病人ノ待遇ヲ適當ニ變更セザルベカラズ。鬱病ニハソノ輕度ナルニハ適當ナル娛樂及ビ業務ヲ與ヘテ注意ヲコレニ移導スルハ佳良ノ效應アルベシ。ソノ娛樂遣散ノ種類ヲ選擇スルニハ、病牀ノ狀況、病人ノ習慣嗜好等ヲ根據トセザルベカラズ。

(五) 交際。又ハ遊樂ヲ許スベキ病人ニハ、色色ノ遊戯(骨牌・碁・將棋)ヲモ遣散法ニ用ヒテヨシ。ソノ遊戯時間ハコレ等病人ノ精神能力ニ相當スベク、又、賭事ナドヲシテソノ勝敗ニ感情ヲ激スル様ノコトアルベカラズ。戶外遊戯ナドハ作業トシテ認メテ可ナリ。此ノ如キハ過度ニ疲勞スルマデモコレヲナスベカラズ。ソレガタメニ(催眠ノタメ醫師ガ特ニ指圖セルハ別トシテ)却テ興奮シテ不安ニモナリ、眠ヲ妨ゲラルルコトアリ。要スルニ、遊戯ハ晩食後ニハコレヲ止メ、午後又ハ午前ニコレヲナスベシ。

(六)病院ニ長ク滞在スル病人ニハ生活ノ變化ヲ得サセ、精神ニ異常アルモノニサヘ獨立的行動ノ出來ルヤウニ馴致スルヲ要ス。庭園中ノ散步、遊戯ハ勿論、構外運動モ廣ク云ヘバ、一個ノ遣散療法ナリ。精神病院ニ於テモ病狀ニヨリ一人二人ニテ外出セシメ、看護人ヲ附ケ又ハ附ケズニ外出セシメ、錢ヲ與ヘ又ハ與ヘズニ外出セシメ、外出ノ道程モ病狀ノ如何ニヨツテコレヲ定ムルナリ。

散歩ハ往往神經衰弱者ナドヲシテヒポコンドリーの抑鬱ニ陥ラシムルコトアリ。カカルモノニハ散歩ニ内容ヲ與ヘテ、或ハ植物ヲ採集セシメ、又ハ寫景製圖ヲナサシメ、又ハ散歩中地圖文典ヲ覺ヘシムルヲ可トス。ソノ晩力翌朝必、何ヲ見シカ何ニ遇ヒシカラ問ヒテ答ヘシメ、コレニヨリテ散歩中四周ニ注意スルコトニ習ハシムベシ。散歩ニハ必、目的ヲ立テコレヲ指定スベク、ソノ目的ヲ達スルニ付テ如何ナル方法ヲ選ブトモソハ(病人自、ナスニ任セ)關涉セズ。

(七)旅行モ鬱散ノ方法トシテ用ヒラルルモ重キ神經病精神病ニハ勿論輕キ鬱症ニモソノ效益ハ殆、全クナクシテ不良ノ結果ヲ來スコト多シ。醫者ノ勸メニヨリ、又ハ醫者ノ勸メナクシテ濫リニ旅行ヲナスモノハ鬱憂病者及ビ職業上ノ過勞ニヨル神經衰弱者ナリ。然レドモ神經衰弱者ニシテ精神能力ノ著シク衰ヘタルモノハ旅行ノタメニ過勞シ不安トナリ、新印象ニ接スルコト多ク、又、ソノ間斷ナク變化スルタメニ、神經狀態ハ更ニ益、衰弱ニ陥ルモノナリ。鬱憂病者ハ新印象ニ接スル毎ニ興味ヲ以テコレヲ迎フル能ハズ、又、コレニヨツテ憂鬱ヲ去ルコト能ハズ、却テ益、精神ノ痛苦ヲ加スモノナリ。サレバ憂鬱病者ハ輕症ナルモノ殊ニヒポコンドリー性ナルモノニハ、或ハ旅行ヲ許スベシ。神經病者ニシテ發病後日猶、淺ク腦髓ニ多少ノ機能障礙アルノミニテ、未、全神經系ニ著シク機能衰弱ノアラザルモノニハ、場合ニヨリテ旅行ヲ推奨スベシ。然ラザルモノニハ、却テコレヲ禁ズルヲ可トス。旅行ノ同伴ハソノ適當ナル人ナルトキ、旅行ノ效果ヲ裨益スルコトアルモ、不適當ナル人ナリセバ却テ有害ナリ。ヒポコンドリー性ノ神經衰弱者ニハ旅行モ興味ヲ惹クタメニ轉導的ナルヲ可トス(タトヘバ語學

ヲ覺エ動物ヲ知ルタメニ外國ニ旅行スル如シ)。旅行ノ治療的作用ハ一部分野外ノ風景ニ關係ス。緒方惟勝曰ク『田舎ノ輩、氣質痼症其他痼疾不愈時ハ、醫藥ハ效無シ。佛力ヲ借テ愈サント四國西國ヲ廻リテ其疾愈ルコト多シ。其因七ツアリ。旅行シテ身ヲ運動サスル故。氣血調和スル一也。家ニ居テハ貧富トモニ大小家務ニ心ヲ勞ス家ヲ出テハ此念ナキニ也。家ニ在テハ藥餌ト稱シ美食スレドモ、羈中ハ旅亭ノ調進スルヲ食スニ也。有妻妾ニ男、有丈夫ニ婦、數月不同房、故腎中充滿シ、精力舊日ニ倍スル四也。到處ノ山水ノ眺望ニ胸中ノ鬱氣ヲ散シ、心目ヲ怡バシムル五也。貧民ノ渡世ニ辛苦スルヲ觀テ自分家ニ在ル時ノ歡樂ヲ甘ジテ不足ノ思ヲ斷ズル六也。諸佛垂跡ノ靈場。高僧飛錫ノ山頂ニ登テハ惡念消盡スル七也』ト。海上旅行ナドニテハ海上ノ空氣ノ他ソノ無聊ナルタメニ精神上ニ弛ミラ生ズルコト周圍ノ單調ナルコトモコレニ關係アリ。汽車旅行ノ客舍宿泊等ハ刺戟多クシテ不安ヲ招クノミ。短キ汽車旅行遠足等ハ新印象ノ交換アリトモ、ソハ殆、恐ルルニ足ラズ、天然ノ刺戟ヲ樂ム人ニシテ遠方ノ行動ニ堪ユルモノニハ、ヨキ遣散法トナリ、又、精神的興發法トナリ、後來マデモ好影響ヲ殘スモノナリ。物質的嗜慾ニ傾好アル病人ニハ山川風物ノ清麗ナルハ、ソノ病症ニヨル煩荷ヲ忘失セシムルモノナリ。完全ニ恢復期ニアル病人ニハ閑靜ナル田舎滞在ハ或ハ適宜ナリ。溫泉場治療所等ニ於ケル效果モ亦、ソノ土地ノ風物ト深キ關係アリ。最、自然界ニ對スル趣興ハ、人ニヨリテ各異ナルガ故ニヨクソノ趣興ニ適シタル土地ヲ擇マザレバ所期ノ效果ヲ收ムルコト能ハザルモノナリ。

第六編 教誨療法⁽¹⁾甲 智育的教誨⁽¹⁾

(二)智育的教誨(教育)ハ智育的療法ノ一ナリ。病人ノ觀念思想ノ缺陷ヲ補足スルモノニシテ、ソハ一面ニ於テ病人ノ注意ヲ疾病ヨリ轉ジテコレヲ實益アリ、又、趣味アルモノニ向ケシムルノ方法タリ。又、一面ニ於テ病人ノ精神ニコノ有益有效ナル思想(觀念)ヲ招致スルノ方法タリ。コノ方法ハ慢性ノ病人ニ應用スベクシテ、ソノ症狀ヲ考ヘ個人性ニ從テコレヲ課スルヲ要スルモノニシテ、コレニヨリテ高等ナル智慮的及ビ道德的ノ精神作能ヲ振作スルヲ得ベシ。病人ノ理性ヲ高尚ニシ、ソノ道念ヲ深クシ、ソノ意志ヲ強固ニスルニハ、高邁ナル道理(經學)ヲ示シ卓越ナル前例(歴史)ヲ舉グルヨリヨキハナシ。教育ナキ病人ニハ精神上ノ開發ヲ與フルコトヲ謀リ、ソレニハ初步ノ教育・音樂・歴史等ヲ選アベシ。色色ノモノヲ暗誦サセルモヨシ。ソノ準備トシテハ病人ニ學業ソノ他ノ日課ヲ與フルコトアリ。

抑、精神ノ缺陷ニシテコレヲ補足スベキモノハ生來ノコトアリ、又、後天性ノコトアリ。精神病ノタメニ智力ノ漸次鎮磨スルモノニ就キテモ同様ノ方法ヲ用ヒテソノ智力ノ衰退ヲ防禦スルコトヲ得ベシ。精神ノ發育ノ不全ナルモノニハ特別ナル教育ヲ施スコトヲ要シ、コノ點ニ付テハ精神低格者ハ特ニ注目スベキモノニシテ、教育病理學ナドハコレガタメニ創唱セラレタリ。コハ醫師單獨ニテ遂グルコト能ハズ、教育家ノ助ケヲ藉ルベキコト多キモ、醫師自身ソノ方法ヲ選擇シ監督スルコト是非トモ須要ナリ。チーヘン氏ハ「癡患者ニ教育不可能ナルハナシ、ソノ教育ハ四歳ヨリ初ムベシ」トテ左ノ教誨法ヲ舉ゲタリ。

一、感覺 選擇。室内ノ色、衣服ノ色モ初ニハナルベク單一ニス。スベテ受理スル感覺ハ皆之ニ同ジクス。

二、再識ノ練習。コノ物ヲ知り居ルカ知ラヌカ。

三、運動ノ練習。

四、詞語^{トク}ノ練習、詞語ノ理解ノ練習(物ヲ示シソノ名ヲ言ハシム)。

五、構音ノ練習(長キ文句ヲ云ヒキカセ真似セシム)。

六、聯想ノ練習(或觀念ヲ言ヒキカセコレニ附帶シテ次ノ觀念ヲ云ハシム)。

七、物品ノ觀念ノ再生、彩色・形狀ノ再生。

八、注意ノ練習。覬視、聽取(遠方ヨリ低聲ニ物言フテ聽カシム)探索(物品ヲ匿クシ置キ搜索セシム)。

九、具象的觀念ノ形成。或物ヲ見セ觸レサセ嗅ガセ、コレヲ反復シテソノ物ヲ認識セシム。

一〇、相對的觀念ノ形成。二ツ以上ノ物ニテ同、似、不同、大小、長短ヲ教エ後ニハ強サ、廣サ、分量性質ノ區別ヲ示シ、次ニ數ニ及ブ。

一一、一般的概念又ハ複雑ナル概念ノ形成。

一二、複雑ニシテ感情ヲ帶ビタル概念特ニ倫理的概念ノ形成。賞罰ハ癡患者ニ於テ有益ナル治效ナカラズ。初ニ授クベキハ自分ノ所有ノ觀念、竊盜ノ觀念ナリ。自他ノ物品ヲヨク覺エシメ自分ノ範圍ヲ超越シタル處爲ラ罰ス。

一三、連絡シタル聯想列ノ再生(或歴史ヲ聽カセ後ニコレヲ陳述セシム)。

(二)若、人疾病ノタメニ久シク業務ヲ廢スルナラバソノ精神の作業力ハコレニヨリテ大ニ衰フベシ。此ノ如キモノ再、一定ノ職業又ハ何カノ業務ヲナサントスル場合ニハ、先、系統的智力練習法⁽¹⁾ヲ行ヒテ、ソノ智力ノ減弱シタルヲ恢復セザルベカラズ。官吏・商人・教師等ニシテ永ク少シモ精神の勞作ヲナサザリシモノハ、コノ準備(稽習)ナシニハ十分ニ舊ノ職務ヲ執

(1) Intellektuelle Gymnastik

(1) Die Belehrungstherapie
(1) Die intellektuelle Belehrung

(1) Ideler

行シ得スモノナリ。病後ノ休養(安靜)ハヨク神経系ノ衰頹セラ補ヒテ、ソノ作業力ヲ恢復スルニ與カリテ效果アルベキモ、コレノミニヨリテハ十分作業力ヲ挽回スル能ハザルヲ以テ、再、職業ニ就クニ必要ナル作業力ハコレヲ智力練習法ニ俟タザルベカラズ。ソノ方法トシテハ此ノ如キ際ニハ先、病人現在ノ作業力ニ相應スル課程ヲ與へ、コレヲ故障ナク履修スルコトヲ認メテ、漸次ニ課程ヲ進メテ高尚ナルコト繁錯ナルコトニ就カシムベシ。ソレニハ即、單一ナル講話又ハ讀書ヨリ初テ順次ニ病人ノ智識ト嗜好トニ從ヒテ語學・歴史・地理・職掌的ノ作業等ニ及ビ、又、生産的作業療法トシテ、天然物ノ寫生ヲナサシメ、視覺ノ能力ヲ高進シ、持續的ニ精神ヲ統一シ集中スルコトヲ練習セシム。粘土細工・彫刻ヲナサシメ、日記・敘事文ヲ綴ラシムルガ如キハ病人ノ溷濁セル頭腦ヲ整頓スルノ方便トシテ恰好ナルベシ。此ノ如キ種種ノ方法ニヨリテ階級的ニ程度ヲ高メ、秩序ヲ追ヒテ智力ヲ増進恢復セシムレバソノ人ハ遂ニ一定ノ職業ヲ執ルニ堪フルニ至ルベシ。

(三) 教誨ニ兼テ未來ノ病症(病的行爲)ヲ豫防スルタメニ用ヒラルルハ、賞罰ナリ。賞罰ハソノ追想ニヨリテ後來ヲ警メ又ハ勸ムルニヨリテ一定ノ治效アリ。又、病人ヲ統御スル上ニモ裨益アルモノナリ。ソハ病人ノ觀念ニヨリテ影響ヲナシ得ベキ病症ニ對シテノミ用フベシ。懲戒ハ精神病院ニ於テ嘗テハ盛ニ用ヒラレタルコトアリ。イデレル氏⁽¹⁾ ナドハ身體的懲戒ニヨリテ妄想ヲ驅除セントシタリ。今日ニテサヘ國ニヨリテハ躁暴ナル病人ヲ緊縛シ、又ハ監禁シテ懲戒セントスルコトコアリ。ソレヨリモヨキハ院内整理ノタメトテ外出ヲ禁ジ、副食物ヲ禁ジ、又ハ臥牀ニ就カシムルコトナリ。或ハヒステリー症狀ニモ罰ヲ加フルコトアリト云フ(ヒステリー發作ノ初ラントスルキ感傳電氣ヲカケル)。此ノ如キハ病人ニハ罰ト稱ヘズ、療治トシテコレヲ課スベシ。要スルニ懲罰ハ不快感情ヲ附帶スル追想ニヨリソノ人ノ思想、行爲ニ影響ヲ加ヘントスルナリ。賞與ニ關シテモ亦、同様ニ取扱ヒ又、説明スベキナリ。

賞罰トモニ此ノ如ク粗大ナルモノニ限ラズ。大抵ハ觸覺・味覺ノ如キモノヨリモ、却テ輕キ和キモノヲ用フ。タトヘバ言葉ヲ以

(1) Die religiöse u. philosophische Belehrung

テ訓戒・説諭(警告・脅威)・賞讚・稱揚スルコト(懲罰ノ觀念ヲ以テ懲罰ノ感覺ニ代用ス)、平生通りノ優遇ヲ與ヘザルコト、又ハ常ニナキ特待ヲナスコトナドモ、場合ニヨリ大ニ賞罰ノ意義ヲ重クスルモノナリ。罰ノタメニ定期ノ診視ヲ廢シ從來ノ療法ヲ撤シ、或ハ又、賞トシテ或療法ヲ止メ、構外運動ヲ許シ退院ヲ命ズルナドガ大ニ治效ヲ齎ラスコトモナキアラズ。コレ等療法ガ一部又ハ全部感動的療法ナルコトハ問ハズシテ明白ナリ。

ヒステリーノ如キ興奮甚シク感動ノ盛ナル病症ニハ賞罰ハ或ハソノ病的行爲ニ對シテ有效アラシカト思ハルモ、ソノ傲語・虛言・竊取・他人ノ侮辱・荒淫・飲酒ナドハ病的感動ニ基ツクモノナレバ、罰ノ恐レ賞ノ喜ビナドハ、コレニ對シテ殆、無効ニシテ。却テ作業移導療法ヲ有效トス。賞罰法ハ神經衰弱ニモ用フベク。病人ヲシテ之ニヨリテソノ感情異常ヲ克制スルコトヲ得セシムベキモ。大人ノコトナレバ徒ニ賞罰ヲ加ヘズシテ、之ニ同情ヲ寄せ、或ハ喜ヲ同クシ、又ハ憂ヲ共ニスルコトヲ以テ賞罰ニ充ツベシ。場合ニヨリテハ直接ニ病人ノ缺點ヲ指摘シ、ソノ結果ノ宜カラザルヲ直言スベシ、ヒステリー病者ニ於テモ亦、コレニ似。病人ガ何事ニヨリテカ興奮スルナラバ此ノ如ク自制力ノ乏キハ病氣ノ治癒ヲ晚クシ又、状態ヲ兇惡ニスルコトヲ言ヒ聞カセコレニ報フルニ數日ノ癡臥ヲ以テスルガ如キモ可ナリ。強迫觀念ニモ亦、治效ナカラズ。

乙 宗教的哲學的教誨⁽¹⁾

(二) 宗教ト哲學トハ精神衛生のニ吾人ニ幸良ナル宇宙觀・人生觀ヲ與フルモノナリ。コハ種種ノ疾病ニ於ケル精神状態ニ影響シテソノ病狀ヲ異ニスルコトアルベク、從ツテ又間接ニ疾病ノ經過轉歸ニモ其影響ヲ及ボスコトアルナルベシ。然レドモコレヲ以テ精神病ノ患者ニ臨ンデソノ病的精神ヲ幸良ニ變革セントスルハ、極メテ困難ニシテ皆、無効ナリ。説教ヲ以テ強テ病人ノ興趣ヲ宗教的ニ惹起サントスルハ、無益ノ業ナリ。病人ガ自、望ンデ求ムルトキニハコレニ應用スベキナリ。カクス

レバ鬱憂患者ハ慰藉ト神頼ト健康ノ樂觀トニヨツテ補益ヲ得、意志ノ薄弱ナル恢復者ハ道義ノ要ムルトコロ、義務ノ命ズルトコロニヨリテ救済セラルベク、宗教的信念アル人、哲學的道念アル人ハ、ソノ注意ヲ疾病ノ觀念ヨリコレヲ高深ナル慰安の問題ニ向ケテ、又ハ人生ノ積極觀ニ導クコトヲ得テ、コレニヨツテソノ健康時ノ考慮感情ヲ再提シ來ルコトアリ。唯、徒ニ悲觀的・虛無的ノ思想ヲ抱ク人ニ對シテハ、コノ方法ハ他ノ精神療法ト同ク殆、全クソノ效ヲ奏セズ。此ノ如キ人ニハ生命・事業・名譽皆、コレ空ナリ僞ナルガ故ニ、コレ等ヲ提擲シテソノ觀想ヲ換フルコト能ハズ。說法ニハ熟練ナル教導職ニシテヨク精神病ノコトヲ辨へ、醫師ト協力シテコレニ當ル人ヲ必須トス。宗教トシテ孔孟ノ教・耶穌ノ教・釋迦ノ教・イヅレガ精神療法トシテ用フルニ適當ナルカ、コレソノ病症ソノ箇人ニモヨルコトニシテ、一概ニハ言ヒ難シ。鬱憂病・疑惑症・罪業症ナドニテ、自分ニ罪アリ過アリナドト考フルモノニ對シテハ、因果說・他力說モ效アルベク、癡患者精神病患者・恢復者ナドニハ自力說ヲ以テ自分ノスベキ道ト自分ノトルベキ責トヲ知ラセ、自分カラ生命ノ重ズベキコト、幸福ヲ齎ラスベキコト、命數ノ貴フベキコトヲ知ルニ至ル様勉メシムベシ。

(二) 宗教ニ歸依シ、コレニ信賴スル人ニ對シテハ、醫師ハ、精神療法トシテ大ニソノ性格ヲ利用スベシ。醫師ト歸依信仰アリ異ニストモ決シテコレヲ排斥スベカラズ。精神療法ノ效果ハ信仰ノ有無ニヨリテ甚シク異ナルモノナリ。信仰ナキモノニハ、到底施シ難キコトモ、信仰家ニハヨクコレヲ施スベキコトアリ。信仰ノ薄キモノニハ效ヲ奏セザルガ如キコトモ信仰家ニコレヲ施セバ善ク治療ノ效ヲ奏スルコトアリ。猶、信仰ノ力ハ、難病・重症ニ對スル忍耐力ヲ鞏固ニシ、死ノ恐怖ヲ去リ、從容トシテ死ヲ樂ムコトアラシムルモノナリ。

(三) 死ノ觀念ハ、或ハ信仰ヨリ來リ、或ハ哲學思想ヨリ來ルモノニシテ、疾病ニ罹リタル際ニハ最高最大ナル精神療法ノ寄托トナルモノナリ。宗教及ビ哲學ニシテ死ヲ以テ天命トシ、或ハ正理ナリト教ユルモノハ、精神療法上ニ至大ノ意義アル

モノナリ。此ノ如キ信仰ヲ抱キ此ノ如キ哲理ヲ奉ズルコトハ、コレ治病ニ對スル無二ノ良藥ト謂フベシ。吾人誰カ病ノタメニ死セザラン、死ハ避クベキモノニアラズ、「コレ天命ナリ」、「正理ニ基ツキテ死スルハ幸福ナリ」トノ信念アルトキニハ疾病ニ對スル一切ノ恐怖ハ、忽ニ一掃セラルベク。カクナル以上ハ精神機轉ハ活動自在トナリ、精神の療法ハ、大ニソノ效果ヲ擧ゲ得ベシ。蓋、吾人ノ疾病ニ罹ルヤ何人モ最、死ヲ畏ルルモノニシテ、死ノ杞憂アルガ故ニ多少難病ニカカルトキハ、恐怖ニ恐怖ヲ重テ、徒ニ悲觀ニ陥リテ元氣コレガタメニ沮喪シ、寢食コレガタメニ廢絶シ、ソノ病症ヲシテソレ相當ヨリモ猶、治癒ニ遠ザカシムルナリ。此ノ如キ場合ニ當リ生者必滅、會者定離ノ理ヲ會得シテ、極樂天國ヲ未來ニ樂ムナラバ慢性不治ノ疾病モ少シモ心思ヲ煩ハスコトナク、光明ト希望トハ將來ニ滿テテ、現世ノ勇氣ト元氣トハ毫モ損スルコトナカルベク。杞憂・恐怖・悲哀等ノ生理機轉ヲ妨グルモノナキガ故ニ、精神療法ハ勿論、他ノ理化學的療法モ亦、十分ニソノ作用ヲ逞フスルコトヲ得ルナリ。

醫師ニシテ醫學的並ニ哲學的ノ思想ニヨリテ死ヲ諦認スルノ狀況モ、コレ等信者ニ似タルアリ。試ミニ解剖臺上ノ屍體ヲ觀ゼヨ。刀ノ赴クニ從ヒテ諸臟器ノ敗殘ヲ發見シ、肺心ノ破壞・腸・腦髓ノ崩潰一トシテ大悟眞諦ノ源ナラザルハナク、大ハ生物代謝ノ理義、小ハ細胞死活ノ現象、盡、皆、天ノ命、死ノ義ヲ説明セザルモノナキニヨルナリ。此ノ如キ觀想モ亦、彼ノ信仰心ト同ク難治ノ病症ニ罹リ死活ノ大事ニ處スルトキ能ク心身ノ機能ヲ保全シ、日毎ニ加倍スル病障ヲ排除シテ治療上ノ利益ヲ完全ナラシムルモノナリ。抑、此ノ如キ宗教的及ビ哲理的ノ信念ハ、誰人モコレヲ懷抱スルニアラズ、誰人モ修養ニヨリテコレニ達シ得ベキニアラザレドモ、而モソハ罹病ニ對スル最貴最良ノ藥石ノ隨一ナレバ、何人モ平素ヨリ思フコト事ニ致シテ十分ニ修養ヲ積ムコト肝要ナリ。

第七編 説得療法⁽¹⁾

- (1) Belehrungs-, Aufklärungs-, Überredungs- oder Persuasionstherapie
- (2) Dubois
- (3) Dejerinne
- (4) Rosenbach
- (5) Oppenheim
- (6) Eschle
- (7) Belehrung
- (8) Aufklärung
- (9) Überzeugung

(二) 説得療法ハ、叡智的療法ノ一ニシテ論理的證明ヲ以テ病的ノ觀念思想ヲ除却セントスルナリ。ソレハ、⁽²⁾ボア氏⁽³⁾、⁽⁴⁾デリン⁽⁵⁾ (獨逸ニテハローゼンバツ、⁽⁶⁾ラツベンハイム・エツヅル⁽⁷⁾)、⁽⁸⁾二氏ノ唱へ出シタルモノニシテ、⁽⁹⁾訓諭⁽¹⁰⁾、⁽¹¹⁾解説⁽¹²⁾、⁽¹³⁾證據ヲ舉ゲタル證明⁽¹⁴⁾等ニヨツテコレヲ説得シテ病症ノ治療ヲ求メントスルナリ。支那ノ醫書ニ就キテ見ルニ明ノ⁽¹⁵⁾繆希雍ガ、『喜怒哀憂思悲恐驚七者、皆發於情者也。情則神識。有知不定。無跡可尋。觸境乃發。滯而難通。祇宜以識遣識、以理遣情。此即心病還將心藥醫之謂也。』(本草經疏)ト云ヒ、清ノ徐春甫ガ『解疑釋惑以使心神之歸正耳。』(古今醫統)ト云ヘルモノ考ナリ。我邦ニテモ徳川家ノ末頃ニコレヲ稱へタル人アリ、ソハ白石ノ醫官今泉高祐ナリ。ソノ著『療治夜話』ニ移精變氣ノ法ヲ論ジテ曰ク『上古ノ病ヲ治スル移精變氣ノ法アリ祝由⁽¹⁶⁾シテ已セリト祝由ノ法モ亦奇ナル哉。今世病ヲ治スルモ必、コノ移精變氣ノ法ナクンバアルベカラズ。夫レ移精變氣トハ移ハ移シ易ルナリ。即精神ヲ移シ易ルナリ。變ハ變へ改ムルナリ、即、心氣ヲ變へ改ムルナリ。乃、コレ心ニ迷ヲ生ジテ病ヲ醸シナスコトアリ。ソノトキノ病ノ根元ヲ尋求メテ、ソノ迷ヲ説解⁽¹⁷⁾テソノ病ヲ已スノ法ナリ。醫ノ萬病ヲ療治スル、必、コノ意ヲ心ニ含テ療治スベシ。中ニモ心氣病ノ如キハ是非ニコノ法ヲ行ハザレバ營ニ服藥ノミニテハ中治スルコト能ハザルモノナリ。人ハ七情ニヨツテ病ヲ生ズルコト最多キモノニテ、世ニ心氣病ヲ患フル人モ多キモノナレバ、能クソノ心氣病タルヲ診シ得テ、コノ移精變氣ノ法ヲ行フトキハ、言外ノ奇效ヲ得ルコトアルモノナリト。』

(二) 五ボア氏ノ説ニヨルニ、幾多ノ精神神經病又ハ身體病ノ各種神經性症狀ハ、元來病人ノ思考ガ正當ナラザルタメニ起ルモノニシテ、他ノ所謂病因ハソノ機會的原因ニ過ギザレバ、醫師ガ言語ノ仲介ニヨリテ具體的論理ヲ以テ病人ノ

(1) Rationelle Psychotherapie

誤レル觀念ニ説得ヲ加ヘテ、ソノ觀念スルコトノ誤リナルヲ覺ラセ、コレヲ思ヒ止マルベキ様ソノ方法ヲ授ケ、又、ソノ生涯ト運命トニ就キテ覺悟スルコトアラシメ、或ハソノ愛他感情ヲ引立ツルコトヲナスナラバ、コレニヨツテ克クコレヲ治療セシムルコトヲ得ルモノナリ。コノ療法ノ大本ハ、肉體ハ精神ニヨリテ左右サルモノト云フコトニアリテ、叡智的思索、論理的聯想ヲ調整シ觀念感情ヲ矯正シ、又、辨識意志ヲ増長スルヲ基礎トシテ、コレニ達セントスルモノニシテ五ボア氏ハコレヲ合理的⁽¹⁾精神療法⁽²⁾ト稱ヘタリ。ローゼンバツ、ツバ氏ハ自分胃ニ病ヲ感ジ胃ノ消化ノ悪キヲ信ジ、遂ニ胃癌ニ罹レリト思ヘルモノニ胃ヲ洗滌シ、健康人ト相違ナキヲ示シ、胃癌ヲ恐ルルコトノ謂ハレナキヲ説明シ、勞働ヲナシテ動悸ノ高マルヨリ心臟病ナリト思フ病人ニ、健康人ヲシテ同様ノ運動ヲナサシメテ、ソノ動悸ヲ檢セシメテソノ恐怖ノ謂ハレナキヲ明ニスベシト稱ヘタリ。凡、器質的ニ見ユル病症ニシテモ、大抵ハ精神作用ニヨリテ、コレニ影響ヲ與ヘ得ベキモノナレバ、精神作用ニ加工シテ身體症狀ニ變化ヲ及ボサントスルハ、當然ノコトナリ。ソレニ就キテハ一生涯ノ指南タルベキ哲理的ノ基礎アル堅實ナル克己主義ヲ病人ノ精神ニ注瀉シ、病人ヲシテコレニ信賴セシムレバコレニヨリテソノ症ヲ癒スコトアルベシ。五ボア氏ハ即、論理的説得ト叡智感情ノ教育トヲ療法ノ主義トシテ、推感療法又ハ催眠術療法ヲ非トシ、コレ等ハ詐術偽法ヲ以テ病人ノ感情ニ有害の影響ヲナシ人ヲ輕信ニ導クモノニシテ、何等理由ナク醫師ノ言葉ヲ盲信セシムルガ故ニ宜シカラズ。教育ニ於テモ器械ヲ用ヒナドスルハ、叡智的又ハ道德的得達ヲ妨グルモノナリト稱セリ。

(三) コノ方法ハ東西トモニ昔時ハ多ク治療ニ應用セラレタリ。西洋ニ於テモ兩脚ガ硝子ヨリ成ルト信ズル病人ニツキ、ソノ判斷能力ヲ利用シ、ソノ妄想ヲ排斥センガタメニ、木片ヲ以テ脚ヲ打チテ決シテ硝子製ニアラザルヲ示シ、體内ニ蛆・蛇・蛙ナド入り居ルト云フ病人ニ吐劑ヲ與ヘテ、ソノ動物ヲ吐出シタリト信セシメテソノ安心ヲ求メ、頭中ニ鬼アリト云フ病人ニツキ頭皮ヲ十字ニ切リテ血ダラケノ動物ヲ取り出シテコレヲ見セ、頭ナシト云フ病人ニ鉛ノ冠ヲ被ラセ、寒ク凍ヘルト云フ病

人ニ羊ノ囊ヲ被セ、コレニ火酒ヲソギ火ヲ點シ、物ニ憑カレタリト云フ病人ニ祈禱ノ水ヲ灌ギ、罪業妄想ニ苦ム病人ニハ儀式ヲ取繕ヒテソノ罪ヲ宥スコトヲ宣告シ、妊娠妄想アルモノニ對シテハ人形ヲ取リ上ゲ見セテ產婉ノ終レルヲ知ラシメ、誇大妄想ヲ抱ケル病人ニソノ欲スルモノヲ與ヘテソノ慾ヲ満足セシメント謀リタルコトアリ。

日本支那ニ於テモ此ノ如キ例ハ少ナカラズ。日本ニテハ南木龍江ハ病ノタメニ目ヲ閉ヂルコト半年ナルニ、裁刀鉸ノ類ニテモ久シク用ヒザレバ鐵鑪ノ生ズルコトヲ云ヒ、論セルニヨリ目ヲ開キ又、潔癖甚シキニ米、麥ハ糞土ノ精液ニシテ井水ニモ蟲魚ノ尿ナキニアラザルヲ說キテコレヲ治シタリト云フ(醫法新話)支那ニモ種種ノ種ノ療法ヲ傳ヘタリ。宗陽里華子中年病忘、朝取而夕忘、夕與而朝忘。在塗則忘行。在室則忘坐。不識先後。不識今古。魯有儒生。自媒能治之。華子之妻請其方。儒生曰。吾試化其心。變其慮。庶幾其瘳乎。於是試露之而求衣。飢之而求食。幽之而求明。生欣然曰。疾可已也。試屏左右。獨與居室七日。而積年之病。一日都盡。(列子)宗朱思彥囚押錄高生夫妻於獄。懸丞縱之使逸。而以死報。遂見高夫妻披髮爲祟。病且危篤。丞聞之遽令其人來拜。豁然即愈。李元衡出官。慮妾不容於妻。登舟數夕。卽有鬼。稱是妾。音容皆似。及遣信視家中無事。鬼亦不見。惠州周提刑妻募人殺妾。周知之藏妾他所。募者以已殺。妻遂感疾。見妾爲祟。周乃喚妾以歸。妻大驚。其疾脫然即愈。石晉醉中命投一奴於河。投者哀而縱之。既醒悔。遂疾見奴爲祟。自分必死。及知奴無恙。病方除。謝肇淛(文海披沙)。一人過飲醉甚。夜半酒渴欲水不得。遂吸石槽中水碗許。天明視之。槽中俱是小紅蟲。心徒然而驚。鬱鬱不散。心中如有蛆物。胃脘便覺閉塞。日想月疑。漸成痿隔。遍醫不癒。吳球往視之。知其病生於疑也。用結線紅色者。分開剪斷。如蛆狀。用芭豆二粒。同飯搗爛。入紅線丸十數丸。令病人暗室內服之。須臾欲瀉。盆內放水。令病人坐。盆瀉出。蕩漾如蛆。其

病從此解。(名醫類案)

(四)說得療法ヲ實際ニ施スニ當リテハ、常ニ精ク病人ヲ檢案シ、ソノ症狀中何レガ身體的原因ノモノ、何レガ精神的原因ノモノト明ニ區別シ、純精神の症狀ニ就テハ先、病人ノ主張スルコトヲ明細ニ聽取シ、十分ニ病人ノ思考ノ起點タル論據ヲ理解シテ後、醫家自身ノ說明ノ起點ヲ此處ニ置キ、他ノ療法ニシテ肉體ノミニ影響スルモノハソノ病症ニ對シ奏效少ナキコトヲ豫、説明シタル後、病人ヲシテ治療ノ最大要件ハ、ソノ病原の觀念ヲ變更スルニアリテ、ソレ以外ニハ何等ノ必要條件ナキコト及ビコノ病的觀念ヲ去ルニハ、唯、克己的樂天的ナル哲理觀ヲ會得スルノ外ニ途ナキコトヲ徹底的ニ悟了セシムベシ。コノ際醫師ハ自分ノ說クコトニ、更ニ誤ナキヲ明ニスルタメニ、一事實ニヨリテコレヲ證明セント苦心スルノ必要ハ、更ニナキノミナラズ。肉體の疾患ニ對シテ說得療法ヲ行フ場合ニハ、故ラニ事實ノ一部ヲ隱蔽シ置クノ必要ナルコトスラアルモノナリ。故ニソノ說明ハ、醫師ガ病的ト認ムル觀念ト、治療ヲ加ヘントスル肉體症狀トノ間ニ、歷然タル因果關係ノアルコトヲ證スルヲ以テ足レトス。說得療法ヲ長時間ニ互リテ行フ途中、醫師ガ當初ニ病人ニ告ゲタルコト、ソノ後ニ現ハレタル事實トノ間ニ論理上ノ矛盾ヲ生ジテ、醫師ガ自縛自縛ノ窮境ニ陥ルガ如キコトアルハ、主トシテ治療ノ要領ヲ提ゲ、ソノ綱目ヲ辿リテコレヲ運用セントスルガタメニアラスシテ瑣細ノ點ニ至ルマデ一一コレヲ事實ノ上ニ立證セントスルニヨルモノナリ。若ボア氏ハ重キ病症ニハ褥臥療法、肥饒療法ヲ併セ用ヒ、デヅリン氏ハ隔離療法ヲ併セ用ヒタリ。

精詳的確ナル診査ハコノ療法ノ主眼ナリ。病人ハコレニヨリテ醫師ハ自分ノ病症ヲ隈ナク知リ拔キ居レバ萬事ヲ心殘ナク委托スベシト篤ク信ズベシ。殊ニ色色ノ恐怖症アリヒポコンドリー性症狀ノアル病人ニハ左程ノ必要ナキ場合トテモ、ナルタク委敷診察スベシ。此ノ如キ人ニハ診察ハ既ニ一部ノ治療タリ又、治療ノ考ヲ以テ施行セラルベキモノナリ。且、コノ際ニ

於テ醫師ハ實際ニヨリテ説キ示シ、以テ病人ニ無病ナルヲ徒ニ心配スルノ無益ナルヲ解明シ得ルモノナリ。ダトヘバ、ヒステリ
 一性無聲症ノ病人ニグヅツマン氏ノ喉頭鏡裝置ニテ聲帯ノ狀況ヲ見セ、或種類ノ食物ヲバ消化シ得ズト云ヒテ食
 ベヌ人ニソノ物ヲ試食サセテ胃ヲ洗滌シ、消化ニ差支ナキヲ見セ(ローゼンバツハ氏)、血液病ニ罹レリト信ズル病人ニ
 ソノ血液ノ顯微鏡標本ヲ見セ、神經性心臟病ノ人ガ機質性心臟病ニ罹リ居ルト心配スルトキ、或筋肉ヲ強ク動カサン
 テモ差支ナク、脈搏・呼吸・顔色ニモ別段變化ナキヲ合點セシメ、脊髄病ノ病人アルトキノ反射作用・感覺機能ヲヨク
 検査シテ異常ナキヲ認メシムルガ如キコレナリ。

ソノ次ハ病症ノ種性及ビ由來(發生方)ヲ病人ニヨク解ル様ニ説キ示シテ、病人ヲシテ病症ニ制セラルコトナク却テ病症
 ヲ御スルニ至ラシムルヲ謀ルベシ。ソレニハ罹病觀念トコレニ聯成サルル多數觀念トヲ分離シ、遮斷シ、コノ聯想ヲシテ健全ニ
 發展シテ誤判ニ陥ルコトナカラシムルヲ要シ、平生健康時ニ比例シテ説示スルヲ最、曉り易シトス。ダトヘバ、心臟性ヒポコン
 ドリー病者ニハ心臟ノ搏動ハ左側臥ニシバシアルモ當然ナルコト、堅キ物ニ背ヲ倚セレバコレヲ感ズベキコト、心音ハ褥中ニ
 横臥スレバ餘計ニ聽ユルコト、脈搏ハコレニ注意ヲ向ケ、又ハ呼吸ヲ止メレバ不整ニナリ、急頻ニナルコトヲ指掌シテ、人間ノ
 感覺感情ハ恒常ノモノナラス、自身ニ試查シタリ、コレニ注意シタリスレバ變ハルベキモノナルコト、興奮シタルトキニモ、外圍ノ
 事態ニヨリテモ相異アルモノナルコトヲ解ラセル様ニ勉ムベシ。譬ニ引コト分曉ナル程適好ナリ。此ノ如キ事例ハ猶、多多コ
 レアルベシ。疲勞ノ感モ何カ移氣ノ刺戟アレバ起ラス、長途ノ歩行モ面白キ話ニハ忘レラレ、進軍モ音樂ニツレテハ思ハズ運
 ビ、物ノ重ミモ豫想ニヨリテ違ヒ、物ノ色・大サ形ハコレニ比較スルモノニヨリテ異ナリ、疲勞ノタメ、夢ノ中ニモ相違アリ、事
 實知覺スルモノノ習慣ニヨリテ感ゼラヌアリ(網膜ノ前ナル脈絡膜ノ像ナド)斜視ノ複像(斜視眼ニ相當スル像)ハ消却
 サルナド皆、コレナリ。特ニ重要ナルハ疼痛サヘ習慣ノ厚薄、注意ノ集散、感情ノ形容ノ如何ニヨリテ相異アルコトナリ。鍛

治工ハ火花ヲアビ、硝子工ハ熔ケタ硝子片ニ手ヲ打タレ、^{ダイヤモンドモガキ}金剛石磨工ハ流ルル鉛ヲ握ミナガラ習慣ト鈍麻ニヨリテ更ニ
 痛ミヲ感ゼザルコト、痛苦ハ快樂ノタメニ去レド、不快ハ聯想ニヨリテ苦痛ヲ喚起スコトナドソノ適例ナリ。病人ニヨリテハ又、
 思想ノ心身ニ影響ヲ與フルコト多大ニシテ、或ハ五官ノ感覺ヲ鎮却シ、又、幻覺ヲ喚起スルコトアリ、期待ノ著甚ナルトキ
 ニハ思フトコロノ聲ヤ形ヲ幻出シテ飛ンダ舛誤ヲ來スコトノアルヲ説キ示スモヨシ、ソノ他、煩悶ニ汗ヲ出ダシ、感動ニ潮紅蒼
 白トナリ、興奮シタルトキニ、下痢又ハ尿意頻數ヲ來タスナドソノ例少ナカラズ。コレ等ヲ以テ委細ニソノ病症ノ根柢ヲ崩覆
 スルニ勉ムベシ。又、病人ニヨリテハ下意識界ノ關係ヲモ説キ明シテ吾人ノ生活・銳氣・活氣等ニ關スル觀想ハ身體狀
 況ヤ一時ノ感情ノ異動ニヨリテ相異スルモノナルコトヲ悟ラシメ、又、(強迫觀念症ナド)深内ノ抵抗著大ナル病症アルトキ
 自己ノ薄弱無氣力ヲ感ズルモ、ソハ全ク内部ナル病氣トノ覺隙ヲ心ニ覺フルニ過ギザラ論スベシ。鬱憂病者ニハ人生都
 テ起伏弛張アリ、感情トテモ亦、然ラ論スハ最、慰撫トナルモノナリ。大抵ノ場合ニハ唯、此ノ如ク説キ示スノミテ醫治ノ
 一端ヲ果タスコトヲ得ルモ、病人ニヨリテハコレ等ヲ例證トシテ更ニソノ本人ニ適切ナル様、説明ヲ盡サザルベカラズ。ソレニハ
 又、病人ノ教育程度ヲ參酌シ、且、學理ニ餘リ懸隔セヌ様解リ易ク説述スルヲ要シ、更ニ又、病人ヲシテ醫師ガソノ病ヲ
 臆想ノ症ト認ムルヲ覺エザラシムルヲ要ス。醫師ハ精神の發生(幻覺性)ノ疼痛ハ病人ニ取リテハ爾他ノ疼痛ト更ニ異ナ
 ルコトナキモノナルヲ解セザルベカラズ。此ノ如キ症狀ニ對シテハコレヲ學問的ニ説明シコレヲ實際ノ惱患ト認メテコレヲ處置
 スルトキニハ慢ニコレヲ神經的ナリト精神のナリトスルヨリモ治效ヲ奏スルコト多ク、移氣・轉精・練習等ノ方法ヲ用ヒ得易ク
 ナルモノナリ。說得法ノ一トシテハ又、病人自身ガソノ神經症ノ原因ト認ムル往時ノ精神の打撃ヲ發覺スルコト緊要ナ
 リ。コレニ就テハ後段記述ノ精神分析法ニヨリテ餘リ關係ナク思ハルル心狀ト身體症狀トノ間ニ偶然ノ聯想アルヲ知リ
 又、ソノ聯想ノ迷謬的ナルコト竝ニ意識的叡智的ノ機轉ニアラザルコトヲ明ニスルヲ得ベシ(ダトヘバ、神經性眩暈ニ悩ム

人ハ或事件ヲ想ヒ出ヅルトハ眩暈スルト思フモ實ハ左ニアラズシテ或觀念ガ無意識的ニ心ニ浮アトキ偶、眩暈スルナリ。左ボア氏ハソノ方法ヲ施スニ付キ、病人ヲシテ次第ニ自分ノ考フルコトノ迷謬ニシテ不理論ナルヲ合點セシムルコトヲ重要視シテ、病人ヲシテナルベク從來ノ生活方及ビ生活觀ニ徹シテコレヲ悟得セシメント勉メ。又ソノ思想感情ヲ心神ノ健康ニ適スル様全然改造セントシテ此點ニ向ツテソノ解明說諭ノ限リヲ盡シテコレヲ完成セント勉メタリ。唯、コノ際左ボア氏ガスベテ病人ノ思考ハ論理ニ乖背シ睿智ノ缺陷ニ本ヅクモノト認メタルハ稍、誤解ニシテ。此ノ如クシテハ却テ說得法ノ奏效ヲ妨グルコトアリ。病人ノ論理ハ時ニ或ハ頗、健全ニシテ且、智慧モ優レタル人アリ。コレニ對シテ論理ノ舛誤スルコトヲ說キ諭スモ甚、ソノ當ラ得ザルコトナリ。

(五) 說得療法ノ基礎タル理想ニ對シテハ、學者間ニモ異論少ナカラズ。或症狀ガ病的觀念ニ由來スルコトヲ示サントスルニ當リ、病人ノ意識ノミニ訴ヘテコレヲ矯正セントスルハ、正當ナラズト主張スル論者ノ如キハソノ一例ナリ。病原的觀念ノ内ニハ、ヒトリテニ病人ノ上意識中ニ現出シ來ルタメニ、病人自身ハコレヲ取捨シ得ザルモノ多數ナリ。此ノ如キ觀念ハ、人生小弱ノ觀ト相應ジテ病人ヲシテ病的觀念ヲ懷抱スルコト已ムラ得ザラシムルモノナリ。然ルニ此ノ如キ理由ニヨリテ病人ガ相當ノ觀念ヲ抱キ居ルニ對シテ克己主義ノ深奥ナル哲理ニヨリテコレヲ說得セント試ミルモ、コレ等ノ哲理ハ、病人ノ現病トハ何等ノ關係ナキガ故ニ毫モ奏效スベキ筈ナシ。若、此ノ如キ場合ニコノ療法ノ奏效ヲ見ルコトアラシカ、コレ恐ラクハソノ醫師ノ論理ノ力ノミニヨラズシテ、ソノ醫師ノ人物若クハ偶然ナル周圍ノ狀況ガコレヲシテ然ラシメタルモノナルベシ。且、又、コノ療法ハソノ病症ヲ根本ヨリ治シ去ルニハアラザルガ故ニ、醫師ノ苦心盡力一方ナラザルモ、ソノ症狀ハ依然トシテ去ラザルコト多ク、假令幾多ノ證據ヲ舉ゲテコレヲ示ストモ判斷能力ノ缺ケタル人ヲシテ正シキ辨識ヲ得セシムルコトハ到底不可能ナリ。妄想ノ如キハ、說得ニヨリテ却テ増悪シ、コレヲ助長シコレヲ豊富ニスルコトアリ、會、一ノ妄想ヲ除キ去ル

モ亦、他ノ妄想ノ代ハリ發スルモノナリ。然シ親切ニシテ理解アル說諭ハ苦悶憂鬱ナル病人ニ慰藉ヲ與ヘ、忍耐ヲ以テ、イツモ同様ニ個遇スルコトハ刺戟性興奮性ノ病人ヲ安靜ニスルモノナリ(假令一時ニシテモ)。或煩ハシキ病狀ヲ(秩序的ニ)看過シ、興奮的言辭ヲ避ケ、又、思想ヲ他ノ不^{トウ}管事項ニ向ケサセテ、始終病人ノ精神緊張ヲ弛メントスルコトハ或程度マテ自然的治癒機轉ヲ補足スルモノノ如シ。

(六) 輕度ノ強迫觀念ニハ論理的說明ニヨリテ治效ヲ收ムベキモ、概シテ言ヘバコノ方法ハ困難且、不利ナリ。強迫觀念ノ種類性質等ハ治療ノ方法ヲ選定スル基礎トナル。頑固ナル強迫觀念ニ對シテ揶揄シ、又、嗤笑スルハ甚、有害ナルガ、熱心ニ診査ヲ行ヒ、コレニ基ツキテ病人ニ説明ヲ與フルハ屢、有效ナリ。

神經衰弱及ヒヒステリーニハ病的苦悶狀態即、所謂恐怖症ノ起ルコトアリ。コレニハ說得療法ノ應用スベキコトアリ。ソノ一例トシテ臨場苦悶ナル病症アリ。コノ症ノ最、輕度ナルモノニハ、廣場ヲ步行スルニ當リ、一定ノ不快感、苦悶トラ感じ、ソノタメニソノトコロヲ步行スルコト困難トナル。更ニ高度ノ者ニアリテハ、廣場ヲ歩ムニ甚シキ苦痛ヲ感じ、意志ヲ極メテ努力スルニアラザレバソノトコロヲ步行スルコト能ハズ。ソノ不安ハ單ニ人影ナキ廣場ヲ見テソレニテ既ニ起ルコトアリ、又、四辻或ハ橋梁ヲ步行スルコト著シク困難ナリ。最、高度ナルニハ、單獨ニ外出スルコト能ハザルノミナラズ、同伴アリテモ吾家ヲ離ルルコト能ハザルニ至ル。此ノ如キ病者ニハ、十分ニソノ疾病ノ性質ヲ説明スルコトヲ要ス。病人ハ此ノ如キ場所ニ於テ、眩暈・頭部充血・心悸・胸内苦悶等ノ如キ純肉體的ノ不快感ヲ告フルモノアリ。或ハコレ等ノ症狀後ニ失神・卒中或ハ心臟麻痺等ノ起ラザルカラ憂慮スルモノアリ。醫師ハ病人ノ慮ルトコロハ全ク只、杞憂ニ過ギズシテ、步行ノ際何等危ムベキコト恐ルベキコトナキヲ力說スベシ。

男子ノ生殖機能障礙ノウチ、コノ療法ニ適スルハ、精神的生殖不能症ナリ。シーエンズルド氏ハ本症ヲ二類ニ區別

セリ、ソノ一ハ自、陰萎ナリト思惟シ、或ハ何等カノ原因ニヨリテ、交接思ヲ通ニ行カザルベシト信ズル等一定ノ觀念ヲ基トスルモノニシテ(自家推感性陰萎)、他ノ一種ハ高度ナル感情興奮及ビ精神過勞ニ基ツクモノナリ。第一類ハ主トシテ結婚前後ニ起ルモノニシテ、過去ノ生殖的生活尋常ニシテ神經衰弱ナドナキ人ニモアレド、大部分ハ神經質ノ人又ハ輕度ノ神經衰弱ニ罹リ且、生來色慾力ノ強カラザル人ニアリ。自家推感性ノ陰萎症ハ、ソノ原因ニ對シテ適當ナル説明ヲ與フルトキハ、容易ニコレヲ治癒セシメ得ベシ。即、勃起力・精液形成等ノ如キ生殖能力ノ條件具備スルヲ以テ、生殖不能ヲ恐ルルノ必要ナキコト竝ニ此ノ如キ杞憂ヲ抱キ又、勃起ヲ餘リニ期待スルハ、正ニ勃起ヲ鎮壓スルモノナルコトヲ了知セシムベク。コノ方法ニヨリテ成功セザルトキハ、覆面的推感法(藥劑)又ハ催眠術ヲ試ムベシ。感情興奮及ビ精神過勞ニヨル陰萎ニモ説明ハ大ニ有效ナリ、病人ヲシテ生殖力ハ無クナレトカ、甚シク減損セリトカノ思想ヲ抱カシムベカラズ。純然タル精神陰萎ノ他ニ神經衰弱性ノ陰萎症アリ(精神神經性陰萎)コレニモヒポコンドリーの症狀ノ加味セルトキハ實際ノ症狀ヲ告ゲ、コレヲ安意セシムレバ快癒スベシ。

精神病の限界者、輕度ノ叡智缺陷者、輕度ノ道德缺陷者等ニモコレヲ應用シテソノ症狀ヲ緩和スルコトヲ得ベク。輕度ナル鬱病(單純ナル無譚妄性鬱病・周期性ノ鬱憂狀態・神經衰弱性鬱病)ニ對シテハ、必シモ精神療法ヲ施スベキニアラズ(寧、阿片療法ハ甚、有效ナリ)。精神療法トシテハ、愛情ト同情トヲ以テ病人ニ接シ、ソノ信用ヲ得テソノ苦痛トスルトコロヲ告白セシムベシ。彼等ハ親族ニ對シテソノ苦痛・不安・憂慮等ヲ祕スルモ醫師ニハヨク告白シ、且、コレニヨツテ著シク輕快ヲ覺ユルモノナリ。病人ハ自、病アリト信ゼズ、自己ノ不幸ヲ嘆キ、ソノ憂鬱ニハ一定ノ根據アリト稱シ、或者ハ又、自己ノ憂鬱ヲ異常ト自覺シナガラモ自己ノ罹病ヲ否認シ、附帶症タル睡眠不足等ノ如キヲノミ病ナリト云フコトアリ。醫師ハ疾病ニ對スル病人ノ解釋如何ヲ問ハズ、病人ガ實際病ニ罹リ居リテ、コレガタメニ憂鬱ヲ發シタルコト竝ニコノ

狀態ハ一定ノ期間ニ於テ全治シ、ソノ後ハ生活ニ愉快ヲ感ジ、精神狀態モ再、正常トナルコトヲ解説スベク、病人自、憂鬱ノ原因ナリト稱スル事柄ニ就テモ説明ヲ與ヘザルベカラズ。但、此ノ如キ説明ハ、速ニ病人ノ苦痛ヲ輕減スルモノ、ソノ結果ハ甚、信賴スルニ足ラザルモノトス。輕キ鬱憂症・ヒポコンドリー症ニモソノ心配苦惱ハ病的ナルコトヲ度度説明スルニヨリテソノ輕快ヲ見ルコト稀ニコレアリ。ソノ懷抱スル妄想ヲ説破セントスルガ如キハ禁忌ナリ。但、十分ニ注意シテ最、適當ナル場合ヲ選ミテコレヲ試ミルハ可ナリ。妄想アル病人ニ就テハ醫師ハソノ妄想ニ對シ簡單ニコレヲ非認スルヲ可トス。病人ノ考ニ贊成スレバ妄想ヲ助長スル様ニナリ宜カラズ。ソノ考ヲ委細ニ反駁シ説諭スルモ不可ナリ。嘲リ笑ヒ、病人ヲ怒ラス如キハ猶更ナリ。妄想ヲ理性ニ照シテ説服セントスレバ益、ソノ妄想ヲ深キニ陥ラシムル虞レアリ。心置ナク取扱ヒ、隱立セザルヲ可トス。一言一句執拗ニ説破スルノ必要ナク、只、現ニ病ニ罹リ居ルコトヲ諭シ、自他ニ危險ノコトヲナスナラバコレヲ制止スレバ足レリ。若、マタ精神ヲ餘リニ刺戟セズ、疲勞ヲナサザル程度ノ輕作業ヲ課スレバ、漸次ニ妄想ヲ和グルノ效アルベシ。妄想ガ唯、精神的ノ附帶症狀ナルトキニハコレヲ批評ヲスルニモ適シ、コレニヨツテ豁然解悟スルコトハナキモ幾分心ニ慰ムコトナキニアラズ。此ノ如キ場合ニサヘソノタメニ反激シテ却テ症狀ノ増スコトモアリ。躁病者ナドニハ妄想ヲ輕ク親切ニ戲笑的ニアシラヒ又ハ否認スルモ可ナリ。精神薄弱(麻痺性癡呆)又ハ甚、激シ易キ病人ニ應接スルニハ、病症ヲ確定スルマデニ止メテ、妄想ナドニハ餘リ立入ラスヲ可トシ、自分ヤ周圍ノ安全ヲ害スル如キ行爲アラバコレヲ止ムベシ。概シテ云ヘバ幾分病識ノアルモノニハコノ方法ヲ試ムルモ可ナレドモ、病感サヘナキ様ナモノニハコレヲ施スコト有害ナリ。要スルニ訓誨ハ意志提撕法トシテハコレヲ應用スルノ途ナキニアラズ、幾分猶、残り居ル健康ノ冀望感情ヲ利用シテコレニヨツテ病的ノ意思ニ影響ヲ與ヘソノ結果タル行爲ヲ反ラセテ健康ニ近キ思考ヲ誘ヒ出シ、健康ニ近キ行爲ヲ誘ギ出スコトヲ得ンカ、ソハ眞ノ治療法ト云フベキナリ。ダトヘバ、鬱憂患者ニシテ妄想ニ捕ハルモノニハ、ソノ家ニ歸リナバ必、家事ヲ處理スルコトヲ得ベシ

(1) Ignorierungstherapie

ト勵マシ、制止症狀アリ、空茫^{ゴンヤリ}シタル病人ニ將來ノタメニ進ンデ動作シ勤勞スベキヲ勸ムルガ如キ即チコレナリ。イツレモ病人ガ恢復シテ病識モ出テ來タリシ頃ニ治療機轉ヲ助ケルタメニナスベキニシテ、此ノ如キ病人ニモ餘リ早ク冀望心ヲ責任心ヲ煽動スルハ却テ有害ナリ。病症ノ急性ナルトキナドニハ病人ガ自分ヨリ此ノ如キ氣分トナリシ折ニサヘ、ソレヲ抑ヘテ、病氣ナル故トテモ、ソノナコトハ出來ヌ^{コトヲ}自認セシメザルベカラズ。殊ニヒステリー病ノ如キ感動ノ旺盛ナル病症ニ於テ然リトス。

(七)コノ方法ハ又、コレヲ消極的ニ應用スベクシテ、ソレヲ不問療法(等閑療法)ト云フ。即、前記ト同様ニ療治スベキ病人ノアリタルトキ醫師自身ハ、唯、病人ノ舛誤セル觀念及ビソレニ基ツキタル感情・行爲ニハ少シモ注意ヲ拂ハヌ様ニ見セカクテ、病人ノ周圍(近親)ヲシテモ同様ノ處置ヲ取ラシムルナリ。此ノ如クスレバ病人ハ聯想ニヨリテ想ヒ起スコトノナキタメニ間モナクソノ病的觀念ヲ忘却シ遂ニソノ湮滅ヲ見ルニ至ルナリ。鬱憂病者ガ罪業妄想ヲ告フルトキ醫師ハ辛抱シテソノ言葉ヲ聽取シ。病苦ノタメニハ時ニヨリテハ誤解謬見ヲ生ズルコトモアルベシ位ニ云ヒ聽カセ、身體ヲヨク診察シテ現在ハ神經病アリ、萬事ハ治療後ニ精ク説明スベキ旨ヲ諭スベシ。ヒポコンドリー性妄想ノアルモノニテモ同様ニ「今ハ神經病中ナレバ先、コレヲ治療スベシ、君ノ云フ病氣ハ左シタルコトニアラズ後ニヨク手當スベシ」ト諭スベシ。言葉靜ニソノ思想ハ誤謬ナルベシト告ケルハヨシ、コレヲ説得シ、論争スベカラズ。チーヘン氏ハ子供ヲ殺シタリト云フ病人ニ子供ヲ見セ、頭ヲ無クセリト云フ病人ニ頭ヲナデサシタルモ、ソノ妄想ヲ正スニ由ナカリキ。妄想ハ説明ニヨリテ失セズ、放置スレバ却テ忘却サルコトアリ。

第八編 推感療法(暗示療法)⁽²⁾

(一)推感療法トハ病原的觀念ヨリ病症ヲ發シタル場合ニ治療觀念(現在ノ疾病ハ治療スベシ、治療セリト云フ觀念)ヲ病人ニ推感(暗示)シテコレニヨツテソノ病的状態又ハ病狀ヲ治療セシメントスルノ方法ナリ。

(2) Suggestionstherapie

ソレニ付キテハ、即、吾人ノ懷抱スル諸觀念ニハ如何ナルモノアリヤ、如何ニシテソレガ病原トナルコトアリヤヲ説明シ、次ニ推感法ツノモノニ説キ及ボサントス。

(二)抑、吾人ノ精神内ニハ、經驗上竝ニ試驗上吾人ガ普通ニ感覺シ、又ハ意識シタルモノノミナラズ、ソノ他種種ノモノヲ收ムルハ、吾人ノ感覺生活ヲ見テモ明白ナリ。抑、吾人ノ感覺ナルモノハ、視覺・聽覺・味覺・臭覺及ビ觸覺ノミニ限ラレズ。ソノ他ノ求心性ノ刺戟ハ、盡、内部ニ傳達セラレテ、吾人ノ内界ニ領取セラルルナリ。深部ノ感覺、内臟ノ感覺、内耳ニ於ケル空間ノ感覺、中樞神經系内ニ於ケル下級中樞ヨリ高級中樞ニ傳達スル神經輸使感覺、純感覺的機官ノ機能等コレニ屬スルモノ許多アリ。コレ皆、吾人意識ノ内容トナルモノナリ。意識ノ内容ハ此ノ如ク多様ナルガ故ニ、ソハ意識機轉ニ相當スル大脳皮質ノ機轉ノミニテ起ルニアラズ、大脳ノ他ノ部分ノ機轉ニモ基ツクモノトス。

精神ノ内容即、吾人ノ精神的生活ノ内容ハ如何ト云フニ、人多クハ意識機轉ヲ以テ、直ニ精神生活ナリト認ムルモ、ソハ甚、誤マレリト云ハザルヲ得ズ。吾人ノ精神界ニ於ケル幾多觀念ニシテ、意識ノ内容トナリ、吾人ノ醒覺状態ニ於テ間斷ナク活動スルモノハ、吾人ノ精神の作業ノ半面ニ過ギズ。ソノ他ニ尙、普通ノ意識的關係ニヨラズ、又、コレニ伴ハズシテ準備セラレ完成セラルル精神の作業ノアルアリ。コレニ相當スル觀念ヲ無意識的觀念又ハ潜在的觀念⁽¹⁾ト云ヒ、ソノ作業ヲ無意識的腦作業又ハ自動的腦作業⁽²⁾ト名ヅク。然レドモ、意識ハ此ノ如ク分明ニ清明意識ト無意識トノ二ツニ區別スベキモノナラズ。意識ハ幾多ノ精神要素ノ集マリ成スモノニシテ。意識トコノ精神要素トノ關係ハ極メテ明瞭ナルモノヨリ甚、暗冥ナルモノニ至ルマデ各差等アルモノナリ。故ニ或時間單位ニ於テ吾人ノ精神界ヲ探レバ、極メテ明瞭ナル意識的ノ觀念知覺ヨリ種種ノ程度ヲ經テ、全ク暗昧ナル無意識的ノ觀念知覺ニ至ルマデ、幾多ノ觀念知覺ノ存在スルヲ見ルベシ。吾人ハ決シテ左程嚴重ニ意識ト無意識トヲ區別スルコトヲ得ザルナリ。吾人ノ精神ハ、同時ニ種種ノ作業ヲ

- (1) Unbewusstes oder latentes Vorstellen
- (2) Unbewusste oder automatische Gehirnarbeit

- (1) Dessoir
 (2) Bewusstsein und Nichtbewusstsein
 (3) Ober- und Unterbewusstsein

ナスコトアリ。或業務ニ潛心スル際ニ他人ノ質問ニ接スルトキニハ、能クコレニ答ヘナガラモ、後ニ至リテハソノ質問ヲモ自己ノ答辯ヲモ更ニ全ク想出シ得ザルコトアリ。コノ場合ニ於テ一群ノ精神作用(即、他人ノ質問ヲ理解シ、コレニ解答セシコト)ノ意識の追想ハ、コレヲ缺クト雖、而モ、ソレダケノ精神作業ニ關スル意識作用ガ缺如セリトハ云フベカラズ。コレト同様ナル事柄ハ他ニモ夥多アルベシ。初、明ニ意識シタル精神作用ガ後ニ至リテモ記憶ニ止マラザルコトアルハ吾人ノヨク經驗スルコトニシテ、生理上ニ於テ夢ヲ見タルノ記憶ハ、夢後ノ起牀時ニハ猶、明瞭ナルモノノ内容ハコレヲ明ニ追想シ得ザルコト稀ナラズ。病理上ニ於テモ精神の癲癇發作ナドノ後ニ於テソノ直後ニハ猶、發作中ノコトヲ記憶シナガラソノ後暫時ニシテ全クコレヲ追想シ得ザルニ至ルコトアリ。サレバデ、ツツアー氏⁽¹⁾ノ云ヒタルガ如ク、意識ト無意識⁽²⁾トヲ以テ區別セズシテコレヲ上意識ト下意識⁽³⁾トニ區別スルヲ妥當トス。

上意識トハ、醒覺狀態ニ於テ行ハルル精神作業ニシテ、吾人ハ明確完全ニコレヲ意識シ、コレヲ意識スルニ當リテハ、吾人ハコレヲ吾精神の本人ニ屬スルモノトシテ意識スルナリ。下意識トハ精神原素ニシテ左程明瞭ナル意識ヲ伴ハズ、主觀的性質ナク、タダ類推的ニコレヲ認ムルニ過ギザルモノヲ云フナリ。

(三)吾人ノ内界ニハ無數ノ觀念アリト雖、上意識の觀念ハ極メテ僅少ニシテ、自餘ノ觀念ハ悉、下意識の觀念ナリ。精神の興奮ナドニ大ナル影響ヲ與フルモノハ、コノ下意識の觀念ナリ。吾人ハコレヲ二種ニ區別ス。

(い)嘗、一度モ意識ニ上リタルコトナカリシモノ即、ソノ一ナリ。此ノ如キ觀念ハ、精神内ニ入り來リタルトキ、直ニソノ幽邃ナル深部ニ入り此處ニ結托シテソノ記憶像ヲ存スルモノナリ。

(ろ)初、精神界ニ入り來リタル瞬間ニハ、意識のモノナリシガ、ソノ後ニ及ビ精神ノ幽深部ニ潛入シタルモ、尙、多少ノ亢騰性ヲ有スルガタメニ何等カノ適當ナル刺激ニ遇フトキハ、茲ニ再、意識中ニ顯揚スルモノソノ一ナリ。抑、記憶像ハ、精神

(1) Flechsig

界ニ於テ一たび意識ニ上リ、十分明確トナリタル後ハ、一定時ノ間深ク精神ノ幽深部ニ潛入シ去ルモノニシテ。外界ヨリ新ナル印象ガ意識中ニ入り來ルトキハ、コレト關係ノ近キ舊時ノ記憶像ハ、直ニコノ深幽部ヨリ喚起セラレ、新印象ト聯合シテ明確ナル意識の觀念ヲナスモ、ソノ任務ヲ終レバ又、下意識ナル幽深部ニ潛ミ隠レ、此所ニソノ成分トナリテ留マルモノナリ。コノ機轉ハ意識ノ表層ヲ空疎トナシ置キテ、他ノ印象ト記憶像トノタメニ餘地ヲ作ラントスルニ適好ナリ。

(四)サレバ上意識ト下意識トハ、ソノ領域互ニ相接觸シ、相影響スルモノナリ。或觀念ニシテ上意識ヲ去リタルハ、下意識中ニ入り、茲ニ聯合作用ヲ繼續シ、ソノ後、再、上意識中ニ顯ハルコトアルモノナリ。吾人ハ街路ニ於テ一友人ニ出會スルモノノ姓名ヲ想起スル能ハズ。コレト別レテ後、ソノ姓名ヲ想起センコトニ勉メザルモ突如トシテコレヲ想ヒ出スコトアリ。此ノ如キハ即、ソノ友人ニ關スル觀念ガ、吾人ノ上意識ヲ去リタル後モ、マダ全ク精神作業ノ範圍ヲ脱セズ、下意識中ニアリテ聯合機轉ヲ營ミ居ルガ故ニ、ソノ姓名ヲ再、上意識中ニ現ハシ得タルナリ。コレヲ説明スルタメデ、ツツアー氏ハ兩方ノ腦半球内ニハ下意識竝ニ上意識ニ共通ノ神經原基アリト説キ、フレヒンツヒ氏⁽¹⁾ハ聯合中樞ニ於ケル不意識的作業ハ、一定ノ神經原素(恐ラク感覺の中樞域ト直接ノ關係ナキノイロンノ最、深奥ナルモノ)ニ基ツクカ、或ハ全體ノ神經要素ニ基ツクカハ疑問ナリト説ケリ。抑、各瞬間ニ於テ、上意識ノ機轉ト下意識ノ機轉トノ竝ビ行ハルルトキ、コレニ關與スル大脳神經原素ガ、各相異リタルモノナルハ、毫モ疑ヲ容レズト雖、コレニヨリテ上意識ノ神經原素ト下意識ノ神經原素ト全然相異ナルモノトハ認ムベカラズ。コレヲ經驗ニ徵スルニ、同一ノ大脳領域(大脳皮質)ハ、上意識的精神作業ニモ下意識的精神作業ニモ參與スルコトアルモノニシテ、吾人ガ問題ニ遭遇シタルトキコレヲ處理スルニハ上意識ヲ以テスルコトアリ、又、下意識ヲ以テスルコトアリテ、何レトモ一定セズ、ソノ何レカニ決スルハ全ク偶然ナリトス。前記實例ニ就テ考フルニ、或一瞬時ニ某友人ノ姓名ヲ想ヒ出シ得ザリシモノガ、後ニ至リテ偶然又、ソレヲ想ヒ出シ來タルハ、コレ下意識

機轉ニヨツテ當該觀念が再現シタルニ外ナラザルモ、コノ際若、初ヨリ久キニ互リテコレヲ想ヒ出サントニカムルトキハ、上意識ヲ以テシテモ亦、同一ノ結果ヲ得タリシナラン。吾人ハ重要ナル事件ヲ處理スルニ當リ、上意識ト下意識トニ交相關渉スルコトアルヲ認ム。ダトヘバ吾人ガ或事務ヲ執リ居ルトキニ方リテ、血族ニ關スル重大ナル事柄ヲ聞キタリトセンニ、吾人ハコレガタメニ永クソノ事務ヲ妨ゲラルルマデニアラズトモ、ソノ事柄ノ如何ニヨリテ吾人ハ平生ヨリモ或ハ快活トナリ又、憂鬱トナルコトアルベシ。コレソノ事柄ノ觀念ガ、吾人ノ下意識中ニ往來シ色々ノ聯合作用ヲ喚起シ遂ニ上意識ニ反映シテ感情ノ變調ヲ來シタルニ他ナラズ。

下意識の作業ニ叡智ヲ伴フコト、上意識の作業ノ叡智のナルト同ジキハ、右ノ事情ニヨリテ容易ニコレヲ知ルヲ得ベシ。サレド、下意識の精神作業ニ於ケル叡智ハ、必シモ上意識作業ニ於ケル叡智ト等シキモノニアラズシテ、下意識の精神作業ハ上意識の精神作業ト違ヒ、ソノ一瞬間ノ印象又ハ最近事ノ追想等ニヨリテ影響ヲ受クルモノニアラズ。又、下意識ハ、新異ナル聯想徑路ヲ辿リテ往來スルニアラズシテ、ヨク通熟シタル特種ノ障礙ナキ思想徑路ニヨリテ活動スルモノナリ。サレバ下意識ハ即、自動的反射的ニ行ハルモノニシテ、ソノ人ノ生活の經驗、思考の習慣及ビ性格ヲ確實ニ明瞭ニ表現スルコト上意識ニ立チ勝ルモノナリ。

下意識作業ト上意識作業トハ、別殊ノ記憶ヲ有スルコトハ、下意識的ノ作業ヲ見テコレヲ推知スルコトヲ得ベシ。コレ健康者及ビ病者(ヒステリー)ニ於テ實驗的ニ證明セラルトコトナリ。

(五)吾人ノ病態竝ニコレニ關スル精神機轉ハ、決シテ意識機轉ニヨリテ左右スベキニアラズ。吾人ハ或疾病ニ罹リタルトキ、自己ノ周圍ヨリ影響ヲ受クルモノナリ。然レドモ、ソノ周圍ノ影響ヲ意識的ニ認受シタリトテ、コレニヨリテ直接ニソノ病態ニ變化ヲ起スモノニアラズ。但、周圍ノ刺激ガ初、意識的ニ領收セラレ、前ニモ記述セシガ如ク精神作業ノ身體的疾痛ヲ誘

(1) Vorstellungssociation oder Ideenverbindung

起スルコトアルハソノ多分ハコノ不意識的作業ニヨルナリ。抑、外來ノ刺激ガ精神界ニ領收セラルトキニハ、吾人ノコレヲ知覺スルコト極、輕ク極、薄クトモ、ソハ決シテ孤立スルコトナク、直ニ同時ニ感受シタル他ノ知覺又ハ從來ノ精神内容ト聯絡ヲ取ルモノナリ。ダトヘバ健康狀態ニ於テ、足趾ニ針刺ヲ受クルコトアリトセンカ、ソノ刺戟アリシコトガ、意識ニ上ルト同時ニ少ナクトモ刺戟ヲ受クル身體部位ノ觀念ハ、コレニ附帶シテ起ルベシ。若、又、耳ニ或言葉ヲ聽キタリトセンカ、ソノ言葉ノ表ハス觀念ニ相當シテ一個乃至數個ノ觀念ハ直ニコレニ應ジテ喚起セラルベシ。此ノ如ク一ノ意識的觀念ニヨリテ他ノ觀念ガ興奮セラレテ意識中ニ再現スルコト、コレヲ觀念聯合又、聯想ト名ヅク。コノ機轉ハ繼續ノ法則ト類似ノ法則、コノ二種ノ法則ニ支配セラルルモノナリ。繼續ノ法則トハ觀念ノ中ニテ同時ニ成立シ、又ハ相連續シテ成立シタルモノハ、相提携シテ意識中ニ喚起セラレ易キ傾向ノアルコトナリ。類似ノ法則トハ、各觀念ハ在來ノ意識的觀念ノ中ニテ自己ト類似シタルモノヲ選ビテコレト聯合ヲ營メントスル傾向ノアルコトナリ。コノ二法則ニヨリテ觀念ノ相互ニ聯合サレ追從スルハ、神經中樞ニ於テ興奮機轉ノ傳播スルニ當リ、幾多徑路ノアル中、從前幾度カ使用セラレタルモノヲ擇ビテコレニ倚賴スルニ相當シ、一定ノ習練慣熟アルガ故ニ、一度ソノ徑路ニヨリテ、興奮ヲ傳達シタルトキハ、ソノ影響ハ後ニ至ルマデモ殘リテ再度目、三度目ニソノ興奮ヲ傳播スルトキニ於テ困難、障礙ノ甚、少キモノナリ。聯想機能モコレニ類似シ、一度行ハレタルモノハ二度行ハレ、二度行ハレタルモノハ數回行ハレテ、コレヲ慣用シ、コレニ熟通スルモノナリ。

觀念相互間ノ聯合ヲ支配スル法則ハ、又、觀念ト感動トノ聯合ニモ觀念ト意志的機轉ト肉體的機轉トノ聯合ニモ適合スルモノニシテ。觀念ト苦悶狀態トノ間ニ於テハ、コノ關係特ニ顯著ニシテ、ダトヘバ或群集ノ場所(劇場ノ如キ)ニ臨ミテ偶然ニ苦悶ヲ呈シタルモノハ、ソノ後類似ノ場所(ダトヘバ音樂會、夜會場等)ニ臨ミ、群集中ニ入ルトキニハ、イツモ同様ノ苦悶狀態ヲ呈スルコトアルハ、皆、人ノ知ルトコトナリ。觀念ト肉體的機轉トノ聯合ニツキテハ胃病ニ罹リト云フ觀念アリ

テコレト同時又ハコレニ繼續シテ、胃病又、嘔吐ノ如キ肉體の病症ノ起ルガ如キハ、即、一種ノ聯合的作用ニシテ、爾後ニ及ビテモ、彼觀念ノ發成スルトキハ、毎常モ同一ノ肉體の病症ノ起ルコトアルモノナリ。コレニ類スル聯合法則ハ上意識の觀念相互ノ間ニ行ハルノミナラズ、又、上意識の觀念ト下意識の觀念トノ間ニモ行ハルモノナリ。

外界ノ印象ニヨリテ又、再現作用ニヨリテ從來不意識のナリシ觀念ガ記憶ニ喚起セラレ、ソノ記憶ガ本トナリテ肉體ノ障礙、或ハ動機不明ノ感動ヲ誘起スルコトアリ。ジ・ウ・ン・フルド氏⁽¹⁾ハ、或病人ガ短キ月日ノ間屢、正午ニ不快ナル音信ニ接シ、コレヲ讀ミテハ、惡心・嘔氣・嘔吐ヲ催シタリシガ、ソノ後數年間ハ正午ニ至レバ何等ノ認ムベキ動機ナクシテ、惡心及ビ嘔氣ヲ起シタルヲ見タリト云ヒ。ス・ス・バウム氏⁽²⁾ハ、一婦人ガ或圖書ヲ描キ初メ、ソノ後數月間休ミテ再、コレヲ始メタルニ、コレニ取掛ル度ニ毎回苦痛ヲ覺エ、何故ナルヤ自分ニモ不明ナリシガ、ヨクソノ理由ヲ穿鑿シタル後、ソレヲ書キ初メタルトキニ、或悲報ニ接シタルコトアリ、ソノタメナルヲ知り得タリト云フヲ實驗セリ。コレ甲ノ場合ニ於テハ正午ナル時間ノ觀念、乙ノ場合ニ於テハ圖書ノ物ガ下意識中ニ相當ノ記憶ヲ喚起シ、コレに伴ウテ身體の疾病又ハ感動ガ喚起サレタルナリ。

(六)一定ノ觀念ガ、肉體障礙或ハ外觀的肉體障礙ヲ起ス動機トナルニハソノ相互ノ關係ハ大凡次ノ三ツアリ。

(い)第一ノ場合ニアリテハ、觀念ノ内容ハソノ作用ト符合ス。即、麻痺セリト云フ觀念ハ麻痺ヲ喚起シ、感覺脫失セリト云フ觀念ハ感覺ノ脫失ヲ惹起シ、色慾の行爲ノ不能・疼痛・皮膚ノ溢血等モ、ソレゾレ單純ノ觀念ニヨリテ喚起セララルコトアリ。又、痙攣(ヒステリー)癲癇(舞蹈病)ヲ目撃スルニヨリテ、自、痙攣ヲ起スコトモアリ(精神の傳染)。

(ろ)第二ノ場合ニアリテハ、觀念トソノ作用トハ相符合セザルモ、ソノ間ニ必、論理的的關係又ハ生理的關係アリ。色慾の内容ノ觀念ハ、勃起及ビ射精ヲ起シ、惡臭アル食物、又ハ嫌惡スベキ事柄ヲ想起スレバ、嘔吐ヲ發スル如キ即、コレナリ。コ

ノ場合ニ於ケル觀念ノ作用ハ、コレニ相當スル皮質要素ト他ノ中樞要素トノ生理學的結合(聯絡)ニヨリテコレヲ説明スルコトヲ得ベシ(但、ヒポコンドリー)的觀念ノ作用ハ、此ノ如キ生理學的聯絡ヨリ説明スル能ハズ。脊髓病ニ罹レリト云フ觀念ガ、下肢ノ不確實・薄弱ヲ起スコトアリ、胃病ニ罹レリト云フ觀念ノタメニハ、食後ニ高度ノ胃痛ヲ起シ、又ハ食思不振・惡心・嘔吐ヲ起スコトアリ。コレ等ノ事實ニヨリ考フルニ、當該觀念ハ、恐ラク下意識ニ於テ論理的ノ發育ヲ遂ゲテ、種種ノ性狀ヲ帶ビ、ソノ結果トシテ特殊ノ觀念ヲ生ジ、ソノ人ノ疾病觀ニ應ジテ種種ノ病狀ヲ獻呈スルニ至ルモノナルベシ。(は)第二ノ場合ニアリテハ、當該觀念ト神經障礙トガ聯合的關係(同時的又、同處的)ニヨリテ偶然ニ結合セラルコトアリ。コノ種ニ屬スル實例ハ既ニソノ二ニ述ベタルドモ、今ジ・ウ・ン・フルド氏ノ實驗シタル一例ヲ示サンニ、一病者ハ、ソノ足趾上ニ重キ鐵器ノ落チ來リタルタメニソノ瞬間ニ全身ノ劇痛ヲ覺エタリシガ、ソノ後コノ病者ハ單ニ身體ガ何等カノ固體ニ衝突スルコトヲ想像スルノミニヨリテ、全身ノ劇痛ヲ覺エタリト云フ。

(七)抑、一定ノ觀念ガソノ聯合作用ニヨリテ遂ニ疾病ヲ發生セシムルニ至ルハ悉、皆、吾人ノ意識スルトコロノ機轉ニヨルモノニアラズシテ、ソノ大部分ハ下意識ニ存スルコト上ニ述ベタルガ如ク。或ハ自家推感ニヨリテ病發シ、或ハ下意識の強迫觀念ニヨリテ病發シ、又、病原的追想ノ形トシテ種種ノ疾病ノ原因トナルナリ。サレバ病人自身ハ、コレ等病原ヲナシタル觀念ニツキテ更ニ知ルコトナキガ故ニ、ソノ身體的症狀ガコノ觀念ノ結果トシテ顯ハレタルヲ知ラズシテコレヲ純肉體の疾患ノ徵候ナリト信ズルモノナリ。サレバ此ノ如キ病人ハ、自家推感ニヨリテ起リタル食後ノ胃病ヲバ、普通胃疾患ノ徵候ト思ヒ、自家推感ニヨリテ起リタル下痢ヲバ、腸虛弱或ハ胃加答兒ニ由來スルモノト認ムルヲ常トシ。神經衰弱者ガ一定ノ場所、タトヘバ群集中ニ在リテヒポコンドリー症及ビ不整脈ヲ起シタルトキ、只管、自己ガ心臟病ニ罹レルコトヲ信ジテ、此ノ如キ場所ニ在リト云フ觀念ガ、病人ノ下意識中ニ苦惱の内容ノ強迫觀念(タトヘバ、不慮ノ災害ヲ蒙ルコトナキカ、

自分コレニ堪ユルコトヲ得ルヤラ慮ルガ如シヲ喚起シ、以テ右ノ如キ心臓ノ機能障礙ヲ來タシタルコトヲ知ラザルモ、コノ病人ノ上意識中ニハ、此ノ如キ苦悶ノ表現ナキヲ以テナリ。サレバ、ヘツケル氏ハ此ノ如キラ假面性苦悶状態ト名ツタリ。

此ノ如キ病原的觀念アリ、ソノ司配ヲ受ケテ病症ヲ發生シタルトキ、コノ觀念ヨリモ優勝ナル反對觀念ヲ喚起シテ、彼病原的觀念ヲ驅除シ以テ、ソノ病症ヲ治癒ニ導カントスルハ、即、推感療法ナリ。コノ治療法ハ往昔ニ於テソノ真相ノ未、明カナラザリシ頃ニモ盛ニ採用サレシガ、輒近ニ至リ、催眠術現象ノ研究起ルニ及ビテ、著シク進歩セリ。觀念ニヨリテ疾病ノ治癒スル(即、治癒觀念)⁽³⁾ハ種種ノ機轉ニヨリテ行ハルモノナリ。而シテ、此ノ如キ治癒ヲ催進スベキ觀念ノ如何ナルモノナルカハ病原的觀念又ハソノ結果ノ如何ニヨリテ異ナルモノナリ。觀念ノタメニ起リタル麻痺ヲ治療セシメンニハ、病人ヲシテ「麻痺シ居ラズ、コレヲ動カシ得」ト云フ觀念ヲ抱カシメ、觀念ニヨリテ生ジタル疼痛ニ對シテハ、「ソノ疼痛ハ消失ス」ト云フ觀念ヲ抱カシメ、又、觀念ニ因スル嘔吐ニ對シテハ、「胃ハ健康ニシテ克ク食物ヲ受容ス」ト云フ觀念ヲ抱カシムルニヨリテ、ソノ症ヲ治癒セシメ得ベシ。然レドモ此ノ如ク觀念ノ作用ニヨリテ輕快シ治癒スルハ、觀念ヨリ生ジタル病症ノミナラズ、觀念トハ交渉ナキ純肉體的ノ障礙モ亦、然カルナリ。殊ニ種種ノ原因ニヨル疼痛・感覺障礙・食思不振・腸管機能緩慢・月經異常又、痲麻質斯性病狀等ノ如キラ然リトス。右ノ内局處病ニ因ル疼痛ノ如キガ、ソノ疼痛ハ消失スベシト云フ觀念ニヨリテ除却スルハ、コノ觀念ガ直接ニソノ病竈或ハソノ神經ニ影響スルタメナリトハ認ムベカラズシテ、コノ治癒的觀念ガ病處ト聯絡ノアル大腦皮質ノ觸覺的・神經要素ニ抑制的影響ヲ及ボシ、以テコノ病竈ヨリスル興奮ノ意識内ニ傳ハリ入ルヲ拒ムニヨルモノト認ムベキモ、一定ノ觀念ノ喚起ニヨリテ胃液分泌・腸筋肉機能等ノ興奮ヲ來タシ、身體ノ循環機轉・營養機轉ニ影響ヲ受クルガ如キ場合ニアリテハ、觀念ハ相當皮質ニ一種ノ興奮ヲ起シ、ソガ遠心性ニ末梢神經ニ分

(1) Hecker
(2) Larvierte Angstzustände

(3) Heilvorstellung

泌神經・筋肉運動神經(腸筋肉ノ運動神經)・血管運動神經(血管收縮神經・血管擴張神經)及ビ榮養神經等ヲ經テ當該臟器ニ傳達セラルルナリ。病原的觀念ガ下意識ニ存スルコト多キガ如ク、治癒的觀念モ亦、屢、下意識ニ存スルコトアリ。治癒的推感ナドハ、催眠術的夢遊状態ニ乗ジテ、コレヲ與フレバ、病人ハ更ニコレヲ認識セザレドモ、ソノ治癒的作用ハコレガタメニ決シテ減弱セズシテ、却テ增強スルモノトス。

コノ治癒觀念(現在ノ疾病ハ治療スベシト云フ觀念、云云ノ症狀ハ消失スベシト云フ觀念)ヲ病人ニ推感スルニハ、種種ノ方式アリ。ソノ推感ノ最、ヨク行ハルハ催眠術的推感ナレドモ、一定度ノ推感ヲナスニハ、必シモ催眠術ノ助ヲ藉ルノ必要ナク、醒覺状態ニ於テモ、亦、コレヲ施スベキモノナレバ、吾人ハ場合ニヨリテ、コレヲ利用シテ治療ヲ行フコトアリ。故ニ吾人ハ推感療法ヲ醒覺時推感法ト催眠術療法トニ區別ス。

甲 醒覺時推感法^(a)

(一)醒覺時推感法ニハ言語推感法アリ、覆面的推感法アリ。

(イ)言語推感法⁽²⁾トハ言辭ヲ以テ推感ヲ與フルニテ、證言ト豫告ト命令トニ區別スベシ。「コレコレノ障礙ハ既ニ消失セリ」ト云フコトヲ確ニ證言シ、或ハ「コレコレノ障礙ハ一定時内ニ消失スベシ、必、消失セザルベカラズ」ト豫告シ、或ハ從來病人ガ迎モ爲不能ト信ツテ、斷念セルコトヲ能フベキコトヲシテ、強テ行フ様命令スルガ如キコレナリ。コノ法ハ瑞西・英吉利等ニ於テ盛ニ行ハレツアルモノニシテ病人ニ一定度ノ信仰アルニアラザレバ、コレガ奏效ヲ得ルコト困難ナリ。病。症。既。ニ。去。リ。ト。證。言。ヲ。以。テ。治。療。ヲ。推。感。ス。ル。ヲ。得。ル。ハ。神。經。衰。弱。症。・ヒ。ス。テ。リ。ナ。ド。ニ。テ。推。感。性。ガ。必。要。ノ。程。度。マ。デ。増。進。シ。タ。ル。場。合。ニ。ハ。十分ナル奏效ヲ得ベシ。ダトヘバ、神經衰弱病者ニシテ臨場苦悶ノ症狀アルガタメ單身外出シ得ザルモノニ何等ノ危險ナ

(1) Wachsuggestion
(2) Verbale Suggestion

(1) Imperative Suggestion

キコトヲ説キ、有力ナル確證ヲ與へ、ヒステリー病者ニシテ咽頭痙攣・牙關緊急・失聲症・筋麻痺等アルニ各各相當ナル安心ノ確證ヲ與フルトキ然リトス。ソノ他強迫觀念ニモ治效ヲ擧グルコトシバシバニシテ、病人ガ著シク醫師ヲ信用スルトキニ於テコノ方法ニヨリテ容易ニコレヲ一掃スルヲ得ベク、諸種ノ不能觀念(タトヘバ食事不能・睡眠不能等ノ如キ強迫觀念)ハ皆、然カナリ。豫告ニヨリテ治癒ヲ推感スルハ、症候ノ隱見不定ニシテ經過ノ移動シ易キ場合ニ用フベキモノニシテ奏效モ少ナカラズ。特ニ疼痛・震顫・搖蕩等ノ病症ニシテ一過性ナルニハ、有效ナルガ如キモ、久慢ナル病狀ニ對シテハソノ結果ハイツモ確實ナリトハ言ヒ難シ。時日ヲ確定シテ治癒スベキコトヲ豫告スルハ、失敗ヲ招クノ基ナレバ、日ナラズシテ治癒スベシト云フガ如ク期日ヲ定メザル様スベシ。命令的形式ヲ用フル推感モ慢性ノ疾患ニハ、奏效確實ナラザルコト多シ。ヒステリー患者ニシテ筋麻痺ノタメニ久ク臥牀シ居ルモノヲ俄ニ扶ケ起シ、即座ニ歩メト命ジ、ヨリテ以テソノ麻痺ヲ治シ得ルガ如キハ、極メテ稀有ニシテ、且、コノ方法ヲ用ヒテ豫期ノ奏效ナキトキハ、病人ノ醫師ニ對スル信用ハ頓ニ地ニ墜チテ他ノ更ニ奏效アルベキ方式ヲ試ミルモ、毫モソノ效ナキニ至ルベシ。サレバ命令的推感ヲ行ハントスル場合ニハ豫、他ノ方式ニヨリ、命令的推感ノ有效ナルコトヲ推感シ置クノ必要アリ。此ノ如クニシテモ尚、ソノ奏效ハ必、確實ナリト云フベカラス。若、ソノ病症ガ神經性咳嗽・哮喘等ノ如ク意志ニヨリテ抑止シ得ベキ様ノモノニシテ、比較的陳舊ナラザルトキニハ、コレニ命令法ヲ施ストキニハ(コレ等ノ病症ハ病人ヨリハ不隨意ノ症狀ノ如ク考ヘラルルモ、實際ハ意志ニヨリテ左右スベキモノナルガ故ニ)ソノ症ノ直ニ治癒スルコトアリ。コレ等ハ、威壓的ニ或事ヲナサザルベカラズト云フ觀念又ハナシ得ベシト云フ觀念ヲ注入シ病人ガ少シモ抵抗ナシニコレヲ受容スルトキニ於テ最、有效ナリ。

(2) 覆面的推感法 言語推感法ハ病人ニ一定度ノ信仰ナケレバ奏效困難ニシテ、却テ數多ノ反對觀念ヲ惹起シ、コレニヨリテソノ推感ヲ受容シ效果ヲ擧グルコトヲ妨ゲラルルコト多シ。サレバ病人ガ容易ク推感ヲ受容スル様又、反對觀念

(1) Larvierte, maskierte, materielle Suggestion

起ラザルヤウニ豫、病人ノ聯想作用(思想ヲ調整シ置クノ必要アリ。ソレニハ他ノ治療方法ヲ用ヒテ推感ノ效果ヲ補充スルヲ常トス。コレ等ノ治療方法ハ必シモ化學的又ハ理學的ノ性質ニヨリテ病症ニ影響ヲ及ボスモノタルヲ要セズ。タダ病人ガ篤クソノ效果ヲ信ジテ深クコレニ信賴シ、必、治癒スベシトノ期待心ヲ抱クニヨリテ推感ノ奏效ヲ助クルモノトナレバ足ルナリ。是ノ如キモノヲ隱蔽的推感・覆面的推感又ハ物質的推感ト名ツク。コノ覆面的感法ハ實地上極メテ重要ナル治療法ニシテ、吾人醫師ハ日常不知不識ノ間ニ、種種ノ形式ヲ以テ、コレヲ行ヒツアルモノナリ。病人ハ自己ノ信賴スル醫師ノ處方スル藥劑ヲ以テ、治療的效果ノ極テ偉大ナルモノト信スルガ故ニ、麵麩製丸藥・著色水・乳糖・諸種ノ丁幾劑等ノ如キ學理的ニハソノ治療的效果力ヲ認ムベカラザルモノヲ用ヒテモ著シキ奏效ヲ見ルコトアリ。コレ全ク覆面的推感ノ效ニシテ俗諺ニ「罎ノ頭モ信神柄」ト云フハコレナリ。醫師ガ場合ニヨリテ無害ナル塗擦劑・軟硬膏・卷包法ヲ用ヒ又ハ蒸餾水ナドヲ注射スルガ如キモ、亦、コノ實例ナリ。コレ等ノ處置ノ内ニハ醫師ガ自、學理上治效アリト認ムルモノナキニアラザレドモ、ソノ實際ノ效果ハ全ク推感ニヨルコト少ナシトセズ。色色ノ内服藥ヲ覆面的推感ノ手段トシテ用ユルニハ必シモ無害ナルモノノミヲ選ブノ必要ナシ。病人ノ中ニテモ殊ニ神經病者ナドハ藥劑ニ就キテ説明ヲ求メ諸方ニ行キテ處方ヲ求メ、コレヲ比較シ研究スルヲ事トスルモノアリ。此ノ如キ病人ハ醫師ノ説明ガ不満足ナルトキニハ、藥劑師ニ就キテマテソノ説明ヲ求ムルモノナリ。サレバ處方ノ效果ニ關シテ病人ノ疑惑スルコトナキ様ニスルニハ、多量ニテ初テソノ病症ニ效不用アルガ如キ藥劑、又ハ推感ノ助ヲ藉ラザレバ、病症ヲ治癒セシメザルガ如キ藥劑ヲ極少量ニ與フルヲ可トス。タトヘバ睡眠不熟ニズルナル又ハトリオナル〇・〇五乃至〇・一ヲ處方シ、一食匙ノ臭素水・數滴ノ纈草丁幾・纈草茶劑ヲ處方シ、疼痛ニ對シテアンチピリン又ハフナチンノ少量ヲ與へ、便秘ニサクラダ酒ノ數滴・水製大黃丁幾ノ一食匙ヲ與へ、衰弱狀態ニ次亞磷酸鹽舍利別ノ數滴ヲ與フルガ如キコレナリ。コレ等ノ場合ニ於テハ推感ノ效力ハ藥劑ニ對スル病人ノ

信用ニヨリテ補ヒ助ケラルルノミナラス、若、ソノ藥劑ガ實際ニ於テ多少ニモセヨ治療的效果ヲ表ハスコトアルナラバ、ソハ推感ノ效果ヲ更ニ又、増進スルモノトス。

(二)諸種ノ理學的治療法ハ、藥劑ニ比シテ一層ゴノ目的ニ適スルモノナリ。コレ教育アルモノハ、概シテコレ等治療法ノ藥劑ヨリモ有效ナルヲ信ズル傾向アルガタメナリ。即、各種ノ電氣療法：水治療法・鑛泉療法・藥浴療法・磁石療法・按摩療法・懸垂療法等ハ、斯ノ如キモノトシテ屢、行ハルモノトス。就中、電氣ハ任意ニ強度ヲ變ヘテ種種ノ體部ニ用フベキガ故ニ、ソノ應用最、廣クシテ、神經衰弱症等ニモコレト水治法トヲ兼用スルコト多ク、他ノ考ニテ用キラルルコトモアレド、ソノ效用ハ全ク推感のノ效用ナリト云フベシ。然レドモノノ必要モナキニ電氣ヲ濫用シテ神經性障礙トサヘ言ヘバ、直ニ感傳電氣等ナドヲ用フルハ、疾病ノ性質ガ推感療法ニ適セル場合ニ於テモ、却テソノ病狀ニ不良ナル影響ヲ與ヘテ症狀ノ増悪スルコトモ少ナカラス。病人ニヨリテハ、電氣療法ヲ受ケテ較明ノ感覺ヲ起ス程度ヲ恰好トシテコレニ信賴スルモノアレドモ、甚シキ疼痛ヲ待チテ初テソノ治效アルヲ信ズルモノハ甚、少ナシ。最中等度ノ感覺ヲ起サシムルモ、激痛ヲ覺エシムルモ、ソノ推感のノ效果ニ於テ經庭アルモノニアラザレバ、強度ノ電流ヲ用フルハ、必シモ須要ニアラズ。平流電氣ハ疼痛ヲ起スコトナクシテ、病人ニ強キ印象ヲ與フルモノナレバ特ニ賞用セラル。電氣ノ心得ナキモノニハ感傳電氣ノ推感の治效ハ却テ平流電氣ニ勝レリ。

(三)ソノ他覆面的推感療法トシテ用フベキハ、色色ノ局處療法ナリ。ヒステリー性咳嗽ニ對スル喉頭ノ塗布・ヒステリー性食道痙攣ニ對スル消息子挿入・神經性胃障礙殊ニヒステリー性嘔吐ニ對スル胃洗滌・ヒステリー性色盲症ニ對スル著色眼鏡ノ使用、又ハ必要ノ場合ニ應ズル假裝手術ノ如キ皆、コレナリ。婦人ノ生殖器病ニ伴フ神經症狀ガ婦人科の處置ニテ治癒スルコトアルハ、嘗ハ婦人科醫ノ主張スルトコロナリシガ、近時ニ至リテハ、専門家モ漸次ニソノ奏效ノ主トシ

(1) Phantasieheilmittel

- (2) Grocco
- (3) Bourru
- (4) Burot
- (5) Metallotherapie
- (6) Despine
- (7) Burcq

テ推感ニヨルモノナルヲ認ムルニ至レリ。男子ニアリテモ、亦、尿道攝護腺部ニ坐藥ヲ送り、或ハ收斂藥ヲ注入シテ、ソノ部ノ疾患ヲ治癒スルコトアリ。ソノ多クハ推感ノ力ニヨルナリ。スベテコレ等ノ場合ニ於テハ醫師ハ、ソノ方法ヲ普通正規ノ治療方法中ヨリ選擇採用スベキハ勿論ナルガ、宗教的信仰心ノ強キモノ及ビ神祕主義ニ傾ケル病人ニ在リテハ、コレ等ハ毫モ治療の價値ヲ有セズ、專、病人ノ想像力竝ニ宗教的觀念ニ作用スルガ如キ治療方法ニヨリテ、却、十分ナル效果ヲ擧グルコトアリ。コレ等ハ即、想像療法⁽¹⁾トテモ云フベキカ。護符・咒文・御札・御神水・舍利等ノ如キコレナリ。此ノ如キモノニヨリテ他ノ療法ガスベテ用ヲナストキニ於テ、病症ノ治シ去ルコト屢、ソノ例アリ。

藥袋療法ハソノ變法ニテ(グロツコー氏⁽²⁾・ブルームー氏⁽³⁾・ビーロー氏⁽⁴⁾等藥劑ヲ袋ニ入レテ之ヲ負ハシムルコトヲ試ミタリ)コレニ似タルハ所謂金屬療法⁽⁵⁾ナリ。(ソノ初ハデスバン氏⁽⁶⁾ニシテ、金屬板ヲ患部ニ當テ黃金ハ麻痺ヲ除キ、亞鉛ト真鍮ト反對作用アリト云ヒタリ。ソノ後ブルク氏⁽⁷⁾・シルコー氏モコレヲ用ヒタリ)。

(四)覆面的推感療法ニツキ注意スベキハ、病人ガ醫師ヲ信賴スルノ念強キトキハ、推感用ノ方式器具ノ如キハ簡單ニシテ足ルコトナリ。即、ヒステリー性小兒ニアリテハ、コレマデ色色ノ療法ニテ治セザリシ局部ノ疼痛ガ冷水洗滌ニヨリテ、忽ニ治シ去ルガ如キコト少カラズモ、成人ニアリテハ、此ノ如キコトヲ以テ奏效ヲ見ルハ容易ナラズ。故ニ醫師ガ何物カラ推感方トシテ用キントスルトキハ、ソノ病人ガ常識アル人ナラバ、ソノ材料竝ニ使用法ヲ輕視スルガ如キ様子⁽⁸⁾ヲナスベカラズ。ソレヲ使用スル方式ガ愈、精細愈、確實ナレバ推感ノ效果ヲ收ムルコト愈、大ク、愈、確ナルモノナリ。尙、又、ソノ治療材料ノ性質及ビ治病の效力ノ何人ニモ曉リ易キトキニハ、ソノ推感の效用ハ最、著明ニ最、確實ナルモノニシテ、病人ガ特ニ思慮ヲ費シ、知識ヲ求メズトモノノ病ニ對スル效果明明白白ニシテ、コレニ接スレバ醫師ノ推感ヲ俟タズシテ直ニ、自、ソノ治效ニ信服スルガ如キモノ最、有效ナリ。

(五) 覆面推感法ニハ、言語推感ヲ併セ施スコトハ必シモ必要ナラズ。時トシテハ却、ソノタメニ不良ノ結果ヲ來タスコトアリ。故ニコレヲ病人自身ガソノ想像ニヨリテ如何様トモ自、推感スルニ任セテ醫師ハ唯、ソノ取扱方法ヲ指導スルニ止ムルトキハ場合ニヨリテ、言語推感ニテハ到底豫期シ能ハザル程ノ意外ノ效果ヲ齎ラスコト稀ナラズ。然レドモ亦、コレト同一ノ理由ニヨリテ、全く無害ナル藥劑又ハ術式ヲ用フルトキモ病人ノ自家推感ニヨリテ(所謂特異現象トシテ)意外ナル惡結果ヲ起スコトモアレバ、コレ等ハ共ニ醫師ノ注意スベキコトナリ。此ノ如キ自家推感ハ、食欲・睡眠ノ如キ全身状態ニ對シテ他療法以上ニ特殊ノ良效ヲ奏スルモノトス。

(六) 醒覺時推感療法ハ左ノ諸症ニ用フベシ。

神經衰弱ニハ肉體的治疗法ノ、必要ナルコトシバアリ。藥劑ヲ用キテ病狀ニ何等カノ輕快ヲ來タシタルトキハ、病人ハ醫師ニ對スル信用ヲ増シ、爾後ノ病狀ニ好影響ヲ與フルコトアリ。反之ソノ處置ニヨリテ容態ノ増惡スルトキハ、病人ノ失望ヲ招キ同醫師ニ對スル不信用ヲ惹起スルコトハ、殊ニ本病ニ於テ著明ナリ。電氣療法・水治療法ハ、神經衰弱ニ對シテハ、推感的作用アルニ過ギズ。恐怖症ニテ不安ノモノナドニコノ推感方ヲ用フルコトアリ。臨場苦悶ノタメニ外出スル能ハザルモノナドニ無害ノ藥劑ヲ與ヘテコレニヨリテ屋外ニテ不安ノ起ラザル様信ゼシムルコトアリ。スベテ強迫觀念ニハ覆面推感法ノ有效ナルコト多シ。不食・不眠・臨場苦悶症ノアル病人ニハ、食前・睡眠前・恐懼ノ場所ニ赴ク前等ニ服藥セシムベシ。數回服藥セシメタル後ニハ漸次ニ病人ハコレ等ノ藥劑ト交渉ナクモヨク食事シ睡眠シ不安ノ場ニ臨ミ得ルニ至ルベシ。神經衰弱ノ症狀中推感療法ニ適セザルモノ多ク、ソノ中主要ナルハ精神作能力減退・記憶減弱・筋肉動作ノ障礙等ナリ。強迫觀念・恐怖症・抑鬱症・頭痛・脊痛・肢痛・神經性心臟衰弱・神經性胃腸障礙・生殖器機能の障礙等ニ對シテハ推感療法ハ治效多シ。

個個ノヒステリー症狀ヲ治療スルニハ、推感療法最適當ナリ。醒覺時ノ言語推感・某症狀ハ無クナルベシ、不能ナルコトヲナセト命ズニヨリテ、既ニ二三ノ症狀ヲ治愈セシメ得ルノミナラズ、ヒステリー發作ノ場合ニハ言語推感ハ、甚有效ナルコトシバアルモ、ソノ多數ニハ覆面的推感ハ、言語的推感ヨリモ有效ナリ。ヒステリー患者ハ被推感性ノ大ナルモノナレバ、コレヲヨク利用スルコト最、大切ナリ。甲患者ハ自己ト同症ノ乙患者ガ某療法ニヨリテ治愈シタルヲ聞クバ、ソノ療法ニ對シテ十分ノ信賴ヲ抱キ、ソレヲ自身ニ施サルトキ、著シキ好影響ヲ受クルモノトス。病人ノ醫師ニ對スル信憑ハ、更ニ偉大ナル治療的作用アルモノニシテ、病人ニシテ某療法ノ效果ヲ信ズルモ、コレヲ施ス醫師ニ信賴スルコトナケレバ、ソノ療法ノ奏效ハ望ムベクモアラズ。ヒステリー性疼痛ノ如キハ病人ノ周圍ヨリ著シク影響セララルモノニシテ、疼痛ヲ治療セシメンガタメニ甚シク同情シ共ニ悲憂シテ、甚シクソノ診治ニ力メルコトハ、却、病人ニ不良ノ推感ヲ與ヘ、平靜ノ態度ヲ以テ疼痛ノ速ニ去ルベキヲ告ゲ、病人ノ注意ヲ他ニ誘致スル方、ソノ效果著明ナリトス。コノ際覆面的推感トシテ電氣療法・塗擦・電法・貼膏・撤布・皮下注射・入浴等ヲ用ユルハ最、可ナリ。但、コレ等ノ處置ハ全く推感的作用アルモノナレバ、ソノ選擇ハ病人ノ信ズルトコロニヨリテ適宜ニスベシ。覆面的推感ガ效ヲ奏セザルトキニハ催眠術ヲ兼用シ、又ハ催眠術ノミニ賴ルモ可ナリ。

ヒステリー痙攣ノ輕症ニハ凡、推感療法ヲ適當トス。發作中ニ於テ病人ガ意識ヲ消失シ居ラザルコトハ、醫師ノ常ニ注意スベキコトニシテ、ソノ發作中ニハ意識ハ一程度マテ濁濁スルモンハ被推感性ヲ失フマデニハ至ラザラテ通例トス。故ニ發作ノ起ルニ當リ醫師又ハ家族ノモノガ著シク狼狽スルトキハ、病人ハコレヲ認識スルヨリ、ソノ精神上ニ不良ノ影響ヲ受ケテ、ソノ發作ハ増惡シ永續スルモノナリ。サレバコノ際周圍ノモノハ、ソノ舉作ヲ謹ミ、病人ヲシテ發作ノ恐レベキモノニアラザルコト、又、速ニ經過スルモノナルコトヲ認識セシムルニ勉ムベシ。

ヒステリー性麻痺ハ、精神作用ニヨリテ頓挫スルコトシバアレドモ、吾人ハ、此ノ如キ卒然ノ治效ヲ待マズシテ、漸次ニ治癒ヲ招ク處置ヲ採ラザルベカラズ。ソレニハ、電氣療法ナドハ、著シク有效ニシテ、皮膚ヲ刺戟シ、筋肉ニ攣縮ヲ起スタメニ、大脳皮質ナル運動領ヲ興奮セシメ、旺盛ナル運動觀念ヲ喚起スルモノナリ。按摩モ亦、コノ症ニ對シテ有效ナレバ電氣推感ニ併用スルヲ可トス。麻痺症ニハ器質的ノモノモアレド、コレニモ、推感療法ヲ應用スベシ。コレヒステリー性機能性ノ症狀ノ附帶スルコトモアレバナリ。理學的治療法ナドヨシ。外傷性神經症ニ於テハソノ苦惱ニ對シテ推感療法ヲ行フベク、ソノ苦惱ニ精神的ノ根柢ナキヲ知リタラバ、先、適當ナル肉體の療法ヲ試ムベシ。

ソノ他、器質的病變ノ直接結果タラザル病症、タトヘバ、全身狀態ノ障礙、食思ノ不振、睡眠ノ不足、頭痛、眩暈等ニハ推感療法ノ適應スルモノ最、多クシテ、醒覺時言語推感法ハ、奏效極メテ稀ナルモ、覆面的推感法ハ、著シキ治效アルモノナリ。疼痛ニ無害ナル塗布藥、卷法等ヲ用キ、麻痺及ビ痿弱ニ電氣按摩等ヲ用キ、感覺脫失、感覺障礙ニ磁石療法ヲ施シ、以テ偉效ヲ奏スルコトナリ。浴療法ノ如キモノノ效果ハ、一時的ニシテ推感的作用ニ他ナラズ。

諸種ノ局所性筋肉痙攣(ヒステリー性ノモノノミナラズ、顔面神經痙攣、副行神經痙攣、四肢ノ筋肉痙攣、ミオクローニチツク等)ニ對スル覆面推感法トシテハ、フランクリン氏電氣療法ヲ用ユ。種種ノ職業的、神經症、殊ニ書癡ニ對スル覆面的推感療法ノ效果ハ、疑ハシ。ベルンハイム氏、ロイド、タツキー氏等ハ、催眠術ニ兼テテ按摩ヲ行ヒ、コノ疾病ヲ治癒セシメタリト云フ。

癲癇ハ、精神療法ニ適スルモノニアラザレバ、ソノ發作ハ、精神的影響ニヨリテ、著シク減退シ又ハ消熄スルコトアレドモ、

- (1) Bernheim
(2) Lloid Tucky

ソノ症ノ治癒スルハ例外ナリ。癲癇ノ症多年ニ涉リテ永續シ、種種ノ療法ヲ施スモ持續的ノ效果ナキトキ、新藥若クハ新規ノ治療法ヲ施セバ、一時奏效スルコトナリ。此ノ如キ場合ニ於テハ、ソノ效果ハ推感ノ力ニヨリテ認ムルノ他ナシ。

舞踏病ニ對スル精神療法ノ效果ハ、癲癇ニ比シテ、遙ニ著明ナリ。傳染性殊ニ慢麻質斯性ノ小舞踏病ニハ、普通アンチピリン、砒素ノ如キ藥劑ヲ用ユルノミテ可ナルモ、コレ等ノ藥劑ガ消化障礙ヲ起スカ又ハ四乃至六週間ヲ經過スルモ效果ヲ表ハサザルトキニハ推感療法ヲ行フベシ。ジューエンズルド氏ハ、背部或ハ四肢ニ弱キ平流電氣ヲ應用シテ良果ヲ收メタリト云フモ、ソハ一時的ナルコト多シ。感情ノ興奮ガ病因ナルトキニハ、先、推感療法ヲ行フベシ。

常習性頭痛ハ、神經衰弱症ニアリ、ヒステリー症ニアリ、又、原因ノ不明ナルコトナリ。推感療法ハ甚、有效ナルモ、大抵ハ先、平流電氣、感傳電氣、フランクリン氏電氣法、水治療法ノ如キヲ用キ。コレニ失敗シタルトキ、初メテ推感療法ヲ行フベシ。覆面推感トシテ藥劑ノ内服、頭部ノ卷法、又ハ洗滌、弱キ電氣等ヲ用ユルトキハ、時トシテ失敗スルコトナリ。

心臟疾患ノ中ニテヒステリー性心臟病、ヒステリー性狭心病ニハ、覆面推感法ヲ用キテ效アリ。冠狀動脈ノ硬化ニ基ツク眞正狭心症モノノ輕度ナルハコレニヨリテ治癒スルコトナリ。神經性ナル心臟衰弱ノ症ニシテ發作性又ハ持續性ニ起ルコトナリ。ソノ速脈、遲脈、不整脈等ニ對シテハ、覆面的推感療法有效ナリ。電氣療法ノ内ニテハ、心臟部ニフランクリン氏電氣療法ヲ施スコト效アリ。閃光電氣及ビ感傳電氣筆等ハ、屢、脈數ヲ著シク減少スルモノニシテ、精神的ノミナラス、アル反射作用ニヨリテ奏效スルナリ。特ニ不安ナル病人ニハ一日數回種種ノ藥劑ヲ内

服セシメ、發作ノ起ルニ當リコレ等ノ推感法ヲ應用スルヲ可トス。

呼吸器疾患中神經性咳嗽殊ニヒステリーニシテ高度ナルハ、種種ノ藥劑電氣療法等ニヨリテ、覆面的推感法ヲ與ヘ、兼テ呼吸操練法ヲ施スベシ。境遇ノ變更モ時トシテ頑固ナル神經性咳嗽ヲ頓挫セシムルコトアリ。

消化管障礙トシテ嘔下困難ガヒステリー性又ハヒステリー神經衰弱性ノ症狀トシテ起ルコトアリ。ソノタメニ食事困難又ハ食事不能トナルコトモアリ。コノ場合ニハ電氣療法ヲ施シ、就中、フランクリン電氣喉頭部ニ通スルトキハ有效ナリ。單純ノ言語推感ニヨリテ、治癒スルコトモ多シ。胃疾患ニテ推感療法ノ奏效スルハ器質的ナルヨリモ神經性ナルモノニ於テ著明ナリ。覆面的推感療法ノ内ニテハ胃部ノ平流電氣・フランクリン電氣ノ施用ヲ有效ナリトス。水治療法(ブリースニツツ氏器法)、胃部ノ按摩・無害無效ノ内服藥等モ、亦、屢、奏效ス。胃潰瘍ガ推感ニヨリテ治癒ヲ招クコトハ、甚、疑ハシト雖、潰瘍ノ癍痕ニ基ツク病狀ハ、コノ療法ニヨリテ意外ニ治癒スルコトアリ。神經性腸疾病ニ對シテモ同様ノ覆面的推感療法ヲ適用ス。常習性便秘ニシテ、腸弛緩症ニヨルモノニハ、覆面的推感法トシテ一定ノ丸藥ヲ與ヘテ奏效スルコトアリ、理學的療法ヲ併用スベキハ勿論ナリ。

生殖病ニ就キテ云ハバ、性慾的刺戟状態ニ罹レル神經衰弱症患者ニシテ、遺精ヲ告グルモノハ、全身ノ狀態又ハ局部的病狀ガ遺精ノタメニ増悪シ、病人ハ次第ニ注意ヲ遺精ニ集中シ、ヒポコンドリー性鬱愛性ノ感情ニヨリテコレヲ判ズルヨリ、コレヲソノ病ノ原因ト解釋スルニ至ルナリ。コノ場合有效ナル精神療法トナルハ、身體的處置ニヨリテ過度ノ遺精ヲ除クコトナルガ(食餌法・冷却探子等)。コレ等ノ治療法ハソノ奏效徐徐ナルヲ以テ、病人ヲシテ生活法ヲ整規ニセシメ、甚シク遺精ヲ恐ルルコト從ツテ又、ソノタメニ抑鬱スルコトノナキ様コレヲ戒ムベシ。所謂淋疾神經衰弱ニ對シテモ、ソノ精神療法ハ同様ナリ。コノ種ノ病人ハ、輕度ノ慢性尿道炎ニ罹リ、コレニ對シテ常ニ恐怖ヲ抱

- (1) Spermin, Pöhl
- (2) Autosuggestive Impotenz
- (3) Psychoneurotische Impotenz

(4) Theilhaber

キ、反復シテ治療ヲ受クルモノノ效ナキトキニハ、精神不安ノ狀態ニ陥リ、延テ全神經狀態ニ不良ノ影響ヲ及ボスモノナリ。此ノ如キ場合ニハ局所療法ヲ中止スルトキハ、ソノ精神及ビ肉體ニ對スル惡影響ヲ除キ得テ病人ハ却テ速ニ恢復スルモノナリ。ソノ局所ニ對シテハ、フランクリン氏電氣療法・平流電氣法等ヲ用キテ覆面的推感法ヲ加フレバ、速ニ治癒スルコトアリ。精神的交接不能ニシテ自家推感ニ基ツクモノ⁽¹⁾ニハ覆面的推感法トシテ無効ナル藥劑ヲ用ユルカ或ハ辜丸エキス・スベルミンベル⁽²⁾等ヲ用ユ。精神的交接不能ニシテ感動又ハ精神過勞ニヨルモノニ對シテハ、ヨク病症ヲ案ツテ、覆面的推感療法ヲ用ユベキカ否ヤヲ定ムベシ。精神神經の生殖不能症⁽³⁾ト稱シ、性慾性神經衰弱ニ罹レルモノニハ、ソノ生殖力ハ實際減弱セルモ、全然交接不能ナルニアラズ、屢、精神の影響(即、交接ノ不達望ノ恐怖又ハ交接時ニ於ケル過度ノ興奮ニヨリテ、交接シ能ハヌナリ。コノ場合ニ於テハ、病人ヲシテ再自己ノ生殖力ヲ信賴スルニ至ラシムル様精神療法ヲ行ヘバ、著シキ效果アルベシ。猶、其際生殖力ニ對シテ著シク

焦慮スルノ有害ナルコトヲモ告グルヲ可トス。又(假面的)電氣療法水治療法ヲ用ユ。

婦人生殖器病ノ中、子宮痛及ビ卵巢痛ニ對シテハ、種種ノ覆面的推感療法ヲ用キ、皮膚刺戟・軟膏塗擦・感傳電氣・平流電氣等ニテ、コレヲ治癒セシムルコトヲ得。コノ種ノ疾病ニ對シテ、屢、模擬手術ヲ行フモノアレドモ、ソノ效果ハ、手術ニ對スル恐怖ノタメニ蔽ハルルヲ常トシ、有害無效ト云ハザルベカラズ。婦人生殖器ノ解剖的變化殊ニ子宮轉位ニアリテハ、病人ノ苦痛ガソノ局所變化ト直接ノ關係ナキハ、今日タイルハーベル氏⁽⁴⁾ナドノ云フトコロニシテ、婦人科學上既定ノ事實ナリ。又子宮ノ位置異常ニ於テ屢、認メラルル腹痛・薦骨痛及ビ出血等ハ、神經性ナルコト尠カラズ。此ノ如キ症ニ於テ婦人科の局所療法(ベツカリウム手術)ハ推感の效用アルニ過ギズ。減尿症・無尿症・多尿症ニシテヒステリー性ナルニハ、覆面的推感法トシテ藥劑ヲ内服セシム。刺戟性膀胱ナル疾病ハ、

屢、神經衰弱及ヒステリーニ併發シ、尿意頻數、膀胱痛等ヲ來タスモノナルガ、ヒステリー性膀胱麻痺ト共ニ覆面的推感ニヨリテ容易ニ治癒ス。

尿閉ニシテ直腸手術後(痔手術)ナドニ反射的ニ發スルコトアリ。膀胱括約筋ノ強痙又ハ同壓定筋ノ萎靡ニヨルモノニシテ、藥劑療法ハ效ナク。外科療法(カテーテル)ハ危險モナカラズ。カテーテル使用ハ麻痺ノ觀念ヲ助長スル故。膀胱部ニカナリ強キ感傳電氣ヲカケテ、ソノ病人ニ「故障既ニ除ケリ」ト宣言シ、次ニ電氣ヲ止メ(電氣ノ音ハツツケテヨシ)テ病人ヲシテ放尿ヲ試マシムベシ。

夜尿ニ對シテハ、多數ノ藥劑試用セラレテ、中ニハ著シク奏效スルモノアレドモ、ソノ效果ハ推感的ニ外ナラズ。純粹ノ精神療法ニヨリテ、從來慣用ノ治療法ト同一ノ效果ヲ收ムルコト、亦、數多アリ。覆面的推感療法トシテハ平流電氣ヲ用ユ。年長ノ兒童ニアリテハ、覆面的推感法トシテ、就寢前ニ自、コレヲ警戒シ、夜間屢、放尿ノ爲メニ起キ出ヅルコト少シノ尿意ニモ起キ出ヅルコトヲ命ズレバ、卓效ヲ奏スルモノナリ。近來電氣療法ニシテ疼痛或ハ不快感ヲ喚起スルモノヲ用キルコト行ハル。コレハソノ疼痛又ハ不快感ニヨリテ、治療的推感ヲ與ヘントスルニアラズシテ、コレニヨリテ夜尿ノ惡癖ヲ除クノ覺悟ヲ病人ニ強キントスルナリ。

推感療法ハ、外科治療上ニモ應用セラル。外科醫師ハ、生命ノ危殆ナル病人ヲ處置スルコト多キヲ以テ、慰安說明等ヲ精神療法トシテ應用スルコトシバシバナリ。手術前、慰安的推感ニヨリテ病人ヲ慰安シ、手術ニ對スル恐怖ヲ除クハ、屢、外科醫師ノ必要トスルトコロナリ。

慢性關節炎、殊ニ慢性關節痲痺室斯ニアリテハ、普通ノ肉體的治疗法ハ多クハ失敗ニ歸シ、精神療法ハ偉大ナル治效ヲ奏スルモノナリ。溫泉療法ナドノ屢、奏效スルモ、溫泉ソノモノノ效果ヨリモ寧、ソノ推感的影響ニヨルト

看做サザルベカラズ。慢性關節炎ニ於ケル關節ノ腫脹ニ對シテハ、言語的推感ヲ與ヘ兼テ、關節ヲ輕ク按摩シ又ハ壓迫スルニヨリテ成功スルコトアリ。

眼科ニ於ケル精神療法ノ應用ハ、ソノ神經性疾病ノミ限ラル。神經衰弱及ヒステリーノ病人ニハ屢、眼精疲勞・神經性弱視等ノ起ルアリ。コレ等ニ對シテハ、精神療法ノ效果ハ著明ナリ。覆面的推感法トシテ眼或ハ頭ニ弱電流ヲ通シ、濕布ヲ施シ或ハ眼鏡ヲ與フ。ヒステリー性黒内障ハ精神療法ニヨリテ治癒スルモノナリ。眼球ノ電氣流通磁石ノ添附・金屬板ノ添附・靈水ノ洗滌等ノ如キ覆面的推感ニテ治癒スルコトアリ。神佛ノ靈驗ナドモコノ病ナドニ多シ。ヒステリー性ノ眼筋痙攣・同眼瞼痙攣等モ亦、覆面的推感ニヨリテ治癒スルコトアリ。

耳病ノ内精神療法ノ適應症タルモノハ、ヒステリー性聾・神經性難聽及ヒ耳鳴等ニシテ、電氣・發泡膏等ヲ覆面的推感法トシテ施スコトアリ。

鬱憂病ニ對シテ覆面的推感療法ヲ施スモ、不安・不眠・食思不振等ノ如キ一二ノ症候ニ奏效アルヲ常トス。苦悶狀態ハ、一定度ニ達スルトキハ、自殺暴行ノ傾向ヲ伴フヲ以テ推感療法ノミヲ行ハズ、阿片ヲ應用スベシ。推感的催眠劑ハ多數コレアリ。俗間ニハ實際ノ效果ハナクモ睡眠ヲ催スモノトシテ用キラルルモノ少ナカラズ。砂糖水・牡蠣湯・桂枝湯・乾薑汁・沸騰散ヲ與ヘ、胸間ノ濕布・頸部ノ冷罨法・脚湯・按摩等ヲ施スモノノ目出ヅルナリ。又、水治療法・電氣療法等ノ如キハ晝間コレヲ行ヘバ、ソノ推感作用ニヨリテ、夜間ノ睡眠ヲ促スコトアリ。此ノ如キ覆面的推感法ガ效ヲ奏セザルトキニハ、回數ヲ限リテ有效ナル催眠劑ヲ與ヘ、自分眠ル能ハズト云フ自家推感アル病人ニ對シテハ、コノ觀念ノ無根ナルコトヲ自覺セシムベシ。

酒精濫用ガ推感療法ニヨリテ治療スルコトハ、近ク稱道セラルトコロナリ。コレガタメ近來、種種ノ藥劑ヲ作りテ、酒

ニ對スル嗜好ヲ除クニ效アリト唱フルモノアリ。亞米利加ニ於テハ、酒客治療院ニテ、鹽化金ヲ主成分トスル藥劑ヲ作リテ、病人ニ内服セシメ、又ハ注射用トシテ與ヘ、コノ惡癖ヲ治シ得タリト稱スル人アリ。獨逸ニ於テモ亦、學理的ノ根據ナキ藥劑ヲ用キテ效果ヲ收メタル人アリ。此ノ如キハ、皆、推感ニヨリテ奏效シタルモノナリ。本病ノ治療法ハ(催眠術又ハ覆面的推感)必、一定ノ治療院ニ於テ行ヒ、誘惑ヲ避クルコトヲ必要トス。

乙 催眠術療法⁽¹⁾

(一)推感療法ヲ試ミルニ方リ、病人ノ醒覺時觀念ガコレヲ妨害シテソノ效ナキコトアリ。コノ場合ニハ醒覺的ノ觀念ヲ除却シテ推感ヲ與ヘザレバ治療ノ效驗ナキモノナリ。コレニハ催眠術⁽²⁾ヲ用ユベシ。ソノ方法ヲ催眠術的推感法⁽³⁾ト稱ス。催眠術療法ノ主旨ハ、人爲的ニ睡眠若クハコレニ類似ノ状態ヲ起シテ病人ニ有效ナル推感ヲ與フルニアリ。催眠術状態ニ於テハ病人ノ被推感性ハ著シク亢進シテ、施術者ノ推感スル事項ニ對シテ自己ノ論理ニヨリテ批判調節スルコトナク、コレニ服従スルニ至ルモノナリ。コノ状態ノヨリテ來ルトコロヲ尋ヌルニ、醫師ハ自己ノ影響ヲ直接ニ病人ニ及ボシテココニ及ブニ他ナラズ。

(二)一定時限ニ於テ吾人ノ精神界ニハ意識的ニ分明ナル觀念ト意識的ニ稍、不分明又ハ全く暗爽ナル觀念トアリテ、甲ハヨク自我ト連絡スルガ故ニ、何時ニテモ、コレヲ我が記憶ニ喚起スベキモ、乙ハ自我トノ關係堅固ナラズ又、持續的ナラズガ故ニ、我ヨリコレヲ記憶ニ喚起スルコト叶ハズ。甲ハ即、所謂上意識ニシテ吾人ノ精神一定ノ痕跡ヲ殘スモノナルモ、乙モ亦、コレト同ク一定ノ痕跡ヲ殘スモノニシテ、今ノモノト前ノモノト相聯合シテ一系統ヲナシ、自我的意識團ノ傍ニ一ノ獨立の意識團ヲナスモノナリ。コハ分明意識ノ觀念ノ如ク自我ニヨリテコレヲ記憶ニ喚起シ得ザルモ而モ他ノ方法ニテ或

- (1) Hypnotische Therapie
- (2) Hypnotismus
- (3) Hypnotische Suggestion

- (4) Hypnoider Zustand (1) Spaltung des Bewusstseins
- (2) Breuer
- (3) Freud

ハコレヲ再生スルヲ得ベシ。此ノ如キ場合ニ於テ吾人ハ意識ノ分裂⁽¹⁾ヲ來タスベシ。此ノ如キ精神的分立ハ、健康状態ニアリ、病的状態ニアリ、又、人工の方法ニヨリテコレヲ誘起スベキモノナリ。夢⁽²⁾觀念ハ健康状態ニ於テ第二意識状態アルヲ示スモノニシテ、吾人ハ夢ミル間空間及ビ時間ノ範疇ヲ脱却シテ、醒覺時ノ推理状態トハ背馳シタル精神状態ヲ呈シ、上意識トハ全然異リタル精神状態ニ陥ルモノナリ。此ノ如キ夢寐状態ハ又、醒覺セル精神状態ニ於テ起ルコトアリ。精神健康ナル人ガ突然強劇ナル精神の震盪ヲ受クルトキソノ瞬間ニ茫然自失シテ外界ヲ辨別スルコトナク、恰、夢ノ如キ状態ニ陥リ、後ニ至リテソノ當時ノコトヲ想起スル能ハザルコトノアルハ吾人ノ知ルトコロナリ。コノ状態ハブロイエル氏⁽³⁾及ビフロイド氏⁽⁴⁾ガコレヲ催眠術状態ニ比較シテハ類催眠術状態⁽⁵⁾ト名ツケタルモノナリ。コノ状態ニ於テハンノ人ノ精神の推感性増加シ、感覺ノ異常等ニヨリテ身體的惱患ノ觀念ヲ喚起スルコトアリ、而モコレヲ上意識ニヨリテ矯正シ、反對的觀念ニヨリテ抗争スルコトナキタメソノ觀念ハ長ク意識ニ固著スルコトアルベシ。コノ觀念ガ長ク上意識ト分離シ居ルガタメコレヲ追想シ得ザル場合ニ於テ殊ニ然カナリ。コノ状態ニ於テ病人ハ想像ト認識トヲ區別スルコト能ハズ。屢事實ニアラスコトヲ實際經驗シタルコトシテ、語り出スコトアリ。此ノ如キ精神ノ變常ハ、精神の震盪ニ兼テ腦震盪或ハ全身(中樞神經系統)ノ震盪ヲ受ケタル場合ニ成立シ易ク、種種ノ災害殊ニ鐵道災害ニ於テ見ルトコロナリ。此ノ如キ類催眠術状態ニシテ稍、輕キモノハ幾多存在スベキコト明ナリ。蓋、吾人ノ生涯ニハ幾多ノ精神の打撃アルベク、又、ソノ打撃ノ程度トコレニ對スル抵抗方トハ人ニヨリテソレゾレ異ナルモノナリ。甚シキ屈辱悔恨ノコトニ接シタルト、近親者ノ訃音ニ接シタルト、突然生命ノ危難ニ遭遇シタルトハ、各、ソノ感動ヲ異ニシ、又、吾人ノ精神ヲ震撼スル程度ヲモ異ニスベク、精神の資質ノ差異ニヨリテモ、或者ハ逆境ニ處シテ尙、堅實ナル覺悟ヲ維持シ、或者ハコレガタメニ志氣阻喪シテ立場ヲ失フニ至ルベシ。コレ即、前記類催眠術状態ノ重キモノ輕キモノ色色ノ程度ヲ生ズル理由ナリトス。

疾病トシテ精神的分立(第二状態)ヲ起スモノハ、第一ヒステリー發作ナリ。ヒステリー患者ハソノ發作中ニアリシ事件ハ、コレヲヨク記憶セザレドモ發作ガ反復スルトキハ一發作ニ際シテ、前回ノ發作中ニ起リタルコトヲ想ヒ起スコトアリ。コレ吾人ノ屢、狐憑病患者ニ於テ實驗スルトコトナリ。ソノ他癲癇中毒(酩酊尿毒症)、傳染病(熱瘧疾)及ビ種種ノ精神病等ニ於テモコレニ類似ノ意識状態アリ。

(三)人工的方法ニヨル精神分立ハ即、ココニ述ブル催眠術ヲ受ケタルモノノ夢遊状態ニコレアリ。催眠術ニカカレル人ハ醒覺時ニ於テハ催眠術状態中ノコトヲ記憶セザレドモ、一たび催眠術状態ニ入ルトキハ、前回ノ催眠術状態ニ於ケル經驗ヲ正確ニ想起シ得ベシ。コノ記憶ハ數年前ニアリシ催眠術状態ノコトニマテ遡ルコトアルモノニシテ、ウールフェルト氏⁽¹⁾ハ一婦人ガ催眠術状態ニ於テ、十二年前催眠術状態ニ於テ經驗シタルコトヲ、再、想起シタルヲ實驗セリト云フ。猶、催眠術状態ニ於テハ、以前ノ催眠術状態中ノ事件ヲ想ヒ起シ得ルノミナラズ、ソノ人ガ(精神的存在中ノ)他ノ時節ニ於テ經驗シナガラ、醒覺時ニハ全ク忘却シ居ル事件ヲ想ヒ起シ得ルコトナリ。ダトヘバ夢ニアリシコト、又、平生全ク忘レ居タルコト、故意ニ忘レリタルコト、又ハ醒覺中不意識的ニ認知シタルコト、前記ノ類催眠術状態中、又ハヒステリー發作中幻覺的又ハ事實的ニ經驗シタルコトナド皆、然カナリ。

コレ等ノ事實ニ基ツキテ、ツソアール氏ハ催眠術ナルモノハ、正常ノ意識ニヨリテ掩蔽セラルル下意識層ヲバ人工的ニ暴露セシムル方法ニ他ナラズト解釋セリ。抑、吾人ノ觀念ニハ正常ナル醒覺時ノ記憶團ト連絡セルモノアリ。又、コレト分離シタルアリ。甲ハ相互ニ聯合シテ一團ヲナシ、乙モ亦、相互ニ聯合シテ一團(醒覺時ニ於ケル下意識的機轉忘却シタル夢・催眠術状態・類催眠術状態・ヒステリー發作)上意識ノ記憶ヨリ消滅シタル記憶)ヲ構成スルモノナルガ。コノ乙ノ一群ヲ總括シテ、下意識トスルハ、正當ナル解釋ニアラズ。何トナレバ何レ如何ナル觀念群ニシテモ、ソノ記憶像ノ年餘ニ涉

(1) Wolfahrt

(1) Bernheim
(2) Liébault
(3) Forel
(4) Wetterstrand

リテ保存セラルルニハ、ソガ吾人ノ腦髓ニ局在シテココニ臨機興奮スベキ素質(力學的痕跡)ヲ殘シテ、ココニ固定セラルモノト認メザラ得ズ。下意識機轉ヲ以テ上意識機轉ノ旁ニ存シテコレト出入消長スルモノト考フルモ、下意識機轉ヲ以テ時ニヨリテハ上意識ヲ排倒シテ、ソノ地ニ代ハルモノト考フルモ、何レニシテモ吾人ハ下意識ノ觀念ヲ以テ潛藏性ノモノトバカリ見ズ、上意識ノ觀念ト同ク自主性・活動性ノモノト認メザラベカラズ。

(四)催眠術状態ニアリテハ、觀念聯合ノ作用多少著シク制限セラレ、意志ノ力モ大ニ減弱スルヲ以テ、醒覺時ニ於ケルガ如ク、他人ノ推感ニ對シテ反對觀念ノ起ルコトナシ。故ニコレニ推感ヲ與フレバ、推感ハソノ儘容易ニ感受セラレ固定セラルルノミナラズ、或ハ五官の強度ニ達シ、且、腦皮質内及ビソノ末梢ニ向ヒテ抑制的乃至ハ誘導的ノ機轉ヲ起コシテ、ソノ證據ヲ舉グルモノトス。此ノ如キ精神變常ハ、催眠術療法ノ奏效スル所以ニシテ、催眠術ハ此ノ如キ精神變常ヲ喚起スルノ一手段タルニ過ギズ。

(五)催眠術療法ニ於テ第一ニ必要ナルハ、病人ヲ催眠術状態ニ致スコトナリ。催眠術感受性ハ何人モコレヲ有ストハ云ヘザルモ、諸家ノ報告ニヨレバ、コノ性質ヲ有スル人ハ、世人ノ想像スルヨリ多數ニシテ、被術者ノ八〇乃至九〇プロセントヲ占ムルモノナリト言ヒ、ベルンハイム⁽¹⁾・リエポール⁽²⁾・スターレル⁽³⁾・ウヅテルストランド⁽⁴⁾等諸氏ノ統計成績モ皆、コレニ近シ。催眠術ハコレヲ反復スルトキハ、最初、催眠術感受性ニ乏シキモノヲシテ、漸次ニソノ性質ヲ増進セシムルモノナリ。男女ノ別ハ催眠術感受性ニ關係ナキモ、年齢ニツキテハ一歳以上ノ小兒竝ニ若年者ハ、高年者ニ比シテ催眠術感受性ノ遙ニ大ナルモノナリ。ヒステリー患者ノ多數ハ、一般ニ催眠術感受性ニ富ムモ、著シク興奮シ不安性ナルモノハ、却、常人ヨリモ催眠術状態ニ入り難シ。一般ニ云ヘバ教育程度ノ低キモノ・思索ニ耽ル習慣ナキモノ・平素服從和順ニ慣レタルモノ等ニ於テハ、催眠術感受性著大ナルモノナリ。教育アルモノハ自家批判ノ力強クシテ催眠術ニ必要ナル精

神的屈服ヲ甘受セザルガ故ニ、コレヲ催眠術状態ニ置クト比較的困難ナリ。催眠術ニ於テハ、勉メテ自然的睡眠ニ近似セル状態ヲ喚起スルコトヲ要スルヲ以テ、被術者ノ周圍ノ状態ヲ適當ニ安排シテ、自然ノ睡眠サヘ起リ易キ様ノモノヲラシムベシ。ソレニハ先、被術者ニ催眠術ノ如何ナルモノナルカラ説明シ、コレヲシテコレニ對シテ不安ノ念ヲ抱クコトナカラシメ、催眠術状態ノ催發ヲ妨グベキ動機ヲ除キ、被術者ヲシテ安樂椅子等ニ凭リ只眠ニ入ルコトノミニ意ヲ用ヒテ他事ニ思慮ヲ轉セザルヤウニ勉メシムベシ。被術者ハ自、眠ニ入ラント勉ムルカ、左ナクトモ善意ヲ以テ催眠者ノナストコロニ從ハントスルノ意嚮ヲ有セザルベカラズ。若、然ラスシテ施術者ノ與フル感作ヲ拒マントシ、又ハソノ術式自身ニノミ注意ヲ集中スルキハ、催眠術ニ感シ易キ人ニ於テサヘモ催眠術状態ヲ起スコト困難ナルコトアリ。俗間ニ傳フルガ如ク施術者二人體磁氣生體電氣又ハ神經力ナド云フガ如キモノアリ、ソノ勢力ノ放射ニヨリテ催眠術状態ヲ起スコト云フハ素ヨリ學術的根據ヲ有スルモノニアラザレドモ。若、被術者ニシテコレ等ノ偉大ナル能力ノ存在ヲ信ズル場合ニハ、催眠術感受性ハ著シク亢進スルモノナリ。施術者ノ沈著ニシテ自信アル態度モ大ニ施術ノ信用ヲ博スルモノニシテ、コレ亦、催眠術感受性ヲ著明ニ増進スルモノナリ。サレバ實地上ニ於テハコレ等ノ事ニ十分ナル注意ヲ拂ハザルベカラズ。

催眠術状態ニ於テハ推感性ノ亢進スルコト確實ナレバ、コレヲ利用シ適當ナル推感ヲ與ヘ、以テ治療ノ目的ヲ達スルコトアリ。コノ方法ハゾエボール氏ノ創案ニ係リ、催眠術状態ニアル病人ニ有力ナル語氣ヲ以テ「某某ノ病狀ハ既ニ消滅セリ、若クハ直ニ消退スベシ」トノ推感ヲ與ヘテ、疼痛・痙攣・麻痺等ノ諸症狀ヲ治癒セシムルモノナリ。

(六)催眠術ノ方法ハ古來甚、多數ニシテ、或ハ光輝アル物體(タトヘバ回轉鏡)ヲ注視セシメ、又ハ眼ヲ閉ヂテ懷中時計ノ音ヲ傾聽セシムルガ如ク單調ニシテ弱キ感覺刺激ヲ利用スルモノアリ。或ハ言語推感ニヨリテ催眠術状態ニ誘致スルモノアリ。或ハメスマル氏⁽¹⁾ノ方式トシテハ、被術者ノ顔面又ハ眼瞼上ヲ催眠者ノ掌モテ同ジ方向ニ徐ニ輕ク撫下スルカ、

(1) Mesmer

又ハ掌ヲ少シク皮膚面ヨリ隔テテ撫下スルヲ法トセリ。

現今ソノ方法トシテ多ク用ヒラルルハ、言語推感法ト物理的推感法トニシテ、就中、兩者ヲ併用スルノハ、普通一般ニ行ハルル方式ナリ。物理的方法トシテハ、聽覺・視覺・觸覺ヲ利用スルコトアリ。物體注視方法⁽¹⁾ハソノ一ニシテ鉦・金屬製ノ尖端ナド光ルモノヲ見サセ、或ハ病人自身ニコレヲ持チテ注視セシムルモヨシ。或ハ施術者ノ指頭・眼内ヲ見詰サセルモ一法(相互注視法)⁽²⁾ナリ。ソノ際、施術者ハ病人ノ拇指、又ハ手腕關節ヲ握ルコトモアリ。聽覺ヲ應用スルニハ、均同ニシテ餘リ強カラザル音響(懷中時計ノ響)ヲ可トス。觸覺トシテハ兩手(病人坐位ノトキ)又ハ片手(病人臥位ノトキ)ノ掌ニテ靜カニ額(又ハ額ヨリ顚顚)ヲ撫テ、又ハ指ニテ(半分ツツ)又ハ持長的ニ輕ク閉ゲル眼瞼ヲ壓フベシ。項^{ワタジ}ヲ壓ヘ、ソノ他ノトコロヲ壓ヘテ催眠サスベキコトモアリ。ピトレー氏⁽³⁾ハヒステリー病者ニ多數ノコレニ適スル處ヲ認メテ催眠點⁽⁴⁾ト名ツケタリ。時トシテハ病人ニ初メハ眼ヲ開カセ置キ、眠クナリタラバコレヲ閉ヅルヲ命ズルモ、甚、善シ。眠ノ來ルヲ期待シ注意スルコト正ニ催眠術状態ニ陥ルコトヲ助クル故ナリ。

言語的推感⁽⁵⁾ハナルベク單調ニシテ、低聲ナルヲ可トス。必ヤ得意ニ淀ミナク繰返ヘスベシ。ソレニハ「今カラ御眠ナサイ。今ニ眠マス。モウ眠ル」ト云ヒテ眠ルアリ。或ハ「御眠ナサイ」、「眠レ」ト一聲言フソレナリ直ニ眠ル人アリ。時トシテハ唯「催眠術ヲカケル」ト言ヒシノミニテ既ニ催眠術状態ニ陥ルモノモアリ。人ニヨリテハ催眠術機轉ニ伴フ各現象ヲ順序ニ從ヒテ病人ニ推感的ニ告ゲ知ラセ、病人ヲシテ就眠時ノ感ヲ起サシメ、又、施術スレバソノタメニ或變態ノ現ハレ來タルコトヲナルタケ具體的ニ被催眠者ニ語り聽カセシ。ダトヘバ「汝ノ眼ハ疲レ來レリ、眼瞼ハ重クナリ、又、次第二重クナレリ、眼瞼ハ相瞬テリ、眼ヨリハ涙出ヅ、視覺ハ不分明トナレリ、眼瞼ハ垂レタリ、次第二垂レタリ、今ヤ全ク閉ザセリ、汝ノ睡氣ハ次第二増加ス、頭モ全身モ憊レタリ、腕モ脚モ鉛ノ如ク重クナレリ、汝ハ何者ヲモ感ゼズ、聽クコトモ不分明ニナレリ、遠クヨリ聽クガ如

- (1) Fixationsmethode
- (2) Fascinationsmethode
- (3) Pitres
- (4) Zones hypnogenes
- (5) Verbale Suggestion

- (1) Larvierte Methode
- (2) Eulenburg
- (3) Weinhold
- (4) Hartenberg
- (5) Vogt
- (6) Brodmann
- (7) Fraktioniertes Verfahren

クナリ、視覚ハ全ク去レリ、睡氣ハ強クナレリ、今ヤ全ク睡了スナド云フガ如シ。
 覆面の催眠術法。(1)トハ電氣ニ隠レテ催眠術ヲ掛ケル方法ニシテ、ワイレンブルグ氏ハ、病人ヲ感傳電氣機ノ傍ニ
 坐ラセ、弱電流ヲ頭ニ通ジナガラ推感ヲナシ(安靜・倦憊欲眠ヲ推感シ次ニ治療ノコトヲ推感ス)、ワインホルド氏(3)ハ
 感傳電氣ハメスメル氏ノ輕撫法ト同一效驗アリト云ヒ、ハルテンベルグ氏(4)ハ一導子ヲ額ニ、一導子ヲ胸ニツケ、
 而モ電氣ハ通ゼズニ置イテ電氣機ヲ働カセ、病人ヲシテ深呼吸ヲ營ミ注意ヲ一切我呼吸ニ集メサセ、ソノ眼瞼ノ擧ルヲ
 見テ、コレヲ押サヘ塞ギ、コレニヨツテ睡眠ヲ推感セシムル法ヲ採レリ。コノ法ハ催眠術ニ魔力ナドアリト信ヅテ、不安心ナル病
 人ニ用フルニヨシ。
 ナイグト氏(5)・ブロードマン氏(6)ハ分割的方式ヲ創意シタリ。ソハ催眠術状態ヲ隨意ノ程度ニ催スノ方式ニシテ、
 初、病人ヲ言語推感法ニテ眠ラセテ起シ、催眠術状態中何事ヲ感覺セルヤ、如何ナル推感ヲ受ケタルヤ問質シ。ソレヨリ
 又、眠ラセテ前ニ受ケタ推感ニ附ケ入リテ他ノ推感ヲ進メ、再、眼ヲ覺サセ、又、前ノ如クシ、コレヲ數回繰返ヘス。コノ方式
 ニヨレバ、實際他ノ方法ニテハ屈カザル様ヲ推感ヲ僅少ノ催眠術施行回数ニテ成功シ得ベシ。コノ方法ハ治療的推感ヲ
 施サンガタメニ深キ催眠術状態ヲ須要トスル場合ニ適當ナリ。
 ソノ治療ニ適スル程度ナルニハ十分ニ深キ催眠術状態ヲ要スルモノニシテ、コレニハ前述ノゴトキ方式ヲ數回反復スルノ必
 要アルヲ常トス。或物體ヲ注視セシメツツ、視覺ノ漸次ニ疲勞スベキヲ告ゲ、言語的推感ヲ兼テ行フソノ結果ハ人毎ニ
 甚シク異ナルモノニシテ、普通ハ眼瞼速ニ疲勞シテ相閉ヅルモノ多キモ、職業上注視ニ慣レタルモノニアリテハ、永時間注視
 スルモ眼瞼ノ疲勞ヲ起スコトナシ。此ノ如キ場合ニハ、注視ハ却、催眠ノ妨害トナルモノナレバ、コレヲ避クルタメニハ、被催眠
 者ヲ安樂椅子ニ凭リ、眼ヲ閉ヂテ、安靜ニ身ヲ保タシメ、數分間引續キ徐徐ニ一ヨリ百マデノ數ヲ教ヘシメ、ソノ間ニ適當

- (2) Forel
- (1) Heilsuggestion

ナル言語的推感ヲ與フルヲ可トス。言語推感ノミヲ以テハ、十分ナル奏效ヲ見ザル場合ニハ、摩擦法・輕撫法等ヲ併セ用
 キテ成功スルコトアリ。ソノ他麻痺ニ對シテハ、催眠術状態中ニソノ肢節ヲ動かスニヨリテ、ソノ治效ヲ助ケ、或ハ電氣ノ感
 通・無害ナル藥劑ノ塗布服用等ヲ補助法トシテ應用スルコトアリ。數回催眠法ヲ施スモ常ニ失敗ニ終ルガトキ場合ニ
 ハ何等カノ手技、又ハ藥物ヲ使用シテコレヲ補フベシ。ダトヘバ、ガルハニ電流ヲ頭ニ傳ケテ催眠的奏效アリシ後ニ催眠術ヲ
 施シ、或ハ又、少量ノクロロホルム吸入(ウ・アサン氏・ウヅテルス・ランド氏)・モルヒネ注射(ベルンハイム氏)又
 ハクロラル(ベルンハイム氏)・バルアルデヒド・スコポラミン(チーヘン氏)等催眠劑ノ内服ヲ與ヘテ後、催眠術ヲ施ス
 ガ如キコトコレナリ。或ハ又、卓越ナル催眠劑ナリシ稱トテ無害ナル水劑ヲ與ヘテ催眠劑ノ治效ヲ助ケルコトアリ。催眠術ヲ
 試ムルコト數分間ニ渉ルモ、毫モ奏效セザル場合ニハ、一時コレヲ中止シ、一定時間ノ後ニ再、コレヲ試ミルカ又ハ翌日ニ
 至リテコレヲ再試スベシ。

(七)治療的推感。治療上必要ナル推感ハ催眠術施行中何時ニテモコレヲ與フベシ。ソノ推感ハ必、病人ノ理會力、病
 人ノ個性竝ニ病症ノ性質ニヨリテコレヲ施シ、コレヲ濫用スベカラズ。麻痺ナド經過ノ久慢ナル病症ハ一步一步ニコレヲ除
 クノ方針ヲ以テ推感ヲ施スベシ。症候ノ多數ナル場合ニハ、順次ニ一症狀ツツヲ除却スルニ勉ムベク、スベテ同時ニ除カント
 スルガ如キハ失敗ヲ招クノ基ナリ。

催眠術状態ハ、ソノ淺深ノ度ニヨリテコレヲ區分スベシ。フォーレル氏(2)ハコレヲ嗜眠状態・輕催眠術状態・重催眠術狀
 態ノ三階級ニ區別セリ。ソノ中嗜眠状態ニテハ、術ヲ蒙ルコト淺ク、自分ノ氣力ニテ推感ヲ剋制シテ眼瞼ヲ開クヲ得。輕
 催眠術状態ニテハ、被術者ハ自、眼ヲ開クコト叶ハズ、何事モ推感通りニ服從セザラ得ズ、唯、ソノ記憶ヲ消殺スルマデニ
 至ラズ。重催眠術状態ニテハ、醒覺シタル後ニ施術中ノ記憶更ニナク又、施術後マデ推感ノ效ヲ現ハス。サレバ推感ハ重

- (2) Imperative Suggestion
(3) Motivierende Suggestion

(1) Hirt (1)

催眠術状態ニ於テ、最、有效ニシテ、嗜眠状態、輕催眠術状態ニハ、ソノ效少ナシト雖、實地上ニハ先、輕キ催眠術状態ニ於テコレヲ試ミ、ソレニテ效ナキトキ、更ニ重キ催眠術状態ニ於テコレヲ試ムベシ。嗜眠状態ヨリ催眠術状態ニ移リタルヤ如何ヲ檢スルニハ、他ノ簡單ナル推感ヲ與ヘ「眼ハ開カヌ」、「手ハ舉ラヌ」ト云ヒ聽カスベク。病人コレヲ試ミルモ開キモ舉リモセヌナラバソレト知ルナリ。催眠術の推感中ニハ、右ノ如キ試験の推感ヲ與ヘミテ、治療の推感ノ奏效スベキ否ヤヲ推知スベシ。乃、催眠術の推感ヲ止メテ治療の推感ヲ施スナリ。推感ヲ與ヘテソノ影響ヲ病機ニ實現セントスルニハ、必シモ深キ催眠術状態ヲ喚起スルノ要ナシ。被術者ガ僅ニ眠意ヲ催シタル程度ニ於テ、推感ヲ與フルモ既ニ著大ナル治療ノ效果ヲ見ルコトアリ。ヒルト氏⁽¹⁾ノ如キハ推感治療ハ深キ催眠術状態ニアルヨリモ、意識ノ猶、存スル時期ニ於テ却、有效ナリト説ケリ。深キ催眠術状態ニ於テハ、淺キ催眠術状態ニ於テハ到底期スルコト能ハザルガ如キ著明ナル被推感性ヲ表ハスコト通例ナレドモ、推感ノ奏效スルト否トハ必シモ催眠術状態ノ深淺ト平行スルモノニアラズ。醒覺時ニ被推感性ノ著シキ人ニ於テハ、淺キ催眠術状態ニテソノ精神的領野少シク狭少トナレバ、推感ノ效果既ニ十分ナルコトハ實地上コレナキニアラズ。催眠術状態ノ深重ニシテ醒覺後ニ施術中ニアリシコトヲ全ク追想シ得ザルガ如キ場合ニ於テハ、ソノ人被推感性ハ萬般ニ互リテ亢進セズ、タダ或種ノ推感ニノ感應スルヲ見ルコトアリ。此ノ如キハ種種ノ理由ニ基ツクベシト雖、一ハ催眠術状態ガ自然的睡眠ト區別シ難キホドノ程度ニ達セルガタメニ、被術者ハ外界ノ印象ヲ認識シテコレニ反應ヲ呈スルコト困難トナルニヨリ、推感ヲ感受シテ(腦中ニテ)コレニ加工スルコト不可能トナルニ基ツクナルベシ。

治療の推感法トシテ往時ハ命令的推感法⁽²⁾ノミヲ用ヒタルガ、コノ法ハ病人ノ推感性ノ顯著ナルトキニ奏效アリ。ソノ奏效久シキニ及バヌヲ通例トス。サレバ推感ニハヨク通俗のニ事理ノ解^{ワカ}ノ病ノ治療スベキコトヲ説クヲ可トシ(推理的推感法⁽³⁾)。猶、言葉ノナラミズ、コレヲ實行ニ示シテ推感スルヲ最、可トス。ソレニハ催眠術ヲカケ居ル中、催眠術状態ノ前

(1) Tatsuggestion

(2) Moll

カ後カニ藥劑ヲ與ヘ、又、理學的療法ヲ施シテコレ等ガ如何ニソノ效驗ヲ現ハスカラ催眠術状態中ニ推感スベシ(實行推感法⁽¹⁾)。

治療の推感ノ效驗ハ、コレヲ戲劇ニ期待スベカラズ。ソノ漸次ニ實現スルヲ計ラフベシ。病人ニヨリテハ不知不識ニモ推感ニ對シテ内部抵抗ヲ呈スルモノアル故、コレニ尅勝セザルトキニハソノ效ナキコトモアルナリ。故ニ推感法ハコレヲ數多度反復スルヲ要スルコトアリ。チーヘン氏ハ治療の推感ヲ施行スル度数ニ定メナキモ、大抵六回乃至十回ニテ足レリ。ソレヨリハ回数ヲ増スモ奏效多キヲ加ヘズ。推感ヲ施行スルニハ一回ノ催眠術状態中ニ一箇條ニ限ルベシ。色々雜多ナコトヲ推感スベカラズト云ヘリ。

モル氏⁽²⁾ハ病人ニヨリテハ、催眠術状態中ニハ、更ニ推感ヲ與ヘズ、唯、病人ヲシテコノ状態中ニソノ病症ハ治シ去ルベキモノナルコトニ見到スルニ至ラシムベシト云ヘリ。

催眠術施行ノ時間ハ、各例毎ニ同ジカラズ。往時ハ十分乃至十五分ニ止メシモ、空ツテルストランド氏ハ、更ニ長時間催眠セシムルノ有利ナルヲ説ケリ。

(九)推感ヲ與ヘタル後十五分乃至三十分間ハ、ソノ儘眠ラシメ、然ル後ニコレヲ醒覺スルハ通例ナリ。コレヲ醒覺セシムルコトハ、被術者ガ「覺メヨ」ト云フノミニテ十分ナリ。若、コレニテ醒覺セザルトキハ被術者ノ面上ニ呼吸ヲ吹掛クルガ如キ處置ヲ以テ成功スルコトアリ。過劇ナル方法ニヨリ醒覺セシムルハ好マシカラズ。汝ハ程ナク覺ムルニ至ルベシト云フガ如キ推感ヲ反復シテ徐徐ニ醒覺セシムルヲ可トス。

此ノ如クストキハ、永クモ數分間ヲ費セバ、多クハ醒覺スルモノトス。此ノ如キ醒覺ノ推感ヲ與フル際ニモ、亦、他ノ推感ヲ併セ施セバ醒覺ノ後ニ催眠術状態中ノ記憶ヲ殘サヌ様、眠意ノ繼續セヌ様又、身體倦怠ノ感又ハ自家推感ニ因ス

ル不快ナル症状等ノナキ様ニスルヲ得ベシ。時トシテハ催眠術状態中ニ於テ、何等ノ原因ナク、又ハ周圍ノ物音等ニヨリテ偶然ニ醒覺スル場合ナキニアラズ。

醒覺後ハ、毎常必須ニハアラザルモ、醒覺時推感ヲ加ヘテ痛ミヲ除ク目的ナラバ「今コソ君ノ痛ハ治レリ」ト宣言スベシ。奏效コレナク、又ハ奏效思フ程ナラズ、或ハ奏效唯、一時ト思ハルナラバ、翌日又ハ翌翌日再、催眠術ヲ施シ、催眠術状態ヲ深クナシ、又ハ治療の推感ヲ數多度繰返スベシ。事ニヨレバ此ノ如クシテ催眠術状態ノ深度ハ加ハラズトモ、推感ノ效力ハ第二催眠術状態、第三催眠術状態ニ於テ大ニ加ハリテ治療的奏效ノアルコトアリ。催眠術状態ノ度重ナルニツレ治療の推感ノ效力ハ完全トナリ持久性トナルコトアリ。

(二) 催眠術療法ノ價值。催眠術の推感療法ノ效果ニ就テハ、ソノ卓效アルコトヲ述ベタル諸家ノ報告十百ニシテ止ラズト雖、今日尙、コレヲ治療上ニ應用スベキカ如何、ソノ價值十分ニアリヤ如何ト云フコトニ就キテハ、議論甚、多岐ニシテ一定ノ所説アルヲ見ズ。此ノ如ク議論ノ區區ナルハ、主トシテ實地家ガ催眠術療法ニ關スル多數ノ文籍ヲ通覽スルコト能ハズシテ、自家ノ信用スル人人ノ少數ノ報告ヲ得テ、コレニヨリテ、ソノ眞價ヲ判定シ得タリトナスニヨルモノノ如ク、ソノ所説ハ常ニ一方ニ偏シテ眞相ニ觸レザルモノ多シトス。ナンシー學派ガ催眠術療法ヲ以テ精神療法ノ冠冕トシ、輒近醫療ノ白眉ナリトセルハ、ナウラヂル⁽¹⁾・リヒテル⁽²⁾ 兩氏ガコノ療法ヲ指シテ、百害アリテ一利ナキモノナリトセルト同ジク孰レモ甚キ極端ノ論斷ナリ。吾人ハソノ中庸ノ見解ヲ以テ妥當ナリトスルモノナリ。近代ノ學者ハ多クハ皆、催眠療法ニ左袒セズ。ジール⁽³⁾、ド、ラ、ト、ーレ⁽⁴⁾、ツト氏⁽⁵⁾ハ催眠療法ハ必、多少ノ危險ヲ伴フガ故ニ、勉メテコレガ濫用ヲ戒ムベシト云ヒ、ローゼンバツハ氏⁽⁶⁾・ストルムベル氏⁽⁷⁾等ハ、催眠術療法ニヨリテ收メ得ベキ效果ハ、他ノ療法ニヨリテモ亦、コレヲ收メ得ベキガ故ニ、コノ療法ハ必要不可缺ノモノトハ、思惟シ難シト云ヒ、ベチデクト氏⁽⁸⁾ハ「從來催眠術療法ニ

- (3) G. de la Toulette (1) Navratil
(4) Rosenbach (2) Richter
(5) Strümpell
(6) Benedikt

關シテ、ソノ治效ノ報告セラレタルモノ多アルモ、ソノ大部分ハ無根ノ事實ヲ根據トセルモノナリ。何トナレバ治療ヲ受ケタル病人ガ催眠術療法ノ大家タル醫師ニ對シテ、治療上ノ聲譽ヲ傷ケルガ如キコトヲナスニ忍ビズ、事實ヲ曲庇シテ我病ハ治癒セリト稱ヘテ治療ヲ中止スルモノ多キガ故ナリト云ヘリ。然レドモ爾來年ヲ經ルコト數十年、コレ等極端ナル偏見ハ、歲月ト共ニ漸、地ヲ拂ヒテ失セ、現今ニ於テハ臨牀醫師ニシテ事ノ眞相ヲ洞察シテ、何レニモ偏ラザル正當ナル判斷ヲ下スモノ多キニ至レリ。

本來人間ノ多數ハ、被催眠術性ヲ有スルモノニシテ、催眠術療法ノ卓效ヲ奏セシ事例モ少ナカラザルニ、コノ療法ガ未、大ニ應用セララルニ至ラザルハ、催眠術機轉ノ本體ガ、未、根本的ニ解決セラレズ、從ツテ催眠術状態トヒステリー症トノ關係ガ未、全ク明白トナラザルガ故ナルベシ。シルコー氏⁽¹⁾・ストルムベル氏⁽²⁾等ガ「催眠術状態トヒステリー状態トハ全ク同一視シテ催眠術ヲ以テヒステリーヲ治療セントスルハ、一ノ病的状態ヲ治療スルニ、他ノ病的状態ヲ以テスルニ他ナラズシテ、催眠術施行ハ、從來コレナカリシ他ノ病的結果ヲ招來スルノ虞アリ」ト云ヘルハ、決シテ妥當ナル意見トハ言ヒ難ク、從來、催眠術療法ノ基礎ヲ作リタル事實モ決シテ少カラズ。ナンシー學派ノ言フガゴトキハ、素ヨリ極端ナル讚辭ナレドモ催眠術療法ヲ實際ニ應用スルニ方リテハ、何人モコノ療法ガ他ノ療法ニ伍シテ毫モ遜色ナキ程ノ效果ヲ呈スルヲ疑ハザルベシ。レーヴンズ⁽³⁾氏曰ク「催眠術状態ヲヒステリー發作ト同一視シ、コレヲ施術ニヨリテヒステリー發作ヲ人爲的ニ喚起スルニ外ナラズト云フハ、ソノ人自身文獻ノ涉獵ニ於テ盡サザルトコトアリ、又、自身ノ施術ニ缺陷アルガタメニソノ治療ニ失敗シナガラ、自己ノ智識ト研究トノ不完全ニハ思到ラズシテ、直ニコノ療法ヲ無効ナリト斷定スルモノナラン。催眠術療法ノ治效ハ、他ノ療法ニヨリテモ、亦、コレヲ收ムルコトヲ得ベシト云フハ、畢竟催眠術療法ニ經驗乏シキガタメ、ソノ治效ヲ見得ザリシモノノ言ナリ。多年コノ療法ニ經驗ヲ積ムモノニシテ、コノ療法ヲ輕視シ、又ハ排斥スルモノハ蓋、コレヲ

(1) Charcot

- (1) Moll
- (2) Obersteiner
- (3) Binswanger
- (4) Benedikt
- (5) Wood
- (6) Löwenfeld

ラザルベシ。催眠術療法ハ、ソノ處治スルトコロノ症ニヨリテ、他ノ精神療法ニ卓越スルノ效用有リヤ、他ノ療法ニテハ奏效ナキニコノ療法ヲ以テ治療ヲ招クガ如キコトアリヤ、コレヲ正當ニ批判スルハ頗、難事ナリ。要スルニ催眠術療法ハ如何ナル場合ニ於テモ精神療法中ノ最、適切ニシテ最、治效多キモノトハ云フベカラズ。催眠術療法ハ、精神療法ノ隨一ニシテ、重要缺クベカラザルモノナレドモ、他ノ精神療法ヲ盡、壓倒シ去ル程ニ優越ナルモノニアラズ、ト。催眠術施用ニ一定ノ治療的作用アリト承認スベキカ如何ハ、學界ニ異論アル問題ナレドモ、モル⁽¹⁾、オーベルスタイナル⁽²⁾、ピンズワンゲル⁽³⁾、ベチヂクト⁽⁴⁾、ウツド⁽⁵⁾、ジーエンズルド⁽⁶⁾等諸氏ハコレヲ承認スル學者ナリ。

(一)催眠術療法ニハ長所アリ、著シキ短所モナキニアラズ。第一ソノ應用範圍ハ著シク狭クシテ、ソノ治療效果モ不確實ナリ。誰人モ催眠術ニ感應スルモノニアラズ、コノ療法ガ最、適當ナリト認ムル病例ニ於テモ催眠的影響ノ不十分ナルモノ、又ハ全ク無效ナルモノ少ナカラズ。或ハ又、ヨク催眠術状態ニ移リ推感性モ十分ナルニモ關ラズ、治療的推感ハ更ニ效ヲ奏セザルコトアリ。奏效スルモ、ソハ一時性ニシテ、醒覺後病人自身ハ病症去レリトテ、満足スルモ、一兩日後ニハ再、先ノ症候ヲ呈スル場合アリ。或ハ又、多數ノ病状中一二ハ除キ去ラルルモ、多數ハ頑固ニ立去ラスコトアリ、又、或徵候ハ催眠術ニヨリテ消失スルモコレニ代リテ更ニ新ナル症候ヲ起ス場合モ稀ナラズ。コレ等ハ畢竟催眠術状態中ニ推感セラレタル觀念ノ種類性質ニヨルモノニシテ、該觀念ハ催眠術状態中ニアリテハ著大ナル勢力ヲ有シテ、在來ノ病的觀念ニ對抗シコレヲ壓迫驅逐スルコトナキニアラズモ、一方病的ノ觀念ハ或ハ感情的興奮ノコレニ伴ヒ、從前ノ事歴ニ徴セラレ、病的ノ身體感覺ニ助ケラレ、病人ノ思慮ノ方向ニ制セラレナドシテ、病人ノ精神ニ固著シ、且、強劇トナリ居ルガタメニ新ニ推感セラレタル觀念ガ外界ヨリ來タルトモ、コハ未、精神内ニ堅固ナル根柢ヲ築キ得ザルモノナルニ乘ヅテ、コレヲ擠陥シコレヲ驅逐スルコトアリ。マタ時トシテ病的觀念ハ推感ノタメニ一時壓倒セラルルモ、間モナク復、身體的ノ感覺、又ハ第三者

- (5) Bechterew
- (6) v. Krafft-Ebing
- (7) Hirt
- (8) v. Schrenk Notzing
- (1) Berlleon
- (2) Lloyd Tuckey
- (3) van Renterghem
- (4) van Eeden

(他人)ヨリ與ヘラルル反對觀念等ニヨリテ、再、舊時ノ強度ニ復活スルコトアリ。第三者ガ催眠術療法ノ效果ノ信用スベカラザルガ如キ口吻ヲ漏スノミニテモ、既ニ推感ノ治療的作用ヲ著シク損ハルルモノナリ。又、催眠術ニ於テハ、病人ハ催眠術状態中ノコトニ就キテハ記憶ヲ存セザルガ故ニ、自己ノ輕快治愈ニ至レル過程ヲモ自覺セザルコトハ、本療法ノ短所ト云ハザルベカラズ。説明、暗示、意志ノ練習、作業等ニヨリテ病症ノ輕快スルトキニハ、病人ハソノ病症ノ如何ニシテ快癒ニ赴キシカラ知ルガ故ニ、病症ノ後戻シタルトキニハ又、自、ソノ療法ニ就カンコトヲ求ムルモ、催眠術治療ニ於テハ此ノ如キコトナク、又、意志ノ練習、作業ノ執行ノ如クニ自、コレヲ加減スルコト能ハザルモノナリ。

催眠術状態ニ於テハ、コレヲ醒覺時ニ比スレバ、推感の療法ヲ施スコト容易ナレドモ、ソノ效用ヲ過大視スベカラズ。言語的推感ノ奏效著明ナルハ、催眠術の療法ノ特長ナレドモ、催眠術状態ニ於ケル言語的推感ハ、短時間ニ限ルモノニシテ、且、ソノ效果モ持續シ難ク、症候ノ再發ヲ防止スルコトモ不可能ナリ。反之、醒覺時推感ハ必要ニ應ヅテ隨時ニコレヲ施スコトヲ得、症候再發ノ兆アル毎ニコレヲ反復スルコトヲ得ルモノナレバ、催眠術療法ノ效ナキトキハ、覆面的推感ヲ以テ奏效ヲ贏チ得タルコト少カラズ。

(二)催眠術療法ノ危険。催眠術療法ノ危険及ビ害毒等ニツキテハ、今日多數ノ報告アルモ、ジーエンズルド氏ハ八個年間ノ經驗ニ於テ未、何等ノ惡影響ヲモ見タルコトナシト云ヘリ。實施ノ方式ニシテ過誤ナク適應症ヲ誤ルコトナクレバ、本療法ハ決シテ何等ノ危険ヲ伴フコトナキノミナラズ、幸良ノ效果ヲ呈ハスモノトス。リエポール氏⁽¹⁾、ベルンハイム氏⁽²⁾、ベリリオン氏⁽³⁾、ノーレル氏⁽⁴⁾、ロイド、タツキー氏⁽⁵⁾、ラン、レントルベム氏⁽⁶⁾、ラン、エーデン氏⁽⁷⁾、ヒテレフ氏⁽⁸⁾、フォン、クラフトエービング氏⁽⁹⁾、ヒルト氏⁽¹⁰⁾、モル氏⁽¹¹⁾、シュレンク、ノツチング氏⁽¹²⁾等ハ、コノ療法ニ關スル多數ノ經驗ヲ有スルモノナルガ、未、曾、病人ノ精神及ビ肉體ニ不良ノ影響ヲ與ヘタルコトナシト云ヘリ。

若、ソノ方式ニ過誤アランカ、被術者ヲシテ神経質タラシメ、コレニ頭痛ヲ起シ、自家催眠術状態ニ陥リ易キ性狀ヲ與へ、若クハ推感サレ易キ性質ヲ作ルコトハ事實ナリ。故ニコノ療法ヲ行フニハ種種ノ方面ニ十分ナル注意ヲ拂フコト必要ニシテ。ダトヘバ疲憊ノ高度ナルモノニハ、勉メテ視覚・聽覺ヨリスル單調ナル感覺刺激ヲ輕減スベク、又、病人ノ催眠術状態ニ陥リタル後ニハ絶エズコレヲ監視シ、不意ノ音響等ニヨリテ催眠術状態ノ中絶セラレザルヤウ注意スベシ。ヒステリー性痙攣發作ハ、往往ニシテ催眠術施行中ニ起ルコトアレバ、コレガ初兆ヲ認メタルトキハ、時機ヲ逸セズシテコレニ應ズル適當ノ推感ヲ與ヘテ發作ヲ未發ニ防グベキナリ。ヒステリー性嗜眠状態ヲ起シ易キ素質アルモノハ、眼ヲ閉ヂテ安樂椅子ニ凭ラシメタルノミニテ既ニ嗜眠ノ状態ニ陥ルコトアリ。別段ノ害惡ヲ殘スコトハナケレドモ、コノ嗜眠状態ハ、催眠術療法ヲ施スニハ(少クモソノ時ダクハ)不適當ナルモノナリ。催眠術ノ後殘作用トシテ眠意ノ持續・疲憊感・自家催眠術状態ニ陥ル傾向ノ亢進スル等ノ如キアリ。又、催眠術状態中又ハソノ後ニ發シタル自家推感ノタメニ不快ナル心地アルコトアリ、此ノ如キハ施術前ニ病人ニソノ慎ナキコトヲ諭シ、若クハ催眠術状態中ニコレニ對スル適當ナル推感ヲ與フレバ、コレヲ除クコトヲ豫期シ得ベシ。スベテ催眠術状態中ニハ絶エズ各方面ヨリ病人ノ状態ヲ視察シ、聊ニテモ神経系ニ不良ノ影響アルガ如キ嫌アラバ、直ニソノ施行ヲ中止スベキコト勿論ナリ。

催眠術療法ヲ行ハントスル醫師ガ、催眠術療法ヲ習得シテコレヲ實施セントスルニハ必キ、心理學ノ原理ヲ會得シ、催眠術現象トソノ方式トヲ辨へ、且、コノ療法ヲ施スベキ病症、就中、神經病理學ニ通曉スベシ。然ラザレバ完全ニコレヲ運用スルダクノ智識技能ヲ得ルコト能ハスモノナリ。

(二三)催眠術療法ヲ應用スベキ疾病。催眠術療法ヲ應用スベキ疾病ハソノ數頗、多シ。勿論ソノ中ニハ強、催眠療法ニヨラザルモ他ノ療法ニテ治癒シ得ベキモノモ尠トセズ。實地家ハ宜シク先、如何ナル疾病ニ於テ催眠術療法ガ他ノ療法

ヨリモ著明ニ奏效スルカ、本療法ガ幾分ナリトモ奏效スルハ、果シテ如何ナル疾病ナルカヲ知ラザルベカラズ。然ルニ諸種ノ疾病ニ對スル催眠術療法ノ效果ニ就テハ、専門家ノ意見尙、一致セザルアリ。ブーレル氏ガ適應症トシテ擧ゲタル病氣ハ、自發性夢中遊行症・各種ノ疼痛(殊ニ頭痛・神經痛・坐骨神經痛・齒槽膿瘍以外ノ齒痛)・不眠・機能の筋麻痺竝ニ拘攣・機質の筋麻痺竝ニ拘攣・黃病・月經困難・月經閉止・食思不振・ソノ他神經性ノ消化障礙・便秘・腸加答兒又ハ腸酸酵ニ因ラザル下痢・精神の陰萎・遺精・手淫・色情倒錯等・酒精中毒・莫兒比涅中毒・慢性筋肉及ビ關節痙攣質斯・神經衰弱・吃吶・神經性視力障礙・眼瞼搐搦・夜中驚悸症・惡心・船暈・惡阻・遺尿症・舞蹈病・神經性咳嗽・肺氣腫ニ因ル咳嗽・ヒステリー兼癲癇ノ發作・ヒステリー性感覺脫失・ソノ他ノヒステリーの諸症狀ニシテ。ウヅテル・ストランド氏ノ說ニヨレバ、癲癇・出血等ニモ奏效スト言ヘリ。コレ等ノ内神經痛・坐骨神經痛・黃病・便秘・慢性筋肉痙攣質斯・舞蹈病等ニハ催眠術療法以外ニ、有力ナル療法アリテ、且、催眠術療法ノ奏效ノ不確實ナル場合決シテ少シトセズ。催眠術療法ハ、只、特殊ノ場合ニ於テノミ應用セラレベキモノナリ。ブーン、レントルベム氏・フン、エーデン氏ノ說ニヨレバ、本療法ノ卓效アルハ、神經衰弱・眩暈・頭痛・神經痛・貧血・抑鬱状態・機能の完全麻痺及ビ不全麻痺ニシテ、慢性酒精中毒・吃吶・舞蹈病・ヒポコンドリー・神經性喘息・常習便秘・手淫等ニハソノ效果前者ニ及バザルモ、全ク無効ナルニアラズ。癲癇・慢性關節痙攣質斯・脊髓病・書癩・ヒヤノ彈奏癩・機質の神經疾患・内科的疾患等ニアリテハ全ク效果ナキカ、又ハ著シキ結果ナク、コレニ併發スル機能障礙ヲ除キ得ルニ過ギズ。舞蹈病便秘ニハコレニ次ギ慢性關節痙攣質斯ニハ又、コレニ次グト云ヒ、シー・ウンスルド氏ノ說ニヨレバ、常習性便秘ノ他ハ催眠術療法ノ治效アリシハ、スベテ神經性精神性ノ疾患、ダトヘバ、神經衰弱ノ症狀・苦悶状態・強迫觀念・或種ノ頭痛・生殖器系ノ刺戟状態・輕度ノ憂鬱病等ニシテ、ソノ治效ハ、隨分持續的ニシテ且、著シキモノタルコトアリ。又、

時トシテハ催眠術療法奏效セズシテ、反テ醒覺時推感ニヨリテ初メテ豫期ノ效果ヲ收メ得ルコトアリト云フ。

催眠術療法ガ不眠症ニ對シテ卓效アルコトハ、確實ナリ。唯、コノ種ノ病人ハ、催眠術ニ感シ難ク、感ズルモ完全ナラズ。又、催眠術ノ推感ノ效果ハ、大抵皆一時性ニシテ、速ニソノ效無キニ至ルモノナリ、ウヅテルストランド氏、ヒルシ氏等ハ、不眠病ニ對スル催眠術ノ效果ヲ誇稱セリ。

神經系統ノ刺戟興奮状態ヲ呈スル諸症ニアリテハ、コレガタメニ安靜ナル自然的睡眠ヲ催起シテ、神經系統ヲ鎮靖スルノ效アリ。故ニ睡眠不足、頭痛、精神不安状態等ニ對シテハ、最、有效ナリ。ヒステリー發作ナドモ、催眠術療法ニヨリテ將ニ起ラントスル前ニ頓挫セラルルコトアリ。ヒステリー性麻痺ニモコレヲ用ユルコトアレドモ、次第ニコレニ習ハシ、且、段段ニ推弘スルヲ要ス。神經衰弱症ニアル強迫觀念恐怖症ナドガ、久シク他ノ療法ニテ奏效ナキ後、本療法ニヨリ、比較的迅速ニ輕快若クハ治癒スルコトアリ。恐怖症ナドニハ他ノ療法ノ效果甚、不定ナルモ催眠術中ノ推感ハ時トシテ卓效ヲ奏スルコトアリ。コレニハ徐徐ニ程度ヲ進メ、且、他ノ精神療法ヲ併用スベシ。強迫觀念ハ場合ニヨリテ一度驅除セラルルモ亦、新シキ強迫觀念ノ代リテ表ハルルコトシバシナリ。コレニ催眠術的推感ヲ施スニハ、深キ催眠術状態ヲ喚起スルノ必要ナシ。但、強迫觀念ヲ有スルモノハ多クハ催眠術ニ感應セザルモノナリ。コレ一ツハ自分ハ催眠術ニカカラズト云フ強迫觀念ノアルニ基ツクモノナリ。

ヒステリーノ治療ニハ、催眠術的推感ノ效果甚、大ナルコト、醒覺時推感ノ比ニアラザルベシトハ人ノ一般ニ考フルコトナレドモ、ソハ必シモソノ通ナラズ。ソノ方法ニシテ巧ミナラバ、醒覺時推感ハ催眠術的推感ヨリモ、ヨク奏效スルモノナリ。ヒステリー病ニ對スル催眠術的推感ノ效果ハ、甚シク不定ナリ。或ハ甚、偉大ナルカト思ヘバ、又、毫モノノ效ナキコトアリ。コレソノ各病症ニヨルコトナリ。如何ナル症ガコノ治療ニ適スルカ、ソハ豫、知リ難シ。概シテ言ヘバ、高度ノヒステリー

(I) Fontan (Toulon)

一ハ、コノ療法ニ適セズ、大抵ハ推感セラレタル觀念ヲ執リ上テ、コレヲ助長スルノ能力ヲ缺クモノナリ。ヒポコンドリー性ヒステリー病ニモ、奏效ハ稀ナリ。コノ場合ニ於テハ、病人ノ被推感性ハ著シク亢進スルモ、ソハ專、自家推感性ニシテ自家推感ニ執著スルタメニ外來ノ推感ヲ納ルルコト困難ナリ。猶、ヒステリー患者ハ、多クハ、催眠術ニ感シ難キモノニシテ、催眠術的推感ヲ行ハントシテモ行ヒ得ザルコトアリ。

ベルンハイム、タヅツル等ノ諸家ハ、外傷性神經症ニ催眠術的推感ヲ應用シテ治效ヲ收メタリト云フモ、獨逸ニ於テハ本病ニ對スル催眠術療法ノ效用ハ未、汎ク承認セラレズ。コノ症ノ病人ハ、多クハ催眠術ニ反抗スルノ性狀アリ、ソノ病ノ治癒スルヨリモ、現狀ヲ維持シテ賠償金ノ支給セラルル法ヲ冀フガタメニ、催眠術ニシテ成功スルモ、必シモ佳良ノ結果ヲ得ベカラズ。

ヒステリー性麻痺ニハ覆面的推感法有效ナルモ、ソノ效ナキ場合催眠術療法ヲ用フベシ。ソレニハ初メハ輕キ催眠術状態ヲ利用シ、ソノ效ナキトキ深キ催眠術状態ヲ利用ス。輕催眠術状態ニテ奏效セズバ、少シハ動ク様ニナツタ、今少シ深く眠ラレヨ、サスレバ麻痺ハナクナルベシト云ヒテ施術ヲ進ムベシ。チーヘン氏ハ催眠術ニ兼テ時時壓痛帶ヲ壓迫シテ效ヲ收メタリ。機質性麻痺ニ於テモ催眠術ノ奏效スルコト理由ナカラズ。腦出血後ノ麻痺ニテモソレニヒステリー性機能性ノ症狀ヲ併發スルコトシバシナレバ、コレ等ニ對シテ催眠術ノ效果ヲ奏スルハ然ルベキコトナリ。

器質的ノ腦病脊髓病ニモ催眠術若クハ催眠術的推感ノ奏效シタルコトハ屢、コレアリ。ベルンハイム氏ハ、腦ノ竈病(拘攣ヲ除キ麻痺ヲ輕クシ)運動失節症、鎗刺痛、膀胱ノ煩急症、胃痛等ヲ推感ニヨツテ治療シ、又、強痙性脊髓麻痺ニ於テ腱反射ノ亢進及ビ(一時的ナガク)麻痺症ヲ退消セシメ、尙、多發性硬化ニ於テ、六個月間ノ治癒ヲ來シタリト云ヒ、フンタン氏⁽¹⁾モ同様ノ經驗ヲ發表シ、尙、兩家トモニ出血竈ニ因スル偏癱ニ於テ、

(1) Grossmann

感覺過敏並ニ強直ノ未、起ラザル時期ニ於テハ、推感ニヨリテ一定ノ奏效ヲ見ルコトヲ得ト云ヘリ。コレ等ノ疾病ニ於テ催眠術ヲ用フルコトナクモ麻痺ノ治療スル場合ニハ催眠術ヲ應用スルナラバ、更ニ速ニソノ治療ヲ促スコトヲ得ベシ。グロスマン氏⁽¹⁾ハ「末梢神經病・中樞神經病・筋肉病」ニシテ、自然ニ輕快スル傾向ヲ有スルモノハ、殊ニ催眠術の推感療法ニ適ス⁽²⁾ト謂ヘリ。

癲癇ニ對シテモ、催眠術ハ一定ノ奏效ヲ呈ハスコトアリ。ウツテルストランド氏ハ、癲癇ガ催眠術ニヨリテ全治スルコトヲ説キ、殊ニ永時間ノ催眠術施行ヲ推奨シタレドモ、ソノ他ノ諸家ノ報告ニヨレバ、催眠術の推感ノ癲癇ニ奏效シタリト云フハ、ホソノ一時的ニシテ又、ヒステリー兼癲癇ヲ、癲癇ト誤診シタルニ基ツクト云フ。ベルンハイム・フラン、エーデン・ロイドタツキ・ヒルシ氏等ノ如キ推感療法ノ主張者モ、陳舊ナル癲癇ニ對シテハ、催眠術ノ無效ナルヲ稱セリ。ゾーレル氏ノ如キモ、亦、癲癇ニ就キテハ、催眠術療法ノ效果ヲ疑ヒ、推感ノ奏效スルハ、一ニ例ニ過ギズト云ヘリ。ベルンハイム・ウツテルストランド・フラン、エーデン・デモンバイエー⁽²⁾、ラン、レントルベム諸氏ハ小舞蹈病ニシテ、感情興奮ヲ原因トスルモノニツイテハ、催眠術ニヨリテ成功セルガ、ハンチントン氏遺傳性舞蹈病ニ對シテハソノ效ヲ收メ得ザリキ。

局所の筋肉痙攣(顔面神經痙攣・副行神經痙攣・四肢筋肉ノ痙攣・ミラクローニ・テック等)ニモ催眠術の推感ヨク奏效ス(ベルンハイム・ウツテルストランド・タツツル・スターデルマン等諸氏)。

吃吶ノ治療ニ就テモ、催眠術の推感ハ甚、有效ナリ。吃吶ハ大抵、自家推感ニ基ツクモノナレバ、推感療法ノ奏效スルハ當然ナリ。ウツテルストランド氏ハ、吃吶ガ夢遊状態ニ於テ全治シタルヲ實驗セリ。催眠術療法ハ、時トシテ效ヲ奏セズ、奏效シテモ再發スルコト少ナカラズ。

(2) Dumontpallier

(1) Hulst
(2) v. Corval

神。經。痛。又。ハ。疼。痛。性。疾。病。ニ。シ。テ。ヒ。ス。テ。リ。性。ナル。モノ。ニ。ハ、催眠術療法ヲ施スベシ。コレヲ初メヨリ施スベキカ、又ハ覆面的推感療法ガ奏效セザル場合ニ行フベキカハ、醫師ノ技巧如何ニヨリテ定ムベシ。催眠術療法ヲ行フ場合ニハ漸漸ニ推感ヲ進ムベシ、急ニ效果ヲ收メントスベカラズ。電氣療法又ハ按摩療法等ヲ併用スルハ可シ。疼痛ハ元來他覺症狀ニアラズ。同一刺戟ニ對シテモ人ニヨリテ異ナリ、時ニヨリテ異ナリ、精神状態・身體状態・感情状態・榮養状態ニヨリテ異ナルモノナレバ、機質的ノ疼痛ニシテモ末梢性疼痛ニハ幾分精神的原因ノ添加スルコトアリテ、コノ添加的疼痛ハ催眠術の推感ニヨリテ減殺セラレ除去セルベキモノナリ。サレバヒルト氏ガ脊髄癆ニ於ケル電擊痛ニ對シテ催眠術ヲ稱揚シ、フルスト⁽¹⁾・ウツテルストランド・フラン、コルウル⁽²⁾諸氏ガ神經痛ニ對シテ催眠術ヲ稱揚セルモノ故ナキニアラズ。ソノ疼痛ヲシテ精神の添加ナク機質的刺戟ニ相當スルダケニ減削セシムレバナリ。精神の添加ノ多大ナルトキニハ、ソノ治效少ナク、ソノ些少ナルトキニハソノ治效モ大ナルナリ。要之、機質的疼痛ニ對シテハ、催眠術ハソノ施術中ハ奏效アルベキモノ、ソノ效驗ノ持久性ナルコトハコレヲ望ムベカラズ。

催眠術の推感ハ常習性頭痛(神經衰弱性ヒステリー性又ハ原因不明性)ニ對シテモ、多方面ヨリ推奨セラル。グロツスマン氏ハ關節病殊ニ慢性關節痠痛及ヒ痛風ニ對シテ、催眠術療法ヲ稱揚シ、コノ病ニ於ケル機能障礙ハ解剖的變化ニヨリモ、推感作用ニ基ツクモノナレバ、疼痛モ亦、自家推感ニヨリテ起ルナラント云フ論據ヨリ、「先、催眠術ニヨリテ、ソノ疼痛ヲ除クトキハ、ソノ機能障礙モ亦、コレニ隨ツテ治癒スベシト云ヘリ。コレヲ實際ニ徴スルニ、催眠術の療法ノ奏效スルコトナキニアラザルモ、何レニモ皆、奏效スルニアラズ。故ニ關節ニ於ケル病的變化ハ殆、全ク治癒シタルニ、疼痛ハ尙、續キテ已マスコトアリ。此ノ如キハ、自家推感ニヨル疼痛ナルコト明白ナレバ、推感療法ニヨリテ速ニ消退スベシ。但、初度ノ催眠術ヲ以テ直ニソノ疼痛ヲ除キ去ルハ到底不可能ナリ。故ニ初メニ

(1) Tobold

(1) Hall (1)
(2) v (5)

ハ、再發稀少トナリ、疼痛ノ程度減弱スルコトヲ推感スルニ止メ、後ニ至リテ疼痛ノ全治スルコトヲ推感スベシ。急性及ビ慢性ノ筋肉痙攣質斯ニ對シテハ、催眠術ノ應用スベキコト少ナシ。

呼吸機官ニ就キテ見ルニ、聲帶痙攣ニ對シテ精神療法ヲ施スコト、マダ多數ノ經驗ナシ。トボールド氏⁽¹⁾ハコレニ對シテ平流電氣ヲ稱用セシモ、コレモ亦、推感療法トシテ效アルナリ。催眠術ニカカル人ニハ、催眠術ヲ施シテソノ發作ノ發來ヲ防グベシ。ヒステリー性聲帶痙攣ノ發作ニテ、長ク持續シ、又ハ甚、強劇ニシテ生命ニ危險ナランカノ如キモノニハ、精神療法ヲ行ハンガ爲メニ躊躇スベカラズ、早ククロホルムテロームエチルノ吸入、モルヒネヒヨスチンノ皮下注射等ヲ行フベシ。ヒステリー性聲帶痙攣・ヒステリー性無聲症ニ對シテハ、藥劑ノ内服、皮下注射、吹入、電氣療法按摩、舌ノ牽出、咽頭内ノ機械挿入法、卵巢ノ壓迫、舌骨ノ扛舉等ノ如キ種種ノ治療法アリト雖、コレ等モ皆、推感ノ作用スルモノナリ。無聲症ガ自家推感ニ基ツクトキハ、コノ觀念ヲ排除スルニヨリテコレヲ治癒セシムルコトヲ得

催眠術ノ推感ハ、真正喘息ニ對シテハ、全然無効ナルモ、肺氣腫患者ノ喘息ニ對シテハ良效ヲ奏ス。

神經性心臟病・ヒステリー性狭心病ニ對シテハ、催眠術ハ甚、有效ニシテソノ效果カナリニ持續ス。

神經性胃病ニ催眠術ヲ應用スルハ、概シテ必要ナラズ。

病的ニ色慾ノ亢進セルモノ・性慾性神經衰弱ニ罹レルモノ・色情感覺消失ヲ告フルモノニアリテハ、時トシテ催眠術ノ推感ノ奏效スルコトアリ。遺精ニ對シテモ、催眠術療法ヲ行フ。此ノ如キ病人ハ、概シテ催眠術ニカカリ難シ。ベルンハイム氏ハ自家推感ニヨル精神ノ交接不能ノ症ニモ、催眠術ノ推感ニヨリテ成功セルコトヲ報告セリ。色情ノ倒錯ニ對シテハ催眠療法有效ナリト云フ。

月經ガ精神機轉ノ影響ヲ受クルハ、吾人ノ日常經驗スルコトニシテ。感情興奮ノタメニハ既發ノ月經ハ止マリ、次

- | | | | | |
|--------------------|--------------|---------------|--------------|---------------|
| (14) Mesnet | (12) Schmelz | (5) Cloquet | (4) Herzberg | (1) Voisin |
| (15) Dumontpallier | (13) Davis | (6) Guerineau | | (2) Brunnberg |
| (16) Journe | | (7) Esclair | | (3) Ringier |
| | | (8) Pozzi | | |
| | | (9) Fort | | |
| | | (10) Wood | | |
| | | (11) Tillau | | |

回ノ月經ハ早クナリ、又ハ起ラスコトアリ。又、婦人ニヨリテハ自分ノ觀念・意志ヲ以テ月經ノ起始ヲ抑フルコトアリ(指ヲ結フナド)。催眠術ハ、月經ノ餘程前ニコレヲ施スコト、次ノ月經ノ持續ニ作用スト云フ。月經異常(月經ノ回数頻多ナルコト・持續長キニ過グルコト・血ノ多キコト・月經困難ナルコト)ニ對シ、リエポール・ウァアサン⁽¹⁾・ベルンハイム・ブルンベルグ⁽²⁾ 諸氏ハ、催眠術療法ヲ施シテ奏效セリ。ウツテルストランド氏⁽³⁾・ランジエー氏⁽⁴⁾等ハ、白帶下ニ對シテ催眠術ノ奏效シタル實例ヲ報告セシガ、ソノ真相ハコレヲ學理的ニ説明スルコト能ハズ。腔痙攣ニシテ腔入口、或ハソノ近部ノ粘膜ニ損傷ナキモノニハ、催眠術療法ニヨリテ良果ヲ收ムベシ。種種ノ局所療法ハ、多クハ推感ニヨリテ奏效スルナリト云フ。ヘルツベルグ氏⁽⁴⁾ハ、婦人骨盤内臓器ノ疾病(疼痛)ニ對シテ、催眠術ノ推感ヲ行ヒテ、屢、效果ノ卓越ナルヲ見タリ。

減尿症・多尿症・無尿症ノヒステリー性ナルハ、催眠術ヲ施シ試ムベシ。

催眠術ニヨリテ感覺脫失ヲ推感シ、コレニヨリテ小手術ヲ行フコトハ屢、試ミラル。クローケー⁽⁵⁾・ゲリノー⁽⁶⁾・エダイル⁽⁷⁾・ポツチー⁽⁸⁾・ネート⁽⁹⁾・ウヅド⁽¹⁰⁾・テロー⁽¹¹⁾・シメルツ⁽¹²⁾等ノ諸氏ハ、催眠術ノ麻痺ニヨリテ、大手⁽¹⁰⁾術ヲモ行ヒタリ。然レドモ、催眠術ノ麻痺ハクロホルム・エーテル等ノ如ク深キ麻酔ヲ來スモノニアラズ、又、病人ガ總テ催眠術ニ感應スルニアラザルガ故ニ、コレヲ用ヒテ麻酔法ニ代フルコト能ハズ。藥劑ノ麻酔ヲ補助スル方法トシテ、催眠術ノ麻酔ヲ行フハ大ニ將來ニ見込アルナリ。ウツテルストランド⁽¹³⁾・デーヴス⁽¹³⁾等諸氏ハ淺キ催眠術狀態ニ於テハ、少量ノクロホルムヲ以テ完全ナル麻酔ヲ起スコトヲ得ベシト云ヘリ。不治ノ外科的疾疾病(タトヘバ、癌腫等)ニ於テハ、催眠術ノ推感ヲ以テ病人ノ苦痛ヲ著シク輕快セシムルコトヲ得ベシ。

産科ニ於テハ、リエポール⁽¹⁴⁾・メスチー⁽¹⁴⁾・デモンバリエー⁽¹⁵⁾・ウツテルストランド⁽¹⁶⁾・ジュール⁽¹⁶⁾・シレ

- (1) Schrenck-Notzing
- (2) Tatzel
- (3) Menant de Chesnais
- (4) Fanton
- (5) Fraipont
- (6) Debaeuf

- (7) Forel
- (8) Ladame
- (9) Ringer

- (10) Dizard
- (11) Morselli
- (12) Berillon

- (13) Spermin Pöhl
- (14) Cheron'sches artificielles Serum

ンク、ノ、ツツチング⁽¹⁾・タツツル⁽²⁾・ムーナン、ド、シチー⁽³⁾等諸氏ハ、催眠術ニヨリテ陣痛ヲ除キタリト云ヒ、フントン⁽⁴⁾・フレイボン⁽⁵⁾・デペーフ⁽⁶⁾等諸氏ハ、催眠術の推感ニヨリテ、分娩時間ヲ伸縮シ、陣痛ノ間歇ヲ左右セリト云ヒ、リエポール氏ノ如キハコレニヨリテ流産ヲ未然ニ止メタリト云フ。

慢性中毒ニハ、特殊ノ精神の缺陷アリ。ソハ即、意志ノ薄弱ニシテ一定ノ觀念殊ニ道德的觀念ノ衰耗アリテ病人ハソノタメニ又シテモ誘惑ニ陥イリ易シ。ソノ療法ハ、極メテ不十分ニシテ、一二效少ナキ藥法(酒精中毒ニストリヒニン)ノ他ハ皆、防衛法ニ過ギズ。病人ハ病院ニ監禁セラレ、自己ノ強求、家人ノ強求ニヨリ早くモ退院シタルハ間モナク再發シ。久シクソノ儘ナリシモノ何カノ興好ニ轉氣シテ月日ヲ過ゴセシモノモ、遂ニハ又、再發シ。永ク治癒スルハ甚、稀ナリシガ。近年推感法殊ニ催眠術ヲ應用シテヨリソノ效驗アルコト主張セラルルニ至レリ。酒精中毒ニ催眠術的推感法ヲ稱揚シタルハフォーレル氏⁽⁷⁾ニシテ、ベルンハイム・ウツテルストランド⁽⁸⁾・デグー⁽⁹⁾等諸氏コレニ次ケリ。フォーレル氏ハ、禁酒會ニ入ルラ一ツノ用方トセルガ。治癒期間ノ報告ナキト、治癒ト報告トノ期間甚、短キトハ遺憾ナリト云フ。

モルヒチ中毒ニ對シテモ、催眠術療法ハ有力ナル處置ノ一ニシテ、ベルンハイム・ウツテルストランド⁽¹⁰⁾・デザール⁽¹¹⁾・モルセユイ⁽¹²⁾・ベリイオン⁽¹³⁾等ノ諸氏ハ、ソノ治效ヲ稱揚シ。デザール氏ハ「モルヒチヲ禁斷スル前ニ、催眠術ヲ施シテ、睡眠ノ催作・食思ノ振興・モルヒチノ忌避ヲ推感スルヲ可トス」ト云ヒ、ウツテルストランド氏ハ深キ長キ催眠術状態ヲ須要トシ、ベルンハイム・デザール⁽¹⁴⁾ニ氏ハ入院治療ヲ必須トシ、ウツテルストランド氏ハ「コレヲ不要ト云ヘリ。モルヒチ少量ヲ長ク續キテ用ヒシ後ノ禁斷證狀ニモ、「スベルミン、ペール」⁽¹⁵⁾・スロイン氏人工血清⁽¹⁶⁾ノ如キヲモルヒチノ代用トシ注射シテ效ヲ收ムルコトアリ。リエポール・ウツテルストランド、

- (1) Voisin
- (2) de Jong

- (3) Moralische Orthopädie

ランジエー・フォーレル氏等ハ、萎黃病ニ對シテ催眠術療法ヲ行ヒ、コレニヨリテ食欲・全身状態、神經症狀、顔貌等ヲ恢復シタリト云フモ、普通ノ肉體的ノ療法ニヨリテモ、亦、這般ノ效果ヲ收ムルコト難カラザルヲ以テ見レバ、催眠術的推感療法ヲ本病ニ對スル唯一ノ精神療法ナリトハ云フコトヲ得ズ。ランジエー氏ハ鐵劑兼推感療法ヲ以テ、萎黃病ノ合理的療法ト認メシガ、推感療法ハ必シモ合理的ノモノニアラズ。ソレヨリハ鐵劑ヲ用ユルト同時ニ、適當ナル食養法ヲ行ヒ、ソノ奏效不確實ナル場合ニ初メテ催眠術ヲ行フベシ。

精神病ニ就キテ、催眠術療法ノ奏效セシ例ハ少ナク、從テコノ療法ハ左程ニ重要ニアラズ。輕度ノ憂鬱病及ビヒステリー性精神病ニハ幾分效果アリ。ウオアサン⁽¹⁾・ド、ジョン⁽²⁾・ウツテルストランド⁽³⁾等諸氏ハ、催眠術療法ガ輕度ノ鬱病ニ有效ナルヲ認メタルモ、レーウンスルド氏ハソノ效果ノ著シカラザルヲ説ケリ。催眠術的推感ハ多クハ一時ノ好結果ヲ齎ラスモ、コレニヨツテ疾病ノ經過ヲ短縮スルコトナシ。精神病ニ對シテハ、催眠術ガ成功セザルノミナラズ、麻醉劑ヲ併セ用ユルモ、著明ナル影響ヲ與ヘ得ザルコト多ク。催眠術状態ヲ惹起シ得タル場合ニモ症候ニヨリテハ却、悪影響ヲ殘スコト多シ、偏執病ナドハ即、コレナリ。

(二四)所謂倫理的矯正術⁽³⁾ 催眠術ハ、近時著シキ進歩ヲ遂ゲテ、コレヲ病的習慣ヲ除去スルタメニ利用スルニ至レリ。ド、ジョン・ウオアサン⁽¹⁾・テモンパリエー⁽²⁾・ベルンハイム・ペリヨン⁽³⁾・リエポール⁽⁴⁾等ノ諸家ハ、即、竊盜癖・虛言癖ヨリ怠惰・不潔・飲酒ノ癖・慘酷ノ習性乃至ハ爪噛ムガ如キコトニ至ルマデ、コレニ催眠術的推感ヲ施シテ、治療上ノ效果ヲ收メ、ヨリテコレヲ總ベテ倫理矯正術ト稱ヘタリ。サレド此ノ如ク催眠術ヲ教育學上ノ目的ニ應用スルコトハ、種種ノ方面ヨリ反對ヲ受ケタリ。今日教育者ノ主張スルコロハ、「兒童ノ性格ガ、普通ノ教育學的方法ニヨリテ矯正セラルベキモノナラバ、コレニ催眠術ヲ使用スベカラズ。但、倫理的缺陷及ビ惡癖ニシテ全然病的ノ性質ヲ帶ビ、從來ノ教育學的

- (1) Suggestiv-imperative Methode
- (2) Schlaf- und Traumtherapie
- (3) Sante de Sanctis
- (4) Traumpsychosen
- (5) Freud
- (6) Traumdeutung
- (7) Ramboti Farez

方法ヲ以テハコレヲ救フベカラザル場合ニハ、催眠術ヲ應用スベキコト勿論ナリト云フニ一致セリ。
 推感の命令法⁽¹⁾(四二頁)モ、亦、コノ意味ニ於テ應用スベク。コノ法ハ説得法ニ於ケル如ク證據ナドヲ用フルニ及バズ、
 醒覺時推感ニヨリ(直接)又ハ感情冀望ヲ起サシテ(間接)病人ノ意志ヲ興發セシムル方法ナリ。醫師ハ、叡智薄弱ナル
 病人(生來ノ癡愚又ハ後天ノ癡呆)ニ對シテ、自分ノ意見自分ノ認識ヲ推シ及ボシ、コレニヨリテ病人ノ意見認識ヲ矯
 正シ、コレニヨリテ病的症狀ヲ抑へ、健康ノ傾向ヲ起スコト稀ナラズ。假令、コレニヨリテソノ病ヲ治愈ニ向ケルコト能ハザルニ
 セヨ、病人ノ舉動ヲ社會ニ適合スル程ニ矯正スルコトヲ得ベシ。若キ精神病者、精神病ノ寛解時、ソノ末期殊ニ精神病
 性體質者、道德的缺陷者ナドニ就キテハ、コノ方法ヲ以テソノ反社交的ノ習慣ヲ除クコトヲ得。甚シク興奮シ、錯亂セル
 病人ニ施シテハソレホド效ナキモ、慢性ニシテ興奮氣ノナキ病人ニハ、妄想幻覺アルモノニ對シテモ推感ノ效アルナリ。

丙 睡眠療法、夢現療法⁽²⁾

睡眠療法、夢現療法ハ、催眠術療法ト類似ノ療法ニシテ、ソノ價値未、十分ニ判ジ難シ。コハ初メテサント、ド、サン
 クチー⁽³⁾ガ「夢」ト云フ著書ノ中ニ記シテ世ニ問ヒタルモノナリ。同氏ハ人ノ夢ミル際ニ音樂ヲ聽カセ、觸覺的刺戟、化學
 的刺戟ヲ與ヘテ、コレニヨリテ一定ノ種性ナル夢、一定ノ感情ヲ帶ビタル夢ヲ喚起スルナラバ、子供ヒステリー病者、夢現
 の精神病⁽⁴⁾ニ、或ハ奏效アランカト云ヘリ。ソノ説ハ精詳ナル試験ヲ基本トシ、中中有益ナルモノナリ。フロイド氏⁽⁵⁾モ後
 ニ述フベキ精神分析法ニ基ツキ(自家獨得ノ)占夢術⁽⁶⁾ヲ考案セリ。近來ニ至リ一派ノ學者ハ睡眠ヲ催眠術ノ如クニ
 利用シテ推感の療法ヲサントシタルガ、フリーレツツ氏⁽⁷⁾等ハ、子供ニ就キテ大ニ效驗アルヲ見タリ。ソノ方法ハ睡眠ノ
 種性ニヨルコトニテ、輕ク淺ク眠ル人ニハ、輕ク靜カニ取入ル様ナ推感ヲ與ヘテ、病人ノ目ヲ醒マサヌ様ニナシ、深ク眠ル人

(1) Psychoanalyse

(タトヘバ、夜尿症アル人)ニハ、聲ヲ大キクシテ命令ヲ下シ、場合ニヨリテハ半分目ノ覺メル位、劇キ推感ヲ與フベシト云フ。サ
 ント、ド、サンチー氏ノ方法ハ即、コレニ猶、一步ヲ進メタルモノナリ。
 コノ療法ハ事ニヨリ奏效スルコトアルベキモ、要スルニ、實地上大ナル望ヲ屬スベキニアラス。

第九編 精神分析法⁽¹⁾

(二)吾人ノ經驗ニヨルニ、嘗、上意識中ニ存シタル觀念ノ再現ハ、容易ナルアリ、困難ナルアリ、又、場合ニヨリテハ全く不可
 能ナルアリ。コノ再現ノ不可能ナル場合ハ、吾人コレヲ忘却(健忘)ト名ヅクルナリ。忘却ニハ表面的ナルト、實際的ナルトア
 リ。前ニモ述ベタル如ク、正常ノ醒覺時意識ヲ以テシテハ、想ヒ出シ得ザル記憶ガ、催眠術狀態中ニハ出現シ來ルコトモアル
 ガ、又、ヒステリー性精神病ナドノ如キ病的狀態ニ於テハ、健康狀態ニ於テハ容易ニ想起セラルル記憶ガ、全く喚起セラレ
 ザルコトナリ。大脳皮質ノ破壊セラルルトキハ、ソノ部位ニヨリテハ、追想記憶像ノ一部又、多數ガ持續的ニ缺陷ヲ起スコト
 勿論ナルガ、精神ノ完全ニ發育シタルモノニ於テ大脳皮質ノ相當ナル神經要素ノ廢滅ナクシテ記憶ノ全滅スルコトアルヤ
 否ヤハ、未決ノ問題ナリ。

記憶ノ薄弱ハ病人ニ甚シキ苦痛ヲ與フルト同ジク、或種ノ觀念ガ意識ニ執著シ、又ハ反復シテ再現スル場合ニ於テ、コレ
 ヲ除去シ得ザルモ亦、苦痛ナルモノナリ。或事柄ヲヨク記憶スルノ技術ノ困難ナルト同ジク、或事柄ヲ忘却スルノ技術モ亦、
 容易ナルモノニアラス(ソハ又、誰人ニモ一程度マデハ奏效スルモノナリ)。ソノ術ニ熟スルコトハ、精神療法中ノ主要ナルモノ
 一ナリ。吾人ガ記憶ヨリ排斥セントスルハ、苦痛ノ觀念、不快、憂悲、經驗ニシテ嘲罵、憂慮、恐懼ノ本ニナルモノナリ。コレ
 等ノ觀念ヲ驅逐シ得テモ、ソハ吾人ニ忘却セラレテ上意識ノ追想ヨリ排斥セラルルモ、ソハ全然精神界ヨリ驅除セラレタル

ニアラス。只、頻繁ナル精神の交通ノ外ニ立チ出テ、吾人ノ日常ノ意識ニ反映セザル邊(下意識界)ニ潛ミ入リタルニ過ギズ。此ノ如キモノハ事ニヨリ、一定ノ機會ニ觸レテ下意識界ヨリ抜ケ出テテ、種種ノヒステリー性徵候ヲ生ズルニ至ルコトアリ。

健康人ニ於テハ下意識的精神作業ハ、種種ノ程度ニ發達シ、又、種種ノ作能ヲ營ムモノノ如クナルモ、吾人ハソノ精神界ニ二個ノ精神作能團アルヲ認メズ、ソノ人格ハイツモ單性ニシテ分ルルコトナシ。コレ下意識ノ上意識ニ對スル關係ガ、同等同格ニアラス、恰、屬僚ノ長官ニ於ケルガ如クニシテ、上意識ニ課セラレタル作業ハ、スベテ下意識ニ於テ分擔シ、下意識ニ於ケル業作ハ、必、一旦ハ上意識ヲ經テ外界ニ發表セラレ、ソノ作業ハ直接上意識ヲ煩ハスコトナシトスルモ、上意識ノ支配ヲ受ケザルモノハ一モコレナキニヨルナリ。然ルニ病的狀態ニ於テハコレト相異シ、下意識ハ上意識ヲ離レ、獨立シテ活動シ、ソノ業作ハ上意識ヲ經ズシテ、直ニ發表セラルルガ故ニ一見ソノ人ニ二個ノ自我(第一自我、第二自我)ノ併存スルガ如キコトアリ。佛蘭西ノ學者、*ジヤニー・ビチー* (1) *ズレー* (2) *氏*等ハ、ヒステリー患者ノ下意識作用ヲ上意識ヲ離レテ表現セシムル實驗ヲ行ヒタリ。ダトヘバ、右上肢ノ感覺麻痺ヲ告グルヒステリー患者ヲシテ鉛筆ヲ執ラシメ、何物ニテカソノ手ヲ蔽ヒテ病人ヲシテコレヲ見セシメザルトキハ、病人ハソノ手ヲ以テ完全ナル文章ヲ書キツツ自分ハ(ダトヘバ)他ノ話題ニ就テ談論スルコトノアルヲ見ルベシ。コノ際手ノ運動ニ就テハ上意識ハ全ク參與セザルナリ。

(二)コレハ即、*フロイエル・フロイド* (4) *二氏*ガ千八百九十六年ニコレヲ利用シテ一種ノ精神療法所謂選拔療法(分析療法)ヲ試ミタルトコロナリ。ソノ初、*二氏*ハ、精神の發生ノ疾病就中、ヒステリーニ於テ麻痺、拘攣、痙攣、嘔吐、嫌食、視力障礙等ノ症狀ヲ研究シテ、ソハ屢、或事件(精神の打撃)ニ基ツキ起ルモノナルコトヲ知レリ。ソノ説明ニヨルニ、ココニ一人ノ母親アリ。ソノ子ノ眠ヲ驚カサザルコトニ精力ヲ傾ケ、靜閑ヲ守ル際ニ思ハズモ、舌ヲ鼓チタルガ、此ノ如キコト

- (1) Janet
- (2) Binet
- (3) Feré

- (4) Breuer
- (5) Freud
- (6) Kathartische Methode

- (1) Psychodiagnostik
- (2) Abreagieren
- (3) Eingeklemmt

度重ナリテ、遂ニヒステリー性チック症ヲ發シ、鼓舌兼興奮ヲ呈スルコト數年ニ及ビタリ。コノ婦人ノ如キノ意識中ニハ病症ト原因トノ關係全クソノ跡ヲ絶チ、彼ハ醒覺時ニハ更ニソノ病症ノ由來ヲ知ルコトナキモ、コレヲ催眠術狀態ニ致ストキニハ下意識作用ノ行ハルヨリ能ク詳ニコレヲ陳述スルコトヲ得ベシ(コレヲ精神診斷法トス)。此ノ如キ病人ニシテ、若、ソノ打撃ヲ蒙リタル當時ニ於テ號泣シ、暴怒シ、躁擾スルコトアリシナラバ此ノ如キ重症モ發ラズシテ止ミシナランガ、此ノ如キ反撥ヲ敢テシ得ザリシタメニソノ感動ガ(云ハズ)嵌頓シ居リテ、遂ニ或ハ何カノ觀念ニ膠著シテ、所謂強迫觀念トナリ、又ハ一種異常ナル身體症狀精神症狀ニ變作シテ、ココニヒステリートナルモノナリト云ヒ、驚愕甚シクシテ聲ヲモ立ツルコト叶ハザルトキ、色情ノ縱放ガ社會事態ノタメニ強壓サレシトキナドヲ此ノ如キ感動ノ例トシテ擧ゲタリ。

フロイエル・フロイド *二氏*ハ乃、ヒステリー及ビ強迫觀念ノ原因ヲ研究シテ、ヒステリー及ビ強迫觀念ノ原發性諸症狀ハ、ソノ本人ガ嘗、小兒期ニ於テ不快ナル精神の打撃ヲ受ケタルモ、ソノ記憶ガ前記ノ如ク久シク追想圈内ヨリ意識下ニ壓退サレ、ココニ潜伏シ居リテ特殊ノ作用ヲナスニ基ツクモノナルコトヲ知り、現在ノ病狀ガ、幼時ノ色情事件ニ基ツクコトヲ想像シ得ラルル場合ニ於テ、病人ヲ催眠術狀態ニ置キ、コレニヨリテ醒覺狀態ニハ記憶ニナキ病原的事件ヲ明瞭ニ想ヒ起サシメ、ソノ事件ニ伴フ感動ヲモ十分ニ發動セシメテ、ソノ感動ノ導クガマニ事件ノ徑路ヲ陳述セシメテ、ソノ事態ヲ明ニシ、仍テ屢、コノ病因の記憶ヲ再現サセテハコレヲ打破スルトキニハ、コレニヨリテ種種ノヒステリー症狀ハ消失スルコトヲ得ベシト首唱シタリ。猶、*二氏*ノ言ニヨレバコノ療法ヲ施スニ際シ、緊要ナルハ、病人ガソレヲ陳述スルトキ、十分ニソノ感動ヲ放散進發スルコトニシテ、只、ソノ事件ヲ追想陳述スルノミニシテ、ソノ追想ニ感動ヲ伴ハザルトキハ、治療ノ效果ハ殆、全クコレヲ望ムコトヲ得ザルモノナリト云ヒ。猶、又、醫師ハ病人ヲ深キ催眠術狀態ニ移シ、適當ノ推感ヲ與ヘテソノ諸症狀ノ銷退ヲ謀ラザルベカラズト云フ。コノ療法ハコノ *爾氏*ニ於テ右ノゴトキ治效アルベシト期待シテ廣ク試ミタルモ、實際ニ

ハ殆、全く満足ナル結果ヲ齎ラサズシテ、催眠術状態中ニ於テ、ヒステリーノ病原ト假定シタル追想ヲ揮散セシメントセシコトモ、多クハ失敗ニ終リ、コレニ成功シタル場合ニモ、亦、所期ノ效果ヲ見ルコトナク、又、此ノ如キ方術ヲナスニ必要ナル深キ催眠術状態ヲ喚起スルコトハ、極メテ容易ナラザルコトヲ經驗シ得タリ。

(三)此分析術ノ方式。ヒステリー及ヒ強迫觀念ノ特殊原因ト看做サレタル病的追想竝ニヒステリー症状ノ原因タル病原的觀念及ビ病原的感動ハ、嘗テハ病人自家ノ鋭意ナル自衛作用ニヨリテ下意識中ニ潛ミ入リテ、ココニ匿レ居ルモノナレバ、今日病發ノ場合コレヲ想起セシメンタメニハ、先、病人ヲシテ該症状ヲ喚起シタル最初ノ動機ニ就キテ知ルトコロヲ語ラシメ。病人若、コレニ答フルコト能ハザルカ、又ハコレニ關スル記憶ノ僅少ナルトキニハ、病人ヲシテコレヲ想ヒ起スコトニ盡心セシムルヲ要スベク。コノ際病人ノ精神ヲ集中セシムルタメニハ、コレヲシテ平臥シテ眼ヲ閉ザシメテ、外來ノ妨害ヲ盡ク遮斷シ、再、彼ノ原因ニ就イテ問ヲ發シ、強イテソノ觀ルトコロヲ告ゲシメ。此ノ如クシテ尙、結果ナキトキハ、術者ハ病人ニ告グルニ「余暫、君ノ前額ヲ壓シ居レバ、余ノ追求スル追想ハ、君ノ眼前ニ形ヲナシテ現ハレ、或ハ又、卒然トシテ想ヒ起スコトアルベシ、若、然ルトキハ君ハ直ニ、ソノ見ルトコロ想ヒ起スコトヲ余ニ語ルベシヲ以テシ、又、コレヲ語ル場合ニハ、自己ノ認識シタルママヲ語り、毫モ自家ノ批判、又ハ感情ヲ加フルコトナク、忌憚ナク卒直ニ陳述スベキヤウ」豫、病人ニ諭シ置キ、數秒時ノ間沈著ナル口調ニテ「何ヲ見ルヤ」、「何ヲ想起スルヤ」ト質問スベシ。コノ方法ハ、病的觀念ソノモノヲ直接ニ暴露スルモノニアラザレドモ、ソノ最寄ノ概括的觀念ヲ喚起スルモノナルヲ以テ、コレヲ端緒トシテ次第ニ追究スルトキハ、遂ニ病原的觀念ヲ發見スルコトヲ得ベシ。コノ方法ハ舊記憶ヲ喚起スルノ方術ニシテ、ソノ目的ヲ達セザル間ハ幾度モ幾度モ前頭壓定法ヲ反復シテハ精神分析ノ完成スルニ至ルマデコレヲ止メザルベシ。コノ際ニハ病人ノ夢ニ見シコト、思ヒ掛ケザル行爲ヤ、言ヒ間違、爲違ヒナドヲ皆、前記ノ壓退的機轉トシテヨクヨク觀察スベシ。最、病人ハ多少教育アリ、醫師ニ

信賴シ且、老年ナラズ五十歳以下ノモノヲ適當トス。コノ際、ソノ壓退的追想ヲ發見サレザラントシテ、コレニ(時トシテハ執拗ナル)抵抗ヲ試ミルモノ故、コノ治術ハ中長キ月日ヲ要シ數年ニ及ビ嫌厭ヲ來タシ易キモノナリ。シカシ此ノ如キ抵抗モ、甚シキ不快ノ感ヲ伴ヒナガラ、病人ハ遂ニ屈服シテ、病原的追想ガ皆皆暴露サレテ、コレニ繫滯シ居タル感動ト分離シ來ルベシ。此ノ如クナルニ至リテ、コノ追想ハ遂ニソノ病發的ノ作用ヲ失フモノナリ。勿論コママデニナルニハ色色ノ迷岐モアリ。病人ノ思考、行爲ニ就キテ目撃耳聽スル外ノ眞義ヲ探リ出スニハ、特別ノ判斷解釋ヲ要スト云フ。猶、醫師ハ耳ニ聽クベキコトノミナラズ、言葉ノ間歇、突然ノ中止、發笑、潮紅、シノ他ノ貌言、手ノ動キ、脚ノ動キ等ノ表白ニ注目シ、ソノ間ニハ聯想試驗ヲナシ(病人ニ何カ或言葉ヲ言ヒ聽カセ。刺戟語)コレヲシテソレヲ聽キタルトキ逸早く心ニ浮ブコトヲ言ハセ、反應語又、連鎖的聯想ヲ言ハシム(刺戟語ニ對シ反應語ヲ言ハセ、尋テ直ニ刺戟語ナシニ第二、第三ノ反應語ヲ言ハシム)。此ノ如クスレバ時トシテ病人ガ永ク既ニ忘却シタル或記憶ヲ提起スルコトモアリ。コノ方法ハ、即、下識界ニ存スル病因的内容ヲ分析シ、コレニ適當ナル解釋ヲ與へ、病人ノ精神ノ幽深部ニ潜在スル不正ノ觀念ヲ有益ナル新方向ニ誘致スルコトアルベク。ソノ解釋ニシテ宜ラ得ザルトキハ病人ノ觀念ヲ誤レル方向ニ誘惑シテ、甚、不良ナル結果ヲ來ス危險モナキニアラザルモ、病人ガコノ解釋ヲ正確ニ認識シ、ソノ力ニヨリテ持續的ニ自己ノ精神質ヲ任意ノ方向ニ改轉スルコトヲ得ルナラバ、ソノ疾病ハコレガタメニ輕快若クハ治癒ニ至ルベキナリ。然ルニ實際ノ效驗思フ如クナラザルヨリ

(四)フロイド氏ハ、更ニ考案ヲ廻ラシテ、別種ノ方術ヲ案出シタリ。コレ即、所謂精神分析法ニシテ、ソハ前記ノ方法ト同様ナルモ催眠術ヲ利用スルコトナクシテ選抜法ヲ行フナリ。コノ方法ハ病人ノ意識明瞭ナル状態ニ於テ、ソノ不隨意ニ呈露スル觀念群ヲ利用シテソレガ本人ノ不意識機轉又ハ不意識機轉タル精神生活ニ如何ナル作用ヲナスカヲ洞察セントスルモノニシテ、多數ノヒステリー強迫觀念等ニ對シテ多大ナル治效ヲ收メタリ。フロイド氏ノ說ニ據ルニ、ヒステリー!

強迫觀念等ハ、病人ノ現在若クハ過去ニ於ケル色情生活ニ何等カノ障礙アリテコレガ原因ヲナスモノニシテ、從來原因ト看做サレタル精神感動・精神過勞・急性諸病・中毒症等ハ畢竟併發的若クハ、附隨的ノ症狀タルニ過ギズ。遺傳素質ノ如キモ（一個有力ナル原因ニハ相違ナキモ）猶、主要ナル原因ニアラズシテ、他ノ特殊ナル原因ヲ待ツテ初メテヒステリーヲ起スニ他ナラズ。所謂特殊ナル原因トハ、病人ガ春機發動期以前ニ於テ他性ニ強要セラレテ、生殖器ヲ刺戟シ姦淫セラレタルコトノ追想ニシテ、ソノ結果ハソノ當時ニ於テハ、絶無又ハ僅微ナルガ、ソノ精神上ノ殘痕ハ永ク消ユベクモアラズシテ、春期發動期ニ至リテ何カノ動機ニヨリテ記憶ニ上リ、ソノ追想ハ現時ソノ事件ノ新生セシ如ク、烈シク、鋭ク精神ヲ刺戟シテ色情的打撃ノ後殘作用ガ、ココニ勃興シ來ルナリ。春機發動期以後ニ起リタル諸種ノ事件モ、神經病ノ發生トソノ症狀ノ獻呈トニ關與アルコト勿論ナレドモ、ソハスベテソノ病症ノ副因ト看做サルベキモノナリト云フ。フロイド氏ノ說ニヨレバ、強迫觀念ノ特殊の原因モ、亦、コレニ同ジク春機發動期以前ニアリシ色情行為ノ追想ナレドモ、ソハヒステリーニ於ケル如ク、苦悶、若クハ嫌惡ヲナセシモノニアラズシテ、満足愉快ヲ感ゼシメタルモノナリトス。サレバ強迫觀念ハソノ發病ノ原因ニ歸著セラレテ、自己ノ早期ノ交媾ヲ自、非難スルコトヲソノ内容トスルモノナリト云フ。

(五)フロイドノ方法ハ、ベルンハイム氏ガ催眠術狀態中ノ事柄ノソノ後ニ忘却サレ居ルヲ想起サシメヨクメニ用キタル方法ニ原ケルモノニシテ、ソノ實施ハ決シテ簡單容易ナルモノニアラズ。フロイド氏自身モ云ヘリ『コノ方法ハ多大ノ時間ト耐忍トヲ要シ、且、醫家ガ親シク病人ノ事ニツキテ深く感興ヲ以テスルニアラザレバ、コレヲ遂ゲ難ク、病人モ、亦、容易ナルコトニテハ、コレニ對應スル能ハズシテ、多大ナル注意ト傾心トヲ必要トシ、醫家ニ對シテハ、十分ナル信任ヲ抱キ、自己ノ想起スルトコロハ、内密深秘ノコトナルトモ、腹藏ナク、コレヲ表明セザルベカラズ』。サレバコノ方法ハ適應症ノ病人ニ就キテモ悉、コレヲ實施スルハ不可能ナルコト屢、コレアリ。病人ハ、コノ治療法ノ如何ナルモノナルカラ知リタル後ニ、往往ニシテコレ

- (1) Brodmann
- (2) Vogt
- (3) Bezzola

ヲ拒ムコトアリ。病人側ヨリ云ヘバ、ソノコレニ對スル精神作能モ、亦、ソノ症狀ニ影響ナキニアラズ。コノ方法ノ如何ニヨリテ、或ハ興發的ニシテ、コレヲ輕クスルコトアルモ、亦、興奮的ニコレヲ重クスルコトモアルベク、方法ノ滯ルトキ何カコレヲ混亂スルトキ、精神症狀ハ重キヲ加ヘ、不幸良ノ感・不能力ノ感ヲ増スコトアルベシ。フロイエル・フロイド二氏ハ、コノ療法ニヨリテ著明ナル對症的效果ヲ收メタリト云フモ、療法實施ノ困難ニシテ、時間ヲ要スルコトノ多キニ比シテ、ソノ效果ノ持續ハ短暫ナリト云ハザルベカラズ。ソノ他フロイド氏ノ說クトコロニヨルニ、コノ療法ハヒステリーノ原因的條件ヲ除去シ得ザルモノナルガ故ニ、折角ソノ一症候ヲ除キ得テモ、又、他ノ新症狀ヲ起スコトアリ。本病ノ症狀ヲ悉、除キ去ルガゴトキハ全然不可能ナリト云ハザルベカラズ。若、幸ニシテ病人ノ下意識ニ潛ミ居タル舊時ノ精神の打撃ガ、十分ニ暴露セラレタル場合ニ於テモ、コノ療法ハ必、所期ノ治療的效果ヲ收メ得ルモノニアラザルコトハ、既ニ前述シタルガ如シ。ファン、クラフトエービング氏ハ『此ノ如キ場合ニ於テモ、疾病ノ原因タル事件ハ、病人ノ觀念團ニ執著スルコト極メテ堅固ニシテ、フロイド氏ノ方法ヲ以テシテモ、コレヲ拔キ去ル能ハズ、病人ヲ夢遊狀態ノ如キ深キ催眠術狀態ニ陥ラシムルコト能ハザレバ、猶更、然ルベシ』ト云ヒテソノ闕典ヲ指摘セリ。又、強迫觀念ハ（少クモソノ多數ニ於テハ）フロイド氏ノ假想スルガ如キ事項ヲ原因トスルモノニアラザレバ、コレニ對シテハ、コノ療法ハソノ效ヲ奏セザルコト多シトス。要スルニコノ方法ニ就イテハ吾人ノ經驗甚、少ナキヲ以テソノ不可ヲ遽ニ論斷シ難キモ、催眠術ニ罹リ易キ病人ニ於テハ、在來ノ催眠術療法ヲ用キルニヨリテ醫家ノ多大ノ勞力ト、病人ノ著シキ精神の負擔トヲ要セズシテ、治療ノ效果ヲ收ムルコトヲ得ルヲ以テ、強テ精神分析ノ如キ容易ナラザル方法ヲ採ルノ必要ナシ。コノ方法ハヒステリー發作ニシテ苦痛の經驗（精神の打撃）ヲソノ原因トスルモ、病人自身ノ關係ヲ説明スル能ハザルモノト推想サル場合ニハ、宜シクコレヲ試ムベシ。ソノ效果ハ必シモ満足スベキモノニアラズ。コノ方法ハウィーン・フェーリヒ學派ニヨツテ唱道セラレタルモノニシテ、ブロードマン・フリーグト・ベッツ

ラ・フランク⁽¹⁾等諸家今日猶、コレヲ稱揚スルモ、漸次ソノ信用ヲ失ヒ、アントン・ゾン、ストルムンペル・アシ
ツェンブルグ⁽²⁾諸氏ヨリハ無用有害ノモノト云ハレ、コレヲ公平ニ批評スト思ハルルモール氏⁽⁴⁾ナドヨリモ、ソノ色情的
搜查ハ殊ニ神經病者ニ害アリテ汎ク用ユベキ療法ニハアラスト云ハレタリ。

第十編 精神練習法⁽⁵⁾

(二)精神練習法ハ、精神ノ活動力ヲ練習スルニヨリテ、精神的作業力ヲ振興シ、コレニヨツテ各種ノ病的現象ヲ輕減シ
治癒スルヲ目的トス。コノ練習法中最、有效ナルモノトシテハ、先、指ヲ意志練習法⁽⁶⁾ニ屈スベシ。

意志トハ、こころざしト云ヒ、觀念感情ト共ニ精神ノ三機能ト稱セラレ、精神ノ活動方面ニ屬スルモノナリ。サレド意志
ハ觀念及ビ感情ト交渉ナク獨立スルモノニアラス。意志ハ主要ナル標徴ヲ有スルモ、他ノ所謂觀念トヤヤ其性質ヲ異ニス
ルノミニシテ、矢張觀念經過ノ法則ニ支配セラレ、コレヲ觀念(即、意志的觀念)ト解釋スルヲ妥當トス。

意志ニ無カルベカラザル精神要素ハ、ソノ目的觀念、目的觀念ト自我意識トノ結合及ビ自由自在ノ感情コレナリ。

(い)目的觀念トハ爲サントスル行爲ノ觀念、達セントスル目的ノ觀念ナリ。意志ハ何レモ皆、一定ノ目的ニ向ツテ立ツモノナ
リ。目的觀念ハ甚、形式的ノコトモアレド、多クハ皆、多少著明ナル快感ヲ帶アルカ、又ハ一群ノ感情ヲ伴ヒテソノ中ニ快
分子ノ偏勝セルモノナリ。抑、吾人ノ觀念ハ外界ノ印象ニヨリテ喚起セラレ、又ハ舊經驗ノ再現ニヨリテ喚起セラレ、漸次
ニ群集シ結合シテ系統ヲ作ルモノニシテ、コレ等ノ觀念群中特ニ重要ナルハ當人ノ肉體的特性及ビ精神の特性ニ關ス
ルモノヲ糾合シ、自我ノ標章ヲ具有シテ意識中ニ現ハレ來ルモノナリ。

(ろ)吾人精神ノ發達ノ初步ニ於テハ、吾人ハ自己ノ身體ヲ外界ヨリ區別スルコトヲ知ラザルモ、漸次ニ自己ノ身體ニ關

スル觀念團ト、外界ノ印象ニヨツテ起ル觀念團トヲ區別シ、自己ノ肉體的特性ガ他ノモノト異ナルヲ識別スルニ至ル。然
レドモコニテハ未、精神的自我ノ觀念ノ成立スルニ至ラス。精神ガ完全ニ發育シタルトキ吾人ノ自我識ハ、ソノ生活狀
態及ビ境遇等ニ從ヒテ差異アルモ、左ノ如ク種種ノ要素ヨリ成立ス。ソレハ即、(一)肉體的自我ノ觀念團(自己ノ身體ノ
性質及ビ作用ニ關係スル觀念ヲ總括ス)、(二)精神的自我ノ觀念團(從來ノ經歷ニ關スル記憶、即、歴史的自我識、現
在ナル公民的地位ヨリ來ル觀念、即、社會的自我識、自己ノ家族關係ヨリ來ル觀念、即、家族的自我識アリ)、(三)從
來ノ教育習慣・經驗及ビ境遇等ニヨリテ得タル見識・感情・趣味ノ傾向、コレ等ト肉體的情慾トニ關聯セル傾向及ビ
慾望(感覺的自我識・倫理的自我識・宗教的自我識・政治的自我識・美學的自我識等ナリ)。

自我識ノ成分ハ、間斷ナク變化シ間斷ナク補充ヲ受クルモノナリ。吾人ノ經驗閱歷ハ日ニ月ニ増加シテ止ムコトナク。吾
人ノ見識及ビ品性ハコレニヨリテ多少變遷スルモノナリ。故ニ若年ノ自我識ハ成人ノ自我識ト異リ、成人ノ自我識ハ老
人ノ自我識ト異ル。現在ノ一時限ニ於テ吾人ノ意識中ニハ幾多ノ機轉ノ行ハルルアリ。コレガ背景タル自我識ハ恒存ス
ルモ必シモ不變ノモノニアラス。彼ノ精神機轉ニシテ吾人ノ意識中ニ現出スルモノノ中ニハ、前記自我觀念團ノ何レカニ
對シテ特別ナル親和力ヲ有スルモノアリテ、コレニ從テ、各ソノ自我觀念團ヲ背景トシ、或モノハ歴史的自我ニヨリ、或モノ
ハ道德的自我ヲ負ヒテ、各、ソノ主張ヲナスモ。中ニハ一個ノ自我群ト交渉アルノミアラスシテ、二個以上ノ自我ト交渉
アルモノモアリ。カカルトキニハ吾人ハ胸中ニハ二個ノ我ヲ生ジ、二我共ニ吾人ノ行爲ヲ支配セントシテ優越ヲ爭ヒ、一方ハ
打勝チテ遂ニコレヲ支配スルニ至ルナリ。然レドモ吾人意識内ノ精神機轉ハ、ドレモコレモ盡、自我識ト交渉アルニアラス。ソ
ノ中ニテ自我ノ何レカト相觸レ、相應ズルモノコレヲ自我識的觀念ト云ヒ、コレニ觸應セザルハ意識的觀念ト云フ。サレバ
吾人ノ精神内ニ於テ幾多觀念アリテ、或者ハ内界機轉ノタメニ發生シ、或者ハ外界機轉ノタメニ發生シ。ソノ中ニハ意

識のトナルノミテ終ルモアレド、ソノ中ニハ又、自我識ノ一群ト結合サルアリ。ソノ優越ナルモノニハ自我ガコレト提携シテ彼ノ目的觀念ニ對シテ、ソノ主動トナリ斷定トナルアリ。此ノ如クシテ初メテソノ人ノ行爲ヲ支配スルノ意志的觀念ヲ生ジ「自己ハ此ノ如ク意志ス」ト云フノ觀念ヲ實現スルナリ。

(1) 第三ニ意志ニナルベカラザルハ、幾分自由自在ノ感情ナリ。意志的觀念ノ生ズル前ニハ意志ノ動機トナル觀念アリ。且(多分)ソノ傍ニ、他ノ觀念ニシテ他ノ意志動作ノ動機タルモノアリテ、ソノ何レノ觀念ヲ選採シテソレ相當ノ動作ヲナストモ、吾人ハ少シモ強制的ノ感情ヲ抱クコトナシ。但、ドノ意志作用ニ就テモ皆、然ルニアラズ。吾人ハ時トシテ吾人ノ自我ニヨリ意志ニ對シテ不可抗的影響ヲ與フルコトヲ感ズベシ。吾人ガ何カ悲惨ナ事ヲ目撃シテ義捐ヲナシ、又ハ或事件ニ就テ深キ感慨ヲ表ハストキ、吾人ハ如何ニシテモノ他ニ出ヅルコトヲ得ザルベシ。

意志ニ屬スル觀念ハ、コレヲソノ内容ニヨリテ區別スレバ甚、多様ニシテ最、單純ナルヨリ複雑ナルニ至ルマデ、ソノ品種ハ幾多ナルヲ知ラズ。吾人ガ家ニ在リテ一肢ヲ舉ゲント欲シ、又、一字ヲ揮毫セント欲スルハ、或處ニ行キテ散步セント欲シ、又、大キナ繪ヲ畫カント欲スルニ比シテ、遙ニ單純ナル機轉ナリ。吾人ガ一思想ヲ記録シ、一事實ヲ記憶ヨリ喚起サント欲スルハ、他國ノ文語ヲ修メント欲シ、或ハ一著述ヲササント欲スルニ比シテ、遙ニ單純ナル機轉ナリ。意志作用ハ事ニヨリテハ數多觀念ノ代表ニシテソノ個個ノ觀念(ソノ意志)ヲ遂グルニ付テハ大ナル精神の運用ヲササザルベカラズ。ダトヘバ、美術家タラント欲スルコト有名ナ人ニナラントスルコトナドコレナリ。

(2) 意志ハ此ノ如ク自家意識ノ節度ニヨリテ作用シ、自我トノ關係甚、深ク、自我ノ發表ハ意志ニ於テ特ニ絶大ナルモノナリ。然レドモ意志ガ直接ニ病症ヲ惹起シ、又ハコレヲ治癒セシムルコトハ曾、コレナク、コレアリトスルモ、極メテ稀有ナリ。ハツク、モーク氏⁽¹⁾ハ萬有學者、フツクス氏⁽²⁾ガ隨意ニ自己ノ脈搏十乃至二十至ヲ減少セシメ得タリト報告シ、又、

(1) Hack Tuke
(2) R. W. Fox

(1) Darwin
(2) Townsend

ダーウソン氏⁽¹⁾ノ觀察シタルタウンセンド⁽²⁾ト名ヅクル人ハ、隨意ニ心臟搏動ヲ緩徐ニシ、又一定時間コレヲ停止シ得タリト云フ。ソノ他隨意ニ嘔吐スル人ハ屢、實驗シタル人アレドモ、隨意ニ排便シ得ル人ハ極メテ稀有ナリ。意志ガ間接ニ諸種ノ疾病ヲ喚起スルコトハ屢、コレアリ。苦痛ナル感情觀念ノ壓退ニヨリ或運動障礙(チツク)精神の斜頸、暖氣等ノ如キ初メハ意志ニ基ツクモ、後ニハ自動的ニナルモノノ反復ニヨリ、又ハ健康ヲ害スル様ナ舉動ヲ爲スニヨリテ、此ノ如キ病症ヲ惹起スベシ。意志ガ疾病ヲ治癒セシメ、又、健康ヲ保全スルコトモナキアラザルモ、從來ハ著シク誇張セラレタリキ。詩聖ゲーテ⁽¹⁾ハ、嘗、一傳染性熱病ニ接シ、必然傳染スベキ境遇ニアリナガラ、意志力ニヨリテコレガ傳染ヲ免カレタリト語り、我邦ニ於テモ、近時、勝伯虎列刺ニ冒サレタルニ、一室ニ靜坐シテ坐禪ヲ組ミ、病魔ヲ驅除シタルコト言ヒ傳ヘラレタリ。若、此ノ如キ際ニ傳染病原體ガ實際ソノ身ニ侵入シタルナラバ、ソハ意志ニヨリテ防遏スベカラザルコト勿論ナレドモ。意志ノ力ハヨクソノ人ヲシテ衛生的の規律ヲ固守セシメ、傳染ニ對スル憂慮竝ニソノ結果タル新陳代謝ノ異常等ヲ免カレシムルコトヲ得、コレニヨリテ侵入病原體ノ病的作用ヲ幾分カ妨グルコトナキアラザルベシ。

(三) 意志ノ能動性ヲ習練シ、コレヲ強健ニシ、コレヲ益、發達セシムルニハ隨意的の舉作ニシテ、一定度ノ能動性意志ヲ要スルモノヲ行ハシムベシ。此ノ如キ方法、コレヲ能動的意志練習法ト云フ。ソノ最、適當ト見ルベキハ、系統的の身體運動ナリ。意志ノ薄弱ナルモノ、竝ニ身體的作業能力ヲ缺クモノニ於テ、漸次ニ筋肉労働ノ程度及ビソノ持續ヲ増進セシムレバ、骨ニ筋肉ヲ強壯ニシ、運動神經ノ中樞及ビ運動神經ノ徑路ノ作業力ヲ増加スルノミナラズ、ソノ人ノ意志ヲモ大ニ堅固ニスルノ效アルモノナリ。殊ニソノ運動ヲナスニ際シ、コレヲ規律ニ從ヒ、迅速ニ全力ヲ籠メテ行ハシムルトキハ、ソノ效果ハ更ニ顯著ナリトス。ツンデル、デンデレル氏⁽⁵⁾ノ體操法ハコノ關係ニ於テ重要ナルモ、支那ニ於ケル彭祖、老子、華佗等ノ創意ニモコレニ似タルアリ。彭祖(姓ハ龔名ハ鏗帝)ノ創メタル所謂導引ハ「神仙傳」三「彭祖常閉氣內息。自旦

(5) Zander-Landerer (3) Aktive Willensgymnastik
(4) Systematische Leibesübungen

至中。乃危坐拭目。摩搦身體。舐唇吞唾。服氣數十。乃起行言笑。其體中或有瘦倦不安。便導引閉氣。以攻所患。其法心自其體面九竅五臟四肢。以至毛髮。皆想具至。其氣如雲行體中。達于十指間。洩於鼻口中。即體和トアリ。

「三國志」ノ華佗ノ傳ニ「佗語吳普曰。人體欲得勞動。但不當使極爾。動搖則穀氣得消。血脈流通。病不得生。譬猶戶樞不朽是也。是以古之僊者。爲導引之事。熊頸鴟顧。引輓腰體。動諸關節。以求難老。吾有二術。名五禽之戲。一曰虎。二曰鹿。三曰熊。四曰猿。五曰鳥。亦以除疾。並利躡足。以當導引。體中不快。起作一禽之戲。沾濡汗出。因上著粉。身體輕便。腹中欲食。トソノ詳細ナルコトハ明カナラス。

「万壽仙書」ニ五禽ノコトヲ載ス。第一虎形。閉氣低頭。撚拳。戰如虎威勢。兩手如提千金。輕々起來。莫放氣。平身吞氣入腹。使神氣上而復下。覺腹內如雷鳴。或七吹。如此運動。一身氣脈調和。百病不生。第二熊形。如熊身側起。左右擺脚腰。後立定。使氣兩旁脇骨節皆响。亦能動腰力。除腫。或三五次止。能舒筋骨而安。此乃養血之術也。第三鹿形。閉氣低頭撚拳。如鹿轉頭顧尾。平身縮肩。立脚尖。跳跌跟。連天柱。通身皆振動。或三次。每日一次。也可如下床。做作一次更妙。第四猿形。閉氣如猿爬樹。一隻手如撚葉。一隻脚如擡起。二隻脚跟轉身。更運神氣。吞入腹內。覺有汗出。方可罷。第五鳥形。閉氣如鳥飛頭起。吸尾間。氣朝頂。虛雙手。躬前。頭要仰起迎神被頂。此謂五禽圖。乃漢神醫華佗所授。凡人身體不安。作此五禽圖之戲。汗出疾即愈矣。

ソノ他老子ニ按摩法アリ。

ソノ方式ヲ記スモノヲ見ルニ。兩手捺^{ツヤチ}膝^{マツユ}。左右振身二七遍。兩手捻^{シムル}膝左右紐肩二七遍。兩手抱頭左右紐腰二七遍。左右搖頭二七遍。一手抱頭一手托膝。折左右同。兩手托頭三舉之。一手托頭一手托膝。從下向上三遍左右同。兩手攀頭

下向三頓足。兩手相捉頭上過左右三遍。兩手相又托心前推却挽來三遍。兩手相又著心三遍。曲腕築肘挽肘左右亦三遍。左右挽前後拔各三遍。舒手挽項左右三遍。反手著膝。手挽肘。覆手著膝上左右亦三遍。手摸肩從上至下使遍左右同。兩手空拳築三遍。外振手三遍。內振手三遍。覆手振亦三遍。兩手相又反覆攪各七遍。摩紐指三遍。兩手反搖三遍。兩手反又上下紐肘無數。單用十呼。兩手上聳三遍。兩手下頓三遍。兩手相又頭上過左右伸肘十遍。兩手拳反背上擷^{サスル}脊上下亦三遍。兩手反捉上下直脊三遍。覆掌擗腕內外振三遍。覆掌前聳三遍。覆掌兩手相又交橫三遍。覆手橫直即聳三遍。若有手患冷。從上打至下。得熱便休。舒左脚右手承之。左手捺脚。從上至下直脚三遍。右手捺脚亦爾。前後振足三遍。左振足右振足各三遍。前後却振足三遍。直脚三遍。紐脛三遍。內外振脚三遍。若有脚患冷者。打熱便休。紐脛以意多少頓脚三遍。却直脚三遍。虎據。左右紐肩三遍。推天托地左右三遍。左右排山負山拔木各三遍。舒手直前頓伸手三遍。舒兩手兩膝亦各三遍。舒脚直反頓伸手三遍。振內脊外脊各三遍。

天竺按摩法アリ

ソノ方式ヲ記スモノヲ見ルニ。兩手相捉紐振如洗手法。兩手淺相又。翻覆向胸兩手相捉共按。陸左右同。兩手相重按脛徐徐振身左右同。以手如挽五石力弓左右同。作拳向前築左右同。如托石法左右同。作拳却頓。此是開胸左右同。大坐斜身偏欹如排山。兩手抱頭宛轉脛上。此是抽脇。兩手據地縮身曲脊向上三舉。以手反推背上左右同。大坐伸兩脚。即以二脚向前虛掣左右同。兩手據地廻顧。此是虎視法左右同。立地反拗身三舉。兩手急相又以脚踏手中左右同。起立以脚前後虛踏左右同。大坐伸兩脚。用相當手勾所伸脚著膝中。以手按之左右同。右十八勢。但是老人日別。能依此三編者。一月後百病除。行及奔馬。補益延年。能食。眼明。輕健。不復疲乏。

イツレモ皆、古代ノ醫師ガコノ邊ニ意ヲ用ヒタルヲ推知スベシ。スベテ身體運動ニハ、ソノ勞力ニ相應スル意志ノ衝動ヲ要スルモノニシテ、ソノ勞作困難ニシテ且、多大ノ疲勞ヲ伴フモノハ、意志ノ緊張ノ益、大ナルヲ要スルモノナリ。身體的練習以

外ニ病人ノ作業力ニ相當シテ、園藝・採伐・家政・手工等ノ如キ勞作ヲナサシメ次第ニソノ程度ヲ高ムルハ療法トシテ、最、ソノ用ニ適スベク。朝早く起キ出テ輕快ナル衣類ヲ著ク、定例トシテ野外ニ運動シ、定刻ニ食物ヲ攝取シ、勞作ト休息トヲ整規ニ交代スル等、スベテ規律アル日。常行事ニ從フコトハ、ソノ治療的ノ奏效決シテ尠少ニアラズ。コレ等ノ方法ニヨリテ意志ヲ堅固ニシ規律アル生活ニ慣ルルコトハ、コレ等ノ利益以外、病人自身ヲシテ、ソノ作業力ヲ悉ク知り厚ク信ゼシメ、コレニヨリテ勇氣、自信竝ニ決斷力等ヲ増進スルモノナリ。

(四) 臨場苦悶ノ如キ恐怖症アリ、コレニヨリテ輕度ノ不安状態ヲ呈スルモノニアリテハ、ヨクソノ病狀ヲ説明シテ後、意志ノ練習ヲ行ハシメ、不安ノ念ヲ抑壓シ、恐ルルコトナク歩行ヲ斷續セシメ、又、往來ノ道スガラ廣場或ハ街路ヲ迂回スルコトナキニ至ラシムベシ。此ノ如クシテモ、猶、恐怖症ヲ除クコト能ハザルトキニハ、外出スルトキナドニ無害無効ノ藥劑ヲ與ヘ、コレヲ服用スレバ屋外ニ於ケル不安状態ノ起ラザルコトヲ信ゼシメ(覆面的推感法)、以テソノ動行ヲ敢テセシムベシ。恐怖症ノ中等度、又ハ高度ナル病人ニアリテハ、意志ノ強キ人ナラバ、コレニ不安ヲ起スベキ場所ニ至ルコト、又ハ單獨ニ外出スルコトヲ嚴命スルニヨリテ治療ノ目的ヲ達スルコトアリ。此ノ如キ處置ハ、數回コレヲ反復スルコト必要ナリトス。若、病人ガ多大ナル苦痛ヲ感ジツツモ、意志力ニヨリテ不安ナル場所ヲ通行シ得ルトキハ、コノ經驗ハソノ後久シキ間病人ノ意識ニ殘リテ以テ或場所ニ臨ムノ恐怖ヲ輕減スルコトアリ。右ノ如キ方法ニヨリテ目的ヲ達セザル場合ニハ、一定ノ精神練習法ヲ行フベク。先、病人ヲ車ニ載セテソノ場所ノ近邊ニ齋ラシ、病人ヲシテコノ際不安ノ起リ來ルヲバ、意志ニヨリテ抑制スルコトヲ練習セシメ、次ニハ自、街路ヲ歩行スルコトヲ練習セシメ、コレニ成功スルトキハ、遂ニソノ恐怖スル場所ヲ橫斷セシム。單獨ニ外出シ能ハザルモノニアリテハ、始メハ隨行者ヲシテ病人ト推シ並ビ又ハ少シ離レテ同行セシメ、漸次ニソノ間隔ヲ廣メ、ソレヨリ短キ道ヲ單獨ニ歩行セシメ、コレニ成功スルトキハ、漸次ニ長キ路ヲ單獨ニ歩行セシムベシ。コノ精神練習法ノ效果ヲ助

(1) Pyrophobie

クルモノハ、全身神經状態ヲ強壯ナラシムル處置(タトヘバ體操ノ如キモノ)又ハ覆面的推感(即、電氣療法服藥)等ナリ。尤、コレ等ノ處置ハ、病人ヲシテ恐怖状態ノ發呈ヲ抑制スルノ效アルモノト確信セシメテ、コレヲ行ハザルベカラズ。

同ジ強迫觀念ニ恐火症⁽¹⁾ト云フアリ。コレ火ヲ持チテソレニテ火災ヲモ起サヌカト恐怖スルナリ。此ノ如キハ治療ノ初ニハ長ク擱臥ヲ命ジテ、自、火ヲ點クサセズ、又、火ヲ消サシメズ。ソノ後時機ヲ見テ極、僅カナルコトヨリ試作シ初メシム。ソレニハタトヘバ初メハ燐寸^{マッヂ}ヲ持タセ、數日ノ後ニコレニ點火セシメ、ソレヲ又、初メハ、病人ノ手ヨリ取りテ「君ニハ罪ナシ、余代ツテソノ責ニ任ズベシ、燐寸ハ余ニ於テ始末スベシト」告ゲベク時經テ後、初メテ病人自、コレヲ消サシメ更ニ又、後ニナリテコレヲ棄テルコトヲ習ハシムベシ。

(五) ヒステリー性麻痺ノ如キモ意志練習法ニヨリテ、コレヲ治スベキコトアリ。コノ症ニ於テソノ肢節ハ多クハ不全麻痺ニシテ、全ク運動不可能ナルニアラズ。故ニ毎日整規的ニ練習ヲナサシメ(被働的體操トシテ各關節ニ毎日二十回ノ練習ヲナサシム)又、麻痺部ノ筋肉神經ヲ平流電氣・感傳電氣ヲ以テ刺戟スル中ニモ常ニソノ肢節ノ不可動ト云フ觀念ヲ打破スルヲ目的トシテ、遂ニ病人ヲシテ「コレヲ動カシ得ル」ト云フ觀念ヲ抱クニ至ラシムベシ。タトヘバ下肢ノ麻痺ヲ告フル病人ハ顛倒ヲ恐ルルガ故ニ、起立ト歩行ト拒ムモノナレドモ、コノ際醫師ノ強力ナル言明(「動ケルゾ」)ト保護トニヨリテ恐怖觀念ヲ除クトキハ、下肢ノ運動性ヲ容易ニ恢復スルコトヲ得ベシ。カクテ運動能力ハマダ恢復セズトモ、能働的體操ヲ初メ病人ヲシテ毎日病ミタル肢節ニ百回、二百回モ運動的輸神ヲナサシメ、且、此ノ如クニ努力スレバ暫時ニシテ著シキ效驗ヲクトモ、漸次運動能力ノ恢復スルコトヲ言ヒ聽カスベシ。麻痺シタル肢節ノ皮膚ヲ按摩シ、又、電氣ヲ掛ケルハ醒覺時推感ヲ兼テレバ大ニソノ效ヲ助クベシ。麻痺少シニテモヨクナレバ抵抗附被働的體操ト遞増的能働的體操ヲ課スベシ。ソノ運動能力ノ恢復ハ、病人自身ニ分カル様スベク、握力計ナドヲ以テ二日目・二日目ニ驗スルモヨシ。サレバ全身衰弱ノ著

- (1) L. Lehmanns' Suggestionstherapie
- (2) Frenkel
- (3) Koordinationstherapie
- (4) Oppenheim

シカラザル麻痺患者ニハ、永ク静臥シ居ルヲ禁ズベシ。然ラザレバ筋肉ノ榮養ヲ害スルノミナラズ、病人ノ運動不能ノ觀念ヲ助長スルノ虞アリ。器質性ノ麻痺ト雖、一定ノ精神練習法ヲ用キテコレヲ輕快セシムルコトヲ得ベシ。ソノ方法トシテハ結果ノ如何ヲ問ハズ、只管、一定ノ運動ニ努力セシムルヲ可トシ、又、シーマン氏ノ推感練習法⁽¹⁾ヲ用ユ(四七二頁參照)。腦卒中ナドニテモソノ腦質内ニ破壊ハナクテ作能ノ行ハレザル部分(神經細胞又ハ神經纖維アルヨリ麻痺スルガ如キ場合)ニハ筋肉ノ操作ヲナスニヨリテコレヲ恢復シ得ベシ。フレンケル氏⁽²⁾ガ脊髄癆ニ用ヒ初メタル調節療法⁽³⁾ノ如キモ、亦、コレニ屬スベシ。フツペンハイム氏⁽⁴⁾ハコノ療法ヲ評シテ「コレハ主トシテ單一ナル運動ヲ複雑ナル運動ニ移サントスルモノニシテ、筋肉ヲ強健ニスルヲ目的トセズ、ソノ秩序的合同作用ヲ促サントスルナリ」ト。

(六)吾人ハ何カ不快若クハ痛苦ノ印象ヲ蒙ルトキハ、皮質中樞並ニ皮質下中樞ノ反應トシテ、此ノ如キ刺戟ヲ除カントシ、又ハ此ノ如キ刺戟ヨリ遠ザカラント勉ムルヲ通常トスルモ、内界、又ハ外界ニ何等カノ理由アルトキ、又ハ自己若クハ他人ノ利害ノタメニ何等カノ必要アルトキニハ、吾人ハコレ等中樞ノ反應ヲ阻止シ忍テ不快ナル印象ニ堪フルコトアリ。吾人ガ自身ノ衝動冀望ヲ要求等ノアリタルトキ運動的興奮ヲ呈セントスルモコレヲ意志ノ力ニヨリテ抑制スルハ正ニコレト同様ナリトス。吾人ハ此ノ如クシテ、日常意志ノ抑制ヲ必要トシ、又、斷エズ意志ヲ抑制シツツアルモノナリ。此ノ如キ意志ノ抑制ヲ系統的ニ練習スルヲ、意志抑制練習法⁽⁵⁾ト云ヒ。ソノ方式ハ、能動性意志練習ノ方式ニ比スレバ、種類ノ極メテ少ナキモノトス。第一ニ述ベキハ、水治法ニシテ冷水ノ摩擦及ビ灌注半身及ビ全身冷水浴等ハ今日最盛ニ行ハルモノナリ。毎日早朝ニ暖カキ臥牀ヲ離ルルハ何人ニモ容易ナラザル作業ナリ。況、起牀後直ニ冷濕布ヲ身體ニ纏フガ如キコトヲヤ。サレバ此ノ如キコトヲナス場合、ソノ初メニハタメニ不快ナル印象ヲ感ズルモノニシテ、コレニ堪ヘントスルニハ、必ヤ一定ノ意志力ヲ要スルモノナレドモ、此ノ如キ不快ナル印象ニ尅勝シテ、コレニ慣レテ身内ヲ鍛エ得ルニ至レバ、病人ハ

(5) Willenshemmungsgymnastik

漸次ニ爾他ノ不快ナル印象ニモ勝エ忍ビ得ルニ至リ、次第ニ自信力ヲ増シ、又、統制の意志力ヲモ強固ニスルヲ得ベシ。

(七)此ノ如キ抑制の意志力ハ、感情病的ニ亢進シ、若クハ異常ニ亢進セルヲ陶冶スルノ效アリ。感情ニ制セラレ易キ病人ハ、自己ノ意志ニヨリテ感情ヲ制御スルコトニ勉メ、以テ自省力ノ養成ニ努力セザルベカラズ。コノ種ノ意志練習法ハ病人ニ多大ノ忍耐ヲ要求スルノミナラズ、醫師ニモ亦、少カラザル耐忍ト周到ナル注意トヲ要求スルモノナリ。感情興奮性病のニ亢進シ、些細ノコトニモ劇烈ナル憤怒、苦痛等ヲ發スルガ如キ病人ニハ、先、ソノ病症ニ由來スル危害ヲ説キ、意志ヲ強固ニシテ、コレニ尅勝^{ウチカ}タザルベカラザルヲ勸告スベシ。病人、若、憤怒ノ情ヲ制シ、コレヲ抑ユルコト兩二度ニ及ベバ、ソノ後ハコレヲ抑制スルコト遙ニ容易トナリ、遂ニハコノ種ノ憤怒ハ殆、全ク起ルコトナキニ至ルベシ。病的ノ不安及ビ他ノ感動ニ繼發スル異常ノ傾向ノアル場合ニ於テモ、亦、コレト同様ナリ。スベテコレ等ノ場合ニハ特ニ二次ノ二要件ニ留意スル必要アリ。

(イ)病人ヲシテ感動ニヨリテ行爲ヲナサシムベカラズ。コレヲ詳ニ言ヘバ病人ヲシテ感情ノタメニ自、不妥當ト認メナガラ、或行爲ヲナシ、又、當然ナスベキコトト思ヒナガラ、或行爲ヲナサザルコトアラシムベカラズ。此ノ如キコトハ、ソノ當初ニ於テハ尠ナカラザル意志力ヲ要スルモノナレドモ、コレヲ程度スル後ニ至レバ左ノミ意志ヲ要セザルニ至ル。此ノ如キハ感情ノ輕キ場合ニハソノ效果左シタルコトニアラスモ、感情發露ノ氣勢急激ナルトキニハコレヲ制壓シ得タル場合ノ道德的效果ハ甚、強大ナルモノナリ。意志ノ力ニヨリテ感情ヲ制シ得タルトキ、自家意識ハ高邁トナリ、自己ノ意志力ニ信賴ヲ生ズルモノナリ。

(ロ)感動及ビ感動的行爲ヲ抑制スルコトハ、病人ガソノ思慮ヲソノ感情ヲ興奮セシメタル動機ヨリ他ニ轉向シ、勉メテ他方面ノコトニ思運ラントキニ容易ナルモノナリ。此ノ如キトキニハ、ソノ感動ニ伴ヒテ神經中樞ハ興奮セラルルモ、ソノ興奮ノ一部分ハ他ノ不慣性ノ神經徑路ニ移サレテ中樞ノ興奮ハ多少著シク減殺セラルルガ故ナリ。吾人ノ忿怒、苦痛等ハ罵

嘗、號泣等ニヨリテコレヲ中和スベキナレドモ、精神の作業、肉體の作業モ亦、注意ヲ感動ノ原因ヨリ他ニ移導スルニヨリテコレヲ中和スルコトヲ得ベシ。勿論、此ノ如キ惱患ノアル人ガ此ノ如キコトヲ以テ感動逆露ノ安全瓣トシテ、感動ヲ制馭スルコトハ、ソノ初メニハ頗、困難ノコトナルベシト雖、意志ノ練習ヲ積ムニ及ビテハコレヲ遂グルコト次第ニ容易トナリ、而シテコレニヨリテ得ルトコロノ效果ハ種種ノ點ニ於テ多大ナルベシ。反之、病人若、自、感動ニ任セテコレヲ制御スルコトナキトキハ、自己ニ面白カラザルコト多キノミナラス、周圍ノモノニ不安ヲ與ヘ、ソノ健勝ト康寧トヲ妨グベク、甚シキハコレニ危害ヲ加フルガ如キコトアリ。神經衰弱者ナドガ忿怒ノ餘リ家族ニ物ヲ投付ケ、又ハ妻子ヲ毆打スルガ如キコレナリ。コレ等ハ決シテ生來感情ニ走り易ク、舉動粗暴ナルモノニノミ見ルニアラズシテ、病氣ノタメニ感情興奮性ノ増劇セルニヨルコトアリ。コノ場合ニハソノ外圍ニ十分感動ヲ起スベキ動機ノアルモノニシテ、此ノ如キトキニハ意志力ヲ以テ十分ニコレヲ制シ得ベキコトナリ。本來病的ノ(強迫的)感情ニシテ外來ノ動機ナクシテ發スルモノノ如キハ、意志ヲ以テコレヲ制スルコトハ、通例不可能ノコトナレドモ、此ノ如キ場合ニアリテモ、病人ノ意志ヲ利用シテ感情ヲ制スルコトハ、コレヲ斷念スベカラズ、系統的意志練習法ハ、コノ場合ニモ尠カラザル效果アルモノナリ。

(八)意志練習法ハ、感動ノ制御ニ效果アルト同ジク、病的ノ惡傾向、不良ナル習慣(飲酒・喫煙・手淫・色荒等)ニモ效果アリ。

強迫觀念ノ或種類モ、亦、意志ヲ以テコレヲ抑制スベシ。カカル療法トシテハ、接觸恐怖症(所謂潔疾)ニ用フルモ、奏效中困難ナリ。此ノ如キハ他ノ強迫觀念ト同ジク初、褥臥ヲ命ジ、病人自、洗フコトヲ嚴禁シ。看護婦ヲシテコレニ代リテ時ヲ定メテ、初メハ數多度(毎時一回)洗ハシメ、漸漸洗滌ノ度數ヲ減ジ、遂ニハ病人自身ヲシテ段段ニ洗滌セシムルモ、ソノ時刻ト持續トハ、ソノ程度ニ何分何分ト切リテ定ムベシ。此ノ如クシテ猶、時日ヲ經、然ル後初メテ病人ヲ牀ヨリ離シ、

初メハ室内ニテ色色ノモノニ觸レシメ、後ニ至リテ室外ニテモ物ニ觸ルルコトヲ習ハシム。

(九)意志ノ影響ハヨク病的運動、又ハ運動的衝動(咳嗽・痙攣等)ヲ抑制スベキヤ如何。意志ノ結果タル機轉ヲ追究シ、又、意志ノ作用數多アルヲ一一ニ觀察スレバ、ソノ一部ハ身體的ニ運動・行爲・各内臟ノ作用トシテ表ハレ、又、一部ハ精神のニ意識的機轉トシテ表ハルルヲ見ルベシ。意志ハ運動的作業ニ對シテハ、或ハ鼓舞的催進的ノ動機トナリ、或ハ抑制的調節的ノ動機トナルナリ。サレバ吾人ハ任意ニコノ事彼ノ事ヲナサンガタメニ、四肢ヲ隨意ニ運動シ得ルノミナラズ、又、反射的ノ運動、或ハ自動的ノ運動ヲ隨意的ニ抑制スルコトアリ、又、隨意的ニ開始セラレテ後ニ、自動的トナリシ運動ヲモ、隨時ニ停止セシムルコトヲ得ルニアラズヤ。サレバ意志ノ力大ナルトキハ、能ク運動半麻痺ノ如キ狀態ニ打克チテ、コレヲ動カシ得ル如ク、ヒステリー發作ナドモ、ソノ輕度ナルハ意志ニヨリテコレヲ豫防スルヲ得ベシ。癲癇ニ於テモソノ發作ノ當初ハ、多クハ意志ニヨリテ抑壓セラレ得ルモノナリ。ジー・エンズルド氏ガ、初、上肢ノ痙攣ヲ發シタル癲癇患者ガ、同側ノ指ヲ強ク伸展スルニヨリテ、痙攣ヲ停止セシメ得タルヲ實驗セリト云フハ即、コレナリ。ソノ他癲癇性失神及ヒステリー性睡眠狀態ノ起ラントスル際、意志ニヨリテコレヲ一定時間遲延セシメ、ソノ症狀ノ輕度ナル場合ニハコレヲ未發ニ防止シ得ル病人モアリト云フ。舞蹈病殊ニ慢性ノモノニハ意志ヲ以テ不隨意運動ヲ抑止スルニツキ秩序的練習ヲナストキハ、遂ニコレヲ治スルコトアリ。ソノ他痙攣ノ諸症、チックノ諸症ニモ同様ノ治效アリ(ラインデル氏、マイゲ氏、ブリツソー氏、ラツペンハイム氏)。コハ、漸次増進ノ方法ヲ取り、初メニハ、一日ニ回半分間位、意志ヲ以テ患所ヲ靜定サセ、爾後漸次ニソノ時間ヲ増スベシ。ソレニハ他人ヲシテコレヲ監督セシメ、又ハ自身鏡ニ對シテ、コレヲ試ムベク、尙、又、攣縮ヲ抑止スル間ニ他ノ動作(吟詩・詠歌・暗算等)ヲナサシムベシ。コノ練習ノ方式的施行及ビ之ニ兼行スル動作ノ方式的増加ハ必要ノコトナリ。神經性ヒステリー性咳嗽ハ、呼吸器病ノ中ニテハ、最、精神療法ニ適ス。神經性咳嗽ノ原

- (1) Feindel
- (2) Meige
- (3) Brissaud
- (4) Oppenheim

- (1) Rosenbach
- (2) Treubel
- (3) Lungengymnastik

(4) Brügelmann

因ハ不明ナルモノモアレド、感情ノ興奮、又ハソノ觀念(精神的傳染)ガソノ原因タルコト少ナカラズ。ソノ他急性ノ咽喉加答兒・喉頭加答兒、又ハ氣管枝加答兒ニ罹リテ咳嗽ヲ發シ、終ニコレガ習慣性ヲ作り、疾病ノ治療シタル後モ尙、繼續スルコトアリ。此ノ如キトキノ治療ハ、咳嗽ノ程度ニ應ジテソノ形式ヲ異ニス。咳嗽左程ナラヌモ永續シ、病人ノ注意ヲ他ニ誘移シ、又ハソノ意志ヲ激スレバ、コレヲ抑制シ得ルモノト知ラバ、病人ニヨリテハソノ病狀ヲ説明シ、意志ヲ以テコレヲ治ムルニ努力セシムベシ。兒童ニハ嚴ニ咳嗽スルヲ禁ジ、又ハ不快ナル方法ヲ藉リテ咳嗽セザル様脅迫スルニヨリテ、ソノ意志ヲ提撕シ、猶、ソノ效ナキトキハ、此ノ如キ方術(苦味アル溶液ヲ咽喉ニ塗ルカ、又ハ頸部ノ感傳電氣筆又ハ電光發散療法)ヲ實施スベシ。ヒステリー性咳嗽ニハローゼンバツハ氏⁽¹⁾・トロイベル氏⁽²⁾等ハ、方式的呼吸練習法⁽³⁾ヲ推奨セリ。ソノ法ハ即、病人ニ深呼吸ヲナサシメ、又、一時コレヲ停止セシメ、コレヲ繰返シテ、呼吸ノ練習ヲナスモ、ソノ際、咳嗽ノ起ルカタメニコノ方式ヲ妨ゲラレザル様コレヲナスナリ。初メハ醫師ノ監督ノ下ニコレヲナサシムルモ、後ニハコレヲ要セズ、病人ヲシテ自、咳嗽ノ治スルマデ、コレヲナサシム。コレハ意志ヲ以テ制止スルコトヲ習練スルノ他、又、推感ノ效モアルナリ。ヒステリー性聲帶痙攣ニ對シテ發聲及ビ呼吸ノ練習法ノ效果ヲ説クモノアルモ、多クハソノ必要ナシ。

色色ノ喘息ノ中ニブルームン氏⁽⁴⁾ノ神經衰弱性喘息ト云ヘル一症アリ。コハ突發ノ妄想ヲソノ本トシ、呼吸不能ト云フ觀念ヲ起シ、ソレガ呼吸中樞ニ作用スルニヨリ妄想ヨリ事實ヲ生ミ出スナリ。コハ他ノ喘息ニ合併シ、又ハコレニ繼發シ、又ハ他人ノ喘息發作ヲ見ルニヨリ突發スルコトアリ。病人ハソレヨリ呼吸ヲ得ズト妄想シテ、實際又、呼吸シ得ズナリ、苦惱甚シク、肺ヲ傷メ、急性氣管枝加答兒ヲ併發シ、ソレガ反復シ、遂ニ慢性加答兒トナルニ至ルヲ以テ、精神療法ヲコレニ用ヒテ奏效スルコト甚、難シ。此ノ如キ發作ガ一定日時ニアリト妄想スルトキハ、ソノ時ニ發スルト云フ自家推感ノ勢力強盛ニシテ、精神療法ハ全ク奏效セズ。タトヘ午後五時ニ發作ノ襲來スルト云フガ如キ場合ニハ、病人ハ堅クコ

- (3) Associationstherapie
- (2) Innere und äussere Willenstätigkeit
- (1) Pneumatischer Apparat

レヲ信ジ、ソノ時ニ至レバ何事ヲ措キテモコノ發作ノ襲來ヲ待テ受ケ居ルガ故ニ、如何ナル方法モ發作ヲ制止スルコト難シ。ブルームン氏ノ云フトコロニコレバ此ノ如キ場合、先、病人ニソノ病氣ノ精神的ニ由來スルコトヲ説キ、發作ノ動機ハ發作ニ對スル苦悶ノ他ナキコトヲ示シ、意志ノ全力ヲ以テコノ苦悶ヲ禁遏スベキヲ稱ヘ、ソシテ又、適當ナル職業・娛樂等ニヨリテ病人ノ注意ヲ他ニ轉向スベク。發作ニ對スル苦悶ニハ、又、ソレゾレノ處置ヲナシ、尙、呼吸機⁽¹⁾ヲ用ヒ、自動的呼吸ノ練習ヲナサシメ、正式ノ通常ナル呼吸法ヲ習得スルニ至ラシムルトキハ、病人ハコレニヨリテ病氣恢復ノ意識ヲ得テ、心神大ニ鎮靜シ、苦悶モ減ジテ徐徐ニ恢復ノ途ニ上ルベシト云フ。

(二) 意志練習法ハ、又、觀念ノ方面ヲ定メ、コレヲシテ不良ナル徑路ヲ捨テテ他ニ轉向セシムルモノナレバ、妥貼正當ナル思慮ヲ養成シ、助長スルニハ適當ナル方法ナリ。

意志作用ニ内方面ト外方面⁽²⁾トアリ。前記ノ如ク外ニ表ハレテ運動ヲ支配スルモノハ、即、外的意志作用ナルガ、吾人ハ尙、隨意ニ意識内容ヲバ一定度マデ變化シ得ルモノナリ。ソハ何カノ問題ヲ精神的ニ解決セントスルトキニモコレアリ。此ノ如キモノヲ内的意志作用トシ、吾人ハコレヲ治療上ニ用フルコトヲ得ベシ。吾人ハ意志ニヨツテ多少知覺・觀念・思慮ノ經過ヲ制スルコトヲ得ルモノナリ。吾人ハ常ニ多數ノ外來印象ニ接シテ幾多ノ感覺ヲ得ルモ、意志ノ機轉(隨時的注意)ニヨリテソノ中ノ或モノヲバ特別ニ顯著ニシ、又、或モノヲバ茫昧ナラシムルコトヲ得ベク、又、吾人ハ觀念ノ聯合の經過ヲナスニ當リテ、意志作用ニヨリテ、ソノ特殊ナルヲバ特ニ強盛ニ特ニ時永ク發展セシメ、コレニヨリテ聯想ノ方向ヲ一定シテ、同時ニ他ノ種種ナル聯想ノ起リ來ルアルモ、ソレヲ發展助長セザル様妨止スルコトヲ得ルモノナリ。コレヲ隨時的聯想法⁽³⁾ト云フ。

精神領域ニ於ケル意志作用ハ、肉體領ニ於ケル運動ノ如ク主トシテ二個ノ形式ニ於テ現ハルルモノナリ。即、一ハ興奮

的鼓舞のニシテ、他ハ抑制的制止のナリ。運動觀念ト聯絡スル皮質領域ハ、重要ナル精神運動徑路(錐體路)ノ起
始地ニシテ、吾人ガ或運動ヲサント欲スルト云フコトハ、ソノ運動ノ觀念ヲ一定ノ強度ニ於テ再現スルニ他ナラズ、又、身
體運動ハ、意志機轉ノ結果、意志機轉ノ作用ニ他ナラザルハ、コレ諸學者一致ノ意見ナリ。各個ノ意志作用ガ觀念ノ
經過ヲ牽制シ、又ハ外來印象ノ感覺ガ意志ノ催興ニ關與スルニ付テモ、一定ノ中樞機轉ハアルベキナレドモ、ソレニツキテ
ハ、吾人未、十分ナル解釋ヲ下スコトヲ得ズ。レーウェンズルド氏ハ曰ク『吾人ノ觀念ハ、常ニ一定ノ精神運動性興奮
ヲ伴フモノニシテ、コノ興奮ハ、延ヒテ筋肉ニ及ビ、以テ吾人ニ緊張ノ感及ビ動作ノ感ヲ起スモノナリ。或感覺、或觀念ヲ特
ニ顯著トナシテ、他ノ感覺他ノ觀念ノ發現ヲ妨グントスルトキニハ(即、注意聚注ノ機轉愈、強クレバ)ソノ緊張感ハ愈、著
明トナリテ、吾人ハコノ機轉ニ於ケル自我ノ努力ヲ覺エ、コレニヨツテ動作ノ意識ヲ感得スルモノナリ』。

近頃、フレヒシヒ氏ハ解剖學的研究ニヨリテ、『前頭葉ノ大部分(第一前頭廻轉ノ前半部、第二前頭廻轉ノ大部
分、腦底ニ於テハ、殊ニ、直行廻轉)ハ、聯合中樞ニシテ直接ニ感覺傳達路ト關聯ナクシテ、(恐ラクニ)各感覺中樞(嗅覺
觸覺ノ皮質域トハ、確實ニト聯絡スルモノナリ)ト稱ヘタリ。コノ事實竝ニ病理的經驗・生理學的經驗ハ、前頭葉中ノ聯
合中樞ハ、吾人ノ自我意識竝ニ肉體的人格・精神的人格ニ關シテ特別ノ意義アルモノト認メラレ。且、コノ中樞ハ一方
吾人ノ心裡ニ上意識の觀念ノ起ル際ニ聯合的ニ興奮セラレ、他方此ノ如クシテ興奮セラレタルヨリ、コレニ對スル反應ヲ
呈シ、又、コレニヨリテ觀念ノ爾後ノ經過ヲ制止スルモノナリ。

吾人ノ内の經驗ニヨルニ、觀念ノ經過ノ方向等(隨意的注意及ビ不隨意的注意)ハ思考・感情ノ方針ヲ包含
シタル自我ニヨリテ統御セラルルモノナリ。予ハ何何ヲ欲ス』ト云フ觀念ハ、他ノ漫然タル觀念トハ、ソノ意義及ビ範圍ニ於
テ大ニ異ナルモノナリ。意志の觀念ニハ何レモ自我識ノコレヲ獎勵シ、誘導シ、若シクハ抑制セントスルモノナリ。思考ハ、コレ

ニヨリテ整調セラレ、意志ハコレニヨリテ、熟慮の特徵ヲ帶フ。或場合ニ於テ、甲ヲ欲スルカ、乙ヲ欲スルカ、甲ヲ擇バンカ、乙ヲ
擇バンカ、ソノ決斷ハ、ソノ當時ノ事情如何ニモヨルコトナレドモ、主ニ、自我識ニ存スル前提ニヨリテ定マルモノナリ。自我ト
云フモノノ影響減弱スルトキハ、吾人思考ノ際ニ、觀念ハ、種種ノ方向ニ散逸スル傾向ヲ現ハシ(意想奔逸)、行爲ニ關シ
テハ、性慾・感動・熱情等ノ優勝スルヲ見ル。コレ即、自制ノ能力(即、自我ニヨツテ精神要力ヲ支配スル能力)ノ喪失ナ
リ。

意志ノ力ニハ強弱色々アリ、自我意識モ亦、各人ニ於テ同ジカラザルヲ以テ、意志ノ強弱ハ常ニ同一程度ノモノニアラズ。
又、意志ノ本源タル觀念ノ種性ニ無關係ナリ。サレバ犯罪ヲ行ハントスルモノガソノ計畫ヲ實行スルニ當リテハ、崇高ナル仁
義ヲ行フモノト同一ノ意志力ヲ示スコトアリ。又、意志ノ薄弱ガ場合ニヨリテハ、一ノ德行トナル(タトヘバ、斷行シ得ザルタメ
ニ謙讓ノ美德ヲ表ハス)コトアルハ、日常吾人ノ經驗スルトコロナリ。

コレヲ要スルニ觀念ノ經過ハ一定度マデハ、意志ノ左右スルトコロトナルモノナリ。病人ノ思考ハ、感動・情緒・性慾・或ハ惡
習慣等ノタメニ不良ナル影響ヲ受ケ、終ニハ全身狀態、或ハ某某一症候ニ對シテ有害ナル結果ヲ呈スルニ至ルコトアリ。
タトヘバヒポコンドリー病者ガ絶エズ自分ノ病狀及ビソノ經過轉歸ニ付キテノミ、考ヲ馳セテ疑ヒ危フムガ如キ、不慮ノ災禍
ニ罹リシ人ガ、ソノ災禍ノ原因結果ノミニ思フ潛メ、又ハソノタメニ人ニ嘲弄サルカトノミ苦慮スルガ如キ、色情性ニ興奮
スル人ガ色情ノコトノミニ没頭シ、淫靡ナルコトノミヲ想像シ、遂ニ精神の手淫ニ陥ルガ如キ、又、病人(殊ニ婦人)ニヨリ
テハ、夢想ニ沈溺シテ架空ノ想像ヲ逞クシ、益、實際ヨリ遠ザカリ、ソノ極神經性(ヒステリー)性障礙ヲ起スニ至ルガ如キコ
レナリ。コレ等ノ場合ニハ、勉メテ病人ノ意志ヲ鼓舞シテ、コレヲシテ觀念思想ヲ精神肉體ノ健康ヲ庶幾スベキ方面ニ向ハ
シムベキコト勿論ナルガ、コレ等ノ場合單ニ勸告ノミニテハ不十分ナルヲ以テ、適當ナル精神の作業又ハ身體的作業ニシ

(1) Gewöhnungstherapie (2) Suggestionstherapie

テ思考ヲ有益ナコトニ向ハシムベキモノヲ擇ミテ、醫師手ツカラ病人ヲコレニ導クベシ。此ノ如キハ強迫觀念ノアル病人、自我推感ノ著シキ病人ノ治療トシテハ、甚、重要ナリ。前記臨場苦悶・乘車苦悶ナドニ於テ一方練習ニヨリテソノ事ヲナスニ堪エシメ、一方種種ノ方法ヲ以テ病人ノ觀念ヲ病界ヨリ他ニ轉ゼシムルハ、能動的意志練習法ニ兼ヌルニ、コノ聯想療法ヲ以テスルナリ。

(一) 意志ノ影響ハ、又、所謂習慣療法ニ於テ顯著ナリ。吾人ハ意志ノ作用ニヨリテ物事ニ習慣ヲ生ズルモノナルガ。習慣ハ隨意ノ運動ノミナラズ、不隨意ノ運動ニモ及ボスモノニシテ、慢性便秘ノ如キモ毎日一定時ニ便通ノ催促ヲ試ムルトキハ、初メニハソノ通ナラヌモ毎日同時刻ニコレヲ試ミテ他ノ時刻ノ必要迫リタルトキ、コレヲ忍勝スルナラバ、遂ニソノ身狀ハ早晚コレニ慣ルルニ至ルベシ。或ハ初メニハ大ニ努責シ、又ハ下腹ヲ按摩スルナド、人工ヲ以テコレヲ助ケザルベカラザルモ、後ニハコノ助ケナクモソノ目的ヲ達スルニ至ルナリ。

(二) 近時、レーマン氏ハ推感練習法ヲ創意シタリ。ソノ法、醫師ハタトヘバ右半身不遂ノ病人アルトキ、ソノ前ニ坐シ、左ノ手ニテ病人ノ麻痺シタル手ヲ執リ、右ノ手ノ示指ト拇指トノ間ニ病人ノ右拇指ヲ押ヘナガラ、病人ヲシテソノ指ヲ外轉セシメ。コレヲ外轉シ得ザルトモ、外轉セント骨折ラシム。ソノ骨折ハ左手ノ拇指ガ不知不識ニ外轉運動ヲナスニテ知ラル。コレ病人ノ意志的刺戟ハ右手ニ加ハラントスルモ、ソノ途ヲ得ズ、ソノ意フトコロニ行ク能ハザル代リ、他ノ健康側ニ於テ、類同ノ神經路ヲ行キテ相當ノ筋ニ及ブナリ。コノ意志ノ發表ハ必、有トハ云ヘヌモ多クハコレアリ、甚、輕微ナレドモ、而モヨクコレヲ認ムベシ。此ノ如クシテ後、一・二秒ヲ置キテ、醫師ハ我指ニテ麻痺シタル拇指ヲ外轉セシム(但、病人ヲシテ自、外轉シタリト感ズル様ニコレヲ外轉ス、コレヲ第一次手術トシ、少シ間ヲ置キテハ二乃至五回反復ス。次ニ同様ノ手術ヲ拇指ノ伸筋・屈筋・對小指筋ニ施シ、次ニ小指ノ諸筋、他ノ手ノ小キ筋肉・掌間筋、他ノ指及ビ手腕關節ノ屈筋

(1) Emotionstherapie (2) Sinnliche Gefühle (3) Ideale Gefühle

(4) Stimmung

伸筋・前膊ノ廻前筋・廻後筋・屈筋・伸筋・上膊舉筋等ニ施シ、更ニ、又、コレト同様ノ手術ヲ下肢ノ麻痺筋即チ足趾ノ屈筋・伸筋等・下腿ノ前面・後面ノ筋・ソノ伸筋・屈筋・内轉筋又ハ大腿ノ屈筋伸筋ニ施シ。大腿ノ廻轉筋ハ被動的ニコレヲ動かサナリ(尤、下肢ノ治療ハ病人ヲ牀上ニ横ハラセ、仰臥又、俯臥ノ位置ニテコレヲ施ス)。レーマン氏ハ半身不遂ニテ高度ノ拘攣ノアルモノ五例ニ、コノ方法ヲ施シテ好結果ヲ得タリト云フ。

第十一編 感動療法

(一) 外界ノ印象ガ、吾人ノ意識ニ入ルトキ吾人ハ知覺又ハ觀念ヲ喚起スルノ他ニ、更ニ一ノ主觀的要素ヲ生ズ。コレ即、感情ナリ。感情ニハ快感ト不快感トナリ。サレバ知覺ニモ感情ヲ伴ヒ、追想ノ觀念(記憶)ニモ亦、何等カノ感情ヲ伴フモノナリ。知覺ニ隨伴スル感情ハ、コレヲ五官ノ感情ト云ヒ、追想機轉ニ附帶スル感情ハコレヲ想象的感情ト云フ。知覺觀念ノ累積ハ、快感ト不快感ト累積ヲナシ。五官ノ感情モ意思的的感情モコレニヨリテ多樣ニシテ複雑ナルモノトナル。但、五官ノ感情モ大部分ハ聯合作用ニ支配セラルルモノナレバ、コレヲ意思的的感情ト絶體的ニ區別スルコト不可能ナリ。一例ヲ示サンニ、血液ノ紅色ハ、感覺器刺戟トシテハ織物或ハ塗物ノ紅色ト同一ノ觀念ヲ生ズルモノナルニ、血液ノ紅色ヲ見レバ驚愕・恐怖ノ感情ヲ起シテ、ソノ感情ハ織物、或ハ塗物ノ紅色ヲ見ルトキト異ナルハ、コレ血液ヲ目撃スルニヨリテ特殊ノ聯合作用ヲ起スガタメナリ。

意識中ナル各個ノ觀念ニハ、必、感情ノ附帶アリ。ゾノ感情ハ初、強盛ニシテ、漸次ニソノ度ヲ減殺シ、感情強キ觀念ハ、ソノ感情ヲ感情弱キ觀念ニ分與スルノ傾向アリ。此ノ如クシテ一定ノ時間内ニ於テハ意識内觀念ノ大部分或ハ總體ハ遂ニ同様ノ感情ヲ附帶スルコト成ル。コノ狀態ヲ心情ト名ヅケ、ソノ附帶感情ノ性質如何ニヨリテ、コレヲ爽快ナル心

(1) Affekt

情ト不快ナル心情トニ區別シ、尙、兩感情ノ錯綜セル状態ヲ混合的心情ト云ヒ、快感ト不快感トガ相互ニ優位ヲ争ヒツツアル状態ナリ。

心情ハ必シモ上意識の觀念ニ附帶スル感情ノミニ支配セラルルモノニアラズシテ、下意識ニ屬スル觀念ハソレニ附帶スル感情ヲ、上意識内ニ波及シ、ココニ上意識ノ内容ヲ以テハ説明スルコト能ハザル心情ヲ現出セシムルコトアリ。コレ夢ノ内容ガ翌日ニ及ビ醒覺状態ニ於テハ、記憶ニ存セザルモ、シカモソノ人ノ感情ニ影響スルコトアル所以ニシテ、又、肉體ヨリ來ル印象(臟器感覺等)ガ上意識ニハ達セザルニモ關ラズ、ソノ人ノ心情ニ作用ヲナス所以ナリ。

人ニヨリ感情ノ強キモアレバ弱キモアリ。又、人ニヨリテ感情ニ富メルモアレバ(感情ノ興奮性ノ増進ト云フ)又、コレニ乏シキモアリ(感情ノ鈍麻ト云フ)。感情ノ平靜ナルハ、別段ニ或感情ノ強ク表ハレヌヲ云ヒ、感情ノ強盛ニ且、迅速ニ發呈スル状態ヲバ感動ト云フ。

(二) 心情ト感情、コノ二者ハソノ性狀ニヨリテ相異アルモ、要スルニ著シク觀念ノ經過ニ影響ヲ與フルモノナリ。概シテ云ヘバ、不快ナル心情ト不快ナル感動ハ聯合作用ヲ難澁ニシ觀念ノ代謝ヲ緩徐ニスルモノニシテ、愉快ナル心情ト愉快ナル感動ハ、聯合作用ヲ容易ニシ、觀念ノ代謝ヲ迅速ニスルモノナリ。故ニ困難ナル精神の作業ヲ行ハントスルニハ、一定度ノ爽快ナル心情(興奮)ヲ要シ、サナキマデモ感情ノ完全ニ平靜ナルヲ要シ、若、聯合ノ經過ガ遅徐ナルカ、又ハ或方面ニ阻止セラルトキハ(タトヘバ何カノ做戒ナドヲ受ケテソノ意味ノヨク分ラヌトキ)不快ナル心情ヲ生ズルモノナリ。觀念ノ經過ガ心情及ヒ感動ニヨリテ阻止サレ、又ハ催進サルハ幾分偏頗ナルコトヲ免レズシテ、不快ナル心情ノアルトキニ於テハ、快感情ヲ伴フ觀念ノ再現ハ、不快感情ヲ伴フモノノ再現ヨリモ澁滞ニシテ、爽快ナル心情ノアルトキニ於テハ、爽快感情ヲ帶フル觀念ノ聯合ハ、不快感情ヲ帶フル觀念ノ聯合ヨリモ容易ナルヲ見ル。故ニ不快ナル人ニハ何事モ何物モ皆、不快不安ニ見

(1) Lange

エ、愉快ナル人ニハ何事モ、何物モ、皆、爽好鮮麗ニ見ユルナリ。感動ニ於テモ亦、コレトソノ關係ヲ同ジクスルモ、ソノ極メテ強キモノハ、感情ノ性質ノ如何ヲ問ハズ、先、一通リハ觀念聯合ヲ抑制スルモノナリ。故ニ甚、驚喜スベキ事柄モソノ當初ニ於テハ突然ニ起リタル羞恥・憤怒・驚愕ト等シク、ソノ人ヲシテ茫然自失、出ツルトコロヲ知ラザラシムルコトアリ。又、コレニ反シテ卒然死生ノ境ニ入リテ驚慌セルトキニ於テ一生涯ノ最要件ノ電光的ニ心頭ニ浮ビ出ツルコトモアルモノナリ。

(三) 吾人ハ通例猜疑・恐怖・憤怒・喜悦・羞恥等ノ如キ複雑ナル感情ヲバコレニ關スル觀念ノ再現シテ快感又ハ不快感ノコレニ融附合同シテ生スルモノトスレドモ、コツペンハーゲン府ナルランゲー氏⁽¹⁾一派ノ感動論ハ、コノ解釋ニ背馳シ、他ノ學者ガ肉體的现象ヲ以テ、感動ノ表現或ハ活動ト看做スニ異ナリ、コレヲ以テ感動ノ如何ニヨリテ相異スル血管運動神經装置ノ機能變化ニヨルモノトシ。コレヲ感動ノ主體トシテ感動ハ、即、コノ肉體の機轉ノ意識、又ハ感情の表現ナリト云フナリ。コノ學說ニヨレバ、吾人ハ羞恥ヲ感ズルガ故ニ赤面スルニアラズシテ、赤面スルガタメニ羞恥ヲ感ジ、恐怖ノタメニ戰慄スルニアラズシテ、戰慄スルガタメニ恐怖スルモノナリト解釋セザラ得ズ。コノ說ハ近時大ニソノ左袒者ヲ増シタリト雖、シカモ妥當ナル見解ナリト云フベカラズ。刺戟ナリ、印象ナリガ同一ナリトスルモ、コレニヨリテ誘發サルル感動ハ、相違ナルコトアリ。吾人ガ同一人物ニ遭遇スルニ當リテモ、ソノ時刻ノ異ルニ從ツテ或ハ喜悦シ、或ハ恐怖シ、或ハ又、憤怒スルコトアリ。同一ノ視覺ニヨツテ誘發サルル感動ニ此ノ如キ差異アルハ、ソノ視覺ニヨリテ誘起サレタル觀念ニ由來スルモノト認ムルノ他ナシ。恐怖ノ際ニ於テ身體ノ戰慄スルハ、明ニソノ苦悶ヲ増強ハレドモ、シカモ戰慄ハ必シモ苦悶ヲ提起スルモノニアラズ。吾人ハ喜悦ノタメニ戰フコトアリ、憤怒ノタメニ戰フコトアリ、又、興奮・激昂乃至緊張シテ戰慄スルコトモアルナリ。

(四) 感動ト身體症狀トノ關係ハ右ニ述ベシ如クナルガ、感動ト身體的疾病トノ關係モ亦、コレニ準、ズルモノト考フベシ。抑、感動ノ病原的作用ハ甚、強大ニシテ、吾人ハ身體病ノ精神の病原タルモノヲ舉ゲルトキ、先、觀念ヲ謂ハズシテ感動ヲ指

ス位ナリ。内經ニ「百病生於氣」ト云ヒ七氣トシテ喜悲寒熱恐勞思怒ヲ舉ゲタリ。孫真人ノ「謹疾箴」ニハ「憂不
可積、樂不可縱、形不可太勞、神不可太用」ト云ヒ。我邦ニテハ貝原益軒コレヲ教訓シテ云ヘリ「心ヲ靜ニシテ
躁ガシクセズ、緩ニシテ逼ラズ、氣ヲ和ニシテ荒クセズ、言ヲ寡クシテ聲ヲ高クセズ、高ク笑ハズ、常ニ心ヲ喜バシメテ濫ニ怒ラズ、
悲ヲ少ナクシ、返ラザルコトヲ悔マズ、吾身ヲセメテ二度悔ズ、只天命ヲ安ンジテ憂ヘズ、コレ心氣ヲ養フ道ナリ養生ノ士カ
クノ如クナルベシ」ト云ヘリ。(養生訓)。古來文明史上ニ顯著ナル狐狸鬼魅邪祟ノ如キ事實ハ、皆、多ク感動ニ胚胎セリ。
觀念ニヨリテ喚起セラレタル疾病ハ、甚、頑固、且、重劇ナルモノニテモ、概シテ幸良ナレドモ、感動ニ基ツク疾病ハソノ症
狀重ク、ソノ經過久慢ニシテ、遂ニ生命ヲ危殆ニスルモノナキニアラズ。加之、強劇ナル感動ノタメニハ即死ヲ來ダスコトスラ
アリ。支那語ニテ所謂氣死トハ即、コレニシテ。「榮華物語」ニハ枇杷ノ大后ガ淑榮舍ノ女御ヲ氣死セシメタルコトヲ記シ。
小説ナガラ「二國志」ニハ周瑜ガ孔明ニ愚弄セラレテ氣死シ、「金瓶梅」ニハ花子虛ガ西門慶ノ計ニ中リテ氣殺ハラレシコ
トヲ説キタリ。「陶朱新錄」(宗馬純著)ニモ或人「熟寢。衆戲以香燭花果楮錢之類。設供於臥榻前。而潛伺之。寐
者既覺。見之曰。我已死耶。歔歔不已。少頃復寢。久不復起。視之眞死矣」トアリ。感動ハ神經病ノ原因トシテモ
重要ナル意義アリ。サレバ感動ハ、精神病・神經衰弱ヒステリーノ原因トナル他、癲癇・小舞蹈病・震顫譫妄・ミオウロニ
！爾他ノ痙攣性疾患・バセドウ氏病・多發硬化及ビ脊髓炎等多數ノ神經系統病ノ原因トナルモノナレドモ爾他ノ
臟器トテモ、亦、感動ノ禍害ヲ受クルコト少ナカラズ。感動ハ、肺臟組織ノ活力ヲ減殺シテ肺疾患ヲ起リ易クシ、心臟ノ疾
患ヲ誘致シ、黃疸及ビ腸管ノ機能障礙(胃消化機能ノ障礙・下痢・便秘等)、無月經・子宮出血・流産・種種ノ皮膚
病(匍行疹・蕁麻疹・皮膚出血・發汗等)、腦出血・腦血管・脆弱ナトキ、咯血(肺癆ニシテ)、糖尿症等モ亦、感動ニヨリ
テ起ルコトアリ。感動ハ此ノ如クシテ甚、多様ノ病原的作用ヲ有スルガ如キモ、ソノ感動ハ殆、皆、苦痛性ノ感動ニ外ナラ

ズシテ(憂慮・苦痛・憤怒・驚愕・恐怖・煩悶等)、喜悅の感動ハ肉體ノ疾患ヲ起スコト殆、コレナク。又、感動ノタメニ死ヲ
來ダスガ如キハ豫、一定ノ疾患(殊ニ心臟病)ニ罹レルモノニ就テノミ實驗セラレタルモノナリ。

(五)感動ハ一面ニ於テ病原的作用ヲ有スルト同時ニ、又、治療的作用ヲモ有スルモノニシテ、ソノ作用ハ、感動ノ性質(爽
快又、抑鬱)如何ニハ關係セズ、概シテ云ヘバ治療的作用ハ不快ナル感動ヨリモ、愉快ナル感動ニ於テ著大ナレドモ、ソノ
作用ノ確實ナルコト迅速ナルコトニ於テハ、兩者毫モ擇ムトコロナシ。又、コノ治療的作用ハコレヲ二種ニ區別スベク、一ハ
消極的ニシテ感動ヲ阻止スルニヨリテ治效ヲナシ、一ハ積極的ニシテ感動ヲ挑發スルニヨリテ治效ヲ舉ゲルナリ。感情ヲ除
却シテ治效ヲ舉ゲルニハ、苦痛ノ觀念・不快憂悲ノ經驗ニシテ嘲罵憂慮恐懼ノ本ニナルモノアルトキニテ、コノ觀念ニ附帶
スル感情ヲ除却スル(或ハ極度ニ減退セシムル)ニハ、啼泣・告白・祈禱・懺悔・事態ノ沈思熟察等、種種ノ方法アリ。コレ
等ニヨリテ附帶ノ感動ヲ除クトキニハ當該觀念ハソノ聯合的傾向ヲ失ヒ、日日ノ追想事件ノ中ニ没シ去リテ精神ヲ擾
亂セシムルコトナク、終ニハ漸、忘却セラルルニ至ルベシ。若、又、積極的ニ言フナラバ精神病・神經病等ニノミ限ラズヒステリー
性痙攣モ恐怖・驚愕等ニヨリテ治シ去ルハ、隠レナキ事實ナルモ、痛風・癱瘓質斯及ビ腹水モ、亦、コレニヨリテ(利尿及ビ
發汗ヲ旺盛ナラシムルニヨル)治癒スルコトモアルナリ。感動ガ如何ニシテ病原トナリ、又、治療的作用ヲ營ムカ、ソノ機轉ニツ
キテハ多數ノ學者ガ種種ノ説明ヲ與ヘタレドモ、未、十分ナラザルトコロアリ。

(六)今、左ニ感動ガ肉體ニ如何ナル影響ヲ與フルカニツキテ述ベントス。

感動ガコレニ相當スル皮質ノ興奮ヲ喚起スルコトハ、毫モ疑フ容レズ。感動ノ強弱ハ、皮質的興奮ノ強弱及ビ廣袤ニヨル
モノニシテ、急性ナル感動(驚愕・恐懼・悲痛・憤怒等)ニ際シテハ、ソノ興奮ハ突如トシテ喚起セラレ、ソノ消退ハ急速ナルコ
トアリ、又、緩徐ナルコトアリ。慢性ナル感動(困苦・憂慮等)ハソノ興奮ハ輕度ナレドモ持續ス。強劇ニシテ長續スル感動ア

リテ、且、神經ヲ過勞スルトキニハ過度ノ純叡智の作業(精神業務)ヲナス場合ノ如ク、全身ニ委靡衰弱ノ感ヲ發スベシ。皮質的興奮ノ廣サハ、感動ヲ喚起シタル觀念、又ハ知覺ニ共應スベキ聯想ノ多數ナルカ少數ナルカニヨリテコレヲ説明シ得ベク。コノ聯合的觀念ノ共應如何ハ、即、ソノ感動ノ強度ヲ表ハスモノナリ。吾人ガ他人ノタメニ自己ニ無禮ノ言葉ヲ聽クトキニハ、吾人ノ自我識ノ一部分、即、自己ノ個人的名譽(概念)ト關聯セル觀念群ノミガ、輕度ニ興奮セラレ、コレガタメニ生ズル憤怒ハ左程強度ナラザルモ。突如トシテ自己、又ハ近親ノ危急存亡ヲ覺ユルトキハ、吾人自我識ノ大部分(就中、主要ニシテ感情ニ富ム家族の自我識)ガ急劇ニ刺戟セラレ、強激ナル感動ヲ發スルナリ。皮質的興奮ノ強度及ビソノ傳播ノ速度ヨリ考フレバ、強劇ナル苦痛感動ガ大腦皮質ヲ刺戟スルハ、器械的腦震盪ニ近似スルモノナルコトヲ知ルベシ。抑、皮質ノ感動的興奮ハ、遠心性ニ外部ニ迸出放射セントスル傾向ヲ有シ、ソノ強度及ビ狀況ハ感動ノ種類ニヨリテ同一ナラズ。コノ放射ハ、或ハ催進的興奮トナリ、又、抑制的興奮トナリテ作用スルモノニシテ、喜悅及ビ憤怒ハ主トシテ運動行爲トシテ放射セラレ。喜悅ニヨリテハ發笑・起舞・踴躍・吟咏等ヲ起シ、憤怒ニヨリテハ罵詈・冷嘲・握拳等ヲ起シ、何レモ強劇ナル運動タリ。悲痛ハ歎息・歔歔・號泣及ビ流涕ヲ致シ、憤怒及ビ驚愕ハ顔面ノ蒼白・身肉ノ戰慄・運動ノ痿廢(隨意的運動ノ抑制及ビ血管收縮神經興奮)等ヲ招グモノナリ。感動ガ内臟(心臟消化管)ニ及ボス影響モ感動ノ如何ニヨリテソノ種類強度所在同一ナラズ。或人ハ喜悅ノタメニ食思不振ヲ致セドモ、或人ハソノタメニ却、食思増進ヲ來タスモノアリ。此ノ如キ差別ノ生ズルハ、一ハ感動的興奮ガソノ人ノ元來ノ神經的素質、病後ノ後天的傾性、習慣及ビ外界ノ影響等ニヨリソノ外發スル方途ヲ異ニスルニヨリ、一ハ内臟及ビコレト關繫スル神經路ノソノ當時ノ状態ヲ異ニスルニヨルモノトス。若、苦痛ナル感動ノアリタルトキ皮質ノ興奮ガ運動的反射トナリ、又、涙液分泌ノ亢進トナリテ、遺憾ナク放射セラルラバ、ソノ感動ノ生命上貴重ナル臟器ニ及ボス影響ハ輕小ニシテ、ソノ感動的興奮ヲ放射

スルハ健康ヲ保存スル上ニ付テハ幸良ナルベキモ。コレニ反シテ、苦痛ニ遭遇スルモ聲ナク、涙ナク、コレヲ抑制シ了リ、憤怒ヲ感ズルモ竊ニ齒ヲ切リテ堪ヘ忍ビ、憂苦アルトキ、コレヲ胸中ニ秘シテ喜笑ソノ他ノ方法ヲ以テ外面ヲ術フ如キハ、健康上ニ有害ナル影響ヲナスモノトス。感動的興奮ヲ外界ニ向ツテ十分ニ放射シタル場合ニアリテモ、神經系統ガ先天性體質(神經質)又ハ後天性變化ノタメニ健康人トハ異ナリテ、抵抗力ノ薄弱ナルタメニソノ興奮ノ内臟ニ傳達セラルラ拒ムコト十分ナラザルトキ、又ハ臟器ノ疾病ニヨリテ、コノ臟器ト腦髓トノ間ナル興奮傳達路(遠心性)又ハ求心性ノ神經ノ抵抗ガ減弱スルトキニハ、ソノ興奮ガ内臟ヲ侵害スルコト決シテ尠カラズ。コレ神經質ノモノニアリテハ、苦痛ナル感動ガ、心臟・胃腸等ノ機能ニ障礙ヲ起スコト健康者ニ於ケルヨリモ、著明ナル理由ナリ。若、又、内臟ニ神經性疾患及ビ解剖的變化ノアル場合ニハ、感動的興奮ハ容易ニソノ臟器ニ向ヒテ傳達セラルルタメニ、心臟病者ハ容易ニ心臟ノ機能障礙又ハ心臟部ノ疼痛ヲ感ジ、胃病患者ハ容易ニ胃症狀ヲ發シ、腸病患者ハ容易ニ下痢・腹痛等ヲ告ヘ、生殖器病ニ罹レル女子ハ、容易ニ生殖器ノ機能變化(無月經・子宮出血等)ヲ起スコトアリ。感動ニ因リテ發スル持續的疾疾病ノ占居スル部位ニ就キテハコレト同一ノ關係アルベシ。

(七)感動療法ハ東洋ニ於テハ古クヨリ行ハレタリ、「素問」ニ曰ク「古之治病。唯其移精變氣。可_{サトシ}祝_{イマス}由而已」。張戴人曰ク「悲可以治怒。怒可以治思。思可以治恐。恐可以治喜。喜可以治悲。以_{サトシ}謔_{イマス}浪_{イマス}褻_{イマス}狎_{イマス}之言_{イマス}。娛_{イマス}之_{イマス}。恐_{イマス}可以治喜。以_{サトシ}迫_{イマス}死亡之言_{イマス}。怖_{イマス}之_{イマス}。怒_{イマス}可以治思。以_{サトシ}汚辱_{イマス}欺_{イマス}罔_{イマス}之言_{イマス}。觸_{イマス}之_{イマス}。思_{イマス}可以治恐。以_{サトシ}慮_{イマス}彼志_{イマス}此之言_{イマス}。奪_{イマス}之_{イマス}。凡此五者。必詭詐譎怪。無_{サトシ}所_{イマス}不至。然後可以動_{イマス}人耳目_{イマス}。易_{イマス}人視聽_{イマス}。若_{イマス}胸中無_{イマス}材器_{イマス}之人_{イマス}。亦不能_{イマス}用_{イマス}此五法_{イマス}也」。儒門事親。朱震享曰ク「五志之火。因_{サトシ}七情_{イマス}而起。爲_{イマス}癩癩_{イマス}狂妄_{イマス}之証。宜_{イマス}以_{サトシ}人事_{イマス}制_{イマス}之。非_{イマス}藥石所能療_{イマス}也。須_{イマス}診察_{イマス}其由_{イマス}。以_{サトシ}平_{イマス}之。怒傷_{イマス}於_{イマス}肝_{イマス}者。以_{サトシ}憂勝_{イマス}之。以_{サトシ}恐解_{イマス}之。喜傷_{イマス}于_{イマス}心_{イマス}者。以_{サトシ}恐勝_{イマス}之。以_{サトシ}怒解_{イマス}之。

之。憂傷于肺者。以喜勝之。以怒解之。思傷于脾者。以怒勝之。以喜解之。恐傷于腎者。以思勝之。以憂解之。驚傷于膽者。以憂勝之。以恐勝之。悲傷于心者。以恐勝之。以怒解之。醫聖楷梯ト云フ書物ニ曰ク『夫氣症固當因病而藥。尤當以平怒爲先。胃襟洒落。懷抱寬舒。庶有其效。苟藏怒蓄怨不能平其怒。藥亦何濟。』

我邦ニテモ同様ノ意見ヲ抱ケル人アリ。竹中通庵曰ク『精因氣而移。氣因情而變。蓋湯液之一助也。』移精變氣。醫之術。而能知其病因。以解散其所滯。稍似鬼神。而其實否。唯治其情耳。『古今養性錄』。田宮尙施曰ク『心疾ヲ療セバ亦心ヲ以テ療スベシ。悲ハ怒ニ勝チ。喜ハ憂ニ勝チ。恐ハ喜ニ勝ツ。氣疾ノ治忽ニスベケンヤ』(施治要)皆、感動療法ノコトナリ。

苦痛ナル感動ガ如何ニシテ神經性ナラザル疾患、ダトヘバ、痛風發作、癱瘓質斯等ニ對シテ治療的作用ヲ及ボスカハ、今日ノトコロ、未、全ク明瞭ナラザルモ。愉快ナル感動及ビ心情ガ、神經性ナラザル種種ノ疾病ニ治療的作用ヲ及ボスハ、主トシテソノ循環器及ビ消化器ノ作用ヲ催進スルニヨルナリ。神經性疾患ニ對スル愉快感動ノ治療的作用モ亦、主トシテ此ノ如キモノナリ。喜悅ハ神經ニ對スル有力ナル緊張劑ニシテ、隨意的運動ト觀念ノ經過トヲ容易ナラシメ、不快ナル肉體感覺及ビ苦痛ナル記憶ヲ意識ヨリ驅除シヤスカラシメ、次デ直接ニ疾病觀念トソノ結果トヲ除去スルコトアリ。

(八)感動ニヨリテ治療スル神經病中主要ナルモノハヒステリーナリ。コノ治療ハ種種ノ方法ニ於テ行ハルモノニシテ、吾人ハ屢、陳舊ナルヒステリー性啞ガ驚愕ニヨリテ治療スルコトヲ實驗セリ。コレ蓋、皮質ノ制止作用ニヨリテ言語筋ノ隨意的神經作用ノ妨碍セラレ居タルヲ感動的興奮ノコレヲ突破シタルニヨリ、運動的言語作能ガ再、意志ノ支配ヲ受クルニ至リ、遂ニ病的皮質制止ノ本タル言語不能觀念ノ消失シタルナリ。コノ場合ニ於テハ、感動ガ抑制作用ヲ驅除シタルナレドモ、

- (1) Galenus
- (2) Tissot
- (3) Boerhave

(4) Schlagekuren

- (5) Leuret
- (6) Intimidationssystem

他ノ場合ニ於テハ感動ガ病的ノ運動的衝動ヲ抑制スルコトアリ。即、疼痛性處置(ダトヘバ手術又ハ感傳電氣等)ニ對スル恐怖ガヒステリー性痙攣ヲ治シ、又、原發的又ハ馴習的ノ自發運動(チック、咳嗽、喚氣)ヲ驅除スルガ如キコレナリ。

(九)感動ガ疾病ノ經過ヲ左右スルハ、既ニガレーヌス⁽¹⁾ノ稱ヘタルコトニシテ、往時テ、ツソー⁽²⁾ハ『笑ニヨリテ、ヨク疾病ヲ治療シ得ベク、他ノ治療法ニテ奏效ナキ惡心胃痛、腹痛等ノ治療スルコトアリ、又、便秘ヲ豫防スルニ足レリ』ト云ヒ、ブルハーツ氏⁽³⁾ハ痛楚性ノ感動ヲ治療上ニ應用シ、ハールレムノ孤兒院ノ子供ノヒステリー痙攣發作ヲ起セルトキ、灼熱セル鐵棒ヲ加フベシト云ヒテ、コレヲ威嚇シ、且、ソノ準備ヲナシテ、コレヲ治セリト傳ヘラル。ソノ他往時ハ體刑ヲ治療上ニ應用セルコトアリテ、當時コレヲ毆打療法ト名ツケ、今日マデモ、ソノ記録殘レリト云フ。精神病者ナドニハ飲食ヲ減却シ水中ニ押入レ、漬置キ、熱鐵ヲ以テ熨スガ如キヲタリト云フ。我邦ニ於テモ高橋⁽⁴⁾ソノ他ニ於テ今日スラモ高キヨリ落ツル水ヲ頭部ナドニ加フルハコノ類ナリ。ソノ方法ノ如何ニヨリテハ直ニ病人ニ不利乃至危險ナリトス。

ルーレー氏⁽⁵⁾ガ稱ヘタル恐怖療法ト云フハ病氣ニヨリテ妄見謬想ヲ抱ケルモノニ水ヲカケ、水ヲ灌ギ、コレヲ正當ニ復ヘサントスルニテ、コレニ似タルモノナルガ、病人ノ判斷能力ニ病的舛誤ノアル以上、ソノ效果ヲ收ムルコトアリ得ベカラズ。ソノ他感動ヲ以テ病ヲ治療シタルハ支那ノ古代ニモ屢、ソノ例アリ。先、ソノ抑鬱的感動ノ分ヨリ記サン。

(一〇)ソノ一ツハ憤怒ヲ以テスルコトナリ。韓世良ガ病人ヲ怒リ激セシメテソノ病ヲ治セシコト張介賓ガ『類經注』三出ツ。一女。母子甚是相愛。既嫁而母死。遂思念成疾。諸藥罔效。韓乃賄一巫婦。授以祕語。一日夫謂妻曰。汝念母如此。不識彼在地下。亦念汝否。吾當求巫卜之。妻忻諾。巫至。焚香禮拜。而母靈降矣。一言一默。宛然其母之生前也。女遂大泣。母叱之曰。勿泣。汝之生命尅我。我遂蚤亡。我之死。皆汝之故。今在陰司。欲報汝讐。汝病懨懨。實我所爲。我生則與爾母子。死則與汝寇讎矣。言訖。女改容大怒。曰。我因母病。母

反害我。我何樂而思之。自是而病愈矣。此去其所慕之謂也。怒ヲ以テ病ヲ治シタル最、著シキ例ハ文摯ガ齊王ヲ怒ラシ、扁鵲ガ趙簡子ヲ怒ラシ共ニソノ病ヲ治シ、自分ハソノタメニ煮殺サレタルコトナリ。呂氏春秋ニ曰ク「齊王疾痛、使人之宋迎文摯。文摯至、視王之疾、謂太子曰、王之疾必可已也。雖然王疾已、則必殺摯也。太子曰、何故。文摯對曰、非怒王、疾不可治。怒王則摯必死。太子頓首彊請曰、苟已王之疾、臣與臣之母、以死爭之於王。王必幸臣與臣之母。願先生之勿患也。文摯曰、諾。請以死爲王。與太子期而將往、不當者三。齊王固已怒矣。文摯至、不解履登牀。履王衣。問王之病。王怒而不與言。文摯因出辭、以重怒王。王叱而起。病乃遂已。王大怒。不說。將生烹。太子與王后急爭之而不能得。果以鼎生烹文摯。爨之三日三夜。同様ノ話ハ物理論ニ扁鵲ノコトシテ載セタリ。趙簡子有疾。扁鵲診候。曰、疾可治也。而必殺醫。以告太子。太子保之。扁鵲頻召不入。入而著履登牀。簡子大怒。使以戟追殺之。扁鵲知簡子大怒。則氣通血脈暢達也。獨異志ニ曰ク「嘗有郡守病甚。華佗過之。郡守令佗診候。佗退謂其子曰、使君病有異於常。積瘀血。在腹中。當極怒嘔血。卽能去疾。不爾無生矣。子能盡言。家君平昔之德。吾疏而責之。其子曰、若獲愈。何謂不言於是。具以父從來所爲乖誤者盡示佗。佗留書責罵之。父大怒。發吏捕佗。佗不至。遂嘔黑血升餘。其疾乃平。又一ツハ悲哀療法ナリ。簪雲樓雜記ニ記ストコロニヨレバ鹿邑先達李姓獲雋子鄉。伊父以喜故失聲大笑。及春舉進士。其笑彌甚。歷十年擢諫垣。遂成痼疾。初猶間發。後青且不能休。大諫甚憂之。從容語太醫院某。因得所授。授命家人。給乃父云。大諫已歿。乃父慟絕幾殞。如是者十日。病漸瘳。伴爲郵語云。大諫治以趙大夫。絕而後甦。李因不悲。而笑症永不作矣。」張戴人ハ又驚愕療法ヲ用ヒタリ。「十形三療」ニ曰ク「衛德新之妻。夜值盜劫。人燒舍。驚墮牀下。自後每聞

有響。則驚倒不知人。歲餘不痊。諸醫作心病。治之皆無效。戴人乃命二侍女。執其兩手。按高椅之上。當面前下置一小几。戴人曰。娘子當視此。一木猛擊之。其婦大驚。戴人曰。我以木擊几。何必驚乎。伺少定。擊之。驚又緩。又斯須。連擊三五次。又以杖擊門。又暗遣人畫背後之窓。徐徐驚定。是夜使人擊其門窓。自夕達曙。一二日。雖聞雷亦不驚。」

(二)此ノ如キ不快ナル感動殊ニ驚愕、恐怖或ハ憤怒ノ如キ痛楚性感動ハ、コレヲ治療上ニ用ヒントスルナラバ、ヨク做戒シテ或場合ニノミ利用スベキナリ。放縱、偏頗ニシテ惡癖アリ無分別ナル病人ナドニ就キテハ、之ニ一毆打ヲ加フルコト或ハ大ニ效益アランカト思惟セラルトモ、痛楚性ノ感動ヲ治療方法トシテ應用スルコトハコレヲ差控フベシ。子供ニ於テスラモ亦、然リトス。興奮シタル病人ナドニハ、壓制懲戒ハ反ツテソノ興奮ヲ増スコトアルベシ(賞罰法、三八九頁參照)。若、病人ノ意志ヲ強メ、作業力ヲ振興シ、病的觀念ヲ消失セシメンガタメニ何等カ苦痛、恐怖等ヲ喚起スルノ必要アリト思ハルル場合ニハ、單ニ、感傳電氣筆、冷水灌注法、擬裝ノ外科手術、家庭ヨリノ隔離等ノ如キ身體、精神ニ苦痛ヲ與フベキ處置ヲ以テコレヲ威嚇スルヲ可トス。コレ等ノ方法ハ、勿論、徹頭徹尾治療法トシテノ意味ヲ十分ニ表ハスベク、聊タリトモ懲戒ノ色彩ヲ帶アルコトアルベカラズ。若、コレ等ノ威嚇ニシテ效ヲ奏セザルトキハ、十分ノ思慮ヲ以テコレガ實行ニ移ルベク、感傳電氣筆、又ハ家庭ヨリノ隔離ノ如キハ何等ノ顧慮ヲ須タズシテコレヲ實行スルコトヲ得ベシ。ローゼンハ氏ノ如キハ、特ニ小兒ノ痙攣様運動、神經性咳嗽、空氣嚔下、神經性嘔吐、ヒステリー性運動麻痺ニハ、大約二回モ電氣刷毛ヲ用フレバ奏效セザルコトナシト云ヒ、コノ際治療的效用ヲナスハ、電氣筆ノ疼痛ニ對スル恐怖ナリト説ケリ。此ノ如キ場合ハ、假面的推感ヲ用フルモ尙、同一ノ效果ヲ收ムベシ。

腹壁切開術ノ如キ生命ニ關スル程ノ大手術ヲナスト云ヒテ、病人ヲ威嚇シ苦痛、驚愕ヲ引致シテヒステリー病ソノ他ヲ

治療セントスルハ好マシカラザルコトナリ。シランム氏ノ如キハ卵巢神經痛ノアル病人ニ腹壁切開術ヲ擬装シテソノ病患ヲ驅除シタリト云フ。若、精神療法ノ目的ニテ假裝手術ヲ行ハントストキハ、病人ガコノ手術ノ治療的價値ニ信賴シ、且、生命ニ危険ナキヲ熟知スルガ如キ手術ニ限リテコレヲ試ムベク。ソノ際、醫師ハソノ病ノ治療スルコトヲ推感スルヲ以テ、唯一ノ目的トシ、手術ニ對スル不安、苦痛ノ如キハナルベクコレヲ減殺セザルベカラズ。ヒステリー發作中ニ突然冷水ヲ灌注スルガ如キ處置ハ、病人ヲ驚愕ニヨリテ治療セシメントシテ却、ソレガタメニ害ヲ招クコトアルモノナリ、コレヲ用ヒザルヲ可トス。

(二)意志練習法ト同ジク感情ニモ亦、練習法ト云フベキモノアリ。ソハ感情刺戟性ノ病人(神經衰弱ナド)ニ於テ、初メニハ慰藉法ニヨリテソノ感情ヲ和ケベキモ、ソノ後ニ至リテハ不愉快ナルコトニ接シテモ、ソノタメニ感激セザル様コレヲ練習スルコトヲ要ス。即、初メニハ入院ソノ他ノ隔離法ニヨリテ不快感ヲ遮斷シ、或ハ快感ノミヲ輸呈スルモ、後ニハ漸ク以テ抑鬱的感情ニ接スルコト多クシ、次第ニ業務上ノ文書ヲ送り届ク、訪問ノトキニ家事業務ノコトヲ語り聞カセ、心ヲ勞スルコト日毎、週毎ニ多カラシム。林逋曰ク「心可逸。形不可不勞。道可樂。身不可不憂。形不勞。則怠惰易弊。身不憂則荒淫不立。故逸生於勞。而常休。樂生於憂。而無厭。是逸樂也。憂勞其可忘乎。」

(三)爽快ナル感動ヲ以テ療治ヲ謀ルコトモ、昔、支那ノ張戴人。羅大無。徐春甫コレヲ用ヒタリ。古今醫統(徐)ニ曰ク『治心風。以五志誘之。然後藥之。取效易。五志誘之者。如求利而遂病者。則誘之以金銀。或詐以惠之。或詭以遣之。而先定其心志。然後濟之以藥。是得治之要也。』十形三療(張)ニ曰ク「項關令之妻。病飢不欲食。常好叫呼怒罵。欲殺左右。惡言不輟。戴人曰。此難以藥治。乃使二娼。各塗丹粉。作伶人狀。其婦人大笑。次日又令作角觥。又大笑。其旁常以兩箇能食之婦。誇其食美。其婦亦索其食。而爲一嘗之。不數日。怒減食增。不藥而瘥。』又曰ク息城司侯聞父死。大悲哭之。罷便覺心痛。日增不已。月餘成

塊。大痛不住。藥皆無功。議用燐鍼炷艾。病人惡之。乃求于戴人。戴人至。適巫者在。其傍。乃學巫者。雜以狂音。以誑病者。至是大笑不忍。回面向壁。一二日。心下結塊皆散。』格致餘論(三)曰ク「羅太無治一病僧黃瘦倦怠。羅公詢其病因。乃蜀人。出家時。其母在堂。及遊浙右。經七年。忽一日念母之心不可遏。欲歸無腰纏。徒爾朝夕西望而泣。以是得病。時僧二十五歲。羅令其隔壁泊宿。每日以牛肉猪肚甘肥等者摩爛。與之。凡經半月餘。且時以慰諭之言勞之。又曰我與鈔十錠。作路費。我不望報。但欲救汝之死命爾。察其形稍甦。與桃仁承風。一日三貼下之。皆是血塊痰積。方止。次日只與熟菜稀粥。將息又半月其人遂如故。又半月餘。與鈔十錠。遂行。今日ノ治療法ニ於テモ亦、此ノ如キ方法ノ採ラルルコトアリ。神經衰弱・ヒステリー・抑鬱症等ニ於テハ、強キ快樂性興奮ノタメニ、疼痛運動不全・痙攣發作・胃症狀・食思不振・不眠等ノ頓ニ消失スルコトアルハ、ソノ實例尠カラズ。然レドモ普通醫師ガソノ所行ニヨリテ病人ニ此ノ如キ有益ナル感動ヲ惹キ起スコト容易ナラザルハ遺憾ナリ。

前ニ述ベタル慰藉療法ノ如キモ、亦、病者ニ好爽ノ感ヲ惹起スラ兼スルモノニシテ、憂悲感情アル病人ニ效アルコト少ナカラザルベシ。

今日ノ感動療法ハステ大ニ同情的慈惠のトナリ、不快ナル感動ヲ利用スルコトナク。何病ニ限ラズ勉メテ愉快ナル感動ヲ喚起シ、又、幸好ナル心情ヲ利用セントスルナリ。ザレバ病人ニ病狀ヲ説明スルニモ、病人ヲ接遇スルニモ皆、コノ方針ヲ襲ヒ、病人ノ治療・病人ノ生活法ノ調整・病人ノ看護、ステ常ニコノ點ニ注意シ、病症ノ許ス限リ病人ノ嗜好希望ニ副ハンコトヲ主旨トスベキナリ。

賞罰ヲ療法ニ應用スルコトモ一ツニハ感動ニ影響ヲ與フルニヨリテ、コノ作用アルナリ。

- (1) Wunderkuren
(2) Glaubenskuren
(3) Gebetkuren

(4) Wunderheilung

附 奇蹟的療法⁽¹⁾・信仰療法⁽²⁾・祈禱療法⁽³⁾

(一)人類ノ宗教的觀念ヲ利用シテ諸種ノ疾患ヲ治療スルコトハ、古來ソノ實例ニ乏シカラズ。コレ宗教的觀念ニ治療的能力アルヲ立證スル事實ナリ。故ニ醫師ハ自己ノ宗教觀如何ニ拘ハラズ、病者ノ宗教的觀念ヲ治療上ニ應用スルコトヲ忘ルベカラズ。シルコー氏ハ『醫師ハ效能アルベシト思フコトハ盡クコレヲ試ムベシト云ヒテ、病人ガ自分ヲ信賴スルコト治療ヲ舉グルタケニ十分ナラザルトキハ、ソノ病人ヲシテ諸靈地ニ巡禮セシメテ、ソノ歸リ來タルトキニ診査治療シテ、他ノ療法ニテ治セザリシ疾病ヲ治療セシメ得タルコトハ今日、普ク人ノ知ルトコロナリ。名古屋玄醫曰ク『杜(子美)詩王(朝川)畫亦能愈病。況神巫高僧之誠心咒之乎』ト巢元方曰ク『常以鷄鳴時。存心念四海神名三遍。避百邪止鬼。令人不病。』顧歡(字ハ立平)ト云フ人ハ孝經ヲ以テ治病ノ書物トセリ。吳均ノ『齊春秋』ニ曰ク『顧歡濟人也。或以禳厭而多全護。有病者告之。歡問。君家有書乎。答曰。惟有孝經三篇。歡曰。取置病人枕邊。恭敬之。當自瘥。如言果愈。』ト此ノ如キハ皆、信仰ニヨル治療ヲ説キタルモノニシテ、コレニヨリテ屢、所謂奇蹟的治療⁽⁴⁾ヲ招致スルコトナリ。コハ往往ニシテ學者ノ疑ヒ又、嘲ケルトコロナレドモ、吾人ハコノ種ノ治療ノヨリテ來ル所以ヲ考ヘ、且、如何ナル病症ニハ信賴ノ治療的效能アルモノナルカ、ソノ範圍ヲ定ムルコト肝要ナリ。

(二)從來コノ方法ニヨル治療ノ歴史ヲ見、古來ノ報告中、信ズルニ足ルモノヲ見ルニ、コレニヨリテ治療シタル疾病ハ悉、精神的若シクハ神經的影響ニ感應シヤスキモノニシテ、コノ治療ニ關スル精神機轉ノ大本ハ時ノ古今、所ノ東西、治療法ノ如何ヲ問ハズ、常ニ同一ナリ。信仰ノ治療的效果ハ、信徒間ニハ著シク誇稱セラルルモ、誰モコノ種ノ治療法ニヨリテ何モカモ治療スト信ズルモノアラズ。コレヲ事實ニ徵スルニ、ソハ狹隘ナル範圍内ニ適用スベキノミ。醫師ニヨリテハコハヒステリー

症ニ效アルノミト稱スルモ、所謂、機能的神經病ニ對シテハ信仰ハ相應ノ效應アルベシ。ソノ他ノ治療性疾患ニ於テハ、信仰ハ病人ノ感情ヲ平靜ニシ、治療ニ對スル希望ヲ興サガタメニ、治療機轉ヲ助長スルコトナリ。然レドモ信仰ノミニ依リテ疾病ノ治療スルコトハ、コレナク、此ノ如ク思ハルル場合ニ於テ、信仰ハ普通ノ病人ガソノ病ノ治療スベキノナルヲ信ジ、又、醫師ノ治療的技倆ヲ信ズルト同等ノ價值アルモノト云ハザルベカラズ。

(三)信仰的治療奇蹟的治療ノ場合ニハ、常ニ次ノ如キ精神機轉アルモノトス。

(イ)治療ニ對スル觀念ノ極メテ旺盛ナルコト、(ロ)コノ觀念ニ關聯シテ希望ニ滿チタル心情ヲ生ジ、疾病ノ治療ニ赴クニ方リテハ、コノ心情ハ緊張シテ希望ニ充チタル豫期感動ニ變態スルコト、(ハ)信仰心ノ特種ナルコト等、コレナリ。ソノ第一タル治療ノ觀念ハ、種種ノ精神機轉ノ綜合ヨリ成ルモノニシテ、(一)病人ノ祈禱ハ直ニ神靈ニ通ジテ疾病攘除ノ恩惠ヲ受クベシト信ズルカ、(二)神ヨリ治病ノ能力ヲ授與セラレタリトセラルル特殊ノ人ヲ信ズルカ、若クハ牧師僧侶(法主)ノ如キ宗教家ノ祈禱ハ衆俗ノ到底企及スベカラザル偉力ヲ有スルト信ズルカ、(三)お水ノ如キ特殊ノ物件ニ神ノ惠ニヨリ、靈妙ナル治療作用アリト信ズルカノ三種ヲ以テ代表者トナス。而シテコレヲ本トシテ病ノ治療スルニ至ルニハ尙、一定ノ感情狀態ヲ要スルモノニシテ、コノ感情ハ諸種ノ事態ニヨリ惹キ起サレ、治療ノ信念ヲ增強スルモノナリ。

ソノ事態トハ如何ナルモノナルカト云フニ某所ニテ(某人ニヨリ)奇蹟療法行ハルト傳聞シテ、信仰強キ人ノ病ノ速ニ治センコトヲ豫期シテ、ソノ地ニ集合スルトキニハ、コレダケニテモ病人ハ相互ニ治療ニ好ナル影響ヲ受クルベキノ、尙、衆人ノ實際治療シタル證據トシテ多數ノ喜捨寄進ヲ見ナガラ、相共ニ巡禮シ、相與ニ祈禱ニ與カルコト等アリ。コレ實ニ病人ノ感情ニ好ナル影響ヲ與ヘ治療ヲ速カナラシムルモノナリ。コレヲ要スルニ、コノ療法ノ效果ヲ左右スル主體ハ、奇蹟的治療ニ對スル信念ニシテ、假令、宗教的信仰ガ如何ニ熱烈ナルニモセヨ、奇蹟的治療ノアルベキコトヲ疑フ人ナドニハソノ效ハ更ニ

コレナカルベク。ダトへ熱誠ナル宗教家ニシテモ、神佛ガ自分ニハソノ奇蹟ヲ現ハスコトヲ敢テセザルベク、自分ノ現在ノ疾病ハ自分ノ罪業ニ對スル神佛ノ所罰ナリト考フルガ如キ場合ニハ、ソノ信仰心ハ治療上無益ナルモノタルノミナラズ、或ハ却テ治療ヲ阻止スルノ要素トナルベシ。何トナレバソノ場合ノ信仰心ハ、治療觀念ニ反抗スルコロノ觀念ニ他ナラザレバナリ。或ハ又、他ノ場合ニ於テハ病的觀念ノ固著甚シクシテ信仰ノ威力ハ、コレヲ壓倒スルコト能ハザルコトアルベシ。サレバ眞ニ治療ヲ助成スベキ信仰心ハ、我病ハ治療スベシト云フ觀念ニ反抗スル思想竝ニ我病ノ治療ニ關スル疑惑ヲ一掃スルノ心狀ニシテ、神佛ハ、自分、又ハソノ代表者タル僧侶ノ誦經祈禱ニヨリ、又、托生物(神水)ノ應用ニヨリテ自我ヲ救助スベシトノ確信ヲ抱持スルモノナルベシ。此ノ如キ頑冥ナル信仰ハ、普通ノ神佛信仰トハ異リ左程世間ニ弘布スルモノニアラズ。

(四)信仰ヲ以テ病ヲ治療セントスル方法ハ、東西トモニ同ジク或ハ巡禮ヲナシ、又ハ御籠ヲナシ。參籠ヲナスニハ、神殿佛閣ヲ盛ニ飾リ立テ色色感作ヲナスベキ設備ヲ以テ、一日一定ノ時間ハ色色ノ方法ニテ、大般若經法華經ヲ誦シ、又ハ祈禱ヲ上ゲ、或ハ三壇五壇ノ高キ壇ヲ作りテ、護摩ヲ焚キ種種ノ御符ヲ獻ジテ加持ヲナシ、或ハ病人多數殿堂ニ集リテ百萬遍ナドト稱ヘテ皆々ニテ、大珠數ヲ取廻ハシ太鼓・木魚・柏子木ヲ打叩キナガラ念佛題目ヲ稱フルアリ。寺ニヨリテ修法ヲ異ニシ、社ニヨリテ祭式ヲ違フモノナリ。中ニハ又、病氣ヲ以テ附憑邪祟トスルカラニ、神前佛前ニ寄臺(巫女ナド)ヲ置キ、コレニ對シ經ヲ誦シ、又ハ祈ヲ上ゲテ、コレヲ催眠術狀態トナシテ後邪崇憑依ノコトヲ詰問シテコレヲ攘斥シ、或ハ又、祈禱者自、類似ノ狀態ニ陥リテ種種ノコトヲ口外シテ療治ノ指導ヲ與フ。

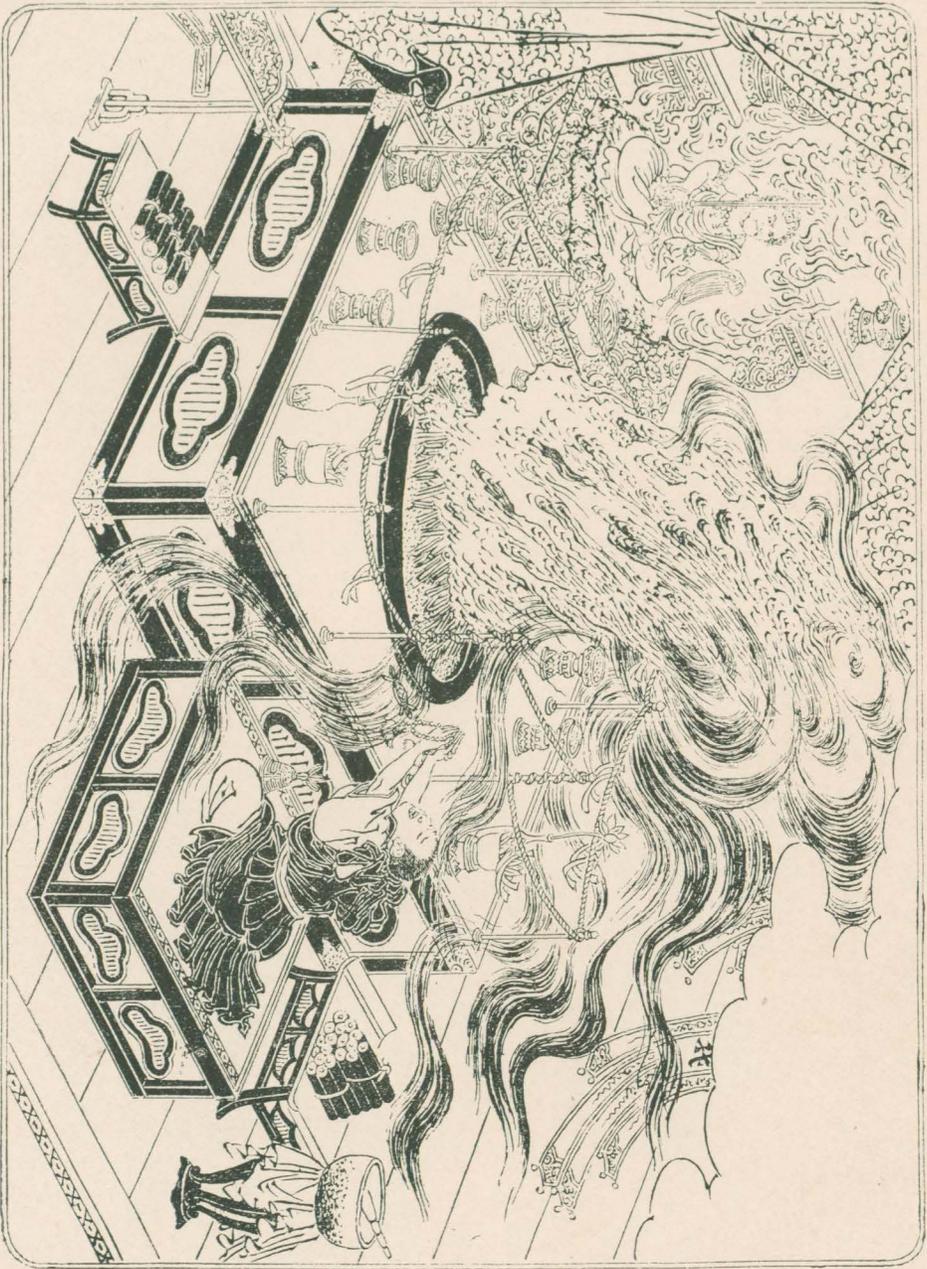
以上記シタルコロニヨリテコレヲ觀レバ所謂信仰療法ハ、一個ノ推感療法ニ他ナラズシテ、ソノ中ニハ催眠術的推感療法タルモノモアルナリ。



(甲) 圖 ルストニテヲ搜テ病ヲシ經誦僧ノ宗蓮日 圖 五 第



第六圖 日蓮宗ノ僧侶原病ヲ探ラントシテ病者ヲ問質スル圖(乙)



紙草曙姉櫻) 圖ノ禱祈侶僧ノ宗言真 圖七第

支那ニ於テモ周公ガ文王ノ疾弗豫ナル時壇ヲ作り祭ラナセルコト尙書ニアリ、晋侯疾シテ二月諸家皆群望ト云ヘルニ行キテ祈禱ナスコト左氏傳ニ出デ、大抵、皆、信心結齋ヲ先トシ、信心十分ナラス、心ニ汚レアレバ、病ハ不治ト稱ヘラル。東洋ニハ咒由ノ一法アリ。十三科ニ禁咒アリ、又、龍樹咒法アリ。ソノ他諸書ニモ此ノ如キヲ療法トシテ記載シ。我邦醫書ノ中ニモコレヲ療法ノ一トシテ。中川氏ハ「祟病。師説多以祭落爲主。藥治沃之」ト云ヒ。「捧心方」竹中通庵ハ「印而起死誦而回生」ト云ヘリ。支那ノ醫書ニモ多ク魑魅魍魎、鬼疰屍疰（皮膚ヲ遊走シ藏府ニ刺痛ヲ發シ又、屍喪ヲ見テ即、發ス）狐精狸怪ノコトヲ載ス。「邪祟皆、因心生」ト云ヒ。「正人無病」ト云ヒナガラニコレヲ病トシ、此ノ如キニハ禁咒ノ他ニ服藥シテ調治スレバソノ病速ニ癒ト云ヘリ。

我邦上代ニ於テコノ療法ノ如何ニ盛ニ行ハレタルカハ、後一條天皇御降誕ノ時母皇后ノ御産所ニ於ケル祈禱ノ様ヲ見テ知ルベシ。「日頃そこらに候ひつる内の僧は更にもいはず。山山寺を尋ねて驗者と云ふ限りは殘なく參り集ひ。陰陽師とて世にある限り召し集めて。御誦經の使立騒ぎ暮らし。その夜も明けぬ。御帳の東面は、内の女房參り集ひて候。西には御物性うつりたる人人御屏風一雙をひきつばね。局口には几帳を立つつ驗者あつかりあつかり罵り居たり。南にはやんごとなき僧正、僧都重なり居て、不動尊生き玉へる形ちも呼び出で現はしつべう頼み、恨み、聲皆枯渡りたる。最嚴う聞ゆ」。トハ「紫式部日記」ニ其コトヲ記セル文字ナリ。

ソノ他、「今昔物語」「宇治拾遺物語」「古事談」等ニモコレ等ノコト種種列載シタリ。

(六)信仰ニヨリテ突然ニ治癒スルハ、大抵一二ノ症狀ニ限ルモノニシテ、ヒステリー性ノ麻痺・痙攣・言語障礙・弱視・浮腫・疼痛ノ如キハ突如トシテ消退スルモ、拘攣ニ罹リタリシ部ノ腱反射亢進等ハ尙、數日間繼續シ、ヒステリー性筋萎縮

ナドハ次第二消退スルヲ常トス。尙、注意スベキハ信仰ニ因ル治癒ハ、コレヲ精密ニ検査スルニ、往往ニシテ診断ノ錯誤ニ基ツクコトアリ。タトヘバ、ヒステリー性假性脊髓癆ヲ眞性脊髓癆ト誤診シ、ヒステリー性限局性皮膚水腫ヲ悪性腫瘍ト誤診セルタメニ、信仰ニヨリテ眞性脊髓癆又ハ悪性腫瘍ヲ治療シ得タリト稱フルモノナキニアラス。

引用書目

Butterick, Physiologische und psychologische Bemerkungen zur psychischen Therapie. Deutsche Klinik. Bd. I. 1903.
 Löwenfeld, Lehrbuch der gesammter Psychotherapie. Wiesbaden, 1897.
 Mohr Psychotherapie. Handbuch der Neurologie. Herausgegeben v. Lewandowsky. Bd. I. Berlin. 1910.
 Moll, Psychotherapie. Realencyclopädie der gesammten Heilkunde. Herausgegeben von Erlenburg. 4. Auflage Bd. XII. Berlin und Wien. 1912.
 Tergasth, Psychotherapie. Lehrbuch der Therapie innerer Krankheiten. Herausgegeben von Krause und Garré, Bd. I. Jena. 1911.
 Ziehen, Psychotherapie. Lehrbuch der allg. Therapie und der therapeutischen Methodik. Herausgegeben von Erlenburg und Samuel. Berlin und Wien. 1898.
 呂氏春秋。
 魏書。
 程鵬程 「醒世良方」。
 謝肇淛 「文海披抄」。
 素問。
 靈樞。
 孫思邈 「千金要方」。
 張戴人 「儒門事親」十形三療。
 朱震享 「格致餘論」。

繆希雍 「本草經疏」。
 江 灌 「名醫類案」。
 張介賓 「類經」。
 徐春甫 「古今醫統」。
 今泉高祐 「療治夜話」二卷、萬延元年刊。
 緒方惟勝 「杏林內省錄」六卷、天保七年刊。
 田宮尙施 「施治擊要」九卷、安政四年刊。
 竹中 敬 「古今養性錄」十五卷、元祿五年刊。
 南木龍江 「醫法新話」二卷、享和三年刊。
 平田篤胤 「古今妖魅考」七卷、前三卷、天保二年刊。後四卷寫本。
 石川貞吉 「精神療法學」一卷、明治四十三年刊。
 吳 秀三 「精神病學集要」前編一卷、大正五年刊。
 同 「催眠術ノ治療上ノ價值」スツゲスチオン論集、明治三十七年出版。

大正五年十二月十七日印刷
大正五年十二月二十日發行

正價金貳圓

編者 尼子四郎

東京市本郷區龍岡町三十四番地

發行者 小泉榮次郎

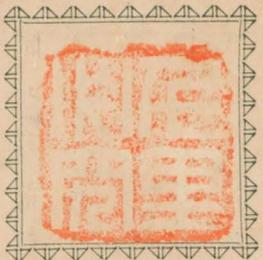
東京市本郷區駒込林町百七十二番地

印刷者 櫻井新三郎

東京市本郷區駒込林町百七十二番地

印刷所 杏林舍

〔電話下谷二七四五番〕



日本內科全書
第二卷第三冊

發行所

東京市本郷區龍岡町三十四番地
振替口座東京四一八番
〔電話下谷一六七二番〕
〔電話下谷四〇七九番〕

吐鳳堂書店

